

平成15年
独立行政法人国立美術館
東京国立近代美術館年報



目次 Contents

美術・工芸部門

作品収集・修理等	
1 作品収集	6 — 1-1 美術作品[日本画 油彩その他 水彩・素描 版画 写真 彫刻] 6 — 1-2 工芸作品[陶磁 ガラス 漆工 木工 竹工 染織 工業デザイン グラフィックデザイン]
2 平成15年度新収蔵作品	7 — 2-1 美術作品[日本画 油彩その他 水彩・素描 版画 写真 彫刻 資料] 27 — 2-2 工芸作品[陶磁 ガラス 漆工 木工 竹工 染織 工業デザイン グラフィックデザイン]
3 作品修理	35 — 3-1 美術作品 3-2 工芸作品
公衆への観覧	
1 展覧会	37 — 1-1 観覧者数 1-1-1 本館 1-1-2 工芸館 38 — 1-2 これまでの展覧会一覧 60 — 1-3 平成15年度企画展覧会一覧表 61 — 1-4 平成15年度企画展覧会記録 71 — 1-5 常設展示・所蔵作品展
2 平成15年度巡回展	75
3 作品貸与・特別観覧	76 — 3-1 作品貸与件数 3-1-1 本館 3-1-2 工芸館 77 — 3-2 特別観覧件数 3-2-1 本館 3-2-2 工芸館
調査研究	78 — 1 本館 2 工芸館
教育普及	
1 普及活動	81 — 1-1 資料の収集及び図書室の公開 82 — 1-2 児童生徒を対象とした事業 1-2-1 本館 1-2-2 工芸館 84 — 1-3 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク等 1-3-1 本館 1-3-2 工芸館 91 — 1-4 大学等との連携 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館 93 — 1-5 ボランティア 1-5-1 本館 1-5-2 工芸館
2 刊行物	95 — 2-1 企画展覧会カタログ 2-2 巡回展カタログ 2-3 目録・ガイド等 2-4 研究紀要・年報等 2-5 美術館ニュース「現代の眼」索引
3 広報	102 — 3-1 広報 3-1-1 本館 3-1-2 工芸館 103 — 3-2 美術館情報システムによる普及・広報

映画部門

作品収集・復元等	
1 作品収集	106 — 1-1 映画フィルム 1-2 映画関係資料
2 保存・復元	108
3 カタロギング/ ドキュメンテーション	109
公衆への観覧	
1 企画上映等	110 — 1-1 観覧者数 112 — 1-2 企画上映 1-2-1 これまでの企画上映一覧 1-2-2 平成15年度企画上映記録 154 — 1-3 展示 1-3-1 これまでの展示一覧 1-3-2 平成15年度展示記録
2 優秀映画鑑賞推進事業	157
3 作品貸与・特別映写・複製利用	165
調査研究	170
教育普及	
1 普及活動	171 — 1-1 資料の収集及び図書室の公開 172 — 1-2 児童生徒を対象とした事業 173 — 1-3 講演会・シンポジウム等 176 — 1-4 映画製作専門家養成講座 177 — 1-5 大学等との連携
2 刊行物	178 — 2-1 NFCカレンダー 2-2 NFCニューズレター 2-3 目録・ガイド等
3 広報	182 — 3-1 広報 3-2 美術館情報システムによる普及・広報

記録

1 国際交流	184 — 1-1 平成15年度招聘者一覧表 185 — 1-2 平成15年度来館者
2 日誌	186
3 予算	187
4 名簿	188

1 作品収集 List of Acquisitions

1-1 美術作品

種別	平成15年度収集点数	所蔵総点数
日本画	19	714
洋画	17	1,124
水彩	0	165
版画	11	1,837
素描	49	386
彫刻	6	386
書	0	19
写真	43	1,345
資料	2	3,135
合計	147	9,111

1-2 工芸作品

種別	平成15年度収集点数	所蔵総点数
陶磁	27	555
染織	1	353
漆工	5	215
金工	0	344
木工	1	52
竹工	0	34
ガラス	9	84
人形	9	58
グラフィック・デザイン	0	582
工業デザイン	3	143
その他	0	8
資料	1	19
合計	56	2,447

2-1 美術作品 Art Works

平成15年度における美術作品の購入、受贈による新収蔵作品は次の通り。日本画19点（購入3点、受贈16点）、油彩、その他17点（購入9点、受贈8点）、版画11点（受贈11点）、水彩・素描49点（購入20点、受贈29点）、彫刻6点（購入6点）、写真43点（購入43点）資料2点（受贈2点）である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of works of art during fiscal 2003 were as follows: 19 works of Japanese-style painting (3 purchased, 16 donated); 17 works of oil painting, etc. (9 purchased, 8 donated); 11 prints (11 donated); 49 works of watercolor and drawing (20 purchased, 29 donated); 6 works of sculpture (6 purchased); 43 photographic works (43 purchased); and 2 supplementary materials (2 donated).

日本画

Japanese-style Paintings

加山又造 (1927-2004)

動物園

昭和25年

紙本 彩色・額

80.3×116.7cm

2回創造美術春季展(東京、日本橋 高島屋、1950年)

作者 寄贈

J-699

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Zoo

1950

color on paper, framed

80.3×116.7cm

加山又造 (1927-2004)

移住

昭和27年

紙本 彩色・額

179.0×223.5cm

16回新制作展(東京都美術館、1952年)

作者 寄贈

J-700

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Migration

1952

color on paper, framed

179.0×223.5cm

加山又造 (1927-2004)

月と犀

昭和28年

紙本 彩色・額

128.5×160.5cm

17回新制作展(東京都美術館、1953年)

作者 寄贈

J-701

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Moon and Rhinoceros

1953

color on paper, framed

128.5×160.5cm

加山又造 (1927-2004)

湖と鹿

昭和28年

紙本 彩色・額

128.3×160.0cm

17回新制作展(東京都美術館、1953年)

作者 寄贈

J-702

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Lake and Deer

1953

color on paper, framed

128.3×160.0cm

加山又造 (1927-2004)

草原

昭和28年

紙本 彩色・額

128.5×159.5cm

17回新制作展(東京都美術館、1953年)

作者 寄贈

J-703

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Savannah

1953

color on paper, framed

128.5×159.5cm

加山又造 (1927-2004)

煙雲轟々

昭和37年
紙本 彩色・屏風 3曲1双
(左隻)142.3×197.8cm; (右隻)142.3×
212.6cm
右隻右下に落款
5回現代日本美術展(東京都美術館、1962年)
作者寄贈
J-704

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Roaring Clouds

1962
color on paper, a pair of three-fold screens
left screen: 142.3×197.8cm; right screen:
142.3×212.6cm

加山又造 (1927-2004)

凍瀑

昭和39年
紙本 彩色・額
160.2×130.0cm
6回現代日本美術展(東京都美術館、1964年)
作者寄贈
J-705

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Frozen Fall

1964
color on paper, framed
160.2×130.0cm

加山又造 (1927-2004)

裸婦習作

昭和49年
紙本 彩色・屏風 4曲1隻
172.3×359.0cm
作者寄贈
J-706

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Nude Study

1974
color on paper, four-fold screen
172.3×359.0cm

加山又造 (1927-2004)

裸婦習作(黒いレース)

昭和50年
紙本 彩色・屏風 2曲1隻
179.0×183.0cm
2回創画展(東京都美術館、1975年)
作者寄贈
J-707

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Nude Study with Black Lace

1975
color on paper, two-fold screen
179.0×183.0cm

加山又造 (1927-2004)

裸婦習作(白いレース)

昭和50年
紙本 彩色・屏風 2曲1隻
179.0×183.0cm
2回創画展(東京都美術館、1975年)
作者寄贈
J-708

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Nude Study with White Lace

1975
color on paper, two-fold screen
179.0×183.0cm

加山又造 (1927-2004)

黒い薔薇の裸婦

昭和51年
紙本 彩色・屏風 4曲1隻
175.5×365.0cm
3回創画展(東京都美術館、1976年)
作者寄贈
J-709

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Nude in Black-Rose Lace

1976
color on paper, four-fold screen
175.5×365.0cm

加山又造 (1927-2004)

白い薔薇の裸婦

昭和51年
紙本 彩色・屏風 4曲1隻
175.5×365.0cm
3回創画展(東京都美術館、1976年)
作者寄贈
J-710

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Nude in White-Rose Lace

1976
color on paper, four-fold screen
175.5×365.0cm

加山又造 (1927-2004)

裸婦習作(カシミヤ錦青)

昭和53年
紙本 彩色・屏風 2曲1隻
162.0×225.0cm
個展(東京、日本橋高島屋、1978年)
作者寄贈
J-711

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Nude Study against a Blue and Gold
Kashmir Brocade

1978
color on paper, two-fold screen
162.0×225.0cm

加山又造 (1927-2004)

裸婦習作(カシミヤ錦白)

昭和53年
紙本 彩色・屏風 2曲1隻
162.0×225.0cm
5回創画展(東京都美術館、1978年)
作者寄贈
J-712

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Nude Study against a White and
Gold Kashmir Brocade

1978
color on paper, two-fold screen
162.0×225.0cm

加山又造 (1927-2004)

一九八四・東京

昭和59年

紙本 墨画・屏風 4曲1隻

161.0×316.0cm

11回創画展(東京都美術館、1984年)

作者寄贈

J-713

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Tokyo 1984

1984

sumi on paper, four-fold screen

161.0×316.0cm

加山又造 (1927-2004)

仿北宋雪景水墨山水

平成3年

紙本 墨画・屏風 4曲1隻

175.0×360.0cm

18回創画展(東京都美術館、1991年)

作者寄贈

J-714

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

Snowy Landscape in the Northern

Song Manner

1991

sumi on paper, four-fold screen

175.0×360.0cm

川合玉堂 (1873-1957)

小松内府図

明治32年

絹本 彩色・軸

167.4×115.3cm

右下に印章

7回日本絵画協会・2回日本美術院連合絵画共進会(上野公園旧博覧会第五号館、1899年)

購入

J-696

KAWAI, Gyokudo (1873-1957)

Taira Shigemori, Komatsu-no-naifu

1899

color on silk, hanging scroll

167.4×115.3cm

日高理恵子 (1958-)

樹を見上げてVII

平成5年

紙本 彩色

220.0×600.0cm

個展(東京、ギャラリー上田、1993年)

購入

J-698

村上華岳 (1888-1939)

秋谿図

昭和10年

紙本 彩色・軸

134.4×31.2cm

右上に落款、印章

尚美堂日本画展(東京美術倶楽部、1935年)購入

J-697

HIDAKA, Rieko (1958-)

Looking Up the Trees VII

1993

color on paper

220.0×600.0cm

MURAKAMI, Kagaku (1888-1939)

Autumn Valley

1935

color on paper, hanging scroll

134.4×31.2cm

油彩、その他
Oil Paintings, etc.

大岩オスカル幸男 (1965-)

ガーデニング(マンハッタン)

平成14年

油彩・キャンバス

227.0×555.0cm

左下に署名、年記

旅―「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン(東京国立近代美術館、2003年)

購入

O-1150

OIWA, Oscar Satio (1965-)

Gardening (Manhattan)

2002

oil on canvas

227.0×555.0cm

大岩オスカル幸男 (1965-)

ガーデニング(平和への道)

平成15年

油彩・キャンバス

227.0×444.0cm

右下に署名

旅―「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン(東京国立近代美術館、2003年)

作者寄贈

O-1157

OIWA, Oscar Satio (1965-)

Gardening (Way to Peace)

2003

oil on canvas

227.0×444.0cm

草間彌生 (1929-)
集積の大地
昭和25年
油彩、エナメル・麻布 (種袋)
72.5×91.0cm
右下に署名、年記
個展 (松本市第一公民館、1952年)
購入
O-1141

KUSAMA, Yayoi (1929-)
Earth of Accumulation
1950
oil, enamel on seed sack
72.5 ×91.0cm

小牧源太郎 (1906-1989)
願望 No.1
昭和13年
油彩・キャンパス
60.6×40.9cm
左下に署名
新日本洋画協会小品展 (大阪、美術新論社画廊、
1938年)
購入
O-1143

KOMAKI, Gentaro (1906-1989)
Desire No. 1
1938
oil on canvas
60.6 ×40.9cm

菅井 汲 (1919-1996)
フェスティヴァル W
昭和46年
アクリリック・キャンパス
168.2×250.3cm
左下に署名
川本喜代子氏寄贈
O-1142

SUGAI, Kumi (1919-1996)
Festival W
1971
acrylic on canvas
168.2 ×250.3cm

田淵安一 (1921-)
高原への道
昭和45年
油彩・キャンパス
200.0×230.0cm
右下に署名、年記
作者寄贈
O-1151

TABUCHI, Yasukazu (1921-)
Road to a Plateau
1970
oil on canvas
200.0 ×230.0cm

田淵安一 (1921-)
ヒルデガルドの園—一つの花
平成6年
油彩・キャンパス
167.0×97.0cm
右下に署名
田淵安一展 宇宙庭園 (神奈川県立近代美術館、
1996年)
作者寄贈
O-1152

TABUCHI, Yasukazu (1921-)
Hildegard's Garden—One Flower
1994
oil on canvas
167.0×97.0cm

田淵安一 (1921-)
ヒルデガルドの園—二つの花
平成6年
油彩・キャンパス
167.0×97.0cm
右下に署名
田淵安一展 宇宙庭園 (神奈川県立近代美術館、
1996年)
作者寄贈
O-1153

TABUCHI, Yasukazu (1921-)
Hildegard's Garden—Two Flowers
1994
oil on canvas
167.0 ×97.0cm

田淵安一 (1921-)
ヒルデガルドの園—三つの花
平成6年
油彩・キャンパス
167.0×97.0cm
右下に署名
田淵安一展 宇宙庭園 (神奈川県立近代美術館、
1996年)
作者寄贈
O-1154

TABUCHI, Yasukazu (1921-)
Hildegard's Garden—Three Flowers
1994
oil on canvas
167.0 ×97.0cm

田淵安一 (1921-)
ヒルデガルドの園—四つの花
平成6年
油彩・キャンパス
167.0×97.0cm
右下に署名
田淵安一展 宇宙庭園 (神奈川県立近代美術館、
1996年)
作者寄贈
O-1155

TABUCHI, Yasukazu (1921-)
Hildegard's Garden—Four Flowers
1994
oil on canvas
167.0×97.0cm

田淵安一 (1921-)
ヒルデガルドの園—五つの花
平成6年
油彩・キャンパス
167.0×97.0cm
右下に署名
田淵安一展 宇宙庭園 (神奈川県立近代美術館、
1996年)
作者寄贈
O-1156

TABUCHI, Yasukazu (1921-)
Hildegard's Garden—Five Flowers
1994
oil on canvas
167.0 ×97.0cm

中川佳宣 (1964-)
seed on the table 94009

平成6年
油彩、アクリリック、煤、蜜蝋、方眼紙・キャンバス
17.0×14.0cm
画面下に書き込み、署名
購入
O-1147

NAKAGAWA, Yoshinobu (1964-)
seed on the table 94009

1994
oil, acrylic, soot, wax and graph paper on
canvas
17.0×14.0cm

中川佳宣 (1964-)
seed on the table 94027

平成6年
油彩、アクリリック、煤、蜜蝋、方眼紙・キャンバス
17.0×14.0cm
画面下に書き込み、署名
購入
O-1148

NAKAGAWA, Yoshinobu (1964-)
seed on the table 94027

1994
oil, acrylic, soot, wax and graph paper on
canvas
17.0×14.0cm

中川佳宣 (1964-)
seed on the table 97001

平成9年
油彩、煤、蜜蝋、方眼紙・キャンバス
14.5×12.0cm
画面下に書き込み、署名
購入
O-1149

NAKAGAWA, Yoshinobu (1964-)
seed on the table 97001

1997
oil, soot, wax and graph paper on canvas
14.5×12.0cm

松本竣介 (1912-1948)

裸婦

昭和22年
油彩・キャンバス
45.7×38.0cm
右上に署名、年記
松本竣介・島崎雛二展(神奈川県立近代美術館、
1958年)
購入
O-1145

MATSUMOTO, Shunsuke
(1912-1948)

Nude
1947
oil on canvas
45.7×38.0cm

丸山直文 (1964-)

Garden 1

平成15年
アクリリック・綿布
182.0×227.5cm
ハピネス アートにみる幸福への鍵(森美術館、
2003年)
購入
O-1146

MARUYAMA, Naofumi (1964-)

Garden 1
2003
acrylic on cotton
182.0×227.5cm

ルーチョ・フォンターナ

(1899-1968)

空間概念 期待

昭和36年
水性塗料・キャンバス
81.0×100.0cm
購入
O-1144

FONTANA, Lucio (1899-1968)

Spatial Concept—Expectations
1961
water-based paint on canvas
81.0×100.0cm

版画
Prints

一原有徳 (1910-)

ZON

昭和35年
モノタイプ
45.3×32.2cm
右下に署名、年記
作者 寄贈
P-1830

ICHIHARA, Arinori (1910-)

ZON
1960
monotype
45.3×32.2cm

一原有徳 (1910-)

痕

昭和37年
モノタイプ(アルミ板腐蝕併用)
49.5×39.8cm
右下に署名、年記
作者 寄贈
P-1831

ICHIHARA, Arinori (1910-)

Trace
1962
monotype
49.5×39.8cm

北岡文雄 (1918-)

赤い磯

昭和36年
木版(多色)
83.7×53.7cm

左下に書込み、刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1832

北岡文雄 (1918-)

樹間

昭和40年
木版(多色)
54.7×40.0cm

左下に刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1833

北岡文雄 (1918-)

のりそだ

昭和60年
木版(単色)
83.7×53.9cm

左下に刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1834

KITAOKA, Fumio (1918-)

Red Beach

1961
color woodcut
83.7×53.7cm

KITAOKA, Fumio (1918-)

Between the Trees

1965
color woodcut
54.7×40.0cm

KITAOKA, Fumio (1918-)

Laver Farming on Mikawa-wan Bay

1985
woodcut
83.7×53.9cm

北岡文雄 (1918-)

梁と炉鉤

平成2年
木版(多色)
53.7×83.6cm

左下に刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1835

矢柳剛 (1933-)

不思議な箱

昭和45年
孔版(シルクスクリーン)
73.5×48.5cm

左下に刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1825

矢柳剛 (1933-)

女体[A]

昭和45年
孔版(シルクスクリーン)
73.5×103.0cm

左下に刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1826

KITAOKA, Fumio (1918-)

Beams and Kettle Hanger

1990
color woodcut
53.7×83.6cm

YAYANAGI, Go (1933-)

Mysterious Box

1970
silkscreen
73.5×48.5cm

YAYANAGI, Go (1933-)

Womans's Body [A]

1970
silkscreen
73.5×103.0cm

矢柳剛 (1933-)

女体[B]

昭和45年
孔版(シルクスクリーン)
73.5×103.0cm

左下に刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1827

矢柳剛 (1933-)

これが世界だ!!

昭和45年
孔版(シルクスクリーン)
73.0×97.0cm

左下に刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1828

矢柳剛 (1933-)

裸体と衣装 [B]

昭和47年
孔版(シルクスクリーン)
63.5×48.3cm

左下に刷番号; 中央下に書込み; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1829

YAYANAGI, Go (1933-)

Woman's Body [B]

1970
silkscreen
73.5×103.0cm

YAYANAGI, Go (1933-)

This is the World !!

1970
silkscreen
73.0×97.0cm

YAYANAGI, Go (1933-)

Nude and Costume [B]

1972
silkscreen
63.5×48.3cm

水彩・素描

Watercolors & Drawings

鬘光 (1907-1946)

作品

昭和16年
墨・紙
26.4×18.0cm
購入
D-374

AI-MITSU (1907-1946)

Work

1941
sumi on paper
26.4×18.0cm

鬘光 (1907-1946)

蛾

昭和16年頃
墨・紙
24.4×20.2cm
購入
D-375

AI-MITSU (1907-1946)

Moths

c.1941
sumi on paper
24.4×20.2cm

エミコ・サワラギ・ギルバート

(1947-)

三角形 Notion

平成9年
チャコールペンシル・紙
115.9×237.4cm
個展(東京、GALERIE SOL、1999年)
安田アイ子氏寄贈
D-371

GILBERT, Emiko Sawaragi

(1947-)

Triangle Notion

1997
charcoal pencil on paper
115.9×237.4cm

エミコ・サワラギ・ギルバート

(1947-)

三角形

平成10年
チャコールペンシル・紙
122.3×309.5cm
個展(東京、GALERIE SOL、1999年)
安田アイ子氏寄贈
D-372

GILBERT, Emiko Sawaragi

(1947-)

Triangle

1998
charcoal pencil on paper
122.3×309.5cm

エミコ・サワラギ・ギルバート

(1947-)

プラトンの三角形

平成10年
チャコールペンシル・紙
122.5×308.5cm
個展(東京、GALERIE SOL、1999年)
安田アイ子氏寄贈
D-373

GILBERT, Emiko Sawaragi

(1947-)

Plato's Triangle

1998
charcoal pencil on paper
122.5×308.5cm

日高理恵子 (1958-)

樹を見上げてVII (ドローイングX)

平成5年
鉛筆・紙
43.5×120.0cm
作者寄贈
D-394

HIDAKA, Rieko (1958-)

Looking Up the Trees VII (Drawing X)

1993
pencil on paper
43.5×120.0cm

二本直巳 (1953-)

見晴らし台 0212

平成14年
鉛筆、色鉛筆・紙
58.0×142.7cm
個展(東京、GALLERY TERASHITA、2003年)
購入
D-376

FUTAKI, Naomi (1953-)

Belvedere 0212

2002
pencil and color pencil on paper
58.0×142.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成2年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
右下に署名、年記
作者寄贈
D-353

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nude

1990
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.1×40.8cm
左下に署名、年記
作者寄贈
D-354

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nude

1991
felt-tip pen on paper
32.1×40.8cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
右下に署名、年記
作者寄贈
D-355

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nude

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
右上に署名、年記
作者寄贈
D-356

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nude

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
右上に署名、年記
作者寄贈
D-357

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nude

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.8cm
右下に署名、年記
作者寄贈
D-358

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nudes

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.8cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
右下に署名、年記
作者寄贈
D-359

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nude

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.8cm
左下に署名、年記
作者寄贈
D-360

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nudes

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.8cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
中央下に署名、年記
作者寄贈
D-361

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nudes

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
右下に署名、年記
作者寄贈
D-362

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nude

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成3年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
右下に署名、年記
作者寄贈
D-363

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nudes

1991
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成4年
フェルトペン・紙
31.6×40.7cm
右下に署名、年記
個展(東京国立近代美術館、1993年)
作者寄贈
D-364

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nudes

1992
felt-tip pen on paper
31.6×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦群像

平成4年
フェルトペン・紙
32.1×40.7cm
作者寄贈
D-365

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nudes

1992
felt-tip pen on paper
32.1×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成4年
フェルトペン・紙
32.1×40.7cm
左下に署名、年記
作者寄贈
D-366

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nudes

1992
felt-tip pen on paper
32.1×40.7cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成5年
フェルトペン・紙
32.0×40.8cm
左上に署名、年記
個展(東京国立近代美術館、1993年)
作者寄贈
D-367

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nude

1993
felt-tip pen on paper
32.0×40.8cm

柳原義達 (1910-)

裸婦

平成5年
フェルトペン・紙
32.0×40.7cm
右下に署名、年記
個展(東京国立近代美術館、1993年)
作者寄贈
D-368

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Nudes

1993
felt-tip pen on paper
32.0×40.7cm

柳原義達 (1910-)

女(黒)

平成12年
フェルトペン、オイルパステル、白色顔料・紙
35.2×25.1cm
右下に署名
作者寄贈
D-369

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Woman (Black)

2000
felt-tip pen, oil pastel and white pigment on
paper
35.2×25.1cm

柳原義達 (1910-)

女(黒)

平成12年
フェルトペン、オイルパステル、白色顔料・紙
36.2×26.0cm
左下に署名
作者寄贈
D-370

YANAGIHARA, Yoshitatsu

(1910-)

Woman (Black)

2000
felt-tip pen, oil pastel and white pigment on
paper
36.2×26.0cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラフアイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田 茂ギャラリー、1988年)
購入
D-377

CHRISTIAN, Abraham David

(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-378

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-379

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-380

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-381

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-382

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-383

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-384

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-385

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

Hayama

昭和63年
グラファイト・紙
32.1×24.2cm
個展(東京、横田茂ギャラリー、1988年)
購入
D-386

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Hayama

1988
graphite on paper
32.1×24.2cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成6年
グラファイト・紙
35.5×28.0cm
作者 寄贈
D-395

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
1994
graphite on paper
35.5×28.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成6年
グラファイト・紙
35.5×28.0cm
作者 寄贈
D-396

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
1994
graphite on paper
35.5×28.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成7年
グラファイト・紙
35.5×28.0cm
購入
D-387

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
1995
graphite on paper
35.5×28.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成7年
グラファイト・紙
35.5×28.0cm
購入
D-388

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
1995
graphite on paper
35.5×28.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
現代美術への視点 連続と侵犯 (東京国立近代美術館、2002年)
購入
D-389

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
購入
D-390

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
購入
D-391

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
購入
D-392

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)
無題
平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
購入
D-393

FLEXNER, Roland (1944-)
Untitled
2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)

無題

平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
作者寄贈
D-397

ロラン・フレクスナー (1944-)

無題

平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
作者寄贈
D-398

ロラン・フレクスナー (1944-)

無題

平成13年
インク 石鹸・紙
17.2×14.0cm
作者寄贈
D-399

FLEXNER, Roland (1944-)

Untitled

2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

FLEXNER, Roland (1944-)

Untitled

2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

FLEXNER, Roland (1944-)

Untitled

2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

ロラン・フレクスナー (1944-)

無題

平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
作者寄贈
D-400

ロラン・フレクスナー (1944-)

無題

平成13年
インク、石鹸・紙
17.2×14.0cm
作者寄贈
D-401

FLEXNER, Roland (1944-)

Untitled

2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

FLEXNER, Roland (1944-)

Untitled

2001
ink, soap on paper
17.2×14.0cm

彫刻
Sculptures

高嶺 格 (1968-)

God Bless America

平成14年
ビデオ・インスタレーション
現代美術への視点 連続と侵犯 (東京国立近代美術館、2002年)
購入
S-389

TAKAMINE, Tadasu (1968-)

God Bless America

2002
video installation

中川佳宣 (1964-)

The Sower-left

平成8年
木、綿、皮、糸、再生紙、油彩、アクリリック
189.0×31.5×28.5cm
心を癒す植物—アート・ボタニカル・ガーデン (目黒区美術館、1996年)
購入
S-391

NAKAGAWA, Yoshinobu (1964-)

The Sower-left

1996
wood, cotton, leather, thread, recycled paper,
oil and acrylic
189.0×31.5×28.5cm

マグダレーナ・アバカノヴィッチ
(1930-)

アナスタシヤ・セコンダ

平成14-15年
ブロンズ
42.5×37.8×24.4cm
台座に書込み、年記、モノグラム、署名
購入
S-392

ABAKANOWICZ, Magdalena
(1930-)

Anastazja Seconda

2002-03
bronze
42.5×37.8×24.4cm

マグダレーナ・アバカノヴィッチ
(1930-)

アロエス

平成14-15年
ブロンズ
44.0×54.8×19.5cm
台座に年記、モノグラム、署名
購入
S-393

ABAKANOWICZ, Magdalena
(1930-)

Aloes

2002-03
bronze
44.0×54.8×19.5cm

アブラハム・ダヴィッド・
クリスティアン (1952-)

無題

平成6年
紙、彩色
43.0×75.8×36.7cm
購入
S-388

CHRISTIAN, Abraham David
(1952-)

Untitled

1994
painted paper
43.0×75.8×36.7cm

ヴォルフガング・ライプ (1950-)

米の食事

平成10年
8個の真鍮製の円錐、米
高さ各17.0~35.0cm
購入
S-390

LAIB, Wolfgang (1950-)

The Rice Meals

1998
8 brass cones, rice
each h. 17.0~35.0cm

写真

Photographic works

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)

『APN』ポートフォリオより(1)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
15.4×11.3(23.6×18.4)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-1

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (1)

1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
15.4×11.3 (23.6×18.4)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)

『APN』ポートフォリオより(2)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
16.6×12.3(23.5×18.3)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-2

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (2)

1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
16.6×12.3 (23.5×18.3)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(3)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
21.2×15.0(33.7×25.9)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-3

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)
From APN portfolio (3)
1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
21.2×15.0(33.7×25.9)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(4)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
21.5×15.1(33.7×25.9)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-4

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)
From APN portfolio (4)
1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
21.5×15.1(33.7×25.9)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(5)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
21.6×14.8(33.8×25.9)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-5

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)
From APN portfolio (5)
1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
21.6×14.8(33.8×25.9)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(6)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
16.5×12.3(23.5×18.4)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-6

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)
From APN portfolio (6)
1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
16.5×12.3(23.5×18.4)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(7)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
14.5×12.3(23.5×18.3)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-7

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)
From APN portfolio (7)
1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
14.5×12.3(23.5×18.3)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(8)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
17.2×11.3(23.7×18.4)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-8

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)
From APN portfolio (8)
1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
17.2×11.3(23.7×18.4)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(9)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
25.7×18.9(33.8×26.0)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-9

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)
From APN portfolio (9)
1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
25.7×18.9(33.8×26.0)cm

北代省三 (1921-2001)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(10)

昭和28-29年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
19.1×14.3(33.9×25.9)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2003年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1304-10

KITADAI, Shozo (1921-2001)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)
From APN portfolio (10)
1953-54 (2003 print)
gelatin silver print
19.1×14.3(33.9×25.9)cm

牛腸茂雄 (1946-1983)
『SELF AND OTHERS』

昭和52年(平成15年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント、60点組
各14.5×21.8(27.9×35.6)cm、No.58のみ
4.1×5.4(27.9×35.6)cm
「牛腸茂雄展」(東京国立近代美術館、2003年)、
プリンター:三浦和人、裏面にプリント年、プリンタ
ー署名
購入
Ph-1336

GOCHO, Shigeo (1946-1983)
“SELF AND OTHERS”
1977 (2003 print)
gelatin silver print, 60 prints
each 14.5×21.8(27.9×35.6)cm, No.58;
4.1×5.4(27.9×35.6)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1306

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1307

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1308

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1309

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1310

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1311

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1312

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1313

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1314

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”
1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1315

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1316

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1317

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1318

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1319

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1320

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1321

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
15.0×24.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1322

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
15.0×24.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
15.0×24.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1323

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
15.0×24.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1324

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1325

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1326

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1327

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1328

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1329

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1330

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
16.3×26.5 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
26.4×16.3 (31.0×25.4)cm
裏面に署名
購入
Ph-1331

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
26.4×16.3 (31.0×25.4)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より
昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1332

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From "An Autistic Space"
1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1333

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
15.0×24.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1334

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
15.0×24.4 (25.4×31.0)cm

土田ヒロミ (1939-)
「自閉空間」より

昭和45年
ゼラチン・シルバー・プリント
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm
裏面に署名
購入
Ph-1335

TSUCHIDA, Hiromi (1939-)
From “An Autistic Space”

1970
gelatin silver print
16.3×26.4 (25.4×31.0)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)

『APN』ポートフォリオより(1)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
16.0×11.1 (24.4×19.2)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-1

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (1)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
16.0×11.1 (24.4×19.2)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)

『APN』ポートフォリオより(2)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
18.8×12.5 (24.4×19.2)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-2

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (2)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
18.8×12.5 (24.4×19.2)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)

『APN』ポートフォリオより(3)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
24.4×16.4 (34.6×26.8)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-3

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (3)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
24.4×16.4 (34.6×26.8)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)

『APN』ポートフォリオより(4)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
18.9×12.6 (23.4×18.1)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-4

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (4)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
18.9×12.6 (23.4×18.1)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)

『APN』ポートフォリオより(5)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
11.7×19.0 (19.3×24.5)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-5

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (5)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
11.7×19.0 (19.3×24.5)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)

『APN』ポートフォリオより(6)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
24.1×18.0 (34.6×26.8)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-6

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (6)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
24.1×18.0 (34.6×26.8)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(7)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
16.0×11.2(24.4×19.2)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-7

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (7)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
16.0×11.2 (24.4×19.2)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(8)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
18.8×16.0(34.7×26.8)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-8

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (8)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
18.8×16.0 (34.7×26.8)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(9)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
16.0×11.1(24.4×19.1)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-9

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (9)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
16.0×11.1 (24.4×19.1)cm

山口勝弘 (1928-)/
大辻清司 (1923-2001)
『APN』ポートフォリオより(10)

昭和28-29年(平成14年プリント)
ゼラチン・シルバー・プリント
22.5×19.6(34.6×26.9)cm
ポートフォリオ制作:東京パブリッシングハウス、
2002年、ed. 1/7、プリンター:齋藤さだむ、裏面に
スタンプ、エディション番号、作品番号
購入
Ph-1305-10

YAMAGUCHI, Katsuhiko (1928-)/
OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

From APN portfolio (10)
1953-54 (2002 print)
gelatin silver print
22.5×19.6 (34.6×26.9)cm

横澤典 (1971-)
余白にて on white

平成14年
タイプCプリント・アクリル
120×150cm
「写真の現在2 サイト一場所と光景」(東京国立近
代美術館、2002年)ed.1/3、裏面に署名、エディシ
ョン番号
購入
Ph-1337

YOKOZAWA, Tsukasa (1971-)

on white
2002
type C print mounted on acrylic
120×150cm

横澤典 (1971-)
approach lights

平成14年
タイプCプリント・アルポリック
120×150cm
「写真の現在2 サイト一場所と光景」(東京国立近
代美術館、2002年)ed.1/3、裏面に署名、エディシ
ョン番号
購入
Ph-1338

YOKOZAWA, Tsukasa (1971-)

approach lights
2002
type C print mounted on acrylic
120×150cm

横澤典 (1971-)
approach lights

平成14年
タイプCプリント・アルポリック
120×150cm
「写真の現在2 サイト一場所と光景」(東京国立近
代美術館、2002年)ed.1/3、裏面に署名、エディシ
ョン番号
購入
Ph-1339

YOKOZAWA, Tsukasa (1971-)

approach lights
2002
type C print mounted on alpolic
120×150cm

ウィリアム・クライン (1928-)
スタテン島行きフェリー、ニューヨ
ーク

昭和29年
ゼラチン・シルバー・プリント
25.5×35.7(30.4×40.4)cm
左下に題名、年記、右下に署名
購入
Ph-1342

KLEIN, William (1928-)

Staten Island Ferry, New York
1954
gelatin silver print
25.5×35.7 (30.4×40.4)cm

ウィリアム・クライン (1928-)
高架鉄道の下の方、ニューヨーク

昭和30年
ゼラチン・シルバー・プリント
35.4×25.6(40.4×30.4)cm
左下に題名、年記、右下に署名
購入
Ph-1343

KLEIN, William (1928-)

Man under EL, New York
1955
gelatin silver print
35.4×25.6 (40.4×30.4)cm

ウィリアム・クライン (1928-)
ビッグ・フェース、メーシーズ百貨店、
ニューヨーク

昭和30年
ゼラチン・シルバー・プリント
25.2×36.5 (30.5×40.3)cm
左下に題名、年記、右下に署名
購入
Ph-1344

KLEIN, William (1928-)
Big Face, Macy's, New York
1955
gelatin silver print
25.2×36.5 (30.5×40.3)cm

ウィリアム・クライン (1928-)
コルソ通り、ローマ

昭和31年
ゼラチン・シルバー・プリント
25.3×36.5 (30.4×40.2)cm
左下に題名、年記、右下に署名
購入
Ph-1345

KLEIN, William (1928-)
Via del Corso, Rome
1956
gelatin silver print
25.3×36.5 (30.4×40.2)cm

ウィリアム・クライン (1928-)
メーデー、モスクワ

昭和36年
ゼラチン・シルバー・プリント
25.0×35.5 (30.5×40.4)cm
左下に題名、年記、右下に署名
購入
Ph-1346

KLEIN, William (1928-)
Mayday, Moscow
1961
gelatin silver print
25.0×35.5 (30.5×40.4)cm

アレクサンダー・ロドチェンコ
(1891-1956)

詩集『これについて』のためのフォトモン
タージュ 「そして彼女もまた/—彼女は動物
物たちを愛した—/動物園に来るだろう。」

大正12年
ゼラチン・シルバー・プリント
12.3×8.9cm
裏面にスタンプ
購入
Ph-1340

RODCHENKO, Alexander
(1891-1956)
Photomontage for *Pro Eto (About
This)* "And she /—she loved animals
—/ also will come to the zoo."
1923
gelatin silver print
12.3×8.9cm

アレクサンダー・ロドチェンコ
(1891-1956)

詩集『これについて』のためのフォトモン
タージュ 「来た/縄から解かれて/ジェラ
シーカ這い回る/洞窟に住まう怪物

大正12年
ゼラチン・シルバー・プリント
20.3×12.7cm
裏面にスタンプ
購入
Ph-1341

RODCHENKO, Alexander
(1891-1956)
Photomontage for *Pro Eto (About
This)* "Come / out of the cord /
Jealousy crawling / a cave-dwelling
troglodyte monster"
1923
gelatin silver print
20.3×12.7cm

資料

Supplementary materials

佐伯祐三 (1898-1928)

ライフマスク

大正10年
石膏
佐伯米子遺族会「七夕会」寄贈
M-640

SAEKI, Yuzo (1898-1928)
Life Mask
1921
plaster

佐伯祐三 (1898-1928)

ライフマスク

大正10年頃
ブロンズ
佐伯米子遺族会「七夕会」寄贈
M-641

SAEKI, Yuzo (1898-1928)
Life Mask
c. 1921
bronze

2-2 工芸作品 Craft Works

平成15年度における工芸作品の購入・寄贈による新収蔵作品は次のとおり。陶磁27点（購入8点、寄贈19点）、ガラス9点（購入9点）、漆工5点（購入2点、寄贈3点）、木工1点（寄贈1点）、染織1点（寄贈1点）、人形9点（購入5点、寄贈4点）、工芸資料1点（寄贈1点）、工業デザイン3点（購入3点）、合計56点（購入27点、寄贈29点）である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase, receipt of donation, or management transfer of crafts during fiscal 2003 were as follows: 27 ceramic works (8 purchased, 19 donated); 9 items of glass work (9 purchased); 5 items of lacquer ware (2 purchased, 3 donated); 1 item of wood work (1 donated); 1 work of textile (1 donated); 9 items of doll (5 purchased, 4 donated); 1 item of reference material (1 donated); 3 items of industrial design (3 purchased); totaling 56 items (27 purchased, 29 donated).

陶磁 Ceramic Works

河井寛次郎 (1890-1966)

鳴壺

大正7年
陶器
h14.5 w22.2 d12.1cm
購入
Cr0626

KAWAI, Kanjiro (1890-1966)
Double-chambered vessel with handle and whistle, bird form
1918
stoneware
h14.5 w22.2 d12.1cm

栗木達介 (1943-)

這行する輪壺

昭和51年
陶器
h59.0 w54.0 d40.0cm
第4回中日国際陶芸展
購入
Cr0627

KURIKI, Tatsusuke (1943-)
Creeping Ring
1976
stoneware
h59.0 w54.0 d40.0cm

清水卯一 (1926-2004)

柿釉黄彩大壺

昭和37年
陶器
h34.6 D31.8cm
購入
Cr0628

SHIMIZU, Uichi (1926-2004)
Large jar, yellow touch decoration in reddish blown glaze
1962
stoneware
h34.6 D31.8cm

清水卯一 (1926-2004)

蓬萊磁堆線壺

昭和58年
陶器
h34.3 D35.4cm
第7回日本陶芸展
購入
Cr0629

SHIMIZU, Uichi (1926-2004)
Jar with ridges, *horai-ji* (1983-)
stoneware
h34.3 D35.4cm

新庄貞嗣 (1950-)

萩灰被陶箱

平成6年
陶器
h15.5 w33.2 d16.8cm
乾ギャラリー創立15周年記念 足利乾ギャラリー
開廊記念展
購入
Cr0630

SHINJO, Sadatsugu (1950-)
Box, ash glaze, Hagi ware
1994
stoneware
h15.5 w33.2 d16.8cm

田嶋悦子 (1959-)
Cornucopia97-V

平成9年
陶器、ガラス
h32.0 w84.0 d68.0cm
寄贈
Cr0607

TASHIMA, Etsuko (1959-)
Cornucopia97-V

1997
stoneware, glass
h32.0 w84.0 d68.0cm

田嶋悦子 (1959-)
Cornucopia02-XI

平成14年
陶器、ガラス
h94.0 w74.0 d55.0cm
個展
購入
Cr0631

TASHIMA, Etsuko (1959-)
Cornucopia02-XI

2002
stoneware, glass
h94.0 w74.0 d55.0cm

四代永澤永信 (1938-)
遙か

平成12年
磁器
h29.0 D45.0cm
購入
Cr0632

NAGASAWA, Eishin IV (1938-)
Faraway

2000
porcelain
h29.0 D45.0cm

沼田一雅 (1873-1954)
陶彫 印度象

昭和25年-29年頃
陶器
h15.8 w21.8 d8.8cm
購入
Cr0633

NUMATA, Ichiga (1873-1954)
Ornament, "Indian Elephant"

c.1950-54
stoneware
h15.8 w21.8 d8.8cm

松井康成 (1927-2003)
練上梅花茶盃

昭和47年
陶器
h8.9 D12.4cm
寄贈
Cr0608

MATSUI, Kosei (1927-2003)
Tea bowl, plum blossom design,
neriage

1972
stoneware
h8.9 D12.4cm

松井康成 (1927-2003)
練上平茶盃

昭和47年
陶器
h5.8 D16.6cm
寄贈
Cr0609

MATSUI, Kosei (1927-2003)
Shallow tea bowl, *neriage*

1972
stoneware
h5.8 D16.6cm

松井康成 (1927-2003)
練上梅花水指

昭和48年
陶器
h16.5 D16.0cm
寄贈
Cr0610

MATSUI, Kosei (1927-2003)
Water container, plum blossom
design, *neriage*

1973
stoneware
h16.5 D16.0cm

松井康成 (1927-2003)
練上梅花文大皿

昭和49年
陶器
h11.0 D48.5cm
寄贈
Cr0611

MATSUI, Kosei (1927-2003)
Large tray, plum blossom design,
neriage

1974
stoneware
h11.0 D48.5cm

松井康成 (1927-2003)
練上壺

昭和50年
陶器
h32.0 D36.8cm
寄贈
Cr0612

MATSUI, Kosei (1927-2003)
Vase, *neriage*

1975
stoneware
h32.0 D36.8cm

松井康成 (1927-2003)

練上嘯裂文平茶盃

昭和51年
陶器
h5.4 D15.8cm
寄贈
Cr0613

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Shallow tea bowl, layer pattern,
neriage

1976
stoneware
h5.4 D15.8cm

松井康成 (1927-2003)

練上嘯裂文大壺 異境

昭和53年
陶器
h36.0 D51.5cm
寄贈
Cr0614

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Large Jar, "Strange land" layer
pattern, *neriage*

1978
stoneware
h36.0 D51.5cm

松井康成 (1927-2003)

練上嘯裂文深鉢

昭和53年
陶器
h41.0 D37.8cm
寄贈
Cr0615

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Deep bowl, layer pattern, *neriage*

1978
stoneware
h41.0 D37.8cm

松井康成 (1927-2003)

練上嘯裂文水指

昭和53年
陶器
h10.5 D19.0cm
寄贈
Cr0616

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Water container, layer pattern,
neriage

1978
stoneware
h10.5 D19.0cm

松井康成 (1927-2003)

練上嘯裂文大壺

昭和54年
陶器
h41.8 D46.4cm
寄贈
Cr0617

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Large jar, layer pattern, *neriage*

1979
stoneware
h41.8 D46.4cm

松井康成 (1927-2003)

三層練上象裂瓷大壺

昭和54年
陶器
h40.0 D50.0cm
寄贈
Cr0618

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Large jar, layer pattern, *neriage*

1979
stoneware
h40.0 D50.0cm

松井康成 (1927-2003)

練上嘯裂文水指

昭和57年
陶器
h11.6 D18.6cm
寄贈
Cr0619

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Water container, layer pattern,
neriage

1982
stoneware
h11.6 D18.6cm

松井康成 (1927-2003)

堆瓷文方壺 春の松

昭和58年
陶器
h42.0 w35.0 d18.0cm
寄贈
Cr0620

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Square vase, "Pine trees in spring",
tuiji

1983
stoneware
h42.0 w35.0 d18.0cm

松井康成 (1927-2003)

晴白練上大壺

平成元年
陶器
h37.0 D41.0cm
寄贈
Cr0621

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Large Jar, clear white *neriage*

1989
stoneware
h37.0 D41.0cm

松井康成 (1927-2003)

晴白練上壺 潮

平成元年
陶器
h35.9 D41.5cm
寄贈
Cr0622

松井康成 (1927-2003)

晴白練上陶管

平成元年
陶器
h17.5 D32.2cm
寄贈
Cr0623

松井康成 (1927-2003)

練上玻璃光大壺

平成11年
陶器
h40.0 D44.8cm
寄贈
Cr0624

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Jar, "Tide", clear white *neriage*

1989
stoneware
h35.9 D41.5cm

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Box, clear white *neriage*

1989
stoneware
h17.5 D32.2cm

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Large Jar, *hariko neriage*

1999
stoneware
h40.0 D44.8cm

松井康成 (1927-2003)

練上玻璃光壺

平成12年
陶器
h33.8 D37.4cm
第47回日本伝統工芸展
寄贈
Cr0625

MATSUI, Kosei (1927-2003)

Jar, *hariko neriage*

2000
stoneware
h33.8 D37.4cm

ガラス
Glass Works

船木倭帆 (1935-)

アラルワイングラス

昭和55年
ガラス
12.0×7.2cm
購入
Gl0079

FUNAKI, Shizuho (1935-)

Wineglass with *arare* design

1980
glass
12.0×7.2cm

船木倭帆 (1935-)

丸文一輪挿し

昭和63年
ガラス
h20.2 w10.8 d9.0cm
購入
Gl0080

FUNAKI, Shizuho (1935-)

Vase, circle design

1988
glass
h20.2 w10.8 d9.0cm

船木倭帆 (1935-)

線巻大皿

平成8年
ガラス
h7.9 D25.7cm
購入
Gl0081

FUNAKI, Shizuho (1935-)

Large bowl, coil design

1996
glass
h7.9 D25.7cm

船木倭帆 (1935-)

モール脚ワイングラス

平成10年
ガラス
h15.4 D7.1cm
購入
Gl0082

FUNAKI, Shizuho (1935-)

Wineglass with a stem on braid design

1998
glass
h15.4 D7.1cm

船木倭帆 (1935-)
玉飾脚ワイングラス

平成11年
ガラス
h15.8 D8.0cm
購入
GI0083

FUNAKI, Shizuho (1935-)
Wineglass with a stem on ball
design

1999
glass
h15.8 D8.0cm

船木倭帆 (1935-)
花卉文鉢

平成12年
ガラス
h8.0 D27.7cm
購入
GI0084

FUNAKI, Shizuho (1935-)
Bowl, flower design

2000
glass
h8.0 D27.7cm

船木倭帆 (1935-)
丸文蓋物

平成13年
ガラス
h23.5 D17.9cm
購入
GI0085

FUNAKI, Shizuho (1935-)
Covered vessel, circle design

2001
glass
h23.5 D17.9cm

船木倭帆 (1935-)
垂描文大皿

平成15年
ガラス
h4.9 D29.9cm
購入
GI0086

FUNAKI, Shizuho (1935-)
Large tray, design of glass drooping

2003
glass
h4.9 D29.9cm

吉田丈夫 (1916-2002)
伊達瓢

昭和63年
ガラス
h30.4 D12.5cm
個展
購入
GI0087

YOSHIDA, Takeo (1916-2002)

Vase
1988
glass
h30.4 D12.5cm

漆工
Lacquerware

小森邦衛 (1945-)
曲輪造籃胎喰籠

平成11年
漆、籃胎
h9.1 D21.9cm
個展
購入
Lc0218

KOMORI, Kunie (1945-)
Food container, *magewa* and *rantai*

1999
lacquer, *rantai*
h9.1 D21.9cm

中川哲哉 (1897-1976)
乾漆盛器

昭和30年
漆、乾漆
h7.2 w41.2 d27.7cm
第11回日展
購入
Lc0219

NAKAGAWA, Tessai (1897-1976)

Tray, *kanshitsu*
1955
lacquer, *kanshitsu*
h7.2 w41.2 d27.7cm

本間彝華 (1894-1991)
乾漆からたち盤

昭和44年
蒔絵、乾漆
h10.1 w36.6 d36.6cm
第1回改組日展
寄贈
Lc0215

HONMA, Syunka (1894-1991)

Tray, trifoliate design, *maki-e*,
kanshitsu
1969
lacquer, *maki-e*, *kanshitsu*
h10.1 w36.6 d36.6cm

増村益城 (1910-1996)

屠蘇器 一式

昭和26年

漆、蒔絵

杯:h2.3 D7.2~h3.1 D10.0;注子:h14.5 w12.5
d9.0;平卓:h4.0 w48.6 d31.7cm

寄贈

Lc0216

MASUMURA, Mashiki (1910-1996)

Set of *tosô* utensils

1951

lacquer, *maki-e*

cup:h2.3 D7.2~h3.14 D10.0

pot:h14.5 w12.5 d9.0

table:h4.0 w48.6 d31.7cm

増村益城 (1910-1996)

乾漆溜塗喰籠 亀甲

平成3年

漆、乾漆

h13.8 w19.7 d22.3cm

第8回日本伝統漆芸展

寄贈

Lc0217

MASUMURA, Mashiki (1910-1996)

Tortoiseshell-shaped food container,
tamenuri (layered-and-dripped
lacquer), *kanshitsu*

1991

lacquer, *kanshitsu*

h13.8 w19.7 d22.3cm

木工

Wood Work

須田桑月(桑翠) (1910-1979)

献保平卓

昭和51年

木、指物

h11.7 w54.6 d34.6cm

須田桑月・桑翠・賢司親子三代展

寄贈

Wd0052

SUDA, Sogetsu (Sosui)

(1910-1979)

Low table, wood (*kenponashi*)

1976

wood (*kenponashi*), joining

h11.7 w54.6 d34.6cm

染織

Textiles

熊井恭子 (1943-)

Screen-D

昭和62年

ステンレス・スチール線

300.0×130.0cm

第1回国際テキスタイルコンペティション'87京都

寄贈

Tx0353

KUMAI, Kyoko (1943-)

Screen-D

1987

stainless steel, weaving

300.0×130.0cm

人形

Dolls

シルヴィア・ヴァンケ (1952-)

Lady No. 14

平成15年

紙粘土

h25.0cm

購入

DI0054

VANKE, Silvia (1952-)

Lady No. 14

2003

paperclay

h25.0cm

大島和代 (1946-)

夏の雨

平成15年

絹、綿

h40.0cm

「今日の人形芸術—想念の造形」展

購入

DI0055

OSHIMA, Kazuyo (1946-)

Rain in Summer

2003

silk, cotton

h40.0cm

川崎 プツペ (1905-1978)

女

昭和24年
布帛
h60.0cm
寄贈
DI0050

KAWASAKI, Puppe (1905-1978)

Woman

1959
cloth
h60.0cm

芹川 英子 (1928-)

潮騒

昭和59年
木彫 木目込
h26.0cm
寄贈
DI0051

SERIKAWA, Eiko (1928-)

The Sound of the Sea

1984
paulownia, cloth
h26.0cm

林 駒夫 (1936-)

江口

昭和59年
木芯 桐壺 和紙貼
h30.0cm
購入
DI0056

HAYASHI, Komao (1936-)

Eguchi

1984
paulownia, toso, cloth, paper
h30.0cm

平田 郷陽 (1903-1981)

洛北の秋

昭和12年
木彫、布きせ
h66.0cm
第2回日本人形社展
寄贈
DI0052

HIRATA, Goyo (1903-1981)

Autumn at Rakuohoku

1937
paulownia, toso, cloth
h66.0cm

平田 郷陽 (1903-1981)

虫の音

昭和27年
木彫
h16.0cm
寄贈
DI0053

HIRATA, Goyo (1903-1981)

Sound of Cricket

1952
paulownia
h16.0cm

ウーヴェ・ホイケンフレルス (1995)
/ユルゲン・ペペル (1951-)

オベロン

平成11年
木彫、紙粘土、彩色
h45.0cm
購入
DI0057

HAUKENFRERS, Uwe (1955-)/

PEPER, Jürgen (1951-)

Oberon

1999
lindenwood, paperclay
h45.0cm

アクセル・ルーカス (1962-)

無題

平成12年
磁器
h39.0cm
購入
DI0058

LUKAS, Axel (1962-)

Untitled

2000
porcelain
h39.0cm

工芸資料

Reference Materials

三輪 壽雪 (十一代休雪) (1910-)

書 無事

平成14年
紙本 墨書
68.2×34.0cm
個展
寄贈
Rf0019

MIWA, Jusetsu (Kyusetsu XI)

(1910-)

Calligraphy

2002
sumi ink, paper
68.2×34.0cm

工業デザイン

Works of Industrial Design

イリヤ・グリゴリエヴィチ・チャー
シニク (1902-1929)

皿

大正13年
磁器
h3.6 D23.5cm
購入
Id0122

CHASHNIK, Iliya Grigorievich
(1902-1929)

Dish

1924
porcelain
h3.6 D23.5cm

セルゲイ・ワシリエヴィチ・チェホ
ーニン (1878-1936)

槌に鎌文皿

大正8年
磁器
h3.0 D24.5cm
購入
Id0124

CHEKHONIN, Sergei Vasilievich
(1878-1936)

Dish with Hammer and Sickle Motif

1919
porcelain
h3.0 D24.5cm

オットー・リンディッヒ (1895-1966)

ココアポット

1920年代前半
陶器
h21.0 w14.0 d10.5cm
購入
Id0123

LINDIG, Otto (1895-1966)

Cocoa pot

c.1920-24
stoneware
h21.0 w14.0 d10.5cm

3 作品修理

3-1 美術作品

平成15年度に修理した美術作品は、次の通り。日本画5点、油彩その他2点、戦争記録画1点、水彩・素描5点、版画31点である。

◆日本画

J-584 橋本明治《赤い椅子》

剥離止め処理。

J1-1 横山大観《生々流転》

油性のシミ除去。

J-292 西沢笛畝《松竹梅(松図)》

剥離止め処理。

J-35 太田聴雨《星をみる女性》

シミ、汚れの除去。剥離止め処理。改装。面ふたを新調。

J-317 福田恵一《明日香野》

額から軸に改装。箱を新調。

◆洋画

O-891 ベン・ニコルソン《1965(静物—緑と茶)》

汚れ除去。オリジナルでない額部分を分離。

O-1089 藤松博《旅人28》

ブルーミングによる白色化部分の透明感を戻す。

◆戦争記録画

X-69 佐藤敬《ニューギニア戦線—密林の死闘》

剥離止め処理。

◆水彩・素描

W-44 赤城泰舒《雲根浄土》

汚れの除去、破れの補修、脱酸処理、プレス。

D-66 瑛九《デッサン1》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

D-68 瑛九《デッサン3》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

M-596 徳岡神泉《罌粟(大下絵)》

汚れの除去、軸装化。

W-133 吉田博《招魂社附近》

汚れの除去、破れの補修、脱酸処理、プレス。

◆版画

P-1189-1 瑛九《エッチング集「小さい悪魔」扉より目次》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

P-1189-2 瑛九《エッチング集「小さい悪魔」より背中合わせ》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

P-1189-3 瑛九《エッチング集「小さい悪魔」よりヴァイオリン》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

P-1189-4 瑛九《エッチング集「小さい悪魔」より眼》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

P-1189-5 瑛九《エッチング集「小さい悪魔」より散歩》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

P-1189-6 瑛九《エッチング集「小さい悪魔」より裏表紙》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

P-91 瑛九《旅人》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

P-717-1 恩地孝四郎《人体考察(髪)》

汚れの除去、脱酸処理、プレス。

P-717-2 恩地孝四郎《人体考察(胴)》

汚れの除去、破れの補修、脱酸処理、プレス。

P-717-3 恩地孝四郎《人体考察(肩)》

汚れの除去、破れの補修、脱酸処理、プレス。

- P-717-4 恩地孝四郎《人体考察(脚)》
汚れの除去、破れの補修、脱酸処理、プレス。
- P-1214 駒井哲郎《墓(マルドロオルの歌)》
汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1217 駒井哲郎《ある空虚》
汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1249 駒井哲郎《芸大アトリエ C-126展カレンダーのための小品》
汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1649 清宮質文《告别》
汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-813 戸張孤雁《玉乗り》
汚れの除去、破れの補修、脱酸処理、プレス。
- P-815 戸張孤雁《化粧(タンスの前)》
汚れの除去、破れの補修、脱酸処理、プレス。
- P-1652 浜田知明《飛翔》
汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1122 深沢索一《鯨》
汚れの除去、破れの補修、脱酸処理、プレス。
- P-761 前田藤四郎《美しきエスプリ》
汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-326 棟方志功《柳緑華紅顔》
汚れ、カビ跡、しみの除去、表具の新調。
- P-1521 安井曾太郎《椅子による女》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1522 安井曾太郎《果物》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1523 安井曾太郎《初夏》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1524 安井曾太郎《正月娘姿》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1525 安井曾太郎《魚とさぎえ》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1537 安井曾太郎《薔薇》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1538 安井曾太郎《画家とモデル》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1539 安井曾太郎《外房風景》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1540 安井曾太郎《十和田湖の秋》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。
- P-1541 安井曾太郎《レコードを聴く人》
カビ、しみ、汚れの除去、脱酸処理、プレス。

3-2 工芸作品

平成15年度における工芸作品の修理は次の5点である。

◆漆工

- Lc0021 新村撰吉《漆皮盤》
汚れの除去、摺り漆養生、亀裂・塗膜断縁の修復等
- Lc0044 松田権六《蒔絵鸞文飾箱》
汚れの除去、摺り漆養生、擦傷の修復等

◆染織

- Tx0243 伊砂利彦《ドビュッシー前奏曲集花火のイメージより》
染み抜き、仕立て直し
- Tx0244 伊砂利彦《ドビュッシー前奏曲集交代する三度のイメージより》
染み抜き、仕立て直し
- Tx0266 久保田繁雄《The Wave Space II》
展示用枠・器具の更新、クリーニング

1 展覧会 Exhibitions

1-1 観覧者数

1-1-1 本館観覧者数

美術展

観覧者総数（人） 300,957

回数	展覧会名	観覧者数(人)
	常設展 近代日本の美術	152,415
400	「青木繁と近代日本のロマンティズム」展	52,713 (平成15年度中)
402	「牛腸茂雄」展	15,082
404	「地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画」	10,621
406	「野見山暁治」展	30,884
408	「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」展	18,624
410	「ヨハネス・イッテン—造形芸術への道」展	16,777
411	「国吉康雄」展	3,841 (平成15年度中)

1-1-2 工芸館観覧者数

工芸展

観覧者総数（人） 114,044

回数	展覧会名	観覧者数(人)
	常設展 近代日本の工芸	35,026
401 (工.67)	「今日の人形芸術 想念の造形」展	21,134 (平成15年度中)
403 (工.68)	「オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて」	3,463
405 (工.69)	「三代藍堂 宮田宏平展—金属造形の先駆け」	8,170
407 (工.70)	「現代の木工家具」展	16,935
409 (工.71)	「あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻」	29,406

1-2 これまでの展覧会一覧 Exhibitions from the Opening in 1952 until 2002

回数 展覧会名

昭和27年度 [1952]

- 1 日本近代美術展—近代絵画の回顧と展望
Modern Japanese Art: Retrospective and Perspective of Modern Painting
- 2 近代洋画の歩み—西洋と日本
Development of Modern Western-Style (Oil) Painting: Europe and Japan

昭和28年度 [1953]

- 3 世界のポスター展
World Posters
- 4 日本画の流れ—系譜と展開
Mainstream of Japanese-Style Painting: Its Schools and Development
- 5 近代彫塑展—西洋と日本
Modern Sculpture: Europe and Japan
- 6 現代写真展—日本とアメリカ
The Exhibition of Contemporary Photography—Japan and America
- 7 四人の画家(小茂田青樹・土田麦僊・中村彝・萬鐵五郎)
Exhibition of Four Artists: Seiju Omoda, Bakusen Tsuchida, Tsune Nakamura, Tetsugoro Yorozu
- 8 抽象と幻想—非写実絵画をどう理解するか
Abstraction and Fantasy: How to Understand Non-figurative(Non-realistic) Painting
- 9 近代の肖像画
Exhibition of Modern Japanese Portraiture
- 10 第27回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 27th Venice Biennial Exhibits from Japan
- 11 国吉康雄遺作展
Posthumous Exhibition of Yasuo Kuniyoshi

昭和29年度 [1954]

- 12 大正期の画家
The Exhibition of the Painting of the Taisho Era
- 13 グロピウスとバウハウス—近代建築工芸運動の出発
Gropius and Bauhaus: Start of Modern Architecture and Craft Movements
- 14 黒田清輝展
Exhibition of Seiki Kuroda
- 15 水彩と素描
Exhibition of Water Colours and Drawings
- 16 世界の児童画
Exhibition of World Children's Art
- 17 四人の画家(佐伯祐三・前田寛治・村上華岳・広島晃甫)
Exhibition of Four Painters—Yuzo Saeki, Kanji Maeta, Kagaku Murakami, Koho Hiroshima
- 18 現代の眼—日本の美術史から
Today's Focus: On the History of Japanese Art

- 19 19人の作家—戦後の絵画・彫刻
同時開催 第3回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Living Nineteen Japanese Artists: Painting and Sculpture in the Past Ten Years
Preview Exhibition of the 3rd São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 20 松方コレクション国立美術館建設協賛展
Exhibition in Liaison with the Establishment of The National Museum of
Western Art
- 21 明治初期洋画展—近代リアリズムの展開
Western-Style Painting of the Early Meiji Era

昭和30年度 [1955]

- 22 日米抽象美術展
Abstract Art Exhibition: Japan and U. S. A.
- 23 巨匠の20代
Great Masters in their Twenties
- 24 日米水彩画展
Joint Exhibition of American and Japanese Water Colours
- 25 現代日本の書・墨の芸術—ヨーロッパ巡回展の国内展示
Contemporary Japanese Calligraphy: Art in Sumi
- 26 晩期の鉄斎
Tessai in His Last Period
- 27 四人の作家(下村観山・荻原守衛・鬯光・橋本平八)
Exhibition of Four Artists: Kanzan Shimomura, Morie Ogiwara, Aimitsu,
Heihachi Hashimoto
- 28 現代の眼—アジアの美術史から
Today's Focus: Eastern Art Seen Through Eyes of the Present
- 29 明治以後の風俗画
Genre-Painting in the Meiji, Taisho and Showa Eras
- 30 第28回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 28th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和31年度 [1956]

- 31 安井曾太郎遺作展
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 32 現代の版画—日本とエコール・ド・パリ
Contemporary Prints: Japanese Artists and l'École de Paris
- 33 今日の写真—日本とフランス
Contemporary Photography: Japan and France
- 34 日本の風景
Japanese Scenery
- 35 日本の彫刻—上代と現代
Exhibition of Japanese Sculpture: Contemporary versus Bronze Buddhist
Statues, and Mask of the Asuka and the Nara Period
- 36 菊池契月遺作展
Posthumous Exhibition of Keigetsu Kikuchi
- 37 日本の風刺絵画
Japanese Satirical Painting (Cartoons)

- 38 近代日本の名作
Masterpieces of Modern Japanese Painting
- 39 第4回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 4th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 40 20世紀のデザイン—ヨーロッパとアメリカ
20th Century Design in Europe and America

昭和32年度 [1957]

- 41 墨の芸術—中国と日本の絵画
Suiboku Paintings of China and Japan
- 42 前衛美術の15人
同時開催 アメリカ現代美術
15 Vanguard Artists
Special Showing of 8 Contemporary American Artists
- 43 第1回東京国際版画ビエンナーレ展(於 読売会館)
特別展示 歌麿と北斎
The 1st International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
Exhibition of Utamaro and Hokusai
- 44 四人の作家(平福百穂・小林徳三郎・武井直也・三岸好太郎)
Exhibition of Four Artists: Hyakusui Hirafuku, Tokusaburo Kobayashi, Naoya Takei, Kotaro Migishi
- 45 最近のドイツ版画
Deutsche Druckgraphik der letzten Jahre
- 46 17人の作家
Living Seventeen Japanese Artists
- 47 第1回安井賞候補新人展
The 1st Yasui Award Exhibition
- 48 近代日本絵画の歩み(於 京都市美術館)
Development of Modern Japanese Painting

昭和33年度 [1958]

- 49 近代日本における名作の展望—絵画と彫刻
Masterpieces of Modern Japanese Painting and Sculpture
- 50 抽象絵画の展開
Development of Japanese Abstract Painting
- 51 四人の作家(小川芋銭・梶田半古・佐分真・北脇昇)
Exhibition of Four Artists: Usen Ogawa, Hanko Kajita, Makoto Saburi, Noboru Kitawaki
- 52 オーストラリア・ニュージーランド巡回 日本現代美術展国内展示
Preview Exhibition of Contemporary Japanese Art Exhibition to be circulated in Australia and New Zealand
- 53 川合玉堂遺作展
Posthumous Exhibition of Gyokudo Kawai
- 54 白隠の芸術—水墨画と書
Hakuin's Art: Suiboku Painting and Calligraphy
- 55 第2回安井賞候補新人展
The 2nd Yasui Award Exhibition

- 56 近代日本美術の常時陳列
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 57 戦後の秀作
Postwar Outstanding Works of Art
- 58 近代日本の静物画
同時開催 ブラジル近代建築展－新首都建築
Still-life in Modern Japanese Painting
Modern Brazilian Architecture

昭和34年度 [1959]

- 59 第5回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 5th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 60 近代木彫の流れ
Development of Modern Sculpture in Wood
- 61 現代日本の陶芸
Contemporary Japanese Ceramic Art
- 62 横山大観遺作展
Posthumous Exhibition of Taikan Yokoyama
- 63 ヨーロッパ巡回 棟方志功展国内展示
Preview Exhibition of Shiko Munakata Exhibition to be circulated in Europe
- 64 第3回安井賞候補新人展
The 3rd Yasui Award Exhibition
- 65 近代日本美術の常時陳列
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 66 現代写真展 1959年
同時開催 ハイイツ・ハイエク＝ホルケの抽象光画
Contemporary Photographs 1959
Deutsche Lichtgrafik Werke von Heinz Hajek-Halke
- 67 近代日本の素描(アメリカ巡回展国内展示)
同時開催 マリノ・マリーニのリトグラフ
Japanese Drawings in XXth Century (Preview of the Travelling Exhibition in U. S. A.
Lithographs by Marino Marini
- 68 日本画の新时代
Recent Development in Japanese Style Painting
- 69 第30回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 30th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和35年度 [1960]

- 70 超現実絵画の展開
同時開催 ブラジルのポエマ・コンクレート
Development of Surrealistic Paintings
Brazilian Poema Concrete
- 71 四人の作家(菱田春草・瑛九・上阪雅人・高村光太郎)
Exhibition of Four Artists: Shunso Hishida, Ei-kyu, Gajin Kosaka, Kotaro Takamura
- 72 現代の眼－原始美術から
Today's Focus: Primitive Art Seen Through Eyes of the Present

- 73 近代日本美術の常時陳列
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 74 日本人の手—現代の伝統工芸
同時開催 芸術としての写真
Contemporary Japanese Handicrafts: Contemporary Traditional Crafts
Photographs as Art
- 75 小林古徑遺作展
Posthumous Exhibition of Kokei Kobayashi
- 76 第2回東京国際版画ビエンナーレ展
The 2nd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 77 第4回安井賞候補新人展
The 4th Yasui Award Exhibition
- 78 現代写真展1960年
同時開催 アニメーションの芸術
Contemporary Photographs 1960
Animation Art
- 79 現代スペイン絵画展
Exposicion: Contrastes en la Pintura Española de Hoy
- 80 第6回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
同時陳列 現代日本の版画
Preview Exhibition of the 6th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
Contemporary Japanese Prints

昭和36年度 [1961]

- 81 文部省新収品を中心とする常時陳列
Permanent Exhibit: Mainly New Acquisitions of the Ministry of Education
- 82 現代美術の実験
Adventure in Today's Art of Japan
- 83 近代日本の名作展—日本画・洋画(於 仙台)
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 84 近代日本油絵の流れ(於 日本橋三越)
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 85 近代日本の名作展(於 札幌)
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 86 近代日本彫刻の流れ(於 日本橋三越)
Development of Sculpture in Modern Japan
- 87 近代日本画の流れ(於 日本橋三越)
Development of Japanese-Style Painting in Modern Japan
- 88 近代日本の洋画(於 大阪市立美術館)
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 89 第5回安井賞候補新人展(於 ブリヂストン美術館)
The 5th Yasui Award Exhibition
- 90 現代日本の版画(於 銀座松坂屋)
Contemporary Japanese Prints
- 91 現代絵画の展望(於 日本橋三越)
Prominent Works of Contemporary Japanese Painting

昭和37年度 [1962]

- 92 近代日本の造形—油絵と彫刻
Oil Painting and Sculpture in Modern Japan
- 93 近代日本の造形—絵画と彫刻
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 94 近代の屏風絵
Painting on Folding Screen in Modern Japan
- 95 第3回東京国際版画ビエンナーレ展
特別展示 写楽
The 3rd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
Sharaku
- 96 四人の作家(坂田一男・野田英夫・近藤浩一路・藤川勇造)
同時開催 フランス映画史展
Exhibition of Four Artists: Kazuo Sakata, Hideo Noda, Koichiro Kondo, Yuzo
Fujikawa
History of French Films
- 97 第6回安井賞候補新人展
The 6th Yasui Award Exhibition
- 98 現代写真展 1961—62年
Contemporary Photographs 1961-62
- 99 近代日本の絵画と彫刻
Painting and Sculpture of Modern Japan
- 100 須田国太郎遺作展
Posthumous Exhibition of Kunitaro Suda
- 101 現代の油絵と版画
Contemporary Oil Painting and Prints

昭和38年度 [1963]

- 102 ビュッフェ展—その芸術の全貌
同時陳列 現代の日本画
Bernard Buffet: Exposition au Japon 1963
Contemporary Japanese-Style Paintings
- 103 彫刻の新世代
New Generation of Japanese Sculptures
- 104 現代の眼—暮らしの中の日本の美
同時陳列 近代の日本画
Today's Focus: Traditional Daily Implements of Japan Seen Through Eyes of
the Present
Modern Japanese-Style Paintings
- 105 近代日本の絵画と彫刻
Painting and Sculpture of Modern Japan
- 106 近代日本美術における1914年
同時陳列 近代日本の素描
1914: The Beginning of an Era in Modern Japanese Art
Modern Japanese Drawings
- 107 北大路魯山人の芸術
同時陳列 日本の抽象絵画
The Art of Rosanjin Kitaoji
Japanese Abstract Paintings

- 108 第7回安井賞候補新人展
同時開催 マヤ芸術の拓本展
The 7th Yasui Award Exhibition
Rubbed Prints of Mayan Art
- 109 滞欧作とその後
同時陳列 織田一磨の版画
Japanese Artists: A Contrast Seen before and after Sojourning in Europe or America
Kazuma Oda's Prints
- 110 近代作家の回顧(富田溪仙・太田聰雨・佐藤玄々・石井柏亭・中西利雄)
同時開催 第32回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Posthumous Exhibition of five Artists: Keisen Tomita, Chouu Ota, Gengen Sato, Hakutei Ishii, Toshio Nakanishi
Preview Exhibition of the 32nd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和39年度 [1964]

- 111 児島善三郎遺作展
Posthumous Exhibition of Zenzaburo Kojima
- 112 ピカソ展—その芸術の70年
Pablo Picasso Exhibition: Japan 1964
- 113 京都の日本画—円山応挙から現代まで
Japanese Painting in Kyoto: from Okyo Maruyama to Present Generation
- 114 現代国際陶芸展
同時陳列 本館所蔵の日本画
International Exhibition of Contemporary Ceramic Art
Japanese-style Paintings from the Museum Collection
- 115 近代日本の名作—オリンピック東京大会芸術展示
Masterpieces of Modern Japanese Art: Art Exhibition during Tokyo Olympics
- 116 第4回東京国際版画ビエンナーレ展
The 4th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 117 第8回安井賞候補新人展
同時陳列 新収集の日本画
The 8th Yasui Award Exhibition
New Pieces of Japanese-Style Paintings in the Museum Collection
- 118 戦中世代の画家
Painters of the "Senchu" Generation
- 119 戦後の絵画—所蔵作品を中心として
同時開催 第8回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
同時陳列 古賀春江の水彩
Postwar Paintings: Mainly from the Museum Collection
Preview Exhibition of the 8th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
Harue Koga's Water Colours

昭和40年度 [1965]

- 120 近代における文人画とその影響—日本と中国
Modern "Bunjin-ga" of China and Japan and its Influence
- 121 近代日本の裸体画
同時陳列 新収集の油絵と彫刻
Paintings of Nudes in Modern Japan
New Pieces of the Museum Collection: Oil Painting and Sculpture

- 122 近代作家の回顧(小杉放庵・木村荘八・前川千帆・藤井浩祐)
同時開催 ユーゴスラビア現代版画展
Exhibition of Four Artists: Hoan Kosugi, Shohachi Kimura, Sempan Maekawa, Koyu Fujii
Exhibition of Contemporary Prints in Yugoslavia
- 123 近代日本の油絵—所蔵品による
Oil Paintings of Modern Japan from the Museum Collection
- 124 院展芸術の歩み—戦前
The Retrospective Exhibition of the INTEN: The Prewar Period
- 125 在外日本作家展—ヨーロッパとアメリカ
Exhibition of Japanese Artists Abroad: Europe and America
- 126 第1回日本芸術祭出品作品国内展示
The 1st Preliminary Show of Japan Art Festival
- 127 第9回安井賞候補新人展
同時陳列 2人のアメリカの写真作家
The 9th Yasui Award Exhibition
Two American Photographers
- 128 現代美術の新世代
New Generation of Contemporary Art
- 129 近代の日本画—所蔵作品による
同時開催 第33回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Modern Japanese-Style Paintings from the Museum Collection
Preview Exhibition of the 33rd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和41年度 [1966]

- 130 現代の眼—東洋の幻想
Today's Focus: Fantasy of the Orient Seen Through Eyes of the Present
- 131 近代作家の回顧—岸田劉生
Posthumous Exhibition of Ryusei Kishida
- 132 ポーランドのポスター
現代写真の10人
Posters of Poland
Ten Artists of Contemporary Japanese Photography
- 133 ミロ展
Miro Exhibition
- 134 現代アメリカ絵画展
Exhibition of Contemporary American Painting
- 135 第5回東京国際版画ビエンナーレ展
The 5th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 136 第10回安井賞候補新人展
特別陳列 安井賞の作家たち—受賞作品とその後
The 10th Yasui Award Exhibition
Yasui Award Artists: Their Awards and Later Works
- 137 所蔵作品による近代日本の美術—大正から昭和前期の絵画
同時開催 第9回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Modern Japanese Art from the Museum Collection: Paintings from Taisho to Early Showa Eras
Preview Exhibition of the 9th São Paulo Biennial Exhibits from Japan

昭和42年度 [1967]

- 138 グラフィック・アート USA
Graphic Art USA
- 139 近代日本の版画
Modern Japanese Prints
- 140 第2回日本芸術祭出品作品国内展示
The 2nd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 141 近代日本の水彩と素描
Modern Japanese Water Colors and Drawings
- 142 現代イタリア美術展
Exhibition of Contemporary Italian Art
- 143 ソ連絵画50年展
50 Years of Painting U. S. S. R.
- 144 第11回安井賞候補新人展
特別陳列 安井曾太郎の遺作
The 11th Yasui Award Exhibition
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 145 近代日本の油絵—大正・昭和(戦前)を中心として/
—昭和(戦後)を中心として
同時開催 第34回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Oil Paintings of Modern Japan: mainly from the Taisho and Showa (prewar)
Periods: mainly from the Showa (postwar) Period
Preview Exhibition of the 34th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和43年度 [1968]

- 146 現代陶芸の新生代
New Generation of Ceramic Art in Japan
- 147 第3回日本芸術祭出品作品国内展示
The 3rd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 148 タダ展
Dada
- 149 韓国現代絵画展
Contemporary Korean Painting
- 150 東西美術交流展—明治100年記念
Mutual Influences between Japanese and Western Art
- 151 第6回東京国際版画ビエンナーレ展
The 6th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo

昭和44年度 [1969]

- 152 現代世界美術展—東と西の対話
Contemporary Art: Dialogue between the East and the West
- 153 ヘンリー・ムーア展
Henry Moore Exhibition in Japan, 1969
- 154 現代ドイツ建築展
Moderne Deutsche Architektur
- 155 第4回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示
The 4th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 156 フランス現代タピスリー展
Tapisserie Française d'aujourd'hui

	157	ピカソ近作版画展 Picasso's Recent Works in Prints
昭和45年度 [1970]	158	富本憲吉遺作展 Posthumous Exhibition of Kenkichi Tomimoto
	159	ベン・シャーン展 Ben Shahn
	160	第5回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示 The 5th Preliminary Show of Japan Art Festival
	161	1970年8月 現代美術の一断面 August 1970: Aspects of New Japanese Art
	162	現代イギリス美術展 Contemporary British Art
	163	現代インド絵画展 Contemporary Indian Painting
	164	第7回東京国際版画ビエンナーレ展 The 7th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
	165	バウハウス50年展 Bauhaus Exhibition
昭和46年度 [1971]	166	近代日本美術における1930年 Around 1930 in Modern Japanese Art
	167	ルネ・マグリット展 La Rétrospective René Magritte
	168	第6回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示 The 6th Preliminary Show of Japan Art Festival
	169	新収蔵作品の展示—日本画・版画・工芸・書 New Acquisition: Japanese-Style Painting, Prints, Crafts, and Calligraphy
	170	近代作家の回顧—山口薫 Posthumous Exhibition of Kaoru Yamaguchi
	171	現代ドイツ美術展 ZEITGENÖSSISCHE DEUTSCHE KUNST
	172	現代の陶芸—アメリカ・カナダ・メキシコと日本 Contemporary Ceramic Art: Canada, U. S. A., Mexico and Japan
	173	戦後日本美術の展開—具象表現の変貌 Development of Postwar Japanese Art: Figurative Art
	174	新収蔵作品の展示—油絵と彫刻 New Acquisition: Oil Painting and Sculpture
昭和47年度 [1972]	175	現代スウェーデン美術展 Swedish Art 1972: A Contemporary Theme
	176	近代イタリア美術の巨匠たち Masters of Modern Italian Art from the Collection of Gianni Mattioli

- 177 昭和46年度新収蔵作品の展示
同時陳列 本館所蔵の素描
New Acquisition 1971
Drawings in the Museum Collection
- 178 開館20年記念 現代の眼—近代日本の美術から
The 20th Anniversary Exhibition: Today's Focus: on Modern Japanese Art
- 179 第8回東京国際版画ビエンナーレ展
The 8th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 180 ヨーロッパの日本作家
Japanese Artists in Europe
- 181 平櫛田中展
The Retrospective Exhibition of Denchu Hirakushi

昭和48年度 [1973]

- 182 現代ユーゴスラヴィア美術展
Contemporary Yugoslav Art
- 183 戦後日本美術の展開—抽象表現の多様化
Development of Postwar Japanese Art: Abstract and Non-Figurative
- 184 新収蔵作品の展示
同時陳列 東京国立博物館より移管の日本画
New Acquisition 1972
Japanese-Style Paintings Transferred from the Tokyo National Museum
- 185 近代日本美術史におけるパリと日本
Modern Japanese Art and Paris
- 186 ジャコモ・マンズー展
Exhibition of Giacomo Manzu
- 187 アメリカの日本作家
Japanese Artists in the Americas
- 188 近代作家の回顧—新海竹蔵・福田豊四郎
Modern Japanese Artists in Retrospect: Takezo Shinkai, Toyoshiro Fukuda

昭和49年度 [1974]

- 189 アンドリュー・ワイエス展
Works of Andrew Wyeth
- 190 徳岡神泉遺作展
Posthumous Exhibition of Shinsen Tokuoka
- 191 15人の写真家
Fifteen Photographers Today
- 192 現代メキシコ美術展
Contemporary Mexican Art
- 193 第9回東京国際版画ビエンナーレ展
The 9th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 194 近代日本の美術
Modern Japanese Art
- 195 福田平八郎遺作展
Posthumous Exhibition of Heihachiro Fukuda

昭和50年度 [1975]

- 196 ポール・デルボー展
Paul Delvaux
- 197 前田青邨展
The Retrospective Exhibition of Seison Maeda
- 198 香月泰男遺作展
Posthumous Exhibition of Yasuo Kazuki
- 199 新収蔵作品の展示
同時陳列 ソ連寄贈・福田平八郎作品展
New Acquisition 1973 and 1974
Exhibition of Works by Heihachiro Fukuda: Donation from the U. S. S. R.
- 200 シュルレアリスム展
Surrealism
- 201 フランス工芸の美—15世紀から18世紀のタピスリー
同時陳列 ジョセフ・アルパースの形成・連接
Merveilles de la Tapisserie Française
Josef Albers: Formulation, Articulation
- 202 ドイツ・リアリズム 1919—1933
Realistische Tendenzen Deutscher Kunst 1919-1933 Eine Ausstellung aus
Museen der DDR

昭和51年度 [1976]

- 203 ルフィーノ・タマヨ展
Exhibition Rufino Tamayo
- 204 安田鞞彦展
The Retrospective Exhibition of Yukihiko Yasuda
- 205 恩地孝四郎と「月映」
Koshiro Onchi and "Tsukuhae"
- 206 シャガール展
Exposition Mark Chagall
- 207 キュービズム展
Cubism
- 208 第10回東京国際版画ビエンナーレ展
The 10th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 209 今日の造形〈織〉—ヨーロッパと日本
Fiber Works: Europe and Japan
- 210 新収蔵作品の展示
New Acquisition 1975

昭和52年度 [1977]

- 211 浜田庄司展
The Retrospective Exhibition of Shoji Hamada
- 212 素朴な画家たち
Peintres Naifs
- 213 新収蔵作品の展示
New Acquisition 1975
- 214 フォンタネージ、ラグーザと明治前期の美術
Fontanesi, Ragusa e l'arte Giapponese nel primo periodo Meiji

- 215 **I1** 工芸館開館記念展 現代日本工芸の秀作
Masterpieces of Contemporary Japanese Crafts: Commemorative Exhibition for Opening of the Crafts Gallery
- 216 今日の造形〈織〉—アメリカと日本
Fiber Works: Americas and Japan
- 217 フリードリッヒとその周辺
Casper David Friedrich und Sein Kreis

昭和53年度 [1978]

- 218 マリノ・マリーニ展
Exhibition Marino Marini
- 219 斎藤義重展
SAITO Yoshishige Exhibition 1978
- 220 **I2** 松田権六展
Gonroku Matsuda Exhibition
- 221 佐伯祐三展
50th Year Posthumous Exhibition Yuzo Saeki
- 222 世界現代工芸展 スカンディナヴィアの工芸
World Contemporary Crafts Exhibition: Scandinavian Craft
- 223 ヨーロッパのポスター—その源流から現代まで
L’Affiche en Occident de ses origines a nos jours
- 224 **I3** 近代日本の色絵磁器
Enamelled Porcelain of Modern Japan
- 225 新収蔵美術作品の展示—昭和52年度
New Acquisition 1977

昭和54年度 [1979]

- 226 没後50年記念 岸田劉生展
50th Year Posthumous Exhibition Ryusei Kishida
- 227 第11回東京国際版画ビエンナーレ展
The 11th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 228 **I4** 昭和52, 53年度収蔵工芸作品の展示
New Acquisition 1977 and 1978 (Craft)
- 229 **I5** 近代日本の漆芸
Lacquer Art of Modern Japan
- 230 トローネー展 ロベールとソニア
Robert / Sonia Delaunay
- 231 ブリジット・ライリー展—視覚の眩惑
Bridget Riley: Works 1959-78

昭和55年度 [1980]

- 232 新収蔵美術作品の展示—昭和53, 54年度
New Acquisition 1978 and 1979
- 233 山口長男・堀内正和展—日本の抽象美術のバイオニア
Exhibition YAMAGUCHI Takeo & HORIUCHI Masakazu
- 234 **I6** 伝統と現代 日本の型染
KATAZOME Japanese stencil and print dyeing: Tradition and Today
- 235 ポンピドゥ・センター—20世紀の美術
Le Musée National d’Art Moderne Centre Georges Pompidou/ L’Art du 20e Siècle

	236	Ⅰ7 現代ガラスの美—ヨーロッパと日本 Contemporary Glass: Europe and Japan
昭和56年度 [1981]	237	マチス展 Matisse Exhibition
	238	Ⅰ8 石黒宗麿展—陶芸の心とわざ Munemaro Ishiguro Exhibition
	239	Ⅰ9 八木一夫展—火と土のメッセージ The Ceramic Artist Kazuo Yagi
	240	20世紀カナダ絵画展 20th Century Canadian Painting
	241	東山魁夷展 Kaii Higashiyama Exhibition
	242	ムンク展—生の不安 愛と死 Munch Exhibition
	243	Ⅰ10 現代ガラスの美—オーストラリア、カナダ、アメリカと日本 Contemporary Glass: Australia, Canada, U. S. A. & Japan
	244	1960年代—現代美術の転換期 The 1960's: Decade of Change in Contemporary Japanese Art
	245	Ⅰ11 現代の食器—注ぐ Contemporary Vessels: How to pour
	246	坂本繁二郎展 Hanjiro Sakamoto Exhibition
	昭和57年度 [1982]	247
248		Ⅰ12 開館30周年記念展 近代日本の工芸 The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Crafts
249		アメリカに学んだ日本の画家たち展 —国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・シーン絵画 Japanese Artists Who Studied in U. S. A. and The American Scene
250		開館30周年記念展Ⅱ 近代日本の美術—1945年以前 The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 2 [1900-1945]
251		Ⅰ13 近代日本のガラス工芸—明治初期から現代まで Modern Japanese Glass: Early Meiji to Present
252		ベルギー象徴派展 Symbolism in Belgium
253		Ⅰ14 イギリスのニードルワーク British Needlework
254		Ⅰ15 黒田辰秋展—木工芸の匠 KURODA Tatsuaki: Master Wood Craftsman

昭和58年度 [1983]

- 255 ピカソ展
Picasso
- 256 フランシス・ベーコン
Francis Bacon: Paintings 1945-1982
- 257 **I16** 伝統工芸30年の歩み
30 Years of Modern Japanese Traditional Crafts
- 258 現代美術における写真—1970年代の美術を中心として
Photography in Contemporary Art
- 259 **I17** モダニズムの工芸家たち—金工を中心にして
Modernism and Craftsmen The 1920's to the 1930's
- 260 20世紀アメリカのポスター—ニューヨーク近代美術館所蔵による
The modern American Poster
- 261 村上華岳展
Kagaku Murakami Exhibition

昭和59年度 [1984]

- 262 ティッセン・コレクション名作展—近代絵画の展開
Modern Masters From The Thyssen-Bornemisza Collection
- 263 三次元性—ドイツ彫刻の現在
Dreidimensional: Aktuelle Kunst aus der Bundesrepublik Deutschland
- 264 **I18** 河井寛次郎—近代陶芸の巨星
Kanjiro Kawai
- 265 構成主義と幾何学的抽象
Constructivism and the Geometric Tradition
- 266 **I19** 今日のジュエリー—世界の動向
Contemporary Jewelry: The Americas, Australia, Europe and Japan
- 267 現代美術への視点—メタファーとシンボル
Metaphor and / or Symbol: A Perspective on Contemporary Art
- 268 新収蔵作品展—昭和58, 59年度
New Acquisition 1983 and 1984
- 269 **I20** 竹の工芸—近代における展開
Modern Bamboo Craft
- 270 棟方志功展
Shiko Munakata

昭和60年度 [1985]

- 271 **I21** 現代染織の美—森口華弘・宗廣力三・志村ふくみ
Kimono as Art: Modern Textile Works by Kako Moriguchi, Rikizo Munehiro,
and Fukumi Shimura
- 272 モディリアーニ展
Modigliani
- 273 写実の系譜 I—洋風表現の導入—江戸中期から明治初期まで
Development of Western Realism in Japan
- 274 現代デザインの展望—ポストモダンの地平から
Contemporary Landscape, From the Horizon of Postmodern Design
- 275 プロイセン文化財団ヘルリン国立美術館所蔵—19世紀ドイツ絵画名作展
Meisterwerke deutscher Malerei des 19. Jahrhunderts aus der Nationalgalerie
Berlin: Staatliche Museen Stiftung Preußischer Kulturbesitz

	276	Ⅱ22 人形工芸 昭和期を中心にして Modern Japanese Dolls
昭和61年度 [1986]	277	松本竣介展 Shunsuke Matsumoto Exhibition 1986
	278	所蔵作品による全館陳列—近代日本の美術 Modern Japanese Art from the Museum Collection
	279	近代の見なおし ポストモダンの建築1960—1986 Revision der Moderne: Postmoderne Architektur 1960-1986
	280	写実の系譜 II—大正期の細密描写 An Eye for Minute Details: Realistic Painting in the Taisho Period
	281	京都の日本画1910—1903 Nihon-ga the Kyoto School 1910-1930
	282	Ⅱ23 1960年代の工芸—昂揚する新しい造形 Forms in Aggression: Formative Uprising of the 1960s
	283	昭和60, 61年度 新収蔵作品展 New Acquisitions 1985 and 1986
	284	ゴーギャン展—楽園を求めて Paul Gauguin: In Search of Paradise
	昭和62年度 [1987]	285
286		Ⅱ24 木工芸—明治から現代まで Modern Woodcraft
287		杉山 寧展 Yasushi Sugiyama
288		Ⅱ25 現代陶芸の美 加守田章二展 KAMODA Shoji: A Prominent Figure in Contemporary Ceramics
289		若林奮展—今日の作家 Isamu Wakabayashi
290		難波田龍起展—今日の作家 Tatsuoki Nambata
291		ブリュッセル王立歴史博物館所蔵—ヨーロッパのレース Dentelles Européennes
292		梅原龍三郎遺作展 Ryuzaburo Umehara Retrospective
昭和63年度 [1988]		293
	294	所蔵作品による全館陳列—近代美術における人間像 The Image of Man in Modern Japanese Art from the Museum Collection
	295	Ⅱ26 図案の変貌 Design in Transition
	296	写実の系譜 III—明治中期の洋画 Realistic Representation III: Painting in Japan 1884-1907

	297	Ⅰ27 現代イギリスの工芸 Contemporary British Crafts
	298	オティロン・ルドン展 Odilon Redon
平成元年度 [1989]	299	高山辰雄展 Tatsuo Takayama
	300	所蔵作品による全館陳列—昭和の美術 Art of the Showa Period: From the Museum Collection
	301	Ⅰ28 生命のかたち—熊倉順吉の陶芸 Organs that Provoke: Ceramic Works of Junkichi Kumakura
	302	現代美術への視点—色彩とモノクローム A Perspective on Contemporary Art: Color and/or Monochrome
	303	Ⅰ29 能弁なオブジェ—現代アメリカ工芸の展開 The Eloquent Object: The Evolution of American Art in Craft Media since 1945
平成2年度 [1990]	304	Ⅰ30 ヴァン・ド・ヴェルド展 Van de Velde Exhibition
	305	文展の名作[1907—1918] Masterpieces from the Bunten Exhibition 1907-1918
	306	手塚治虫展 Osamu Tezuka Exhibition
	307	写真の過去と現在 The Past and the Present of Photography
	308	Ⅰ31 グラフィックデザインの今日 Graphic Design Today
	309	移行するイメージ 1980年代の映像表現 Images in Transition: Photographic Representation in the Eighties
平成3年度 [1991]	310	Ⅰ32 富本憲吉展 TOMIMOTO Kenkichi
	311	荒川修作の実験展—見る者がつくられる場 Constructing the Perceiver — ARAKAWA: Experimental Works
	312	Ⅰ33 大英博物館所蔵品による アフリカの染織 African Textiles
	313	古賀春江—創作のプロセス 東京国立近代美術館所蔵作品を中心に Harue Koga — The Creative Process: A Show Built Around the Museum Collection
	314	イサム・ノグチ展 Isamu Noguchi Retrospective 1992
平成4年度 [1992]	315	ルネ・ラリック展 René Lalique
	316	現代美術への視点—形象のはざまに A Perspective on Contemporary Art: Among the Figures

	317	アボジニの美術 伝承と創造／オーストラリア大地の夢 Crossroads Toward A New Reality: Aboriginal Art from Australia
	318	セバスチャン・サルガド—人間の大地 Sebastião Salgado: In Human Effort
	319	Ⅲ34 塗りの系譜 Nuances in Lacquer: 70 Years of Innovations
	320	フォーヴィズムと日本近代洋画 Fauvism and Modern Japanese Painting
平成5年度 [1993]	321	小川芋銭展 OGAWA Usen Retrospective
	322	柳原義達展 Yoshitatsu Yanaguihara: A Retrospective
	323	Ⅲ35 現代の陶芸 (I) 山陰の陶窯—出西窯 Contemporary Japanese Ceramic Shussai Kiln: Folk Craft in San'in Area
	324	国画創作協会回顧展 Kokuga-Sosaku-Kyokai Retrospective
	325	黒田アキ 廻廊＝メタモルフォフォーゼ Aki Kuroda: Corridor=Metamorphosis
	326	Ⅲ36 現代の型染—くりかえすパターン Contemporary Stencil Dyeing and Printing: The Repetition of Patterns
	327	山本丘人展 YAMAMOTO Kyujin Retrospective
平成6年度 [1994]	328	木村忠太展 Chuta Kimura
	329	Ⅲ37 イスラエルの工芸—アリックス・ド・ロスチャイルド財団のコレクションを中心にして— Israeli Contemporary Crafts —Featuring the Collection of the Alix de Rothschild Foundation—
	330	写実の系譜 IV—「絵画」の成熟 1930年代の日本画と洋画 Realistic Representation IV: Master Paintings in Japan in the 1930s
	331	Ⅲ38 素材の領分—素材を見直しはじめた美術・工芸・デザイン The Domain of the Medium: New Approaches to the Medium in Art, Craft, Design
	332	日本の美—伝統と近代 The Traditional Beauty in Japanese Art
	333	Ⅲ39 現代の彫漆 Choshitsu [Carved Lacquer] Today
	334	若林奮展—素描という出来事 Isamu Wakabayashi: Works on Paper
	335	メトロポリタン美術館所蔵 抽象表現主義—紙の上の冒険 同時開催 国内所蔵 アメリカ抽象表現主義の名作展 Abstract Expressionism: Works on Paper, Selections from The Metropolitan Museum of Art Abstract Expressionism: Masterpieces from Japanese Collections

	336	I40 〈珠玉の陶芸〉板谷波山展 ITAYA Hazan Retrospective
平成7年度 [1995]	337	東京国立近代美術館と写真 1953-1995 Photography and The National Museum of Modern Art, Tokyo 1953-1995
	338	I41 コンテンポラリー・ジュエリー ―日本の作家30人による― Contemporary Jewelry: Exploration by thirty Japanese artists
	339	I42 アール・デコのポスター Art Déco Posters
	340	辰野登恵子 1986-1995 Toeko Tatsuno 1986-1995
	341	I43 生活の中の工芸―1950-1960年代のモダン・クラフト Crafts in Everyday Life in the 1950s and the 1960s
	342	現代美術への視点 絵画、唯一なるもの A Perspective on Contemporary Art: Painting — Singular Object
	343	ドナウの夢と追憶：ハンガリーの建築と応用美術 1896-1916 Panorama: Architecture and Applied Arts in Hungary 1896-1916
	344	I44 現代世界のポスター 東京国立近代美術館所蔵品より Contemporary Posters from Museum's Collection
	345	石元泰博展 現在の記憶 Yasuhiro Ishimoto: Remembrance of Things Present
	346	身体と表現 1920-1980 ポンピドゥーセンター所蔵作品から La Dimension du Corps 1920-1980
平成8年度 [1996]	347	岸田劉生 所蔵作品と資料の展示 同時開催 平成5-7年度新収蔵作品展 KISHIDA Ryusei: Works and Archives from the Museum Collection New Acquisition 1993-1995
	348	東京国立近代美術館・国立西洋美術館 所蔵作品による 交差するまなざし―ヨーロッパと近代日本の美術 The Crossing Visions: European and Modern Japanese Art from the Collections of The National Museum of Western Art & The National Museum of Modern Art, Tokyo
	349	I45 亀倉雄策のポスター 時代から時代へ 1953年-1996年の軌跡 Yusaku Kamekura Poster Exhibition
	350	I46 磁器の表現 1990年代の展開 New Expression in Porcelain: Developments in the 1990s
	351	90年代の韓国美術から―等身大の物語 An Aspect of Korean Art in the 1990s
	352	東松照明写真展 インターフェイス Shomei Tomatsu: Interface
	353	プロジェクト・フォー・サバイバル 1970年以降の現代美術再訪 Project for Survival
	354	理知と幻想のシュルレアリスト 北脇昇展 Noboru Kitawaki: A Retrospective
	355	I47 藤井達吉展―近代工芸の先駆者 Tatsukichi Fujii: A Pioneer in Modern Crafts

	356	モダニズムの光跡 恩地孝四郎・椎原治・瑛九 Traces of Light in Modernism: Koshiro Onchi, Osamu Shiihara and Ei-kyu
	357	絵画の大地を揺り動かした画家 萬鐵五郎展 YOROZU Tetsugoro Retrospective
平成9年度 [1997]	358	モダン・デザインの父 ウィリアム・モリス展 William Morris
	359	Ⅰ48 福田繁雄のポスター—視覚の遊気 Posters of FUKUDA Sigeo: An Artist of Visual Wit
	360	アルフレッド・スティーグリッツと野島康三 Alfred Stieglitz and Yasuzo Nojima
	361	土田麦僊展 TSUCHIDA Bakusen: A Retrospective
	362	Ⅰ49 増村増城展—漆の美・塗の造形 MASUMURA Mashiki: Intrinsic and Formal Beauty of Lacquer
	363	村岡三郎展 Saburo Muraoka
	364	Ⅰ50 トーネ・ヴィーゲラン展—ノルウェーの現代アート・ジュエリー— Tone Vigeland: Norwegian Art Jewelry
	365	文人画の近代—鉄斎とその師友たち— Destination of the Literary School Painting in Modern Ages: Tessai and Teachers and Friends
	366	写真の現在—距離の不在 Photography Today: The Absence of Distance
	367	加山又造展 Matazo Kayama Exhibition
平成10年度 [1998]	368	Ⅰ51 竹内碧外展 木工芸・わざと風雅 Elegance of Woodwork: Art of TAKEUCHI Hekigai
	369	20世紀の“線描”—〈生成〉と〈差異〉 Making It Visible — Graphic Elements in 20th Century Art
	370	Ⅰ52 永井一正ポスター展—Life Posters of Kazumasa Nagai [life]
	371	土谷武展 しなやかな造形, 生成するかたち Takeshi Tsuchitani: A Retrospective
	372	Ⅰ53 「かたち」の領分—機能美とその転生 The Domain of the Form — Functional Beauty and its Transmigration
	373	京都の工芸 [1910 -1940] 伝統と変革のはざまに Crafts Reforming In Kyoto[1910-1940] A Struggle Between Tradition AND Renovation
	374	大辻清司写真実験室 Kiyoji Ohtsuji Retrospective: Experimental Workshop of Photography
	375	Ⅰ54 鈴木治の陶芸—詩情のオブジェ Ceramic Art of SUZUKI Osamu: Poetry in Ceramic Works
	376	鑄木清方展—回想の江戸・明治 郷愁のロマン KABURAGI Kiyokata: A Retrospective

平成11年度 [1999]

- 377 **I55** 本野東一の染色
MOTONO TOICHI: A Retrospective
- 378 横山操展
Misao Yokoyama: A Retrospective
- 379 **I56** 田中一光ポスター展—伝統への接点
Beyond Tradition: An Exhibition of IKKO TANAKA's Posters
- 380 **I57** 加藤土師萌の陶芸：近代陶芸の精華
Hajime Kato: The Quintessence of Modern Japanese Ceramic Art
- 381 石内都 モノクローム—時の器
Miyako Ishiuchi: Time Textured in Monochrome
- 382 顔—絵画を突き動かすもの(於 国立西洋美術館)
VISAGE: Painting and the Human Face in 20th Century Art

平成12年度 [2000]

- 383 **I58** 杉浦非水展 都市生活のデザイナー
SUGIURA HISUI: A Retrospective
- 384 **I59** うつわをみる—暮らしに息づく工芸—
Thoughts on Contemporary Vessels
- 385 トーマス・シュトゥルツト：マイ・ポートレート
Thomas Struth: My Portraits
- 386 **I60** ドイツ陶芸の100年—アール・ヌーヴォーから現代作家まで—
German Ceramics in 20th Century
- 387 美術館を読み解く—表慶館と現代の美術(於 東京国立博物館 表慶館)
Reading the Art Museum: Hyokeikan and Art of Today

平成13年度 [2001]

- 388 **I61** 1930年代日本の印刷デザイン—大衆社会における伝達
Japanese Posters and tsHandbills in the 1930s: Communication in Mass Society
- 389 **I62** 現代の布—染と織の造形思考—
Contemporary Textile —Weaving and Dyeing: Ways of Formative Thinking
- 390 **I63** 京都の工芸[1945-2000]
Crafts in Kyoto: 1945 - 2000
- 391 未完の世紀20世紀美術かのこすもの
The Unfinished Century: Legacies of 20th Century Art
- 392 カンディンスキー展
Kandinsky

平成14年度 [2002]

- 393 写真の現在2 サイト—場所と光景
Photography Today 2— [sáit] site/sight
- 394 **I64** 森正洋—陶磁器デザインの革新—
Masahiro Mori: A Reformer of Ceramic Design
- 395 小倉遊亀展
Yuki Ogura: A Retrospective
- 396 **I65** 昭和の桃山復興展
Modern Revival of Momoyama Ceramics: Turning Point Toward Modernization of Ceramics

- 397 現代美術への視点 連続と侵犯
A Perspective on Contemporary Art: Continuity/Transgression
- 398 ヴォルフガング・ライプ展
Wolfgang Laib
- 399 **I66** クッションから都市計画まで—ヘルマン・ムテジウスと
ドイツ工作連盟: ドイツ近代デザインの諸相 1900-1927
From Cushion to Urban-Planning Hermann Muthesius and the German
Werkbund: Modern Design in Germany 1900-1927
- 400 青木繁と近代日本のロマンティズム
Shigeru AOKI and Romanticism in Modern Japanese Art
- 401 **I67** 今日の人形芸術 想念の造形
Contemporary Dolls: Formative Art of the Human Sentiment

1-3 平成15年度企画展覧会一覧表 Table of Exhibitions, 2003

回数	展覧会名				備考
	会期	延日数	入場者数	一日平均	
400	「青木繁と近代日本のロマンティズム」展				共催展
	15.3.25-5.11 (うち平成15年度37日間)	43日	56,713人 (うち平成15年度52,713人)	1,319人	
401	「今日の人形芸術 想念の造形」展				共催展
(工67)	15.3.28-5.18 (うち平成15年度43日間)	46日	22,379人 (うち平成15年度21,134人)	487人	
402	牛腸茂雄展				特集展示
	15.5.24-7.21	51日	15,082人	296人	
403	「オーストラリア現代工芸3人展 未知のかたちを求めて」				企画展
(工68)	15.5.27-6.29	30日	3,463人	115人	
404	「地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画」				企画展
	15.6.3-7.21	43日	10,621人	247人	
405	「三代藍堂 宮田宏平—金属造形の先駆け」展				企画展
(工69)	15.7.8-9.7	54日	8,170人	151人	
406	「野見山暁治」展				企画展
	15.8.12-10.5	48日	30,884人	643人	
407	「現代の木工家具」展				企画展
(工70)	15.9.20-11.30	62日	16,935人	273人	
408	「旅—『ここではない、か』を生きるための10のレッスン」				企画展
	15.10.28-12.21	48日	18,624人	388人	
409	「あかり: イサム・ノグチが作った光の彫刻」				特集展示
(工71)	15.10.28-12.21	48日	29,406人	613人	
410	「ヨハネス・イッテン—造形芸術への道」展				企画展
	16.1.14-2.29	41日	16,777人	409人	
411	「国吉康雄」展				共催展
	16.3.23-5.16 (うち平成15年度9日間)	50日間	3,841人	427人	

会 期
平成15年5月24日～7月21日(51日間)
会 場
本館ギャラリー4
入 場 者
15,082人(一日平均296人)
主 催
東京国立近代美術館
雑誌・新聞関連記事

現代の眼(東京国立近代美術館) 第539号(2003年4-5月)「牛腸茂雄の眼差しに潜むもの」(佐藤真)

現代の眼(東京国立近代美術館) 第539号(2003年4-5月)「写真のスタンダード—「牛腸茂雄」という記憶」(柳本尚規)

日本カメラ 2003年6月号「再評価の理由」(鳥原学)

新潟日報 2003年6月6日「何げないショットに余韻 牛腸茂雄(加茂出身)の作品展」(藤島俊会)

毎日新聞 2003年6月11日「写真家・故牛腸茂雄さんの草稿や手紙などコラージュ 作品を見つめ直す映画上映」(高尾具成)

pen No.108 2003年6月15日「写真からあふれ出る、儂くも脆い存在への共感。」(飯沢耕太郎)

朝日新聞(夕刊) 2003年7月8日「『見つめられている』私たち」(大西若人)

ブレーン 2003年8月号「『自己と他者との出会い』を追求した写真」(上原裕子)

ミュージック・マガジン 2003年8月号「一見やさしげな写真の奥にある痛烈なまなざし」(鳥原学)

402 「牛腸茂雄」展

1960年代末から1970年代初頭の「コンポラ写真」の代表的な存在として語られることの多い写真家牛腸茂雄(1946-1983)の回顧展。代表作〈SELF AND OTHERS〉(1977)を中心に、彼が残した三冊の写真集およびインクプロット作品等によって構成し、日常的な光景に淡々とした視線を向けた「コンポラ写真」という現象について再考するとともに、そうした時代の潮流の枠を越えた牛腸の作品世界の深みと魅力を紹介することを目指した。

展示は〈日々〉(18点)、〈SELF AND OTHERS〉(60点)の二つのシリーズについてはオリジナル・プリント、〈見慣れた街の中で〉(47画像)については液晶プロジェクターによる投映により紹介した。またインクプロット作品〈扉をあけると〉、マーブリング作品〈水の記憶〉(各4点)を展示した。

没後20年を経ても静かな関心を集め続ける牛腸だが、これまでその仕事がまとまって紹介されたことはなく、今回は比較的小規模なものとはいえ初の本格的な回顧展として、その関心の高まりに応える機会となった。二度開催したギャラリートークにはそれぞれ約80人の参加者があるなど、牛腸に対する関心の高さがうかがわれた。

Shigeo Gocho—A Retrospective

The works of Shigeo Gocho (1946-1983), a leading photographer of the *Kompura Shashin* movement in the late 1960s to the early 1970s, were highlighted in this retrospective. Through the works from three photographic books published during his lifetime, including the most famous *Self and Others* (1977), and other paper works, the exhibition introduced the depth and allure of Gocho's artistic world, which transcends the framework of his times, while taking a new look at *Kompura Shashin*, which captures everyday scenes as they occur.

The retrospective consisted of the original prints of 18 photographs featured in *Days* and 60 in *Self and Others*, plus showings of 47 images from *Familiar Street Scenes* using a liquid crystal projector. Also exhibited were four inkblot works entitled *Spiritual Travels* and four marbling works entitled *Memories of Water*.

The exhibition represents the first-ever retrospective of Shigeo Gocho. Although small in scale, it offered an opportunity to respond to the quiet interest that the artist still commands 20 years after his death. Two gallery talks held in conjunction with the exhibition attracted an audience of 80 persons each, indicating the extent of interest that Gocho still attracts today.



会 期
平成15年5月27日~6月29日(30日間)
会 場
工芸館
入 場 者
3,463人(一日平均115人)
主 催
東京国立近代美術館、 京都国立近代美術館、 アジアリンク
企画 協力
ジャムファクトリー・コンテンポラリー・ クラフト・アンド・デザイン
協 賛
豪日交流基金、 オーストラリア・カウンスル
雑誌・新聞関連記事

『陶説』第605号(2003年8月)「オーストラリア現代工芸3人展:未知のかたちを求めて」(外館和子)

403(工68)「オーストラリア現代工芸3人展:未知のかたちを求めて」

現在オーストラリアで活躍する3人の女性工芸家、ロビン・ベスト(磁器)、スー・ロレイン(金工)、キャサリン・トルーマン(木工)によるオブジェの新作展。3人は磁器、金属、木と、それぞれ異なる素材を用いているが、黒を基調としたすっきりと洗練された形が特色となっている。

解剖学や科学的な現象に深い関心を抱き、サンゴや海綿などといった海の生物、あるいは心臓や筋肉などといった身体の器官など、有機的なモチーフを題材として制作を行い、工芸の未知のかたちを暗示する作品群を生み出している。

日本にはなじみの薄いオーストラリアの現代の工芸家の作品を紹介し、日本の工芸界と類似する問題意識を認識することができた。3作家27点。

Light Black: Three Contemporary Australian Craftspersons

Light Black spotlighted the recent works of three Australian craftspersons: Robin Best (porcelain), Sue Lorraine (metalwork) and Catherine Truman (wood carvings). While made of different materials, the 27 objects exhibited were all characterized by clean lines and refined shapes, with black as the basic color. Each of the three artists has a strong interest in exploring scientific and anatomical phenomena. Attuned to organic themes such as corals, sponges and other marine organisms and the heart, muscles and other organs of the body, their works hint at an as yet unknown future of craft.

The exhibition illuminated some issues shared by both Australian and Japanese craftspersons and offered an opportunity to introduce the Japanese audience to contemporary Australian craft, which is not widely known in this country.



会 期
平成15年6月3日~7月21日 (43日間)
会 場
本館企画展示室
入 場 者
10,621人(一日平均247人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) 第538号(2003年2-3月)「地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画」(大谷省吾)
現代の眼(東京国立近代美術館) 第540号(2003年6-7月)「昭和10年代の古代憧憬」(小林俊介)
現代の眼(東京国立近代美術館) 第540号(2003年6-7月)「昭和戦前期の浪漫主義的絵画について」(土方明司)
信濃毎日新聞(夕刊) 2003年6月10日「矢崎博信の絵」(藤森照信)
Financial Times 2003年6月16日「THE CRITICS. Japanese surrealists」(Linda Inoki)
長野日報 2003年6月23日「『高原の幻想』を見て考えたこと 東京国立近代美術館の『地平線の夢』展にふれて」(石川翠)
朝日新聞(夕刊) 2003年6月26日「『地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画』展 浪漫」で読み直す絵画史」(北澤憲昭)
産経新聞 2003年6月28日「『地平線の夢 昭和10年代の幻想絵画』若い芸術家たちの心象風景」(生田誠)
読売新聞(夕刊) 2003年7月5日「芥川記者の展覧会へ行こう 地平線のかなたに理想」(芥川喜好)
東京新聞 2003年7月5日「渾然となった希望と抑鬱感を表現 地平線の夢-昭和10年代の幻想絵画」(中村隆夫)
山形新聞 2003年7月14日「米沢市出身・浜田浜雄の作品 国立近代美術館『地平線の夢 昭和10年代の幻想絵画』展から」(石川翠)
読売新聞(夕刊) 2003年7月15日「『地平線の夢』展 今ここでないどこか昭和10年代の幻想」(前田恭二)
京都新聞 2003年7月26日「作品本位の展覧会『地平線の夢』を見て」(小林昌廣)
芸術新潮 2003年9月号「極東のさびしいダリたち」
群像 2003年10月号「時代の『病芯』・負の強度(Review Art)」(谷川渥)

404 「地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画」

わが国で昭和10年代にさかんに描かれた幻想絵画は、これまでシュルレアリスムの模倣と見なされてきたが、本展はこれらの作品について、別の角度から光を当て、再評価しようとして企画された。具体的には、これらの幻想的な作品の多くに共通して描かれている“地平線”に着目して、それが閉塞した時代の中で理想を求める画家たちの“彼方への憧憬”を象徴するものと解釈することで、広義の浪漫主義的な作品と読み直すことを提唱した。あわせて、当時とある意味で似通った閉塞感の漂う現代において、これら当時の、閉塞感を破ろうとした画家たちの求めたものを、改めて考えてみることを提案した。

展覧会は4つの章、すなわち① 物語る絵画 ② 古代への憧憬 ③ 大陸の蜃気楼 ④ 画学生たちの心象風景」によって構成され、26人の洋画家による79点の作品が展示された。

Dreams of the Horizon: Fantastic Paintings in Japan, 1935–1945

Fantastic paintings that flourished in Japan in the 1930s and 40s are usually seen as imitations of surrealist art. *Dreams of the Horizon* was organized to present these paintings from a new perspective. The exhibition proposed that the paintings could be viewed as examples of Romanticism, broadly defined, by interpreting the “horizon” portrayed in many of such paintings as a symbolic representation of the artist’s longing to escape from a stifling reality in search of an ideal world. The exhibition also proposed that, by taking a new look at these artists’ aspirations as they sought to break away from feelings of oppressiveness, some insights could be gained for the present, when somewhat similar feelings of oppressiveness hang in the air.

The exhibition, featuring 79 pieces by 26 artists, consisted of four parts: Narrative Paintings, Yearning Towards Antiquity, Mirage of the Continent and Images Entertained by Art Students.



会 期
平成15年7月8日～9月7日(54日間)
会 場
工芸館
入 場 者
8,170人(一日平均151人)
主 催
東京国立近代美術館、 新潟県立近代美術館
雑誌・新聞関連記事
宝石の四季 6月 「三代藍堂 宮田 宏平展」
毎日新聞 8月11日夕刊 「三代藍堂 宮田宏平展 現実を革新する伝統の 力」
読売新聞 8月13日夕刊 「美術博物 館情報 三代藍堂 宮田宏平展」
現代の眼540号 2003年6-7月号 「終りのない物語—水平線の彼方へ」 (松原龍一)
現代の眼540号 2003年6-7月号 「宮田藍堂さんのこと」(山根基世)

405(Ⅰ69) 「三代藍堂 宮田宏平展—金属造形の先駆け」

当館ではこれまで現在活躍する作家を単独でとりあげ紹介する機会が限られていた。本展覧会はそうした反省から企画開催された第一回目のもので、金属造形の分野で数々の独創的な作品を手がけてきた三代宮田藍堂(宏平)をとりあげた。

佐渡島に生まれた宮田は、家業の蠟型鋳金の技法を基礎から学んだ。東京美術学校卒業後は、日展、現代工芸美術展を中心に活動し、用を前提としない前衛的な作品で蠟型鋳造の技法を表現として読みかえ、戦後工芸のムーブメントをリードした。

展覧会では半世紀に及ぶその活動を、初期の《森の神様》から近年の《終りのない物語》までを含むオブジェ作品と、《美豆波乃女》などに代表されるジュエリー作品とに大きく2つに分けて展示した。会場では、時間軸にそって作品を展示し、時代ごとに変化していく作風を捉えることができる構成とした。蠟型鋳造を制作の基盤としながらも、それにとどまらず、アクリルや絹糸といったさまざまな素材を取り入れ、現在まで多彩な制作活動を行ってきた宮田の全貌を紹介する展覧会となった。

同時に開催した所蔵作品展では、本展に関連して、戦後に多様な広がりを示した金工作家の作品を特集した。

Rando Miyata III: A Retrospective

The exhibition traced the career of Rando (Kohei) Miyata III, a metalwork artist who has produced numerous works of striking originality and creativity. Prior to the exhibition, the Crafts Gallery had had limited opportunity to introduce currently active artists individually, and this retrospective constituted the first of a series of one-man exhibitions planned by the Gallery to correct this oversight.

Born into a family of lost-wax casters working on Sado Island, Miyata learned the basics of lost-wax casting at an early age. After graduating from the Tokyo Fine Arts School, he devoted himself to creative activity centering on works submitted to the Japan Fine Arts Exhibition and the Contemporary Arts and Crafts Exhibition. He reinterpreted the technique of lost-wax casting as a medium of creative expression, producing avant-garde works meant to be viewed rather than used and leading a new craft movement in the postwar era.

Works produced by Miyata over a period of half a century were grouped into two main categories: Three-dimensional objects ranging from his early *Forest Deity* to the recent *A Never Ending Story* and jewelry including the famous *Nymph*. The pieces were displayed chronologically to allow viewers to follow changes in his creative style over the years. The exhibition presented a comprehensive view of Rando Miyata, who has produced a wide variety of works focused primarily on lost-wax castings but also incorporating diverse other materials such as acrylic and silk.

Concurrent to this retrospective, an exhibition of metal works from the Crafts Gallery Collection was held to introduce other metalwork artists who have experimented in various directions in the postwar era.



会 期
平成15年8月12日~10月5日(48日間)
会 場
本館企画展示室
入 場 者
30,884人(一日平均643人)
共 催
日本経済新聞社
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) 第540号(2003年6-7月)「野見山暁治展」(都築千重子)
日本経済新聞 2003年6月1日「洋画家野見山暁治の手 自然に、奔放に動く 妻の死映す? 最新作(創作探訪)」(浜部貴司)
現代の眼(東京国立近代美術館) 第541号(2003年8-9月)「覚書き——野見山暁治展に寄せて」(牧野研一郎)/「ある日の先生」(土葛明広)
月刊ギャラリー 第220号(2003年8月1日)インタビュー「時代を見つめた画家の眼差し(新・作家への道標103)」(野見山暁治)
美術の窓 第22巻第9号(2003年8月20日)編集長対談(聞き手 一井建二)「うつろうかたち」(野見山暁治)
新美術新聞 No.1000(2003年8月21日 第1部)「野見山さんの絵のこと(野見山暁治展 うつろうかたち)」(窪島誠一郎)
日本経済新聞 (自作三選 うつろうかたち 上・中・下)「2003年8月25日「シャワーの女」、8月26日「口うるさい景色」、8月27日「ある日」(野見山暁治)」
西日本新聞 2003年8月30日「野見山暁治展 油彩中心、初期作から新作まで」(宇田懐)
公明新聞 2003年9月2日「野見山暁治展 質量ともに充実した回顧展」(宝木範義)
朝日新聞(夕刊) 2003年9月11日「野見山暁治展 頑固さが生む『脳内山水』」(田中三蔵)
産経新聞 2003年9月13日「野見山暁治展 折々の画家の『今』が作品に」(署名M)
現代の眼(東京国立近代美術館) 第543号(2003年12月-2004年1月)講演会報告「野見山暁治『自作を語る』(抄録)」(野見山暁治)

406 「野見山暁治」展

美術界の動きや様々な美術思潮の流行とは距離を置きながら、ひとり独自の道を歩んできた野見山暁治(1920-)の回顧展。油彩65点、素描20点(東京会場)を、戦前の初期作から渡欧まで(第1章)、滞欧時代から1980年まで(第2章)、1981年以降の近作(第3章)の3つの章に分けて構成した。

野見山暁治の絵画は、つねに身近な自然やモノから出発しながらも、対象の解体や変形、再構成を繰り返すなかから生成され、具体的な対象の痕跡はほとんどとどめられていないにもかかわらず、その存在の気配や重みが見る者の心を揺さぶってくる。こうした制作プロセスにおける変容と密接に結びついた野見山絵画の魅力を探るため、初期からの歩みを振り返りながらも、近作が約半分を占める近作重視の内容となった。

1階の企画展ギャラリーは、天井高等に変化があるため、本展では、順路を通常とは逆回りにして、大型の近作を天井の高い広々とした空間でゆとりを持って観覧できるようにし、照明にも細やかな調整を施すなど展示条件等でも最善を尽くした。大分市美術館、富山県立近代美術館、愛知県美術館へ巡回。

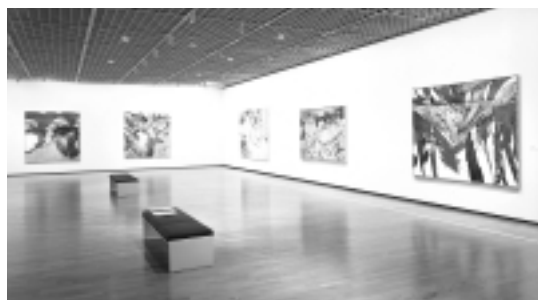
Gyoji Nomiya: A Retrospective

An individualist unconcerned with fads and trends in the art world, Gyoji Nomiya (born 1920) has always gone his own way. The retrospective featured 65 oil paintings and 20 drawings (Tokyo Exhibition) grouped in three chronological sections: The early stages of Nomiya's career up to his departure for Europe (Part I), his days in Europe and thereafter up to 1980 (Part II), and recent works dating from 1981 and beyond (Part III).

Starting out with elements of nature or objects found in everyday life, Nomiya repeatedly dismantles, deforms and reconstructs them to arrive at a composition in which the original forms of the objects depicted have been largely lost. Despite this, a sense of their existence and weightiness touches the heart of the viewer. To better explore the appeal of Nomiya's paintings, which is closely linked to the metamorphosis inherent in this creative process, the retrospective placed greater emphasis on his recent works, which comprised roughly half of the pieces shown.

The ceiling of the Special Exhibition Gallery on the first floor varies in height from section to section. To allow the artist's recent paintings, which tend to be large-scale works, to be displayed in the high-ceilinged roomiest section of the Gallery, visitors were guided through the Gallery in a direction opposite from the usual route. Fine adjustments were also made to the lighting to offer the best conditions for viewing the exhibits.

Following the showing in Tokyo, Gyoji Nomiya: A Retrospective traveled to the Oita Art Museum, the Museum of Modern Art, Toyama and the Aichi Prefectural Museum of Art.



会 期
平成15年9月20日~11月30日(62日間)
会 場
工芸館
入 場 者
16,935人(一日平均273人)
主 催
東京国立近代美術館
雑誌・新聞関連記事
Modern furniture exhibition/ The Japan Times Weekly, 9月6日 しんぶん赤旗 9月21日「現代の木工家具展」 Saori Kan:ARTS weekend “Knock on wood”/THE DAILY YOMIURI, 10月9日 新美術新聞 10月11日「工芸館の初企画—現代の木工家具展」(油井一人) 公明新聞 10月19日「特別展「現代の木工家具—スローライフの空間とデザイン」」 中目新聞 10月29日「創作家具へ関心高まる 木工作家・早川謙之輔」 読売新聞 11月8日夕刊「いぶにんぐスペシャル 木の魂にさわる快感」(芥川喜好) 朝日新聞 11月19日「現代の木工家具展「スロー」な魅力存分に」 文化庁月報 9月号イベント案内 特別展「現代の木工家具—スローライフの空間とデザイン」(諸山正則) チャーム銀座 10月号近代工芸の名作第7回 早川謙之輔 「クサビの椅子」 11月号編集部「現代の木工家具」を見る/室内 NIKKEI DESIGN 11月号「現代の木工家具—スローライフの空間とデザイン」伝統分野で始まった新たな造形表現 〈その他テレビ番組、インターネット等〉 柴田玲のSUPREME、TOKYO FM、10月23日 新日曜美術館「アートシーン」、NHK、11月2日 Fuji-tv ART NET:展覧会に行こう Japan Design Net: デザインイベントエース 美術館.com

407(エ70) 「現代の木工家具」展

木工作家による家具は、生活空間に最も親密でありかつ新鮮な、現代の造形分野として急速に発展してきている。生活空間やライフスタイルの個性化が見直されているなかで、日本に特徴的な木という素材や自然観、美しさへの従順な思考を個性的な表現へと結びつけた制作が明らかである。本展は木工家具を総合的に美術館でとりあげた初の企画展であり、今日の状況とそれらの特質を具体的に検証した本展では、家具作家の先駆として活躍してきた早川謙之輔をはじめ小島伸吾、谷進一郎、中村好文、高橋三太郎、村上富朗、徳永順男、富田文隆、須田賢司ら現代の木工作家9名をとりあげた。

家具という分野を主導的に開拓してきた彼らは、国内外の伝統を各々に基調とした創作や個の造形、デザインへの指向を発揮した創作をとおして個々の特質とオリジナリティを明らかにした。会場には、今日的な指標ともなっている作品70点—テーブル、椅棚・キャビネット、机、椅子等—を、作家ごとに特徴的な構成を図り、なかにも実際の生活空間の演出も取り込んだ。

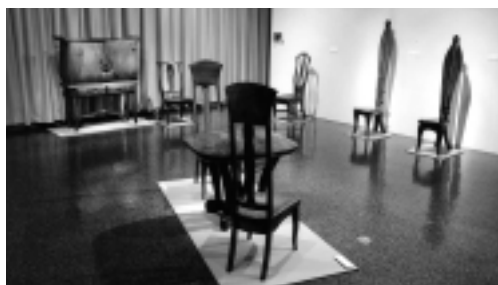
なお、2階ホールに各作家の椅子に座れるコーナーを設けて作品への理解を促し、休憩室にも当館が所蔵する黒田辰秋やジョージ・ナカシマ、剣持勇の椅子を設置した。

Contemporary Furniture and Woodworks in Japan

Original furniture designed and made by woodworkers is a rapidly-growing field today. Woodwork artists find furniture attractive for its novelty as a craft and its intimate connection with space in everyday life. Productions show clear evidence of original expression grounded in a fine appreciation of the textures and naturalness of wood combined with a simple adoration of things beautiful.

Contemporary Furniture and Woodworks in Japan, Japan's first art museum exhibition devoted to original furniture designed and made by woodworkers, introduced the works of nine woodwork artists who lead the field in furniture making: Kennosuke Hayakawa, Shingo Kojima, Shinichiro Tani, Yoshihumi Nakamura, Santaro Takahashi, Tomio Murakami, Toshio Tokunaga, Fumitaka Tomita and Kenji Suda. The nine exhibitors, who have actively developed this new field, demonstrate originality and creativity in their works, many of which follow Japanese or overseas furniture-making traditions, while many others give full play to creative design.

The exhibition featured 70 tables, shelves, cabinets, desks, chairs and other furniture pieces that now serve as contemporary standards. The pieces were displayed in different ways to suit the characteristics of the individual creators, including the recreation of actual living space. On the second floor, visitors had an opportunity to sit on chairs made by the artists. Chairs made by Tatsuaki Kuroda, George Nakashima and designed by Isamu Kenmochi from the Crafts Gallery Collection were also placed around the Gallery lounge.



会 期
平成15年10月28日～12月21日(48日間)
会 場
本館企画展示室
入 場 者
18,624人(一日平均388人)
助 成
モンドリアン財団
協 賛
コニカミノルタ
協 力
JAL、吉野石膏(株)
雑誌・新聞関連記事
Fuji TV Art-net (インターネットマガジン) 2003年10月「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」 ぴあ 2003年11月3日号「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン、ありそうでなさそうな10の旅路」(斎藤博美) The Herald Tribune 2003年11月21日 Traveler's Tales Themed show puts views on right path” (Edan Corkill) 美術遊覧 (インターネットマガジン) 2003年11月「旅ごころ」展」(白坂ゆり) 公明新聞 2003年12月2日「旅に託された希望」(藤田一人) 読売新聞 2003年12月10日「回顧・美術2003年」 Daily Yomiuri 2003年12月1日 “Embark on a journey of a different kind” (Robert Reed) 赤旗 2003年12月20日「ニューヨーク・東京二つの『旅』展」(武居利史) ヴァンテース 2003年12月号「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」(立川直樹) ART iT 2003年1号「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」(白坂ゆり) Invitation 2004年1月号「真実に到達するためのアーティストの終わらない旅」(市原研太郎) 美術手帖 2004年1月号「境界へ向かって、歩き出したその瞬間に旅ははじまる」(石川直樹)

408 「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」

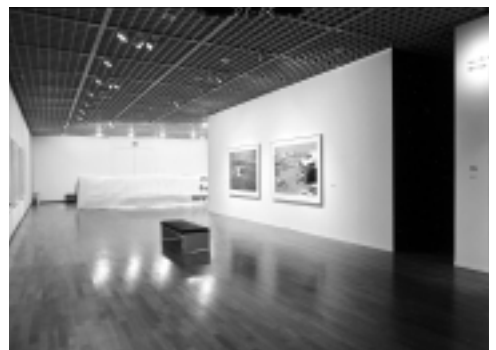
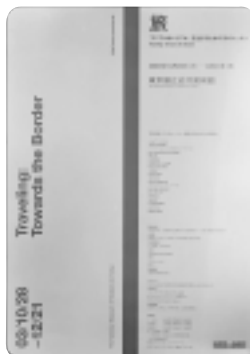
本展覧会は、旅という、誰もが感じる感情をかきたてられるテーマと、美術作品の、観るものの心をいながらにして「ここではないどこか」へと運び去る、旅にも似た性質を重ね合わせて示そうと試みたものである。「今ここ」に立ちながら、「ここではないどこか」への思いを抱えて生きることが、今日いかなる意味と可能性を持つのかを、美術作品を通して考える場を提供することを目指した。出品作家は国内外の10人(組)、ジョゼフ・コーネル、ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイス、雄川愛、大岩オスカル幸男、小野博、瀧口修造、エリック・ファン・リースハウト、ビル・ヴィオラ、渡辺剛、安井伸治である。出品作のジャンルは写真・映像・インスタレーション・絵画と多岐にわたり、また、制作年代も1941年から2003年までと60年余に及ぶものとなった。作品への親しみを深めてもらうため、チラシ、ポスター、カタログ、フロアガイドなどの印刷物にも工夫を凝らし、また、旅というテーマ自体により広がりを与えるよう、出品作家、外部講師及び企画者による全8回の講演会・ギャラリートークを行った。

Traveling—Towards the Border

The exhibition sought to link the idea of “travel,” which evokes certain feelings in nearly everyone, with that quality of art that has the effect of transporting viewers to a different place or state of mind. The aim was to provide a site where, through works of art, people can think about what it means today to live with a yearning to go to “somewhere other than here” while remaining in the “now, here” and what possibilities are raised through such thoughts.

The exhibition featured 10 domestic and overseas artists (artist teams): Joseph Cornell, Peter Fischli and David Weiss, Ai Ogawa, Oscar Satio Oiwa, Hiroshi Ono, Shuzo Takiguchi, Erik van Lieshout, Bill Viola, Go Watanabe and Nakaji Yasui. Diverse works ranging from photographs and video productions to installations and paintings(all produced during a 60-year timeframe from 1941 to 2003(were presented.

To deepen viewers' appreciation of the presentation, specially designed flyers, posters, catalogs, floor guides and other printed matter were produced, and a series of eight lectures and gallery talks by the exhibiting artists, outside lecturers and a curator were held.



会 期
平成15年10月28日～12月21日(48日間)
会 場
本館ギャラリー4
入 場 者
29,406人(一日平均613人)
主 催
東京国立近代美術館
協 力
イサム・ノグチ財団、 イサム・ノグチ日本財団、オゼキ
雑誌・新聞関連記事
The Asahi Shimbun, November 21, 2003 "Sculptor Noguchi's talent shines on through lamps" (Yumiko Watanabe)
The Daily Yomiuri, November 27, 2003 "Shedding light on Noguchi" (Robert Reed)
朝日新聞(夕刊) 2003年12月9日「ちようちんから光る『彫刻』へ」(西田 健作)
『NIKKEI DESIGN』第198号(2003年12月)「現代人が退化させた感性を取り戻すために」(小川 敦生)
『CONFORT』 第72号(2004年1月)「日本の伝統素材と技術を現代のプロダクトに昇華した偉人の記録」
『STORY』 第3巻第1号(2004年1月)「提灯と彫刻家の出会いが『光の彫刻』の傑作を生んだ」


409(エ71) 「あかり:イサム・ノグチが作った光の彫刻」

イサム・ノグチがデザインした照明器具「あかり」に焦点をしぼり「あかり」を多角的に紹介。200種類ほどある「あかり」の中から約50点を選んで出品した。照明を使った彫刻作品「ルナー彫刻」を制作していたイサム・ノグチが戦後来日し、建築家谷口吉郎やデザイナー剣持勇らとの交友を通じて日本の地場産業に目を向けるようになり、岐阜の提灯産業と出会ったことにより「あかり」が誕生する。このような「あかり」の誕生の背景を、写真資料等により紹介した。また、過去の「あかり」の展示の様子やイサム・ノグチのアトリエの様子を紹介するスライドショー、ビデオ映像等を上映することにより、「あかり」の年代的な変遷も紹介した。

Akari: Light Sculptures by Isamu Noguchi

Akari lamps designed by Isamu Noguchi were introduced in a variety of ways in this exhibition. Approximately 50 different Akari lamps were chosen for display out of a total selection of 200.

The birth of Akari was triggered by Noguchi's discovery of paper lantern-making in Gifu Prefecture, which occurred as result of his interest in supporting local industries in Japan. Such interest arose through his association with architect Yoshiro Taniguchi and designer Isamu Kenmochi just after the war, when Noguchi visited Japan after creating his Lunar sculptures, which also use illumination as an integral feature.

The process through which Akari was born was described through photographs and other materials. Slides and video recordings depicting scenes of past exhibitions of Akari lamps as well as scenes from Noguchi's atelier were shown to illustrate how Akari lamps have changed in form over the years.



会 期
平成16年1月14日～2月29日(41日間)
会 場
本館企画展示室
入 場 者
16,777人(一日平均409人)
共 催
京都国立近代美術館
後 援
スイス大使館
協 賛
アサヒビール芸術文化財団
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) 第543号(2003-2004年12-1月)「ヨハネス・イッテンの造形探求」(山野英嗣)
現代の眼(東京国立近代美術館) 第543号(2003-2004年12-1月)「生成の根源へーイッテンの造形世界」(向井周太郎)
ぴあ 2004年1月19日号「彼が目指した教育と芸術の創造世界」(斎藤博美)
The Asahi Shimbun(朝日新聞国際版) 2004年1月30日「Bauhaus innovator Itten still coloring our world」(Louis Templado)
フィガロジャポン 2004年2月号「20世紀のデザインの源流! イッテンの芸術世界を徹底的にとき明かす」(中山真理)
STUDIO VOICE 2004年2月号「初期バウハウスの指導者、独自のデザイン教育思想宇宙」(岡田栄造)
ELLE DECO 2004年2月号「美術教育家として一流の人物は、画家としても一流だった」(Yuko Murata)
マリ・クレール 2004年2月号「美しい音楽にも似た色と形のバランス。スイス出身の美術家、イッテンとロゼ」(Noriko Kawakami)
日本カメラ 2004年2月号「しなやかで官能的な、創造する手」(上野修)
Living design 2004年3月号「ヨハネス・イッテン—造形芸術への道」(柳本浩市)
Invitation 2004年5月号「初期バウハウス指導者の造形論・色彩論の全貌」(紫牟田伸子)

410 「ヨハネス・イッテン—造形芸術への道」展

スイス生まれの画家にして偉大な美術教育家、ヨハネス・イッテン(1888-1967)の仕事を総合的に紹介する、わが国で初めての回顧展である。本展はヨハネス・イッテン財団が構成してベルン美術館ほかで開催された、イッテンの生徒たちの作品を中心とする第I部「造形芸術への道」、イッテンの初期から晩年までの油彩・水彩画など80余点による第II部「ヨハネス・イッテンの世界」、ベルリンのイッテン美術学校を訪れた竹久夢二と南画家・水越松南、および同校に学んだ2人の日本人留学生(今井和子、山室光子)の作品その他の関連資料からなる第III部「ヨハネス・イッテンと日本」から構成され、出品作品は油彩・素描・版画・写真・織物・立体のほか、書籍や書簡・手稿類など359点におよんだ。

Johannes Itten—Wege zur Kunst

The retrospective brought together for the first time in Japan a full range of the works of Swiss-born artist and renowned art educator Johannes Itten (1888 – 1967). It was divided into three parts: (I) The Ways to Art, which looked at exercises done by Itten's students, (II) The World of Johannes Itten, which presented over 80 oil and watercolor paintings from the early stages of Itten's career to his final years, and (III) Johannes Itten and Japan, which featured the works of Yumeji Takehisa and Shonan Mizukoshi, who visited Itten's art school in Berlin at one time, and the works of Kazuko Imai and Mitsuko Yamamuro, former students of Itten, plus other related materials. Part I was organized by the Johannes Itten Foundation in Bern and shown at the Saarland Museum Saarbrücken and other places in addition to Japan. Altogether, 360 oil paintings, drawings, prints, photographs, textiles and three-dimensional objects, as well as documents, letters and hand-written drafts, were exhibited.



会 期
平成16年3月23日~5月16日 (うち平成15年度9日間)
会 場
本館企画展示室
入 場 者
3,841人(一日平均#27人)
共 催
NHK、NHK プロモーション
後 援
外務省、文化庁、アメリカ大使館
協 力
日本航空
雑誌・新聞関連記事
The East, February 2004 "Kuniyoshi Yasuo" (Kobayashi Motoki)
産経新聞 2004年3月27日「国吉康雄 米国に夢を見つめた少年」(生田誠)
日本経済新聞 2004年3月30日<春秋>
てんとう虫 2004年3月号<石坂浩二の悠々美的「国吉康雄展」(石坂浩二)>
朝日新聞 2004年4月8日<アートブリズム>「迷走するアメリカ民主主義」(山口泰二)、「故国の喪失感が表す今日性」(田中三蔵)
The Daily Yomiuri, April 8, 2004 "Artist's lifelong adjustment to an ever-changing world" (Asami Nagai)
東京新聞 2004年4月10日「揺れ動く魂の軌跡を示す晩年の作」(中村隆夫)
新美術新聞 2004年4月11日「国吉康雄を見て」(掛井五郎)
公明新聞 2004年4月13日<美術>「アメリカと対峙する日本」(藤田一人)
しんぶん赤旗 2004年4月20日「アメリカに生きた画家の『いのち』の表現」(田中淳)
読売新聞 2004年5月13日「意外に謎めいた絵画空間」(前田恭二)
クロワッサン 2004年5月号<展覧会へようこそ>「国吉康雄展」(石坂浩二)
家庭画報 2004年5月号「『夢の国』で生をまっとうした国吉康雄のまなざし」(嶋野恵)
美術手帖 2004年6月号「国吉康雄 アメリカ『あるいよ』そして『日本』(高島直之)
サライ 2004年11号「東洋と西洋を生きた画家」

411 「国吉康雄」展

17歳でアメリカにわたり、やがてアメリカを代表する画家となった国吉康雄の作品を、油彩、写真あわせて131点により紹介した。全体は、1920年代の初期の作品をとりあげる「Ⅰ.いのちの海岸」、1930-40年代を扱う「Ⅱ.社会の荒波」、そして晩年、1940-50年代の作品を紹介する「Ⅲ.いのちの島の建設」の3章とし、40年余にわたる作品の展開を、そのときどきの社会の動きも踏まえながらたどる構成とした。

国吉が生きたのは、日本人移民排斥、大恐慌、そして第二次世界大戦と、日本とアメリカが大きく揺れ動いた時代である。その中で、二つの国のどちらにも根を持つことができなかった国吉は、それゆえ国や人種を超えた普遍的な人間のありように希望を託し、作品を描き続けたと言える。個々の作品に織り込まれたこうした国吉のメッセージをよりよく読み解く一助とするべく、会場に作者の言葉を掲げ、また作品解説をていねいに付すなど、展示にも工夫を凝らした。

なお、この展覧会は、富山県立近代美術館(平成16年5月29日-7月19日)、愛知県美術館(同8月6日-9月26日)を予定している。

Yasuo Kuniyoshi: A Retrospective

The exhibition presented the works of Yasuo Kuniyoshi, Japanese-born, American-trained painter who went to the United States at the age of 17 and eventually became a leading artist in the U.S. Featuring 131 oil paintings and photographs produced by Kuniyoshi over the course of his 40-year career, the exhibition was divided into three parts: (i) The Shores of Life, focused on the early stages of his career (1920s), (ii) The Rough Seas of the Society, which looked at his works in the 1930s and 40s, and (iii) The Construction of an Island of Life, consisting of pieces from his later years, the 1940's and 50's.

Kuniyoshi lived through the expulsion of the Japanese immigrants, the Great Depression and the Second World War (times of great turmoil in Japan and the United States. when Japanese immigrants faced discrimination in many parts of America. Considering himself neither fully Japanese nor fully American, he set his sights on universal truths that transcend race or country. To help viewers understand the universal messages that are woven into Kuniyoshi's compositions, the artist's words were displayed along the walls of the exhibition rooms and detailed background was provided on selected works.

Following the showing in Tokyo, the exhibition will travel to the Museum of Modern Art, Toyama (May 29 – July 19, 2004) and the Aichi Prefectural Museum of Art (August 6 – September 26, 2004)



会 期

(平成14年度第5回):平成15年3月14日~5月11日
(52日間/うち平成15年度37日間)
第1回:平成15年5月16日~7月21日(58日間)
第2回:平成15年7月29日~10月5日(60日間)
第3回:平成15年10月1日~平成16年1月4日(71日間)
第4回:平成16年1月9日~2月29日(45日間)
第5回:平成16年3月5日~5月16日
(65日間/うち平成15年度24日間)

会 場

本館所蔵品ギャラリー

入 場 者

(平成14年度第5回):
43,001人(一日平均1,162人)
第1回:19,780人(一日平均341人)
第2回:32,326人(一日平均539人)
第3回:35,291人(一日平均497人)
第4回:14,920人(一日平均332人)
第5回:7,097人(一日平均296人)



1-5 常設展示・所蔵作品展 Permanent Exhibit, 2003

a. 近代日本の美術

常設展示(所蔵作品展)「近代日本の美術」は、わが国の近代美術の歴史的展開を、外国作品をまじえながら系統的に展観することを主要な目的としている。4階から2階にかけての約3,000㎡の所蔵品ギャラリーに、第1章「明治・大正期の美術」、第2章「昭和戦前期の美術」、第3章「戦時と戦後の美術」、第4章「1950-60年代の美術」、第5章「現代美術-1970年代以降」という構成で、20世紀初頭から現代に至る絵画、水彩、素描、版画、写真、彫刻作品を毎回200~250点展示した。年間5回の展示替えを行い、主要作品はできるだけいつでも鑑賞できるように配慮しながらも、会期ごとに展示作品のかかなりの部分を入れ替え、各作家および時代の多面的な相貌を幅広く鑑賞できるように努めた。

また、時代順の展示の他に、昨年度に引き続き、展示室の一部を用いた特集展示を行った。その内容は以下のとおりである。

◆平成15年5月16日~7月21日

特集展示(4階):長谷川利行

版画コーナー(3階):大正・昭和戦前期の水彩

写真コーナー(3階):写真の中の人間像1 肖像—自己と他者

◆平成15年7月29日~10月5日

特集展示(4階):梅原龍三郎

版画コーナー(3階):駒井哲郎

写真コーナー(3階):写真の中の人間像2 身体をめぐる表現

特集展示(2階ギャラリー4):美術と音楽

◆平成15年10月11日~平成16年1月4日

特集展示(4階):藤田嗣治

版画コーナー(3階):織田一磨

写真コーナー(3階):写真の中の人間像3 群衆

◆平成16年1月9日~2月29日

特集展示(4階):静かなる宴—近代日本の静物画

版画コーナー(3階):マックス・ペヒシュタイン

写真コーナー(3階):植田正治「砂丘劇場」

特集展示(2階ギャラリー4):版の世界—その多様な展開

◆平成16年3月5日~5月16日

特集展示(4階):戸張孤雁

版画・写真コーナー(3階):恩地孝四郎の世界—版画と写真による

特集展示(2階ギャラリー4):彫刻家の眼と手—素描と彫刻

なお、今年度、これまで和文・英文のみであったフロアプラン(会場ガイド)について、東芝国際交流財団の助成を受けてフランス語版、ドイツ語版、中国語版、韓国語版を作成した。

a. Modern Japanese Art from the Museum Collection

The permanent exhibition *Modern Japanese Art from the Museum Collection* presents a systematic review of the historical development of modern art in Japan. Included are works by non-Japanese artists to offer a well-rounded survey. Housed in the

Museum Collection Gallery, which covers some 3,000 square meters on the second, third and fourth floors, the exhibition typically consists of 200 - 250 pieces of paintings, watercolors, drawings, prints, photographs and sculptures from the early 20th century to the present. The pieces are grouped into five sections designed to follow the course of modern Japanese art in chronological order: the Meiji and Taisho Periods, the prewar Showa Period, during and after the War, the 1950s to 1960s and the 1970s and Beyond. While major works are kept on show as much as possible, the overall presentation is altered five times annually. A considerable portion of the works exhibited is replaced with every new presentation to allow visitors to appreciate the multifaceted characteristics of each artist or time period.

In addition to the main historical survey, sections were set aside on each floor for the following special-interest exhibits:

◆May 16–July 21, 2003

Topic in Focus(4th Floor) : Toshiyuki Hasekawa

Print Corner(3rd Floor) : Watercolors in the Taisho and Prewar Showa Periods

Photography Corner(3rd Floor) : The Human Image in Photography 1. Portraits–Self and Others

◆July 29–October 5, 2003

Topic in Focus(4th Floor) : Ryuzaburo Umehara

Print Corner(3rd Floor) : Tetsuro Komai

Photography Corner(3rd Floor) : The Human Image in Photography 2. About the Body

Topic in Focus(2nd Floor, Gallery 4) : Art and Music

◆October 11, 2003–January 4, 2004

Topic in Focus(4th Floor) : Tsuguharu Fujita

Print Corner(3rd Floor) : Kazuma Oda

Photography Corner(3rd Floor) : The Human Image in Photography 3. Crowd

◆January 9–February 29, 2004

Topic in Focus(4th Floor) : Quiet Feast–Still Life in Modern Japanese Art

Print Corner(3rd Floor) : Max Pechstein

Photography Corner(3rd Floor) : Shoji Ueda–Sand Dune Theater

Topic in Focus(2nd Floor, Gallery 4) : The Diversified World of Contemporary Prints

◆March 5–May 16, 2004

Topic in Focus(4th Floor) : Kogan Tobari

Print and Photography Corner(3rd Floor) : Koshiro Onchi

Topic in Focus(2nd Floor, Gallery 4) : Sculptors' Eye and Hands–Drawing and Sculpture

Floor plans, previously available only in Japanese and English, were prepared in French, German, Chinese and Korean as well, funded by a grant from the Toshiba International Foundation.

会 期
平成15年5月27日～6月29日(30日間)
会 場
工芸館
入 場 者
3,463人(一日平均115人)
会 期
平成15年7月8日～9月7日(54日間)
会 場
工芸館
入 場 者
8,170人(一日平均151人)

b. 近代工芸の名作—友禅と型染

染の技法として代表的なものに、友禅と型染がある。友禅染は非常に手間のかかる技法だが、絵画のように自由な図柄を表現できるのが特色である。一方型染は、型紙を用いて模様を染める技法で、同じ図柄を繰り返すことができるため、量産に適しているというだけでなく、型紙であらわされた模様ならではの味わいがある。本展では、当館の所蔵作品のなかから、近代日本の友禅と型染を代表する工芸家、森口華弘、木村雨山、芹沢銈介、稲垣稔次郎らの作品約35点を展示。

b. Masterpieces of Modern Japanese Craft: Yuzen and Katazome

Yuzen and *katazome* are traditional Japanese techniques for dyeing fabrics. *Yuzen* is extremely time-consuming but offers the advantage of unparalleled flexibility in decoration. *Katazome* is a process of dyeing patterns onto fabrics using stencils. It allows the same design to be dyed repeatedly, which makes it more suitable for mass production, and the stenciled decorations have their own special appeal. This exhibition, comprised of 35 pieces, highlighted the works of leading *yuzen* and *katazome* artists Kako Moriguchi, Uzan Kimura, Keisuke Serizawa, Toshijiro Inagaki and others.

c. 近代日本の工芸—戦後の金工

「三代藍堂 宮田宏平展—金属造形の先駆け」にあわせて開催した所蔵作品展である。昭和初期に興隆した工芸運動には金工家³が比較的多く含まれていたが、戦後もそうした地盤の上に、前衛的な工芸制作を志向する金属造形作家が数々輩出された。宮田の作品とともに同時代の他の金工作家による作品をあわせて展示することで、時代的な背景を補い、戦後の金工作品の多様な広がりを示した。

c. Modern Japanese Metalwork: Postwar Period

This exhibition of metalwork from the Crafts Gallery Collection was shown in conjunction with the special exhibition *Rando Miyata III: A Retrospective*. Many metalwork artists took part in the early Showa craft movement, and this history of departing from tradition became further pronounced after the war, when numerous artists with a taste for the avant-garde appeared. By surveying the works of metalwork artists contemporaneous to Rando Miyata, it was possible to supplement the historical background of Miyata's retrospective while introducing the diverse explorations made in the field of metal craft in the postwar period.

会 期

平成15年12月9日～平成16年2月1日(45日間)

会 場

工芸館

入 場 者

8,517人(一日平均189人)



会 期

平成16年2月10日～4月11日
(56日間/うち平成15年度45日間)

会 場

工芸館

入 場 者

14,876人(一日平均331人)

雑誌・新聞関連記事

Yoko Haruhara: Edo craftsmanship
in full flower / The Japan Times
ONLINE



d. 近代工芸の百年

近代以降の工芸の歴史を通史的にたどり、各時代の代表作を紹介する展覧会は、これまでも当館で年1回、継続的に行ってきたものである。

今回は、当館所蔵作品のなかからおよそ80点を、それぞれの時代ごとに展示し、紹介した。なかでも、通常の所蔵作品展では展示する機会の少ない明治中期の大型作品と、ごく近年に収蔵された1970年代以降の大型の工芸作品を積極的に取り上げ、工芸館収蔵作品の幅広さをアピールした。

d. A History of Modern Japanese Craft

The Crafts Gallery holds annual exhibitions that offer a historical view of crafts development in post-feudal Japan (Meiji era to present), introducing representative works from each significant time period. The fiscal 2003 exhibition featured 80 pieces from the Crafts Gallery Collection, displayed by time period. Special focus was on large-scale works from the mid-Meiji era that are seldom included in theme-based exhibitions and large-scale works from the 1970s that were acquired recently. The inclusion of these pieces served to emphasize the broad scope of the Crafts Gallery Collection.

e. 近代工芸の名品一花

日本の近代工芸では、伝統の技術や様式を基としつつ芸術として豊かな個性を発展させたことが優れた特質となっている。なかでも工芸を彩る図案意匠は、典型的な伝統の意匠から作家が自由な創作を表したものまで実に多彩であり、その制作意識を反映して工芸の魅力を高めてきた。

本展では、自然の四季折々の美しさと豊かな情感を表象する“花”という主題に焦点をあてた。当館が所蔵する名品116点一染織作品の展示替え点数を含む一によって、近代工芸の特質と作家が表現しようとした美しさを明らかにした。概ね、歴史的あるいは文様として典型的な花を意匠としたもの、伝統の用と美のなかで意匠として表したもの、花そのものを描写したもの、そして心象としての花を表現したもので全体の構成を図った。

e. Masterpieces of Modern Japanese Craft: Flowers

Modern Japanese craft is characterized by abundant creativity grounded in traditional techniques and styles. In particular, designs of decorative patterns that adorn works of craft range widely from the traditional to the highly original and enhance the appeal of each work as a reflection of the maker's consciousness.

This exhibition focused on “flowers,” which in Japan symbolize the beauty of nature as it changes from season to season. Through 116 masterpieces (including dyed/woven pieces that were shown only in the first or second part of the exhibition) from the Crafts Gallery Collection, the exhibition explored the characteristics of modern craft and the different aspects of beauty that each artist sought to express. Efforts were made to include a balanced mix of floral designs with traditional or historical significance, floral designs that conform to the function and beauty of traditional craft, lyrical depictions of flowers, and flowers as an expression of the inner soul.

会 期
平成16年2月14日～3月14日
会 場
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
主 催
東京国立近代美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、丸亀市教育委員会
後 援
朝日新聞高松支局、産経新聞高松支局、山陽新聞社、四国新聞社、日本経済新聞社高松支局、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局
入場者
5,588人(一日平均186人)

2 平成15年度国立美術館巡回展 Fiscal 2003 Touring Exhibition

受容と発展 花ひらく近代洋画

東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立西洋美術館が所蔵する名作47点(重要文化財1点を含む)により、日本近代洋画の展開を概観する展覧会である。時代としては大正期から昭和戦前期のおよそ30年間に焦点を当てている。日本人画家による近代洋画に加えて、彼らに影響を与えた同時期の西洋人画家の作品を含めて構成されているところに、今回の特徴がある。これらを対比しつつ東西の「洋画」の展開を追うことによって、近代日本における西洋画の「受容と発展」というテーマを明瞭にすることが出来、質の高い内容となった。全体は5章で構成され、i.個性の芽生え ii.美術の実験 iii.洋画の成熟 iv.日本の外と内 v.時代と美術 から成る。

Adoption and Development: Toward the Full Bloom of Modern Oil Painting in Japan

An overview of the development of *yoga* (Western-style painting) in Japan over the three decades from the beginning of the Taisho era to just before the Second World War, the exhibition highlighted 47 masterpieces (including a designated cultural asset of Japan) from the collections of the National Museum of Modern Art, Tokyo, the National Museum of Modern Art, Kyoto, the National Museum of Modern Art, Osaka and the National Museum of Western Art. The exhibition was notable in that it introduced the works of both Japanese *yoga* artists and contemporaneous artists abroad who had influenced these artists. By comparing the two and reviewing the development of “Western-style” painting in Japan and abroad, the exhibition sought to elucidate post-feudal Japan’s “assimilation and extension” of Western art. The exhibition consisted of five parts: The Awakening of Individuality, Experiments in Art, Growth of Western-style Painting, Inside and Outside Japan, and Art through the Ages.

3 作品貸与・特別観覧

3-1 作品貸与

3-1-1 本館

種別	平成15年度貸与件数		平成15年度貸与点数	
	国内	国外	国内	国外
絵画	114	3	232	9
水彩	9	0	7	0
版画	11	0	18	0
素描	8	0	14	0
彫刻	15	0	15	0
書	0	0	0	0
写真	1	0	1	0
資料	2	0	57	0
合計	160	3	344	9

展覧会協力

以下の展覧会に、作品を多数貸し出すなどの協力を行った。

◆展覧会名 会場(会期)

◆「日本美術における四季」展

ニューサウスウェールズ州立美術館 (2003.8.16-10.19)

◆「岸田劉生・麗子」展

ふくやま美術館 (2003.10.3-11.24)

◆「内なる美を求めて—劉生と京都—」展

京都市美術館 (2003.10.25-11.30)

◆「東山魁夷展 ひとすじの道」展

横浜美術館 (2004.1.5-2.24) / 兵庫県立美術館 (2004.4.3-5.23)

3-1-2 工芸館

種別	平成15年度貸与件数		平成15年度貸与点数	
	国内	国外	国内	国外
陶磁	19	1	51	1
染織	13	0	43	0
漆工	13	0	20	0
金工	17	0	32	0
木工	10	0	7	0
竹工	8	0	5	0
ガラス	7	0	1	0
人形	13	0	23	0
グラフィック・デザイン	0	0	0	0
工業デザイン	1	0	15	0
その他	9	0	2	0
合計	110	1	199	1

展覧会協力

以下の展覧会に、作品を多数貸し出すなどの協力を行った。

◆展覧会名

会場(会期)

◆企画展「白磁・青磁の世界」

茨城県陶芸美術館(2003.4.26-2003.6.29)

◆日本伝統工芸展50年記念展「わぎの美」

社団法人日本工芸会、NHK、朝日新聞社、各美術館(開催時のみ)(2003.5.27-2004.6.27)

◆「日本のわぎと美」展-重要無形文化財とそれを支える人々-

文化庁、岐阜県美術館、大分県立芸術会館ほか(2003.9.23-2003.11.23)

◆アール・デコ様式 朝香宮がみたパリ-展

財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館(2003.10.1-2004.2.1)

3-2 特別観覧

3-2-1 本館

区分	平成15年度利用件数		平成15年度利用点数	
	有償	無償	有償	無償
写真撮影	1	0	1	0
写真原版使用 (JPEG含む(1点))	140	5	300	8
映画撮影 (テレビジョン・ビデオ撮影)	10	0	13	0
熟覧	0	2	0	6
合計	151	7	314	14

(註) 模写、模造なし

3-2-2 工芸館

区分	平成15年度利用件数		平成15年度利用点数	
	有償	無償	有償	無償
写真撮影	6	0	15	0
写真原版使用 (JPEG含む(1点))	38	0	89	0
映画撮影 (テレビジョン・ビデオ撮影)	3	0	7	0
熟覧	2	3	10	11
合計	49	3	121	11

1 本館

◆一條彰子

[東京国立近代美術館の半世紀]連載20「教育普及活動のあゆみ—京橋時代」/
『現代の眼』541号

教育普及レポート「夏休み!こども美術館」/『現代の眼』542号

教育普及レポート「米館者とともに見る・考える—MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド」/『現代の眼』544号

◆大谷省吾

「地平線の夢 序論」、章解説、作家・作品解説、関連年表/『地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画』展カタログ

◆藏屋美香

「旅—『ここではないどこか』を生きるために」、『旅』をめぐるキーワード+作家解説/『旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン』展カタログ

「国吉康雄の不思議な空間」、作品解説/『国吉康雄展』カタログ

[東京国立近代美術館の半世紀]連載18「教育普及活動のあゆみ—友の会について(1)」/『現代の眼』539号

[東京国立近代美術館の半世紀]連載19「教育普及活動のあゆみ—友の会について(2)」/『現代の眼』540号

展覧会予告「旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン」/『現代の眼』541号

展覧会予告「国吉康雄展」/『現代の眼』543号

◆鈴木勝雄

野見山暁治年譜『野見山暁治展』カタログ

「自然の探訪者—明治30年代の雑誌メディアと風景」/『東京国立近代美術館研究紀要』第8号

◆都築千重子

「野見山暁治—生成する絵画」、章解説、文献目録/『野見山暁治展』カタログ

展覧会予告「野見山暁治展」/『現代の眼』540号

◆中林和雄

「洋画」と今日」、章解説/『受容と発展 花ひらく近代洋画』展カタログ

◆中村麗子

「麦僮の庭—土田麦僮《舞妓林泉》について」/『現代の眼』543号

◆古田 亮

「『美術と音楽』によせて」/『現代の眼』540号

◆保坂健二郎

「『旅』をめぐるキーワード+作家解説」/『旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン』展カタログ

◆増田 玲

「同時代の中の牛腸茂雄」、「牛腸茂雄の言葉」/『牛腸茂雄展』カタログ
作品解説/『国吉康雄展』カタログ

◆松本 透

展覧会予告「ヨハネス・イッテン—造形芸術への道」/『現代の眼』542号

◆三輪健仁

「20世紀前半の絵画における文字(1):パウル・クレー」/『東京国立近代美術館研究紀要』第8号

講演会報告「《花ひらく木をめぐる抽象》—パウル・クレーの反復の芸術—」/
『現代の眼』543号

◆金子賢治

「石黒宗麿研究」/『東京国立近代美術館研究紀要』第8号

[東京国立近代美術館の半世紀]連載21「工芸館開設とコレクションの形成」/
『現代の眼』544号

◆諸山正則

展覧会予告「現代の木工家具」/『現代の眼』540号

「家具という新たな造形表現と工房家具」/「現代の木工家具」展カタログ

展覧会予告「所蔵作品展 近代工芸の名品一花」/『現代の眼』543号

「所蔵作品展 近代工芸の名品「花」によせて…“花三態”」/『現代の眼』544号

◆今井陽子

作品研究「人形の虚実—平田郷陽の制作」/『現代の眼』541号

◆唐澤昌宏

作品研究「河本五郎—挑戦と反逆の造形」/『現代の眼』542号

◆木田拓也

「オーストラリア現代工芸三人展:未知のかたちを求めて」/「同時開催 所蔵作品展 近代工芸の名作—友禪と型染」/同展フロアガイド

展覧会予告「あかり—イサム・ノグチの光の彫刻」/『現代の眼』541号

「杉田禾堂《用途を指示せぬ美の創案 原始期・過渡期・完成期》について」/
『現代の眼』544号

「あかり—イサム・ノグチが作った光の彫刻」/『あかり:イサム・ノグチが作った光の彫刻』展カタログ

◆北村仁美

展覧会予告「三代藍堂 宮田宏平展—金属造形の先駆け」/『現代の眼』539号

作品解説「三代藍堂・宮田宏平」展カタログ

「松田権六資料の基礎的研究」/『研究紀要』第8号

展覧会予告「所蔵作品による近代工芸の名作—アール・デコの精華」/『現代の眼』544号

◆富田康子

展覧会予告「所蔵作品展 近代工芸の百年」/『現代の眼』542号

「工芸の近代—「工芸再評価」の言説をめぐる1990's以後の素描」/「近代工芸の百年」展フロアガイド

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Art Libraries and Other Reference Materials

図書に関しては、近現代の美術工芸を対象とする基本的な書目の収集と整理を継続して行い、本年度は下記の冊数を新規に受け入れし、あわせて遡及入力を行った。

当館で催す展覧会会場の写真撮影、焼付写真の整理、および館外の展覧会カタログ等刊行物の収集が継続的に行われていることは、従来通り変わりはない。

平成14年1月16日に開室した美術館のアートライブラリは、平成15年1月11日より土曜日も開室して、サービスの拡大につとめており、工芸館においても、平成14年4月2日より図書閲覧室を、火～金曜日の午後開室している。

平成15年1月10日、OPAC (Online Public Access Catalog) をインターネットに公開したが³ (<http://www.momat.go.jp/opac.html>)、さらに平成16年3月1日、東京都現代美術館美術図書室、横浜美術館美術図書室のOPACとの間に横断検索 (<http://alc.opac.jp>) を可能にした。

開催企画展に関連する図書、カタログを紹介するコーナーを設けるとともに、資料リストをホームページに掲載している。アートライブラリのページでは、「国内美術館所蔵品目録一覧」「美術雑誌 巻号タイトル(特集名)/目次一覧」「美的工具書(美術文献の探し方)」および月次更新の「新着図書」掲載するなどして、資料紹介につとめている (<http://www.momat.go.jp/library.html>)。

美術館3階に情報コーナーを設けて、来館者システムの端末を3台設置するとともに、近年開催の当館展覧会カタログおよび所蔵品目録ほか参考図書の閲覧の便を図っているのは昨年通り変わらない。

なお、美術館情報システムの整備事業(「平成15年度美術館情報システムによる普及・広報」p.103参照)に伴い、平成8年7月17日付けで学術情報センター目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)の第462番目の参加機関となっている。

[本館]

	購入	寄贈	遡及入力	計(平成16年3月31日時点総数)	
和図書	370	378	674	1,422	(19,756冊)
洋図書	130	68	533	731	(7,943冊)
国内展覧会カタログ	18	906	1,490	2,414	(36,123冊)
海外展覧会カタログ	40	307	492	839	(23,520冊)
和雑誌					(2,434誌)
洋雑誌					(725誌)
アートライブラリ開室日数	平成15年4月1日-平成16年3月31日			228日	

[工芸館]

	購入	寄贈	遡及入力	計(平成16年3月31日時点総数)	
和図書	96	170	177	443	(4,173冊)
洋図書	7	16	18	41	(492冊)
国内展覧会カタログ	0	334	2,558	2,892	(6,138冊)
海外展覧会カタログ	4	36	164	204	(272冊)
和雑誌					(571誌)
洋雑誌					(56誌)

工芸館図書閲覧室開室日数 平成15年4月1日-平成16年3月31日 174日

1-2 児童生徒を対象とした事業

1-2-1 本館

■学校等の団体での来館者に対し、ギャラリートークやガイダンス、職場見学などの対応を随時行った。大学生に関しては「大学等との連携」を参照のこと。

合計9件(386名)

小学校7件(246名)、中学校10件(83名)、高校2件(57名)

■美術鑑賞教育に関する研修を目的とし、小中高校教員及び教育関係者の研究会等へ協力した(講演、展示解説等)。

合計5件

八千代市教育委員会、東京都図画工作研究会、練馬区小学校教育会図画工作部、文京区小学校教育普及研究会図画工作部、東京都高等学校美術工芸教育普及研究会

■ホームページ上の「こどものページ」の内容の充実を図り、当館の主な作品の図版、見方のヒントなどを掲載。児童生徒が感想の書込みを行える仕組みとした。

■ボランティアによる小中学生向けプログラムを行った。

・「夏休み!こども美術館」として、夏休みの期間中、ボランティアのガイドスタッフによる、ギャラリートーク(所蔵作品解説)及びワーク(所蔵作品解説と連動した制作実習)を行った。

日時:8月8日(土)、9日(土)、10日(土)、午前・午後の各2回ずつ(3日、計6回)

場所:所蔵品ギャラリー、エントランスホール

参加者:18グループ(小学生93名、中学生45名、計138名)

・「春休み!こども美術館」として、春休みの期間中、ボランティアのガイドスタッフによる、ギャラリートーク(所蔵作品解説)を行った。

日時:3月26日(金)、27日(土)、28日(日)、午前・午後の各2回ずつ(3日、計6回)

場所:所蔵品ギャラリー

参加者:18グループ(小学生17名、中学生26名、計43名)

■「国吉康雄展」に伴い、展覧会会期中(3月23日-5月16日)、下記のプログラムを行った。

・国吉康雄展「こどもセルフガイド」の制作及び無料配布

・「こどもアートミュージアム」として、国吉康雄展「こどもアートサイト」をホームページ上に制作。セルフガイドで紹介した作品をホームページに掲載し、子どもが感想を書き込んだり、他の子どもの感想を読んだりできる仕組みとした。子どもの感想の投稿:113件

・エントランスホールに、掲示板「こどもアートミュージアム・ボード」を設置し、「こどもアートサイト」と「こどもセルフガイド」に書いてもらった感想文を随時貼り出し、来館者に紹介した。



1-2-2 工芸館

■学校等の団体 およびグループでの来館者に対し、ギャラリートークや校外学習の補助、職場見学などの対応を随時行った。大学生に関しては「大学等との連携」を参照のこと。

合計2件(12人)

中学校2件(12人)

■美術鑑賞教育に関する研修を目的とし、高等学校教員の研究会へ協力した(展示解説)。

高等学校教員の研究会1件(25人)

■「三代藍堂 宮田宏平展—金蔵造形の先駆け」に関連して、児童生徒を対象としたワークシート「三代らんどう・ゆびわ物語」を作成し、作品鑑賞のポイント、素材・技法の特性などを写真を多用しながらわかりやすく解説した。

■所蔵作品展「近代工芸の名品—花」に関連して、児童生徒を対象としたワークショップ(「〈花〉を染める」)を開催した。

■平成16年度から始まる工芸館ガイドスタッフによる〈タッチ&トーク〉の導入に伴い、児童生徒を対象としたプログラムの検討、準備を進めた。

1-3 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク

1-3-1 本館

◆「青木繁と近代日本のロマンティズム」展講演会

日時:4月12日(土) 午後2時から午後3時

講師:市川政憲(愛知県美術館館長)

聴講者数:83名

「青木繁の生涯と芸術」

日時:4月19日(土) 午後2時から午後3時

講師:植野健造(石橋財団石橋美術館学芸課長)

聴講者数:152名

「描かれた女性たち—青木繁と福田たねを中心に」

日時:4月26日(土) 午後2時から午後3時

講師:蔵屋美香(企画課主任研究官)

聴講者数:138名

◆「牛腸茂雄展」ギャラリートーク

日時:6月20日(金) 午後6時から午後7時

講師:三浦和人(写真家)×大日方欣一(写真研究者)

聴講者数:78名

日時:7月11日(金) 午後6時から午後6時40分

講師:増田玲(美術課主任研究官)

聴講者数:79名

◆「地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画」展講演会

日時:6月7日(土) 午後2時から午後3時

講師:大谷省吾(美術課研究員)

聴講者数:63名

◆「地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画」展ギャラリートーク

日時:7月5日(土) 午後2時から午後3時

講師:大谷省吾(美術課研究員)

聴講者数:41名

◆「野見山暁治展」講演会

「野見山暁治一人と作品」

日時:8月16日(土) 午後2時から午後3時

講師:都築千重子(美術課主任研究官)

聴講者数:90名

「自作を語る」

日時:9月6日(土) 午後2時から午後3時

講師:野見山暁治(出品作家)

聴講者数:225名

「自作を語る」

日時：9月19日(金) 午後2時から午後3時

講師：野見山暁治(出品作家)

聴講者数：175名

◆「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」展講演会

日時：11月1日(土) 午後1時から午後2時

講師：エリック・ファン・リースハウト(出品作家)

聴講者数：33名

「読書と旅について」

日時：11月13日(木) 午後2時30分から午後3時30分

講師：堀江敏幸(作家、仏文学者)

聴講者数：66名

日時：12月6日(土) 午後1時から午後2時

講師：雄川 愛(出品作家) + 蔵屋美香(企画課主任研究官)

聴講者数：43名

パフォーマンス「最後の旅」+講演会「旅…最後のリバティ・パスポート」

日時：12月7日(日) 午後1時45分から午後4時

パフォーマンス：松澤宥(アーティスト)

講師：巖谷國士(紀行作家)

聴講者数：118名

◆「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」展ギャラリートーク

日時：10月28日(火) 午後1時から午後2時

講師：大岩オスカル幸男(出品作家)

聴講者数：62名

「展覧会企画者によるギャラリートーク」

日時：11月20日(木) 午後6時から午後7時

講師：蔵屋美香(企画課主任研究官)

聴講者数：9名

「展覧会企画者によるギャラリートーク」

日時：11月21日(金) 午後6時から午後7時

講師：蔵屋美香(企画課主任研究官)

聴講者数：67名

日時：12月12日(金) 午後6時から午後7時

講師：渡辺 剛(出品作家) + 蔵屋美香(企画課主任研究官)

聴講者数：86名

◆「ヨハネス・イッテン—造形芸術への道」展講演会

「ヨハネス・イッテン—わか国ではじめての紹介とその造形探求」

日時：1月24日(土) 午後2時から午後3時

講師：山野英嗣(京都国立近代美術館主任研究官)

聴講者数：85名

「20世紀初頭の美学—イッテンの形・色・音をめぐって」
日時:2月14日(土) 午後2時から午後3時
講師:高橋 巖(美学者)
聴講者数:154名

◆「国吉康雄展」講演会

「国吉康雄の歩んだ道」
日時:3月27日(土) 午後2時から午後3時
講師:トム・ウルフ(ハーバード・カレッジ教授)
聴講者数:52名

◆講演会 所蔵作品をめぐって

「《花ひらく木をめぐる抽象》—パウル・クレーの反復の芸術—」
日時:9月23日(火) 午後2時から午後4時
講師:ヴォルフガング・ケルステン(チューリヒ大学講師)
聴講者数:122名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」研究員によるハイライトツアー

日時:1月4日(日) 午前1時から午前11時50分
講師:保坂健二郎(企画課研究員)
聴講者数:40名

日時:2月1日(日) 午前1時から午前11時50分
講師:都築千重子(美術課主任研究員)
聴講者数:20名

日時:3月7日(日) 午前1時から午前11時50分
講師:古田亮(美術課主任研究員)
聴講者数:15名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」研究員によるフライデートーク

「昭和戦前期の日本画—伝統への回帰」
日時:1月30日(金) 午後6時から午後6時35分
講師:中村麗子(美術課研究員)
聴講者数:10名

「多様化する版画」

日時:2月20日(金) 午後6時から午後6時50分
講師:都築千重子(美術課主任研究員)
聴講者数:16名

「彫刻家の眼と手—素描と彫刻」

日時:3月26日(金) 午後6時から午後6時45分
講師:中林和雄(美術課長)
聴講者数:10名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」研究員による所蔵品ガイド

「美術と音楽」
日時:8月2日(土) 午後2時30分から(約60分)
講師:古田亮(美術課主任研究員)
聴講者数:33名

「写真の中の人間像・群衆」
日時：10月11日(土) 午後2時30分から(約60分)
講師：増田 玲 (美術課主任研究官)
聴講者数：29名

「版の世界—その多様な展開」
日時：1月10日(土) 午後2時から(約60分)
講師：都築千重子 (美術課主任研究官)
聴講者数：29名

「戸張孤雁の彫刻」
日時：3月6日(土) 午後2時から(約60分)
講師：大谷省吾 (美術課研究員)
聴講者数：28名

1-3-2 工芸館

◆「今日の人形芸術—想念の造形」展 対談・座談会ほか

「詩の朗読と音楽」
日時：平成15年4月5日(土) 午後2時から(約90分)
講師：結城美栄子 (出品作家)
聴講者数：140名

「対談」
日時：平成15年4月20日(日) 午後2時から(約80分)
講師：四谷シモン (出品作家)、金子賢治 (工芸課長)
聴講者数：195名

◆「今日の人形芸術—想念の造形」展 ギャラリートーク

「TVと舞台の人形美術～プリンプリン物語」
日時：平成15年4月12日(土) 午後2時から(約90分)
講師：友永詔三 (出品作家)
聴講者数：103名

日時：平成15年4月26日(土) 午後2時から(約60分)
講師：芹川英子 (出品作家)
聴講者数：94名

日時：平成15年5月3日(土) 午後2時から(約60分)
講師：林 駒夫 (出品作家)
聴講者数：90名

日時：平成15年5月10日(土) 午後2時から(約60分)
講師：岩瀬なほみ (出品作家)
聴講者数：60名

◆「オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて」、同時開催「近代工芸の名作—友禅と型染」展 ギャラリートーク

日時：平成15年5月30日(金) 午後3時から(約50分)
講師：ジャンス・ラリー (展覧会企画者)
聴講者数：20名

日時：平成15年5月31日(土)午後2時から(約40分)
講師：ロビン・ベスト(出品作家)
聴講者数：6名

「近代の友禪と型染」

日時：平成15年6月7日(金)午後2時から(約60分)
講師：今井陽子(工芸課研究員)
聴講者数：24名

「オーストラリア現代工芸3人展」

日時：平成15年6月14日(土)午後2時から(約60分)
講師：木田拓也(工芸課研究員)
聴講者数：7名

「近代工芸の名品」

日時：平成15年6月21日(土)午後2時から(約60分)
講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究員)
聴講者数：2名

◆「三代藍堂 宮田宏平展—金属造形の先駆(け)—」、同時開催「近代日本の工芸—戦後の金工」展 ギャラリートーク

日時：平成15年7月8日(火)午後2時から(約70分)
講師：三代藍堂 宮田宏平(出品作家)
聴講者数：72名

日時：平成15年7月19日(土)午後2時から(約70分)
講師：樋田豊次郎(京都工芸繊維大学助教授)
聴講者数：40名

日時：平成15年7月25日(金)午後2時から(約80分)
講師：三代藍堂 宮田宏平(出品作家)
聴講者数：55名

日時：平成15年7月26日(土)午後2時から(約60分)
講師：富田康子(工芸課客員研究員)
聴講者数：7名

日時：平成15年8月2日(土)午後2時から(約60分)
講師：木田拓也(工芸課研究員)
聴講者数：11名

日時：平成15年8月16日(土)午後2時から(約60分)
講師：北村仁美(工芸課研究員)
聴講者数：15名

日時：平成15年8月29日(金)午後2時から(約80分)
講師：三代藍堂 宮田宏平(出品作家)
聴講者数：73名

日時：平成15年8月30日(土)午後2時から(約60分)
講師：小見秀男(新潟県立近代美術館学芸課長)
聴講者数：26名

◆「現代の木工家具—スローライフの空間とデザイン」展 作家座談会

日時：平成15年9月20日(土) 午後2時から(約90分)

講師：早川謙之輔・小島伸吾・高橋三太郎・須田賢治(出品作家)、
諸山正則(工芸課主任研究官)

聴講者数：80名

◆「現代の木工家具—スローライフの空間とデザイン」展 ギャラリートーク

日時：平成15年10月4日(土) 午後2時から(約70分)

講師：早川謙之輔(出品作家)

聴講者数：115名

日時：平成15年10月18日(土) 午後2時から(約60分)

講師：諸山正則(工芸課主任研究官)

聴講者数：47名

日時：平成15年10月25日(土) 午後2時から(約70分)

講師：中村好文(出品作家)

聴講者数：134名

日時：平成15年11月1日(土) 午後2時から(約70分)

講師：高橋三太郎(出品作家)

聴講者数：83名

日時：平成15年11月15日(土) 午後2時から(約60分)

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)

聴講者数：37名

◆「あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻」展 ギャラリートーク

「彫刻としてのあかり」

日時：平成15年11月8日(土) 午後2時から(約60分)

講師：高橋幸次(日本大学芸術学部教授)

聴講者数：40名

日時：平成15年11月22日(土) 午後2時から(約60分)

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：40名

「あかりのできるまで」

日時：平成15年11月29日(土) 午後2時から(約60分)

講師：広井力(東京学芸大学名誉教授、彫刻家)

聴講者数：50名

日時：平成15年12月20日(土) 午後2時から(約60分)

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：40名

◆「近代工芸の百年」展 ギャラリートーク

「明治の技巧」

日時：平成15年12月13日(土) 午後2時から(約60分)

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：8名

「染織とファイバー」

日時：平成15年12月21日(日)午後2時から(約60分)

講師：今井陽子(工芸課主任研究官)

聴講者数：13名

「民芸とモダニズム」

日時：平成15年12月27日(土)午後2時から(約60分)

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：9名

「人間国宝の誕生」

日時：平成16年1月3日(土)午後2時から(約60分)

講師：諸山正則(工芸課主任研究官)

聴講者数：38名

「現代の工芸」

日時：平成16年1月10日(土)午後2時から(約60分)

講師：富田康子(工芸課客員研究員)

聴講者数：22名

「やきものの百年」

日時：平成16年1月17日(土)午後2時から(約60分)

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)

聴講者数：28名

「近代工芸の百年」

日時：平成16年1月24日(土)午後2時から(約60分)

講師：金子賢治(工芸課長)

聴講者数：54名

◆「近代工芸の名品一花」展 ギャラリートーク

日時：平成16年2月14日(土)午後2時から(約60分)

講師：今井陽子(工芸課主任研究官)

聴講者数：17名

日時：平成16年2月21日(土)午後2時から(約60分)

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：24名

日時：平成16年2月28日(土)午後2時から(約60分)

講師：富田康子(工芸課客員研究員)

聴講者数：21名

日時：平成16年3月6日(土)午後2時から(約60分)

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)

聴講者数：15名

日時：平成16年3月13日(土)午後2時から(約60分)

講師：諸山正則(工芸課主任研究官)

聴講者数：25名

日時：平成16年3月27日(土)午後2時から(約60分)

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：46名

1-4 大学等との連携

1-4-1 本館

■博物館実習

当館の「博物館実習受入要項」に基づき、次の大学から8名の実習生を受入れた。

跡見学園女子大学、実践女子大学、多摩美術大学、東京造形大学、千葉大学、日本大学、日本女子大学、武蔵野美術大学

実習内容

概要や講義のほか、来館者と作品を繋ぐ橋渡しとしての役割を学んでもらうため、所蔵品から各自1作品を選び、模擬ギャラリートークの課題を盛り込んだ。なお、実習生には事前に実習内容を知らせ、館の提示した課題図書(『ギャラリーガイド 近代日本美術のあゆみ』東京国立近代美術館)の通読を課した。

実習日程

- 8月25日 ガイダンス/当館の概要・理念/企画課の仕事(展覧会について)/企画渉外係の仕事、ブレーブワーク「展覧会ができるまで」
- 8月26日 教育普及係の仕事・課題説明/MOMAT ガイドスタッフによる所蔵品ガイド見学・ボランティアについて/情報資料係の仕事・アートライブ러리紹介・文献の調べ方
- 8月27日 美術課の仕事(コレクションについて)/展示係の仕事/絵画彫刻係の仕事・収蔵庫見学/トーク課題準備
- 8月28日 写真係の仕事/版画係の仕事・野見山暁治展解説/トーク課題準備
- 8月29日 トーク発表/総合ディスカッションとまとめ

■大学等の団体での来館者に対して、随時対応した。

- ・大学授業、学会への協力 8件11回(472名)

女子美術大学、東京造形大学、武蔵野美術大学、共立女子大学、南華大学興芸術管理研究所(台湾)、日本女子体育大学、バンタンデザイン研究所、日本色彩学会

- ・生涯学習施設等への協力 6件8回(175名)

河田美術鑑賞会、NPO 法人ふれあい塾あびこ、名画鑑賞会クラスセ・テ・ミルド、江東区森下文化センター、多摩美術大学生涯学習センター、群馬県伊勢崎市立図書館老人会

■大学等との協力のもとに講演会を実施

開催日 9月23日

開催場所 本館講堂

参加者数 122名

事業内容：学習院大学との協議のもと、同大学が招聘したチューリヒ大学講師ヴォルフガング・ケルステン氏による当館所蔵品(パウル・クレー作《花ひらく木をめぐる抽象》)をテーマにした講演会を、日本パウル・クレー協会との共催(スイス大使館後援)で行った。

■博物館実習

当館の「博物館実習受入要項」に基づき、次の大学から4名の実習生を受け入れた。

日本大学芸術学部、金沢美術工芸大学美術工芸学部、武蔵野美術大学造形学部、東京工芸大学芸術学部

実習内容

概要や講義のほか、各工芸素材の取り扱いに重点をおいて実習を行った。

実習日程

- 8月21日 ガイダンス・課題説明/館概要/教育・普及の仕事/作品の収集と管理/実習(陶磁作品の取り扱い)
- 8月22日 実習(陶磁・金作品の取り扱い)
- 8月25日 展示企画の仕事/見学・実習(作品の写真撮影)/実習(木作品の取り扱い)/作品の保存と修復
- 8月26日 見学(作品の貸借について)/美術館における書籍や資料について/実習(染織作品の取り扱い)
- 8月27日 実習(漆作品に取り扱い)/ディスカッション

■大学等の団体での来館者に対して、随時対応。

大学2件(51名)

校外授業として作品熟覧を行った。

1-5 ボランティア

1-5-1 本館

■所蔵作品解説ボランティア「MOMATガイドスタッフ」の活動

平成14年秋に公募し、審査を経て研修生となった20名への約6ヶ月全10回の養成研修を5月10日に修了した。MOMATガイドスタッフとして登録(期間2年)したのは次の20名。

赤松千佳、阿部文子、安斉紀子、池端伸浩、井澤由利子、石川俊雄、伊藤睦子、岩瀬健二、大内久美子、大久保豪、小倉優子、金成圭章、木村さとみ、米栖正和、妹尾喜久子、富山美智子、中嶋壽子、林美佐子、平野美沙子、弘中智子

■MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド

登録人数:20名

期間:平成15年5月23日-平成16年3月31日

回数:248回

参加者総計:3023名/1回平均:12.1名

(内訳)

会期1 52回/602名/平均11.6名

会期2 59回/1076名/平均18.2名

会期3 70回/672名/平均9.6名

会期4 44回/475名/平均10.8名

会期5 23回/198名/平均8.6名

活動内容:開館日の毎日午後2時より(12月までは午後2時30分開始)約1時間、来館者との対話を交えながら、所蔵作品についてのギャラリートークを行った。また、一般客向けのものとは別に「夏休み!こども美術館」、「春休み!こども美術館」として、小中学生を対象とするギャラリートークなどを計12回、36グループに対して実施した。常設展が替わるたびに例会を開催(年間5回)し、展示替えについて研究員による講義を受け、研究員による所蔵品ガイドに参加するほか、その時々の問題点等について協議しながら、ギャラリートーク・プログラムを運営してきた。また、活動開始前の研修(平成14年12月21日-平成15年5月10日)を補うものとして、平成15年度は当館研究員による「日本画の技法について」の補講を行ったほか、「春休み!こども美術館」の開始に備えて、館外講師2名(中央区立坂本小学校教諭・岸本雅行氏、坂戸市立浅羽野中学校教諭・武藤篤美氏)による「こどもの発達と鑑賞」と題したフォローアップ研修を実施した。

*生涯学習施設等への対応(所蔵品解説)に協力した。(3件)



工芸館では、ボランティア募集に際し、通例のギャラリーガイドのほか、触知によって工芸の素材や技法の持ち味を体感するコーナーの新設を決め、両者を活動の2本柱とすることを告知した。これにより、20名前後の募集に対して200余名の応募があり、工芸作品に対する関心の高さが窺われた。研修は工芸の近代史とギャラリーガイドの実践的な修得を中心に行い、一方で、来館者と作品との間の架け橋となるガイドとしての意識作りに力を注いだ。

触知による鑑賞を促すコーナーの新設は、これまでアンケート等で寄せられた来館者の要望に応えるべく検討されたものだが、研修生の興味もまずは「何で」「どのように」作るのかから始まり、次第に工芸独自の造形性や作者の内面、時代意識など、より高度な鑑賞を可能とするようになっている。研修期間を通じてガイドスタッフが個々に獲得した工芸作品への視点は、参加者が本を読むのとは異なった鑑賞の楽しみを感じ取るための一助となるものと期待している。

2 刊行物 Publications

2-1 企画展覧会カタログ

2-1-1 本館



牛腸茂雄展

21×18cm / 63p

本文:

同時代の中の牛腸茂雄(増田 玲)

図版

牛腸茂雄の言葉

年譜

Shigeo Gocho in the Context of the Age He Lived in (Rei Masuda)

展示作品リスト

編集:増田 玲/保坂健二郎

翻訳:小川紀久子/山本仁志

デザイン:笠原香苗

制作:コギト

発行:東京国立近代美術館 ©2003



地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画

28×22cm / 149p

本文:

地平線の夢 序論(大谷省吾)

Dreams of the Horizon — Introduction (Shogo Ohtani)

Commentaries on the Sections (Shogo Ohtani)

図版

第1章 物語る絵画

第2章 古代への憧憬

第3章 大陸の昼気楼

第4章 画学生たちの心象風景

作家・作品解説

関連年表

昭和戦前期におけるサルヴァドール・ダリ紹介文献一覧

出品作品リスト

編集:大谷省吾

翻訳:小川紀久子

制作:エティタス

発行:東京国立近代美術館 ©2003



野見山暁治展

29×22.5cm / 161p

本文:

野見山暁治の「絵画」—降りてくる空(市川政憲)

野見山暁治—生成する絵画(都築千重子)

図版

第1章 ボタ山の再発見—自然と人工のせめぎあい

第2章 ヨーロッパ—日本 かたちへのとまどい

第3章 空、海、風—うつろう自然と向き合って

出品目録

野見山暁治年譜

主要参考文献

The "Paintings" by Gyoji Nomiya — The Descent of the Sky (Masanori Ichikawa)

Gyoji Nomiya and His Generating Paintings (Chieko Tsuzuki)

Commentaries on the Sections

編集:東京国立近代美術館(都築千重子/鈴木勝雄)/愛知県美術館(市川政憲)/日本経済新聞社

翻訳:小川紀久子、山本仁志

表紙 デザイン:上條スタジオ

制作:エティタス

発行:日本経済新聞社

©2003 東京国立近代美術館、日本経済新聞社



旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン
13×10cm / 185p

本文：

旅—「ここではないどこか」を生きるために(蔵屋美香)

図版

ジョゼフ・コーネル
ペーター・フィッシュリ & ダヴィッド・ヴァイス
雄川 愛
大岩オスカル幸男
小野 博
瀧口修造
エリック・ファン・リースハウト
ビル・ヴィオラ
渡辺 剛
安井仲治

「旅」をめぐるキーワード+作家解説

作品リスト

カタログ制作 編集担当：蔵屋美香/保坂健二郎

翻訳：小川紀久子

アート・ディレクション&デザイン：山田拓矢/有吉陽子

編集：東京国立近代美術館

印刷：大日本印刷株式会社

発行：東京国立近代美術館 ©2003



ヨハネス・イッテン—造形芸術への道

26×18cm / 347p

本文：

ヨハネス・イッテン 橋の架設者(マティアス・フレーナー)

生成の根源へ—「ヨハネス・イッテン 造形芸術への道」展に寄せて(向井周太郎)

第Ⅰ部—造形芸術への道(ドロレス・デナーロ/石川潤 編・訳)

第Ⅱ部—ヨハネス・イッテンの世界

ヨハネス・イッテン—その生涯とアルバム

第Ⅲ部—ヨハネス・イッテンと日本

ヨハネス・イッテンと日本(山野英嗣)

ヨハネス・イッテンの時代と日本の美術教育

文献・展覧会歴

出品リスト

日本展構成・編集：山野英嗣(京都国立近代美術館)

執筆：ドロレス・デナーロ(バスク・アートセンター)/向井周太郎/石川 潤(宇都宮美術館)/山野

英嗣/山野てるひ(園田学園女子大学短期大学部)

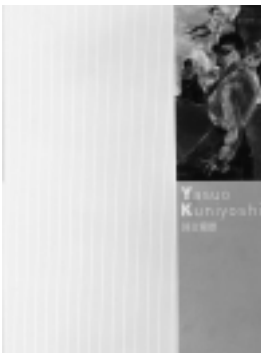
翻訳：石川 潤/西村美絵子/山野英嗣

デザイン：西岡 勉

印刷：株式会社便利堂

発行：京都国立近代美術館

©2003 京都国立近代美術館



国吉康雄展

24.5×18.5cm / 205p

本文：

国吉康雄の芸術—内なる国境(市川政憲)

国吉康雄の不思議な空間(蔵屋美香)

カタログ

第1章 いのちの海岸

第2章 社会の荒海

第3章 いのちの鳥の建設

年譜(高橋秀治 編)

日本語文献(小澤律子 編)

Bibliography (Compiled by Ritsuko T. Ozawa)

The Art of Yasuo Kuniyoshi — The Inner Borders (Masanori Ichikawa)

The Wondrous Space Created by Yasuo Kuniyoshi (Mika Kuraya)

Commentaries on the Chapters

1. The Shore of Life
2. The Rough Sea of the Society
3. The Construction of an Island of Life

出品リスト

List of Exhibits

カタログ編集担当：蔵屋美香・尾崎正明（東京国立近代美術館）

翻訳：小川紀久子/勝矢桂子

デザイン：香村秀樹（NCP）

編集：東京国立近代美術館/富山県立近代美術館/愛知県美術館

印刷：日本写真印刷株式会社

発行：東京国立近代美術館/富山県立近代美術館/愛知県美術館/NHK/NHKプロモーション
©2004

2-1-2 工芸館



オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて

28×22.5cm / 24p

本文：

序文（ジャンス・ラリー）

図版：

キャサリン・トルーマン/ロビン・ベスト/スー・ロレン

作品リスト

編集：金子賢治/木田拓也/富田康子

翻訳：木田拓也/富田康子/山本仁志

写真撮影：グラント・ハンコック

制作：印象社

発行：東京国立近代美術館 ©2003



三代藍堂 宮田宏平展—金属造形の先駆け

29×22.5cm / 184p

本文：

三代宮田藍堂の鑄金工芸—変わらぬものへの共鳴—（樋田豊次郎）

左 渡瀬型鑄金の系譜—初代本間琢斎から三代藍堂・宮田宏平まで—（小見秀男）

図版：

1- 作品

2- アクセサリー、オブジェ

作品解説

～内なる美～宮田宏平アクセサリー・オブジェについての聞き書き（小西珠緒編）

年譜

参考文献

出品目録

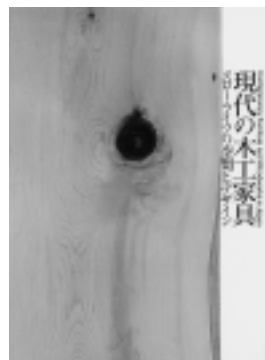
編集：新潟県立近代美術館 小西珠緒/宮崎俊英/小見秀男

東京国立近代美術館 金子賢治/北村仁美

翻訳：勝矢桂子/ルーシー・S・マクレリー

制作：株式会社 第一印刷所

発行：新潟県立近代美術館/東京国立近代美術館 ©2003



現代の木工家具—スローライフの空間とデザイン

29.7×21.3 cm / 84p

本文：

家具という新たな造形表現と工房家具（諸山正則）

図版：

早川謙之輔/小島伸吾/谷進一郎/中村好文/高橋三太郎/村上富朗/徳永順男/

富田文隆/須田賢司

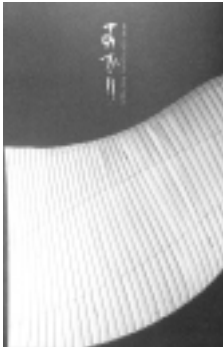
出品作品一覧

編集：金子賢治/諸山正則/唐澤昌宏

翻訳：山本仁志/ギャビン・フルー

制作：アイメックス・ファインアート

発行：東京国立近代美術館 ©2003



あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻

29.6 × 19.6 cm / 68p

本文：

あかり—イサム・ノグチが作った光の彫刻 (木田拓也)

図版

関連年表

出品作品リスト

編集：金子賢治/木田拓也/北村仁美

翻訳：高山シンシア/山本仁志

デザイン：桑畑吉伸

制作：アイメックス・ファインアート

発行：東京国立近代美術館 ©2003

2-2 巡回展カタログ



受容と発展 花ひらく近代洋画

26 × 19cm / 87p

本文：

「洋画」と今日(中林和雄)

i. 個性の芽生え

ii. 美術の実験

iii. 洋画の成熟

iv. 日本の外と内

v. 時代と美術

作家・作品解説

関連年表

出品目録

編集：東京国立近代美術館/丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/財団法人ミモカ美術振興財団

発行：東京国立近代美術館/丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/財団法人ミモカ美術振興財団

レイアウト：文京図案室

印刷：平和写真印刷株式会社

©東京国立近代美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

2004

2-3 目録・ガイド等

2-3-1 本館

近代日本の美術 会場案内

21 × 14.8cm (二つ折)

地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画 Floor Guide

21 × 10cm (三つ折)

野見山峯治展 Floor Guide

21 × 14.8cm (二つ折)

旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン 会場ガイド

9.4 × 12.4cm (四つ折)

ガイド：蔵屋美香

ヨハネス・イッテン—造形芸術への道 フロアプラン

14 × 12cm / 12p

イッテンの「造形芸術への道」をめぐる21のキーワード

色彩論

造形論/形態論

編集：保坂健二郎

執筆：松本 透/保坂健二郎

デザイン：有吉陽子

印刷：大日本印刷株式会社

発行：東京国立近代美術館 ©2004





近代日本の美術 会場案内[フランス語版・ドイツ語版・中国語版・韓国語版]
各9.2×23cm (四つ折)

国吉康雄展 FLOOR GUIDE

12.9×18.2cm

フロアマップ

用語解説

国吉康雄展 こどもセルフガイド

21×10cm (六つ折)

執筆：一條彰子/白濱恵里子/蔵屋美香

発行：東京国立近代美術館NHK ©2004

制作：日本写真印刷株式会社

東京国立近代美術館所蔵品目録 絵画

29.2×25cm / 228p

日本画

油彩 その他

国内作家

海外作家

索引

全図図版

発行：東京国立近代美術館©2004

制作：エディタス

2-3-2 工芸館

オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて

同時開催 所蔵作品展 近代工芸の名作—友禪と型染 フロア・ガイド

29.7×21 cm

会場図面

作家略歴

用語解説

所蔵作品展 近代工芸の百年 フロアガイド

29.7×21 cm

会場図面

展示テーマ解説

工芸の近代—「工芸再評価」の論議をめぐる1990's以後の素描(富田康子)

三代藍堂 宮田宏平展—金属造形の先駆け こどもセルフガイド・スタンプカード(たんけん!こども工芸館 三代らんどう・ゆびわ物語)

20×14cm / 10p (リング止め)

印刷：三和プリンティング

編集・発行：東京国立近代美術館

鑑賞カード

15×14 cm / 全12枚(表：カラー図版、裏：解説)

藤田喬平《虹彩》1964年

北原千麿《双魚衝立》1932年

富本憲吉《白磁八角蓋付壺》1932年

河井寛次郎《花鳥図壺》1926年頃

木村雨山《一越縮緬地 花鳥文訪問着》1934年

初代宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》1871-82年頃

高橋禎彦《ARC》1993年

深見陶治《遙カノ景〈望〉》1993年

熊倉順吉《力つきて》1969年

森正洋《G型しょうゆぎし》1958年

八木一夫《黒陶 環》1967年

喜多川平朗《紅地鳥蝶唐花文鑑》1960年

デザイン：斎城卓

印刷：三和プリンティング

編集・発行：東京国立近代美術館

『平成14年度東京国立近代美術館年報』訂正

『平成14年度東京国立近代美術館年報』内、I2「刊行物」内、I2-3「目録・ガイド等」内、I2-3-2「工芸館」に下記刊行物が追加されます。

東京国立近代美術館所蔵品目録 工芸

28.0×21.5cm / 336p

序

工芸目録:

陶磁

ガラス

漆工

木工

竹工

染織

人形

金工

その他の工芸

工芸資料

索引

編集: 金子賢治/諸山正則/唐澤昌宏/今井陽子/木田拓也/北村仁美/富田康子

制作: 印象社

発行: 東京国立近代美術館 ©2003

東京国立近代美術館所蔵品目録 デザイン

28.0×21.5cm / 140p

序

デザイン目録:

工業デザイン

グラフィック・デザイン

索引

編集: 金子賢治/諸山正則/唐澤昌宏/今井陽子/木田拓也/北村仁美/富田康子

制作: 印象社

発行: 東京国立近代美術館 ©2003

2-4 研究紀要・年報等

東京国立近代美術館研究紀要 第8号

24×18.3cm / 103p

石黒宗麿研究(金子賢治)

自然の探訪者—明治30年代の雑誌「メデア」と風景(鈴木勝雄)

松田権六資料の基礎的研究—手帳を中心として(北村仁美)

20世紀前半の絵画における文字(1): パウル・クレー(三輪健仁)

発行所: 東京国立近代美術館

制作: 印象社

平成14年 東京国立近代美術館年報

25.6×18.3cm / 166p

〈美術・工芸部門〉

I 作品収集・修理等 / II 公衆への観覧 / III 調査・研究 / IV 普及・広報

〈映画部門〉

I 作品収集・復元等 / II 公衆への観覧 / III 調査・研究 / IV 普及・広報

〈記録〉

発行: 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館

制作: エディタス



現代の眼

No.539 4-5月号

特集1：牛腸茂雄 / 特集2：オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて
牛腸茂雄の眼差しに潜むもの◆佐藤 真

写真のスタンダード—「牛腸茂雄」という記憶◆柳本尚規

オーストラリア陶芸の新しい動向◆高 満津子

石炭の塊の美しさ◆ケビン・マレイ

ライト・ブラック—科学の魅力の回復◆バメラ・ゼプリン

[連載18]東京国立近代美術館の半世紀◆蔵屋美香



No.540 6-7月号

特集1：地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画 / 特集2：三代藍堂 宮田宏平展—金属造形の先駆け

昭和10年代の古代憧憬◆小林俊介

昭和戦前期の浪漫主義的絵画について◆土方明司

終わりのない物語—水平線の彼方へ◆松原龍一

宮田藍堂さんのこと◆山根基世

[小企画展]「美術と音楽」によせて◆古田 亮

[連載19]東京国立近代美術館の半世紀◆蔵屋美香



No.541 8-9月号

特集1：野見山暁治 / 特集2：現代の木工家具

覚書—野見山暁治展に寄せて◆牧野研一郎

ある日の先生◆上葛明広

木工の四十年◆早川謙之輔

「現代の木工家具」展に際し、家具 デザイン 雑感◆長 大作

[作品研究]人形の虚実—平田郷陽の制作◆今井陽子

[連載20]東京国立近代美術館の半世紀◆一條彰子



No.542 10-11月号

特集1：旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン / 特集2：あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻

二重露光の旅の途上で トラヴェ シーア、エクソダス、ヴァイタル◆今福龍太

リパティ・パスポート◆巖谷國士

《大地の彫刻》と《あかり》◆川村純一

永遠に光り輝く《あかり》◆尾関秀太郎

[作品研究]河本五郎—挑戦と反逆の造形◆唐澤昌宏

[教育普及レポート]夏休み!こども美術館◆一條彰子



No.543 12-1月号

特集：ヨハネス・イッテン—造形芸術への道

ヨハネス・イッテンの造形探求◆山野英嗣

生成の根源へ—イッテンの造形世界◆向井周太郎

[座談会]「所蔵作品展 近代工芸の百年」によせて 「工芸」再読の意味◆富田康子

[講演会報告]野見山暁治「自作を語る」

[講演会報告]《花ひらく木をめぐる抽象》—パウル・クレーの反復の芸術—

[作品研究]麦穂の庭—土田麦穂《舞妓林泉》について◆中村麗子



No.544 2-3月号

特集：国吉康雄—ふたつの世界の間で

国籍を超えた画家 国吉康雄◆巖谷 要

ヘンリー・マクブライド—ある美術批評家の国吉観の変遷 1922年から35年まで◆ハート・ウィンザー＝タマキ

[所蔵作品展]「近代工芸の名品—花」によせて…“花”三態◆諸山正則

[教育普及レポート]来館者とともに見る・考える—MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド

[作品研究]杉田禾堂《用途を指示せぬ美の創案 原始期・過渡期・完成期》について◆木田拓也

[連載21]東京国立近代美術館の半世紀◆金子賢治



3 広報

3-1 広報

3-1-1 本館

■マスメディア関係

年間スケジュール、プレスリリース(展覧会ごとに、内容を紹介する資料(A4判、フルカラー、3～8P))と記者内見会(原則展覧会開催日の前日に開催)の案内を作成、新聞社・雑誌社・テレビ局・ウェブサイト管理会社・ライター等マスメディア関係約490件に配布。展覧会紹介、美術館紹介に関する取材、撮影、資料提供に随時対応。

■美術関係機関

年間スケジュールのほか、展覧会ごとのポスター、チラシを、美術館・美術学校・ギャラリー等約1,200件に送付(都内・関東近県の主要な国公立美術館など約60館にはチラシを交換送付)。

■学校関係

年間スケジュールを小中高等学校約2,900件に送付。

■その他の施設

年間スケジュール、チラシ、ポスターをホテル・観光協会等約150件に送付。展覧会に応じて、美術・文化関係で定評のある大型書店や飲食店・レコード店等に、チラシや割引券付フライヤー(葉書型、葉型、切符型)の配布、PR誌上での展覧会紹介等の協力を得ている。

■交通広告

展覧会ごとにJR、地下鉄、私鉄等でポスターを掲出。

■ホームページなど

ホームページを一新。日替情報、講演会・トークなどのイベント情報、所蔵作品展の出品リストなど掲出し、利便性を図っている。また展覧会ごとのページでは会場風景や作品図版を紹介、割引券の機能ももたせた。平成15年8月には月刊のメールマガジンを創刊し、展示作品や展示予告など、来館者のニーズに対して、美術館の側から積極的に配信している。

3-1-2 工芸館

工芸館では、3-1-1「本館」に掲げる活動に加え、次の3誌に所蔵品を取り上げた連載を行っている。

- ア. 「近代工芸の名作」『月刊チャイム銀座』(発行:株式会社和光)
その月の展覧会出品作の中から一点を選び、その見所、歴史的意義、作家のプロフィールなどを解説。
- イ. 「細部の真実 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌淡交』(発行:株式会社淡交社)
所蔵品の中から一点を選び、その全図と拡大写真を比較掲載し、細部の

造りがいかに全体の印象と違うか、また細部がいかに作品全体を構成しているかを解説。

「古典が息づく現代の工芸 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌淡交』（発行：株式会社淡交社）

所蔵品の中から一点を選び、古典がどのように生かされて現代の作品制作と結びついているかを解説。

ウ、「日本の至宝 東京国立近代美術館コレクションより」『TAIKI』（発行：株式会社リベロ）

所蔵品の中から名品を一点選び、その見所、歴史的意義、作家のプロフィールなどを解説。

また、次の2誌に情報を提供し、各号で展覧会広報を行っている。

ア、「展覧会情報」『CLUB』（発行：株式会社伊勢丹）

在日外国人に対する展覧会情報の提供。

イ、「私だけが知っている人間国宝 泣きっ面 ふくれっ面 笑い声」『婦人画報』（発行：アシェット婦人画報社）

展覧会に出品している人間国宝のエピソードを親しい関係者から取材、紹介し、あわせて展覧会情報を提供。

3-2 美術館情報システムによる普及・広報

下記日誌の通り、平成7年度より、国立情報学研究所による学術情報ネットワーク(sinet)を介し、インターネット上に東京国立近代美術館ホームページ(URL = <http://www.momat.go.jp/>)を開設しており、平成15年度も各種展覧会、上映会、講演会などの催事情報の提供につとめた。10月には、トップページほかのデザインを一新するとともに、日替わり情報を掲載して、迅速かつ最新情報の提供が可能となった。本年度は、メールマガジンを8月に創刊し、8号刊行して、約1,000名の登録者を得ている。

平成13年6月、独立行政法人国立美術館ホームページ(URL = <http://www.momat.go.jp/IAINMoA/index.html>)を開設しているが、平成14年度10月より、「法人文書ファイル管理システム」を整備し、独立行政法人国立美術館に関する情報を広く公開することにつとめていることは、従来どおり変わりはない。

美術館のリニューアル・オープンとともに、3階に設けられた情報コーナーにおいて、館内来館者システムの端末を3台設置し、実運用に入るとともに、著作権者からの許諾を得て、閲覧可能画像の増加につとめている。

主な日誌：

平成7年9月	学術情報ネットワーク(sinet)接続 東京国立近代美術館＝東京大学大型計算機センター 64Kbps専用線
平成7年10月	東京国立近代美術館ホームページ開設 (http://www.momat.go.jp/)
平成8年6月	「インターネット版展覧会カタログ」として、「岸田劉生 所蔵作品と資料の展示」のカタログの抜粋(カラー図版のページ)を掲載

平成8年9月	来館者向け情報提供端末を本館4階ロビーに1台設置
平成9年8月	「小・中学生のための鑑賞教室」を追加
平成9年10月	来館者向け情報提供端末を工芸館2階に1台設置
平成9年12月	新しい所蔵作品検索サービスをインターネットホームページに公開
平成10年8月	英文版ホームページを追加
平成13年12月	美術館のリニューアル・オープンのお知らせのページを追加
平成13年6月	独立行政法人国立美術館ホームページ (URL = http://www.momat.go.jp/IAINMoA/index.html) を開設
平成13年10月	東京国立近代美術館＝東京大学情報基盤センター 1.5Mbps専用線
平成14年3月	工芸館のページにバリアフリー設備についての案内を追加
平成14年3月	ホームページでの所蔵作品検索システムを更新
平成14年10月	独立行政法人国立美術館「法人文書ファイル管理システム」を公開
平成15年1月	所蔵図書資料の検索OPAC (Online Public Access Catalog) を公開
平成15年8月	東京国立近代美術館メールマガジンを創刊
平成15年10月	トップページデザインを更新し、以後、日替わり情報を日次更新で掲載
平成16年3月	東京都現代美術館美術図書室、横浜美術館美術図書室書との横断検索を公開

ホームページ上での公開・提供情報は、概略、次のような構成からなっている。
東京国立近代美術館ホームページの主な構成：

- トピックス
- 美術館
- 工芸館
- フィルムセンター
- イベント
- 解説ボランティア
- こどものページ
- ライブラリ
- 情報検索
- リンク
- 出版物
- 利用案内
- 交通案内
- 採用情報
- お問合せ先

1 作品収集 Acquisition

1-1 映画フィルム Films

本年度は、各社からの購入、所蔵フィルムの不燃化や複製、寄贈等によって収蔵本数は1,944本の増加となった。平成13年度より、主として映像文化製作者連盟加盟の文化・記録映画(短篇映画)製作会社に対し、「原版寄贈」の呼びかけを行なっているが、本年度は株式会社フェダプロダクション、現代放映株式会社、独立行政法人国際観光振興機構等、15の企業や団体について寄贈手続きを完了した。原版フィルムという最終素材を永久保存する場としてのフィルムセンターの役割は、文化・記録映画のみならず劇映画の分野においても広がりを見せ、角川大映株式会社より2,375本に及ぶ原版の大量寄託を受け、同社の原版の管理はほぼすべてフィルムセンターに託されることとなった。また、米国ジョージ・イーストマン・ハウスの仲介を受け、ワーナー・ブラザーズ社よりアメリカ映画等の16mmプリント213本の永久貸与を受けた。川喜多記念映画文化財団より可燃性の外国劇映画原版類357本をはじめとする大量寄贈を受け、独立プロ名画保存会や近代映画協会からも可燃性原版の寄贈を受けた。

購入については、企画上映「映画監督 市川崑」のために、未収蔵であった同監督作品を多数購入したほか、映像文化製作者連盟との共催企画「短篇映像メディアに見る現代日本」のためには文化・記録映画の作品を購入した。また、次年度開催の企画上映「日本アニメーション映画史」および「映画女優 高峰秀子」のために先行調査および購入を行なった。また、海外同種機関との協力関係の中で、ロシアの Gosfilmofond が所蔵する日本映画の中から54本を購入したほか、フィルムセンターが所蔵するドイツ映画『除夜の悲劇』と、ジョージ・イーストマン・ハウスが所蔵するアメリカ映画『カルメン』とを交換する相互寄贈を行った。

Total of 1,944 films were added to our collection this year. These prints were purchased, donated, or duplicated from the original nitrate films of our collection for preservation purposes. Through the Japan Association of Audiovisual Producers, Inc., we have been formally encouraging the production companies of cultural and documentary short films to donate the original negatives and other master elements to NFC since 2001. This year, 15 organizations and companies including Fueda Production Co., Ltd., Gendai Houei Co., Ltd., Japan National Tourist Organization completed the donation. The role of NFC as a permanent archive of the original materials has expanded from the cultural and documentary films to encompass feature films, and NFC received the donation of 2,375 master films by Kadokawa Daiei Co., Ltd., which also put NFC in charge of almost all of their originals. Also, thanks to the mediation by the George Eastman House, USA, NFC has received 213 16mm prints of American films from Warner Brothers Company for permanent loan. NFC also received a significant quantity of donation from Kawakita Memorial Film Institute including 357 master films of foreign feature films, and some nitrate master films by Dokuritsu Puro Meigahozonkai and Kindai Eiga Kyōkai.

In conjunction with the screening program “Kon Ichikawa Retrospective,” NFC purchased a number of films by Ichikawa. For “Contemporary Japan as Seen by Documentary Films” co-organized with Japan Association of Audiovisual Producers, Inc., NFC purchased cultural and documentary films. Also, research and purchase were conducted for the following year’s programs, that is, “A History of Japanese Animation” and “Hideko Takamine; Film Actress.” Through the cooperation with various international institutions, NFC bought 54 titles for the holdings of Japanese films at Gosfilmofond, Russia. NFC exchanged German film *Sylvester* in its collection with American film *Carmen* in the collection of George Eastman House.

フィルムセンターで平成15年度中に寄贈を受けた映画関係資料は下記のとおりである(図書資料は除く)。

- (1) 『無法松の一生』(稲垣浩、1958年)ポルトガル語版ポスター1点:佐藤マツ氏寄贈
- (2) 手書き原稿など大藤信郎関連資料8点:大藤和夫氏寄贈
- (3) 五所平之助俳句色紙および岡田嘉子サイン色紙計6点:福岡敏矩氏寄贈
- (4) 奥山儀八郎作『につぼん昆虫記』版画1展:奥山義人氏寄贈
- (5) イカー映写機ヘッドマシン(製造番号33088)1点:相川孝二郎氏寄贈

なお、上記の他にもプロマイドの製造、卸で知られる春美栄光堂旧蔵のガラス原版一式、コレクターの故・御園京平(本名・月村吉治)氏の収集による映画文献、映画館プログラム、スチル写真などの資料一式、反町雄一氏旧蔵の衣笠貞之助および大映関係資料一式などの大型コレクションが寄せられており、正式な手続きへ向けて整理作業が進められている。また本年度は新たに角川大映映画から自社作品のスチル写真ガラス乾板を一式、そして日本映画新社からも多数の撮影機材を受け入れることとなり既に搬入を終えている。

Non-film materials (excluding books) officially donated to NFC during 2003 are as follows:

- (1) 1 poster (Portuguese version) of *Muhōmatsu no isshō* (Hiroshi Inagaki, 1958) from Matsu Sato,
- (2) 8 materials related to Nobuyo Ofuji including hand written manuscripts from Kazuo Ofuji,
- (3) 6 shikishi (square piece of fancy paper) with Heinosuke Goshō's hand written haiku and Yoshiko Okada's autograph from Toshinori Fukuma,
- (4) 1 woodcut print of *Nippon konchūki* by Gihachirō Okuyama from Gijin Okuyama,
- (5) 1 Ica head machine of projector (product number: 33088) from Kōjiro Aikawa.

In addition, the following items were handed to NFC and are now in the process of sorting and checking to prepare for official donation. They are: a set of original glass plates of photographs of movie stars from the well-known manufacturer and wholesaler Harumi Eikōdō, a set of non-film materials collected by the late collector Kyōhei Misono(a.k.a. Yoshiharu Tsukimura) including publications on film, programs of film and still photographs, and Yūichi Sorimachi's collection of materials related to Teinosuke Kinugasa and Daiei. As for corporate donors, a set of dry plates of the still photographs of Daiei films and a large number of movie cameras were given by Kadokawa Daiei Co., Ltd. and Nippon Eiga Shinsha Co., Ltd. respectively.

フィルムセンター所蔵の可燃性フィルムを不燃化した例は22本であり、中には川喜多記念映画文化財団より寄贈を受けた劇映画2作品や、ライオン株式会社より寄贈を受けた1910年のオリジナルネガ等、きわめて貴重な作品が含まれる。3-1-1で言及された購入フィルムにも、フィルムセンター以外の機関や製作会社が所有する可燃性素材等からデュープネガや上映プリントを複製したケース、すなわち実質的には不燃化と言えるケースが含まれている。また、9.5mmフィルムの形で発見された『和製喧嘩友達』については、松竹株式会社との共催企画「映画監督 小津安二郎」での上映のため、松竹株式会社と共同でデジタル復元を行い、海外の専門業者と国内の現像所との共同復元を実現した。このほか、所蔵原版等からの複製を適宜必要に応じて行なった。前年度、フィルムセンターとして初めてデジタル復元を行なった『斬人斬馬劍』についても、新たな方法論を開発するため、国内の現像所に依頼して、特に傷の激しい一部についてさらなるデジタル修復を行った。

NFC produced 22 safety duplicates of the nitrate prints of its collection. They include valuable titles such as 2 feature films donated by Kawakita Memorial Film Institute and the 1910 original negative film donated by Lion Co., Ltd. The purchased films mentioned in Section 3-1-1 include duplicated negative and projection prints made from nitrate materials that belong to production companies and other outside institutions or materials that were in a poor condition. As for *Wasei kenka tomodachi* which was discovered in the form of 9.5mm film, NFC conducted digital restoration with the cooperation of Shochiku Co., Ltd., by commissioning both an overseas laboratory and domestic laboratory, and screened it in the program “Yasujiro Ozu: Japanese Film Master.” Regarding *Zanjin zanbaken* (Slashing Sword) which was digitally restored in the previous year for the first time in the history of NFC, NFC commissioned a domestic laboratory to further digitally restore parts of the film that were especially damaged. This was done in order to develop new methods of restoration.

フィルムセンターが所蔵する各種コレクションのカタロギングは文化庁の「文化財情報システム・美術情報システム」構築の一環として開発されたNFCD (National Film Center Database)を中心に行われている。

NFCD上で進められている映画フィルムの登録作業は、新規収蔵フィルムの登録に加えて、コンピュータ・データベース導入以前のコレクションを対象とする遡及登録も行われたが、引き続き本年度は文化・記録映画(短篇映画)の原版フィルムの登録作業が大きな比重を占めている。また将来の公開に向けて、実際の映像にあたりながら、日本の戦前期ニュース映画の詳細なコンテンツについてのデータ収集も進行している。

映画関係資料のカタロギングでは、昨年に引き続き主にスチル写真を対象とする情報の整備を行った。これは、従来は散発的に作成されていたレコードと素材の再確認と照合、未登録レコードの新規作成、そして一元的な資料番号の付与にいたる作業を総合的に行うもので、情報・資料係が設置された平成12年度から15年度末までの処理件数は約3万7千件を数えている。また、次年度以降はポスター・コレクションにも作業範囲を広げる予定である。

Our collection is mostly catalogued by our in-house database, NFCD (National Film Center Database), that was designed as a part of “Cultural Properties and Art Objects Database System” initiated by Agency for Cultural Affairs.

[Films]

In addition to newly purchased films, films that were acquired before the implementation of computerized systems were also entered retroactively in NFCD. A significant number of cultural and documentary short films were donated to NFC in the form of the original films, and they have also been entered into NFCD. Also, in order to prepare for the future screenings of the news films from the pre-war period, these films were viewed and detailed descriptions of the contents were written down.

[Non-film materials]

Since last year, we have continued to sort out the records of still photographs. In the process, we first re-confirmed the materials and the records which used to be randomly made; second, we newly made the records of the un-registered records, and then we introduced a unified numbering system. So far, 37,000 records of still photographs have been completed and we intend to start the same work on posters in 2004.

1 企画上映等

1-1 観覧者数

大ホール

【企画上映年間入場者総数】

- 336作品・253番組・267日間(延べ287日間)・635回上映
- 入場者総数100,010人 一般67% シニア25% 学生8%
- 1回平均157人

209 特集・逝ける映画人を偲んで1998-2001

In Memory of the Film Figures We Lost in 1998-2001

1月28日(火)-3月28日(金) / 4月8日(火)-5月18日(日)

	94作品	86番組	88日間	172回上映
入場者総数	29,208人	一般63%	シニア29%	学生8%
1回平均	170人			
うち平成15年度分				
4月8日(火)-5月18日(日)	36作品	36番組	36日間	72回上映
入場者総数	13,649人	一般63%	シニア29%	学生8%
1回平均	190人			

211 発掘された映画たち2003

Cinema: Lost and Found 2003 - The Treasure of Japanese Cinema

5月27日(火)-7月13日(日) 53作品 28番組 42日間 84回上映
 入場者総数11,767人 一般61% シニア33% 学生6% 1回平均140人

212 映画監督 市川崑

Kon Ichikawa Retrospective

7月22日(火)-10月5日(日) 66作品 63番組 66日間 126回上映
 入場者総数27,977人 一般67% シニア27% 学生6% 1回平均222人

213 社団法人映像文化製作者連盟創立50周年記念 短篇映像メディアに見る現代日本
 Contemporary Japan as Seen by Documentary Films

9月16日(火)-9月28日(日) 66作品 18番組 12日間 36回上映
 入場者総数1,639人 一般61% シニア27% 学生11% 1回平均46人

214 日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在

Turkish Cinema Now

10月9日(木)-10月19日(日) 10作品 10番組 10日間 20回上映
 入場者総数2,751人 一般73% シニア16% 学生11% 1回平均138人

215 聖なる映画作家、カール・ドライヤー

The Art of Carl Th. Dreyer

10月28日(火)-11月9日(日) 8作品 8番組 12日間 24回上映
 入場者総数5,345人 一般79% シニア3% 学生18% 1回平均223人

216 小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術

Yasujiro Ozu: Japanese Film Master

11月18日(火)-1月25日(日) 41作品 36番組 53日間 157回上映
 入場者総数19,850人 一般74% シニア18% 学生8% 1回平均126人

217 第4回東京フィルメックス 特集上映 清水宏 生誕100年
 The 4th TOKYO FILMeX Special Program: The 100th
 Anniversary of Shimizu Hiroshi's Birth
 11月22日(土)-11月30日(日)
 8作品 8番組 8日間 24回上映
 入場者総数2,582人 一般81% シニア11% 学生8% 1回平均108人

作品・番組数、日数及び上映回数については、有楽町・朝日ホールにおける上映分を除く。

218 シリーズ・日本の撮影監督(1)
 Master Cinematographers of Japan Part 1
 2月3日(火)-3月28日(日) 48作品 46番組 48日間 92回上映
 入場者総数14,450人 一般60% シニア35% 学生5% 1回平均157人

*一般、シニア、学生の割合の算出は、有料入場者数を対象に行った。

展示室

展覧会 映画遺産 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより
 The Japanese Film Heritage - From the Non-Film Collection of the
 National Film Center
 ①平成14年11月27日(水)-平成15年10月19日(日) 154日間[平成15年度分]
 入場者総数5,305人[平成15年度分:4月8日(火)から] 1日平均34人
 ②11月18日(木)-3月28日(日) ※常設的展示 101日間
 入場者総数5,494人 1日平均54人

映画資料でみる 蒲田時代の小津安二郎と清水宏
 Days of Youth: Ozu and Shimizu at the Shochiku Kamata Studio
 11月18日(木)-3月28日(日) 101日間
 入場者総数5,494人 1日平均54人

1-2 企画上映 Screening Programs

1-2-1 上映企画一覧(開館より平成14年度まで)
Screenings from the Opening in 1970 until 2002

回数 企画上映名

昭和45年度 [1970]

- 1 アメリカ古典映画の回顧
- 2 成瀬巳喜男監督の特集
- 3 シナリオライター野田高梧をしのぶ
- 4 フランス映画の歴史
- 5 ドイツ映画の回顧上映

昭和46年度 [1971]

- 6 田中絹代特集—女優の歩みを見る日本映画史—
- 7 内田吐夢監督の回顧上映
- 8 フランス映画の特集
- 9 アニメーション映画の回顧
- 10 小津安二郎監督の特集

昭和47年度 [1972]

- 11 ベルギー映画の特集
- 12 占領下の日本映画
- 13 音楽映画の特集
- 14 新収蔵映画の上映
- 15 金語楼映画の上映
- 16 ポーランド映画の回顧
- *特別上映 第8回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
- 17 日本の記録映画特集—戦前篇—

昭和48年度 [1973]

- 18 イタリア映画の特集
- 19 溝口健二監督の特集
- 20 飯田蝶子特集
- *特別上映 ジョン・フォード監督追悼特別上映
- 21 1930年代ヨーロッパ映画特集
- 22 1930年代ヨーロッパ映画特集(再上映)
- 23 収蔵映画未公開作品の上映
- 24 —交換映画祭—現代ブルガリア映画の展望

昭和49年度 [1974]

- 25 五所平之助監督特集
 - 26 特集・逝ける映画人を偲んで
 - 27 日本の記録映画特集—戦後篇—
 - 28 監督研究 清水宏と石田民三
 - 29 島津保次郎監督特集
 - *特別上映 第9回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
 - 30 フランス映画を創った人たち—第1期
 - 31 —ハンガリー映画祭—ハンガリー映画の30年
- 土曜特集 映画史上の名作

昭和50年度 [1975]

- 32 収蔵映画未公開作品の上映 — 戦前の時代劇を集めて
33 — エリザベス女王御訪日記念 — 英国映画の史的展望
34 特集・逝ける映画人を偲んで〈1974-1975〉
35 — 昭和50年度(第30回記念)芸術祭協賛 — 芸術祭大賞映画の回顧
36 フランス映画を創った人たち — 第2期
37 小津安二郎監督特集
土曜特集 映画史上の名作

昭和51年度 [1976]

- 38 戦後日本映画の流れ〈1946-1962〉 — 収蔵映画未上映作品より —
39 戦前オーストリア映画の回顧〈1919-1937〉
40 監督研究 衣笠貞之助
41 特集・逝ける映画人を偲んで〈1975-1976〉
42 70年代ポーランド映画の展望
43 — 建国200年記念 — アメリカ映画の史的展望(1894-1936)
*特別上映 第10回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
44 木下恵介監督特集
45 春休み少女少女名作鑑賞
土曜特集 映画史上の名作

昭和52年度 [1977]

- 46 — 文化功労者記念 — 黒沢明監督特集
47 監督研究 伊藤大輔
48 現代ブルガリア映画の展望
49 恐怖と幻想の映画特集
50 長編ドキュメンタリー映画10選
51 夏休み少女少女名作鑑賞
52 特集・逝ける映画人を偲んで〈1976-1977〉
53 映画に見る昭和十年代
54 日本映画技術の展望 — 戦後30年 —
55 カナダ映画の史的展望
56 ソ連映画の史的展望(1923-1946)
57 日本のアニメーション映画(1924-1958)
58 春休み少女少女名作鑑賞
土曜特集 日本映画特選/各国特選/映画史上の名作/昭和十年代公開のフランス映画

昭和53年度 [1978]

- 59 日本映画の流れ(1961-1966) — 収蔵映画未上映作品より —
60 映画史上の名作(第1集)
61 溝口健二監督特集
62 夏休み少女少女名作鑑賞
63 特集・逝ける映画人を偲んで〈1977-1978〉
64 — 生誕100年記念 — マキノ省三とその人脈
65 映画史上の名作(第2集)
66 チャプリン初期短篇特集
— キーストン、エッサネイ、ミューテュアル、ファースト・ナショナル時代 —
67 デンマーク映画の史的展望
68 田坂具隆監督特集
69 春休み少女少女名作鑑賞
土曜特集 各国の音楽映画/各国特選/映画史上の名作/短篇・文化・記録映画特集

昭和54年度 [1979]

- 70 長谷川一夫特集
 - 71 映画史上の名作
 - 72 特集・逝ける映画人を偲んで(1978-1979)
 - 73 夏休み少年少女名作鑑賞
 - 74 成瀬巳喜男監督特集
 - 75 現代ベルギー映画の展望
 - 76 牛原虚彦監督特集
 - 77 豊田四郎監督特集
 - 78 戦後フランス映画秀作特集(1945-1954)
 - 79 監督研究 ジャン・ルノワール
 - 80 オーストラリア映画の史的展望(1919-1956)
 - 81 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 各国特選／戦前の音楽映画／米英映画特選／溝口健二監督特選／小津安二郎監督特選(サイレント篇)／短篇文化・記録映画特集

昭和55年度 [1980]

- 82 戦後日本映画の流れ(1967-1971) — 収蔵映画未上映作品から —
 - 83 監督研究 クロード・ジュトラ
 - 84 映画史上の名作
 - 85 特集・逝ける映画人を偲んで(1979-1980)
 - 86 夏休み少年少女名作鑑賞
 - 87 — 近代映画協会30年記念 — 監督研究吉村公三郎と新藤兼人
 - 88 戦後フランス映画秀作集(1955-1960)
 - 89 小津安二郎監督特集
 - 90 マーティン・スコセッシ監督特集
 - 91 スイス映画の史的展望(1941-1979)
 - 92 — 国際障害者年協賛 — 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 小津安二郎監督特選(アンコール上映 I)
戦後フランス映画秀作集(アンコール上映)／映画史上の名作(アンコール上映)／一つの原作・二つの映画／短篇・文化・記録映画特集

昭和56年度 [1981]

- 93 ジョルジュ・サドゥール賞受賞作品選集
 - 94 映画史上の名作
 - 95 稲垣浩監督特集
 - 96 特集・逝ける映画人を偲んで(1980-1981)
 - 97 夏休み少年少女名作鑑賞
 - 98 1920年代のドイツ映画
 - 99 日本のトーキー: 誕生から確立へ
 - 100 イタリア古典映画特集
 - 101 日本映画史研究(1) — 東映映画30年の歩み —
 - 102 フィンランド映画の史的展望(1940-1977)
 - 103 収蔵映画未上映作品集(外国篇)
 - 104 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 小津安二郎監督特選(アンコール上映 II)／映画史上の名作／清水宏監督研究／短篇・文化・記録映画特集

昭和57年度 [1982]	105	映画史上の名作	
	106	D.W. グリフィス監督特集	
	107	夏休み少年少女名作特集	
	108	特集・逝ける映画人を偲んで〈1981-1982〉	
	109	日本映画史研究(2) — 東宝映画50年の歩み—	
	110	現代イギリス映画の展望	
	111	スウェーデン映画の史的展望〈1910-1969〉	
	112	春休み少年少女名作鑑賞	
	土曜特集	短篇・文化・記録映画特集	
	昭和58年度 [1983]	113	映画史上の名作
		114	ジョン・フォード監督特集〈1917-1946〉
		115	夏休み少年少女名作鑑賞
116		特集・逝ける映画人を偲んで〈1982-1983〉	
117		フランス映画の回顧〈1930-1946〉(1)	
118		今井正監督特集	
119		フランス映画の回顧〈1930-1946〉(2)	
120		春休み少年少女名作鑑賞	
土曜特集		短篇・文化・記録映画特集	
昭和59年度 [1984]		121	フィルムセンター所蔵映画選集(1) 河村黎吉選集／テレンス・フィッシャー監督選集／ラルフ・トーマス監督選集／〈忠臣蔵〉映画選集／〈エノケン〉映画選集／マイケル・パウエル&エメリック・プレスバーク監督選集／〈鞍馬天狗〉映画選集／カルミネ・ガッローネ監督選集
	122	1920年代のドイツ映画 — 表現主義と新即物主義の間	
	123	撮影監督 宮川一夫特集	
	124	夏休み少年少女名作鑑賞	
	125	特集・逝ける映画人を偲んで〈1983-1984〉	
	126	スペイン映画の史的展望〈1951-1977〉	
	127	フィルムセンター所蔵外国映画選集	
	土曜特集	短篇・文化・記録映画特集	
	昭和60年度 [1985]	128	フィルムセンター所蔵日本映画選集 — 名優の魅力 — 吉川満子選集／藤原釜足選集／浦辺粂子選集／浜村純選集／清川虹子選集／殿山泰司選集
		129	中国映画の回顧〈1922-1952〉
130		所蔵外国映画選集II 〈フィルムセンター焼失フィルムのための募金の会寄贈による〉	
131		フィルムセンター所蔵日本映画選集 — 映画カメラマンの魅力 〈1921-1944〉 水谷文次郎(至宏)選集／杉山公平選集／三村明選集／高橋通夫(與吉)選集／伊藤武夫選集	
132		特集・逝ける映画人を偲んで〈1984-1985〉	

昭和61年度 [1986]	133	フィルムセンター所蔵外国映画選集 中南米映画選／北欧映画選／G.W.パプスト監督選／アナートル・リト ヴァク監督選／カール・リッター監督選／ヴィリ・フォルスト監督選／ジ ュリアン・デュヴィヴィエ監督選／マルセル・シャンタル主演映画選／ 1930年代のヨーロッパ音楽映画選／オムニバス映画選／ドキュメンタ リー映画選／アニメーション映画選／“映画の映画”選／金曜特集・無 声映画選
	134	日本映画史研究(3) — 蒲田映画の世界(1921-1936)
	135	アメリカ映画の名匠たち — ラオール・ウォルシュとその時代(1914- 1939)
	136	現代スイス映画の展望
昭和62年度 [1987]	137	蒲田映画の若き日 — 小津・清水・成瀬
	138	フィルムセンター所蔵日本映画選集
	139	特集・逝ける映画人を偲んで(1986-1987)
	140	中国映画の回顧(1932-1964)
	141	フィルムセンター所蔵外国映画選集
	142	フィルムセンター所蔵日本映画選集(1)
昭和63年度 [1988]	143	フィルムセンター所蔵日本映画選集(2)
	144	特集・逝ける映画人を偲んで(1987-1988)
	145	フィルムセンター所蔵映画選集 — 日本のアニメーション
	146	フィルムセンター所蔵外国映画選集 — D.W.グリフィスとその時代
平成元年度 [1989]	147	フィルムセンター所蔵日本映画選集 — 新興キネマの世界
	148	フランス映画の黄金時代
	149	日本映画の系譜
	150	戦後ヨーロッパ映画秀作選
平成2年度 [1990]	151	シナリオ作家 依田義賢特集
	152	特集・「ポーランド派」の映画
	153	特集・逝ける映画人を偲んで(1988-1989)
平成3年度 [1991]	154	発掘された映画たち — 小宮登美次郎コレクション
	155	特集・逝ける映画人を偲んで(1990-1991)
平成4年度 [1992]	156	内田吐夢監督特集
	157	孫瑜監督と上海映画の仲間たち 中国映画の回顧
	158	フィルムセンター所蔵日本映画選集
平成5年度 [1993]	159	知られざるアメリカ映画
	160	特集・逝ける映画人を偲んで(1991-1993)
平成6年度 [1994]	161	サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて

平成7年度 [1995]	162	開館記念特集 フィルムは魅了する:銀幕の体験
	163	開館記念特集 フィルムは記録する:日本の文化・記録映画作家たち
	164	マキノ雅広の世界:「次郎長三國志」と「日本侠客伝」
	165	インド映画の魅力
	166	1930年代ヨーロッパ映画10選
	167	女優 山田五十鈴
	168	特集・逝ける映画人を偲んで(1993-1994)
	169	第8回東京国際映画祭協賛企画 特集上映 日本映画の系譜
	170	特別企画上映/映画生誕百周年記念 シネマの冒険 闇と音楽
	171	ユニカラー:甦る国産カラー・プロセス 「緑はるかに」特別上映会
	172	映画生誕百周年記念 ゴーモン映画の100年 フランス映画の100年
	173	映画生誕百周年記念 ジョルジュ・メリエス 夢と魔法の王国
	174	ゴーモン映画秀作選
	175	1950年代の青空と太陽
	平成8年度 [1996]	176
177		日本映画の発見Ⅱ:トーキーの開始と戦前の黄金時代
178		芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽 1996
179		ジャン・ルノワール、映画のすべて。
180		フィルムは記録する '97:日本の文化・記録映画作家たち
平成9年度 [1997]	181	日本映画の発見Ⅲ:戦争の時代
	182	特集・逝ける映画人を偲んで 1995-1996
	183	芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽 1997
	184	NFC所蔵外国映画選集 1970年代映画の一断面
	185	フィルムは記録する '98:日本の文化・記録映画作家たち
平成10年度 [1998]	186	日本映画の発見Ⅳ:占領下のNIPPON
	187	特集・逝ける映画人を偲んで 1997
	188	シネマの冒険 闇と音楽 1998
	189	憧憬のフランス映画—1930年代を中心に—
平成11年度 [1999]	190	日本映画の発見Ⅴ:栄光の50年代
	191	発掘された映画たち 1999
	192	ハリウッド伝説 ハワード・ホークス映画祭
	193	シネマの冒険 闇と音楽:フリッツ・ラング選集
平成12年度 [2000]	194	特別追悼特集 偉大なる“K”(1):小林正樹
	195	特別追悼特集 偉大なる“K”(2):黒澤明
	196	特別追悼特集 偉大なる“K”(3):木下恵介
	197	シネマの冒険 闇と音楽:オランダの無声映画 オランダ映画博物館無声映画コレクションより
	198	フィルムは記録する2001:日本の文化・記録映画作家たち
	199	発掘された映画たち2001:ロシア・ゴスフィルモフォンで発見された日本映画

平成13年度 [2001]

- 200 中国映画史の流れ:無声後期からトーキーへ
- 201 日本映画の発見VI:1960年代
- 202 日本におけるイタリア2001 イタリア映画大回顧
- 203 フィルムで見る20世紀の日本

平成14年度 [2002]

- 204 NFC所蔵外国映画選集 追憶のスター女優たち
- 205 日本映画の発見VII:1970年代
- 206 こども映画館 2002年の夏休み
- 207 2002年日韓国民交流年記念事業 韓国映画―栄光の1960年代
- 208 シネマの冒険 闇と音楽 D・W・グリフィス選集
- 209 特集・逝ける映画人を偲んで 1998-2001
- 210 こども映画館 2003年の春休み

会 期
1月28日(火) - 3月28日(金) / 4月8日(火) - 5月18日(日) [うち平成15年度分 4月8日(火) - 5月18日(日) (36日間)]
会 場
大ホール
上映回数
172回 [うち平成15年度分 72回]
入場者総数
29,208人 (1回平均170人) [うち平成15年度分 13,649人 (1回平均190人)]
雑誌・新聞関連記事
THE JAPAN TIMES 平成15年4月 4日 東京新聞 平成15年4月8日夕刊 赤旗 平成15年4月18日

209 特集・逝ける映画人を偲んで1998-2001 (2)

日本映画の輝かしい歴史に大きく貢献しながら、惜しくも逝去した映画関係者を、作品の上映によって追悼するフィルムセンターの恒例企画「特集・逝ける映画人を偲んで」も4年5か月ぶりの開催となった。平成10(1998)年1月1日から平成13年(2001)年12月31日までの4年間に逝去した監督、俳優、撮影監督、技術スタッフへのオマージュとなる本企画は、全体を2部(第1部は平成14年度)に分け、94作品を86プログラムに構成する大型プログラムとなった。市川右太衛門、宮島義勇、高田浩吉、須川栄三、山下耕作、芦田伸介、三木のり平、宮川一夫、菅原謙二、山村聡、吉村公三郎、東千代之介、新珠三千代、勅使河原宏、相米慎二、左幸子の各氏をはじめとする90名以上の映画人の業績を回顧・顕彰した(黒澤明、木下恵介監督は平成12(2000)年の特集「偉大なるK」でそれぞれ全作品を上映したため特別な枠は設けなかった)。

In Memory of the Film Figures We Lost in 1998-2001 Part 2

"In Memory of the Film Figures We Lost" is a series in which we pay our tribute to the recently deceased filmmakers and their contribution to the history of Japanese cinema by showing the films they worked on. During 4 years between January 1st, 1998 and December 31st, 2001, more than 90 filmmakers (directors, actors, cinematographers, and technical staff members) including Utaemon Ichikawa, Giyu Miyajima, Eizo Sugawa, Kosaku Yamashita, Shinsuke Ashida, Hiroshi Teshigahara, Shinji Somai, and Sachiko Hidari deceased. We showed 94 films in 96 programs in order to remember and praise their achievements. The 1st part of the programs took place in the fiscal year 2002.



A-1

4/8(火)3:00pm 4/30(水)7:00pm

めし(97分・35mm・白黒)

'51(東宝) 田中澄江 大泉滉(谷口芳太郎)、山村聰(岡本隆一郎)
 成瀬巳喜男 林芙美子 井手俊郎 玉井正夫 中古智 早坂文
 雄 上原謙、原節子、島崎雪子、杉葉子、杉村春子、風見章子、花井
 蘭子、二本柳寛、小林桂樹、清水一郎、田中春男、中北千枝子、谷間
 小百合

A-2

4/8(火)7:00pm 5/3(土)1:00pm

雲ながるる果てに(100分・35mm・白黒)

'53(新世紀映画=重宗プロ) 伊藤武郎 高原駿男(松井中尉)、朝
 霧鏡子(秋田中尉の妻町子)、山岡比佐乃[久乃](瀬川道子) 家
 城巳代治 八木保太郎、直居欽哉 中尾駿一郎、高山彌 五所福之
 助 芥川也寸志 鶴田浩二、木村功、原保美、岡田英次、山田五十
 鈴、利根はる恵、沼田曜一、金子信雄、西村晃、清村耕二、加藤嘉

A-3

4/9(水)3:00pm 4/29(火)1:00pm

悶絶! !どんでん返し(73分・35mm・カラー)

'77(日活) 粟津誠(やくざの子丸山) 神代辰巳 熊谷禄男 姫
 田真左久 渡辺平八郎 谷ナオミ、鶴岡修、遠藤征慈、結城マミ、あ
 きじゆん、宮井えりな、牧れいか、東郷健、八代康二、長弘、木島一郎、
 織田俊彦、庄司三郎

A-4

4/9(水)7:00pm 5/1(木)3:00pm

美貌に罪あり(87分・35mm・カラー)

'59(大映東京) 田中澄江 潮万太郎(谷村吉造) 増村保造 川口
 松太郎 村井博 渡辺竹三郎 塚原哲夫 山本富士子、野添ひとみ、
 若尾文子、川口浩、川崎敬三、勝新太郎、杉村春子、村田知栄子、三
 宅川和子

A-5

4/10(木)3:00pm 5/2(金)7:00pm

十三人の刺客(126分・35mm・白黒)

'63(東映京都) 工藤栄一 水島道太郎(佐原平藏) 池上金男 鈴
 木重平 井川徳道 伊福部昭 片岡千恵蔵、里見浩太郎、内田良平、
 丹波哲郎、嵐寛寿郎、西村晃、月形龍之介

A-6

4/10(木)7:00pm 4/29(火)1:00pm

日本暗黒史 血の抗争(90分・35mm・カラー)

'67(東映京都) 工藤栄一 佐治乾 鈴木重平 井川徳道 八木正
 生 安藤昇、嵯峨三智子、待田京介、山城新伍、伴淳三郎、安部徹、
 永山一夫、南利明、河野秋武

A-7

4/11(金)3:00pm 5/1(木)7:00pm

偽れる盛装(102分・35mm・白黒)

'51(大映京都) 吉村公三郎 主題歌作曲 原六郎 新藤兼人 中井朝一
 水谷浩 伊福部昭 京マチ子、藤田泰子、村田知英子、小林桂樹、
 菅井一郎、滝花久子

A-8

4/11(金)7:00pm 4/30(水)3:00pm

夜明け前(142分・35mm・白黒)

'53(近代映画協会=劇團民藝) 吉村公三郎 山田典吾、能登節雄
 宮島義勇 滝澤修(青山半蔵)、垂水悟郎(九郎兵衛)、芦田伸介
 (暮田正香)、下元勉(佐吉) 島崎藤村 新藤兼人 丸茂孝 大澤
 壽人 伊達信、細川ちか子、小夜福子、乙羽信子、山内明、宇野重吉、
 北林谷栄

A-9

4/12(土)1:00pm 5/2(金)3:00pm

越前竹人形(101分・35mm・白黒)

'63(大映京都) 吉村公三郎 宮川一夫 水上勉 笠原良三 西岡
 善信 池野成 若尾文子、山下海一郎、中村玉緒、中村鷹治郎、西
 村晃、浜村純、殿山泰司

A-10

4/12(土)4:00pm 5/6(火)3:00pm

こころの山脈(104分・35mm・白黒)

'66(福島県本宮町本宮方式映画製作の会=近代映画協会) 吉村公
 三郎 山岡久乃(本間秀代) 千葉茂 樹 杉田安久利 人野達弥 池
 野成 宇野重吉、殿山泰司、吉行和子、奈良岡朋子、佐々木すみ
 江、増田順司

A-11

4/13(日)1:00pm 5/6(火)7:00pm

黒い潮(113分・35mm・白黒)

'54(日活) 山村聰(速水卓夫) 左幸子(事務員伊庭節子)、滝沢
 修(山名部長)、夏川静江(佐竹の母)、下元勉(白川記者) 井上靖
 菊島隆三 横山実 木村威夫 塚原哲夫 津島恵子、東野英治郎、
 河野秋武、信欣三、安部徹、沢村貞子、進藤英太郎、石山健二郎、千
 田是也

A-12

4/13(日)4:00pm 5/7(水)3:00pm

鹿島灘の女(93分・35mm・カラー)

'59(東映東京) 山村聰(水田宗右衛門) 花澤徳衛(大下) 八木
 保太郎 荒牧正 北川弘 斎藤一郎 江原真二郎、春丘典子、今井
 俊二、水木襄、八代万智子、小宮光江、杉村春子、三宅邦子、加藤嘉、
 神田隆、沢村貞子、柳永二郎、松本克平、殿山泰司、中村是好、吉川
 満子

A-13

4/15(火)3:00pm 5/7(水)7:00pm

笛吹童子 第一部・第二部・完結篇(145分・35mm・白黒)

'54(東映京都) 岡東千代之介(萩丸) 萩原遼 園北村壽夫 小川正 三木滋人 鈴木孝俊 福田蘭童 中村錦之助、大友柳太郎、月形龍之介、田代百合子、清川将司、松浦築枝、楠本健二、島田照夫、河部五郎、高千穂ひづる

A-14

4/15(火)7:00pm 5/3(土・祝)4:00pm

夕日と拳銃(123分・35mm・カラー)

'56(東映東京) 岡東千代之介(伊達麟之介)、南原伸二[宏治](九隼山)、花澤徳衛(日笠岡蔵) 佐伯清 檀一雄 澤村勉 藤井静 森幹男 古関裕而 宇佐美淳、浦里はるみ、三條美紀、進藤英太郎、高倉健、今井俊二、高木二郎、波島進、小澤榮、千田是也、日野明子、岡田敏子

A-15

4/16(水)3:00pm 5/4(日)1:00pm

黒田騒動(108分・35mm・白黒)

'56(東映京都) 高岩肇 南原伸二[宏治](倉橋十太夫) 内田吐夢 北條秀司 吉田貞次 岡鈴木孝俊 小杉太一郎 片岡千恵藏、大友柳太郎、薄田研二、高千穂ひづる、中原ひとみ、三浦光子、片岡栄二郎、原健策、清川荘司、植木基晴、片岡千恵太郎、高堂国典

A-16

4/16(水)7:00pm 5/10(土)1:00pm

冬の華(121分・35mm・カラー)

'78(東映京都) 藤俊 藤浩 滋田三浦洋一(竹田乙彦) 降旗康男 倉本聰 仲沢半次郎 園井川徳道 園クロード・チアリ 高倉健、北大路欣也、池上季実子、池部良、倍賞美津子、藤田進、田中邦衛、小池朝雄、夏八木勲、小林亞星、山本麟一、峰岸徹、寺田農、今井健二、天津敏

A-17

4/17(木)3:00pm 5/4(日)4:00pm

県警対組織暴力(101分・35mm・カラー)

'75(東映京都) 赤塚滋 深作欣二 笠原和夫 園井川徳道 津島利章 菅原文太、梅宮辰夫、池玲子、成田三樹夫、松方弘樹、山城新伍、佐野浅夫、田中邦衛、金子信雄、室田日出男、中原早苗、小泉洋子、藤岡重慶

A-18

4/17(木)7:00pm 5/10(土)4:00pm

赤線最後の日 一昭和33年3月31日(64分・35mm・カラー)

'74(白活) 白鳥信一 武末勝 山崎敏郎 柳生一夫 月見里太一 宮下順子、中島葵、芹明香、風間杜夫、榎木兵衛、吉井亜樹子、島村謙次、ひろみ麻耶、高橋明

A-19

4/18(金)3:00pm 5/11(日)1:00pm

誇り高き挑戦(89分・35mm・白黒)

'62(東映東京) 佐治乾 深作欣二 星島一郎 荒木友道 河辺公一 鶴田浩二、梅宮辰夫、大空真弓、中原ひとみ、丹波哲郎、小沢栄太郎、松本克平、春日俊二

A-20

4/18(金)7:00pm 5/8(木)3:00pm

女の園(141分・35mm・白黒)

'54(松竹大船) 毛利菊枝(学長) 杉原よ志 木下恵介 阿部知二 楠田浩之 中村公彦 木下忠司 高峰秀子、高峰三枝子、岸恵子、久我美子、田村高廣、田浦正己、望月優子、東山千榮子、浪花千栄子、金子信雄

A-21

4/19(土)1:00pm 5/8(木)7:00pm

警視庁物語 顔のない女(83分・16mm・白黒)

'59(東映東京) 花沢徳衛(林刑事) 村山新治 長谷川公之 昇 北川弘 富田勲 堀雄二、佐久間良子、今井俊二、南広、加藤嘉、松本克平、星美智子

A-22

4/19(土)4:00pm 5/9(金)3:00pm

女の中にいる他人(102分・35mm・白黒)

'66(東宝) 新珠三千代(田代雅子)、稲葉義男(友田警部) 成瀬巳喜男 エドワード・アタイヤ 井手俊郎 福沢康道 中古智 林光 小林桂樹、三橋達也、草笛光子、若林映子、長岡輝子、加東大介、藤木悠、十朱久雄

A-23

4/20(日)1:00pm 5/9(金)7:00pm

江分利満氏の優雅な生活(102分・35mm・白黒)

'63(東宝) 佐藤勝 新珠三千代(夏子) 岡本喜八 園山口瞳 井手俊郎 村井博 浜上兵衛 小林桂樹、東野英治郎、ジェリー伊藤、中丸忠雄、横山道代、平田昭彦

A-24

4/20(日)4:00pm 5/13(火)3:00pm

そよかぜ(60分・35mm・白黒)

'45(松竹大船) 並木路子(みち) 佐々木康 岩澤康徳 寺尾清 本木勇 萬城目正 上原謙、佐野周二、齋藤達雄、奈良真義、波多美喜子、三浦光子、霧島昇

A-25

4/22(火)3:00pm 5/11(日)4:00pm

砂の女(147分・35mm・白黒)

'64(勅使河原プロ)監 勅使河原宏 脚 安部公房 監 瀬川浩 脚 平川透徹、山崎正男 監 武満徹 脚 岡田英次、岸田今日子、三井弘次、伊藤弘子、矢野宣、関口銀三、市原清彦

A-26

4/22(火)7:00pm 5/17(土)1:00pm

他人の顔(121分・35mm・白黒)

'64(勅使河原プロ=東京映画)監 勅使河原宏 脚 杉原よ志 脚 千秋実(アパートの管理人) 脚 安部公房 監 瀬川浩 脚 山崎正夫 監 武満徹 脚 仲代達矢、平幹二郎、入江美樹、岸田今日子、岡田英次、京マチ子、観世栄夫、田中邦衛

A-27

4/23(水)3:00pm 5/13(火)7:00pm

台所太平記(110分・35mm・カラー)

'63(東京映画) 脚 伊玖磨 脚 三木のり平(長谷川清造) 監 豊田四郎 脚 谷崎潤一郎 脚 八住利雄 脚 岡崎宏三 脚 伊藤嘉彦 脚 森繁久弥、団令子、乙羽信子、淡路恵子、淡島千景、池内淳子、中尾ミエ、大空真弓、フランキー堺、水谷良重

A-28

4/23(水)7:00pm 5/15(木)3:00pm

第五福竜丸(107分・35mm・白黒)

'59(近代映画協会=新世紀映画) 脚 山田典吾、能登節雄 脚 稲葉義男(見島漁撈長) 監 新藤兼人 脚 八木保太郎 脚 植松永吉 脚 丸茂孝 脚 林光圀 脚 宇野重吉、乙羽信子、永田靖、原保美、小沢栄太郎、殿山泰司、永井智雄、浜田寅彦

A-29

4/24(木)3:00pm 5/17(土)4:00pm

シヨンベン・ライダー(118分・35mm・カラー)

'83(キティ・フィルム) 監 相米慎二 脚 レナード・シュレイダー 脚 西岡琢也、チエコ・シュレイダー 脚 田村正毅、伊藤昭裕 脚 横尾嘉良 脚 星勝 脚 藤竜也、河合美智子、永瀬正敏、坂上忍

A-30

4/24(木)7:00pm 5/18(日)1:00pm

雪の断章 情熱(100分・35mm・カラー)

'85(東京映画=キティ・フィルム) 監 相米慎二 脚 河内桃子(カネ) 脚 佐々木丸美 脚 田中陽造 脚 五十畑幸勇 脚 小川富美夫 脚 ライトハウスプロジェクト 脚 斎藤由貴、榎本孝明、岡本舞、世良公則、矢代朝子、斎藤康彦、酒井敏也、加藤賢崇

A-31

4/25(金)3:00pm 5/18(日)4:00pm

思春の泉(88分・16mm・白黒=再公開短縮版)

'53(新東宝) 脚 左幸子(もよ子)、花澤徳衛(金作) 監 中川信夫 脚 石坂洋次郎 脚 館岡謙之助 脚 横山實園 脚 北川勇 脚 齋藤一郎 脚 宇津井健、岸輝子、青山杉作、千田是也、小澤榮、東野英治郎、阿部壽美子、高橋豊子、辻伊万里

A-32

4/25(金)7:00pm 5/14(水)3:00pm

につぼん昆虫記(123分・35mm・白黒)

'63(日活) 脚 左幸子(松木とめ) 脚 今村昌平 脚 長谷部慶次 脚 蛭田真左久 脚 中村公彦 脚 黛敏郎 脚 吉村美子、長門裕之、北村和夫、河津清三郎、小池朝雄、北林谷栄、岸輝子、春川ますみ、佐々木すみ江、相沢ケイ子、殿山泰司、桑山正一、露口茂、東恵美子

A-33

4/26(土)1:00pm 5/14(水)7:00pm

弾痕(94分・35mm・カラー)

'69(東宝) 脚 永原秀一 脚 森谷司郎 脚 斎藤孝雄 脚 村木与四郎 脚 武満徹 脚 加山雄三、太地喜和子、立花マリ、原知佐子、佐藤慶、岡田英次、岸田森、納谷悟朗、高石友也、麻生雅子、早野寿郎、上田忠好、加藤和夫、近藤準

A-34

4/26(土)4:00pm 5/16(金)3:00pm

怪談異人幽霊(70分・35mm・白黒)

'63(大蔵映画) 監 小林正樹 脚 大蔵貢 脚 金田光夫 脚 岩橋秀光 脚 黒沢治安 脚 近江俊郎、長瀬貞夫 脚 一條美矢子、扇町京子、エンベル・アルテンハイ、ロミー・マイ、梅若正二、江波志郎、一條ゆかり、小野彰子、岩田レナ、大原譲二

A-35

4/27(日)1:00pm 5/15(木)7:00pm

証人の椅子(103分・35mm・白黒)

'65(大映東京=山本プロ) 監 伊藤武 脚 福田豊土(浜田流二) 脚 山本薩夫 脚 開高健 脚 井手雅人 脚 上村竜一 脚 菊池誠 脚 池野成 脚 奈良岡朋子、浜田寅彦、新田昌玄、吉行和子、日色ともゑ、加藤嘉、佐野浅夫、樋浦勉、寺田誠、永田靖、下條正巳、大滝秀治、清水将夫、嵯峨善兵

A-36

4/27(日)4:00pm 5/16(金)7:00pm

仁義の墓場(94分・35mm・カラー)

'75(東映東京) 脚 鴨井達比古 脚 深作欣二 脚 藤田五郎 脚 松田寛夫、神波史男 脚 仲沢半次郎 脚 桑名忠之 脚 津島利章 脚 渡哲也、梅宮辰夫、多岐川裕美、ハナ肇、安藤昇、田中邦衛、成田三樹夫、芹明香、池玲子、山城新伍、室田日出男、曾根晴美、今井健二

*ゴシック体の人名は今回の上映で追悼した方々です(出演者の場合、カッコ内は映画中の役名です)。

*監=監督・演出 脚=製作・協力製作 原=原作 脚=脚本・脚色 撮=撮影 美=美術 音=音楽 編=編集 出=出演

会 期
平成15年5月27日(火)~7月13日(日) (42日間)
会 場
大ホール
上映回数
84回
入場者総数
11,767人(1回平均140人)
雑誌・新聞関連記事
中日新聞 平成15年5月10日夕刊 産経新聞 平成15年5月15日 東京新聞 平成15年5月15日 スポーツ報知 平成15年5月15日 毎日新聞 平成15年5月20日夕刊 読売新聞 平成15年5月20日夕刊 八重山毎日新聞 平成15年5月20日 陸奥新報 平成15年5月22日 上毛新聞 平成15年5月23日 新潟日報 平成15年5月23日 鹿兒島新報 平成15年5月24日 赤旗 平成15年5月25日 十勝毎日新聞 平成15年5月25日 琉球新報 平成15年5月26日夕刊 東京新聞 平成15年5月27日夕刊 神戸新聞 平成15年6月4日 THE JAPAN TIMES 平成15年6月6日 琉球新報 平成15年6月16日夕刊 日本経済新聞 平成15年6月19日夕刊



211 発掘された映画たち2003

今回で4回目を迎えた上映企画「発掘された映画たち」は、フィルムセンターの旧頃の収集・復元・保存事業の成果を集中的に披露する機会となっており、シリーズ企画として定着してきた。今回は、ロシアの Gosfilmofond で発見された日本映画と、その他さまざまな事情で収集・復元が可能となった作品とを併せ、これまでの同シリーズより大幅に規模を拡大して開催した。

中でも、日本映画史の“伝説”とされてきた伊藤大輔監督、月形龍之介主演の『斬人斬馬剣』(1929年)の発見については、前年秋の発表以来大きな反響があり、従来の復元方法による成果はこの上映の前にも展示企画「展覧会 映画遺産」で一部をビデオ公開したが、今回の上映プリントは、アムステルダムでの復元専門現像所ハーゲフィルムに依頼し、フィルムセンターとして初めてデジタル技術による復元を試みたものである。

また、ロシアの映画保存機関 Gosfilmofond から収集された戦前・戦中期の日本映画としては、五所平之助監督の名作『新雪』(1942年)や『五重塔』(1944年)のほか、一部分ながら稲垣浩監督の『海を渡る祭禮』(1941年)を上映した。また、2001年に「Gosfilmofond版」として上映した黒澤明監督のデビュー作『姿三四郎』(1943年)は、東宝株式会社の協力により、新たに発見された部分を従来版に挿入して最長版を作成した。文化・記録映画、ニュース映画については、「満洲国」関連の映像を中心に紹介し、近代史研究の専門家からも高い評価を受けた。

Cinema: Lost and Found 2003

The “Cinema: Lost and Found” series provides an opportunity to showcase the films which NFC has collected, restored, and preserved in recent years. This year the series was held in a larger scale than the previous 3 times, and recently collected and restored titles including those found at Gosfilmofond, Russia, were screened.

The most notable among them was *Zanjin zanbaken* (Slashing Sword)(1929). Directed by Daisuke Ito and starring Ryunosuke Tsukigata, *Zanjin zanbaken* has long been considered the “legend” of the history of Japanese cinema and since the discovery of its film was announced in fall 2002, much attention has been directed towards the content of the film. NFC first restored the film by a conventional photochemical method, and video clips of it were shown within “the Japanese Film Heritage” exhibition. For the “Cinema: Lost and Found 2003,” NFC restored the film again, this time utilizing digital technologies by commissioning Haghefilm in Amsterdam. This was the first time NFC digitally restored films, thus marking a significant moment in the history of its film restoration.

Japanese cinema titles of the immediate pre and mid World War II period that were found at Gosfilmofond, Russia, included Heinosuke Gosho’s masterpieces *Shinsetsu*(1942) and *Gojunoto*(1944). Part of *Umi o wataru sairei*(1943) directed by Hiroshi Inagaki was also shown. As for Akira Kurosawa’s debut film *Sugata sanshiro*(Sanshiro Sugata) of which NFC screened the “Gosfilmofond version” in 2001, NFC made the longest version with the additionally found footage thanks to the cooperation by Toho for this year’s “Cinema: Lost and Found 2003.” In addition to the feature films, cultural/documentary films and news films were also screened. This year’s focus was on films about Manchukuo which were highly regarded by scholars of modern history.

A-1

5/27(火)3:00pm 6/13(金)7:00pm 6/29(日)1:00pm

斬人斬馬剣 (26分・18fps・35mm・白黒・無声・部分)

'29(松竹キネマ京都)監園伊藤大輔園唐澤弘光園月形龍之介、天野刃一、伊藤みはる、関操、石井貫治、市川傳之助、岡崎晴夫、中根竜太郎、浅間昇子

御誂治郎吉格子 (59分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'31(日活京都)監園伊藤大輔園吉川英治園唐澤弘光園大河内傳次郎、伏見直江、伏見信子、高瀬寛太、山口佐喜雄、山本禮三郎、高勢実乗

A-2

5/27(火)7:00pm 6/12(木)3:00pm 6/28(土)4:00pm

海援隊快拳 (61分・16fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'33(朝日映画連盟)監園志波西果園大井幸三園月形龍之介、結城重三郎、浮田勝三郎、斯波快輔、中山介二郎、有村志朗、金子弘、細田又三郎、大仲半次郎、伊田兼美、桜井京子、若山京子

國定忠治 信州子守唄 (19分・35mm・白黒・部分)

'36(マキノ・トーキー製作所)監園マキノ正博園伊藤大輔園千々喬一園藤井春美園月形龍之介、澤村國太郎、葉山純之輔、水原洋一、岩見柳水、松村圭之介、野津潔

A-3

5/28(水)3:00pm 6/12(木)7:00pm 6/29(日)4:00pm

晴れ行く空 (40分・18fps・35mm・白黒・無声)

'27(松竹キネマ蒲田)監赤穂春雄(城戸四郎)園簡易保険局園吉田百助園越智健治園石山龍嗣、松井潤子、小藤田正一、戸田辨流、二葉かほる、木村健次(児)、斎藤達雄

親 (35分・24fps・35mm・白黒・無声)

'28(松竹キネマ蒲田)監清水宏、大久保素園簡易保険局園水島あやめ園杉本正次園新井淳、高松榮子、高尾光子、水島亮太郎、堺一二、三浦時江、青山万里子、河原侃二、西野龍子

A-4

5/28(水)7:00pm 6/13(金)3:00pm 6/28(土)1:00pm

黄金の弾丸 (79分・18fps・35mm・彩色・無声)

'27(東亜キネマ)監印南弘園ヘルマン・ランドン園竹井諒園小野平一郎園島田棟助園宮島健一、一木突破、大岩栄二郎、千種百合子、中村園枝、島田富美郎、月岡正美

A-5

5/29(木)3:00pm 6/15(日)1:00pm 7/2(水)7:00pm

天保泥絵草紙 (59分・18fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'28(帝国キネマ)監山下秀一園上島量園塚越成治園明石録郎、阪東豊昇、松枝鶴子、尾上紋十郎、嵐璃徳

深夜の銃声 (20分・24fps・35mm・白黒・無声)

'37頃(大都映画)監吉村操園荒井弥太郎園永貞二郎、篠崎茂、藤木正夫園藤間林太郎、久野あかね、大岡怪童、廣田義一、石井光、高村栄一、山吹徳二郎、大曾根猛、金井守

A-6

5/29(木)7:00pm 6/14(土)4:00pm 7/1(火)3:00pm

一天を照す (95分・18fps・35mm・白黒・無声)

'30(帝国キネマ)監園佐藤樹一路園中村吉蔵園古林潤園平塚不倒園嵐璃徳、実川延笑、尾上松二郎、片岡童十郎、水上龍太郎、管家静子、東良之助、林誠太郎、青木芳義、花柳あやめ、園千枝子、尾崎静子、巴蝶子、若柳みどり

A-7

5/30(金)3:00pm 6/15(日)4:00pm 7/1(火)7:00pm

嬉しい娘 (43分・24fps・35mm・白黒・無声)

'34(日活京都)監園千葉泰樹園小国英雄園三浦光雄園山田五十鈴、村田知栄子、山本嘉一、杉狂兒、稲田(澤村)春子、関時男、中村寿郎、山本冬郷、花野園子、上村敏子

巡禮やくざ (40分・35mm・白黒・不完全)

'38(日活京都)監菅沼完二園丹波土佐園原巖園中田節三園高橋虎之助園尾上菊太郎、原健作、香住佐代子、瀬川路三郎、仁禮功太郎、清水照子、旗桃太郎、香川良介、大崎史郎、藤川三之祐、長田仁宏、志馬英夫、小松みどり

A-8

5/30(金)7:00pm 6/14(土)1:00pm 7/2(水)3:00pm

旅鴉お妻やくざ (53分・35mm・白黒)

'34(大秦発声映画)監古海卓二園大秦発声文芸部園河崎喜久三園伏見直江、今大路薫、浅間昇子、山田好郎、大倉文男、澤村勇、尾上蝶二郎、上田吉二郎

芝浜の革財布 (32分・35mm・白黒・部分)

'36(マキノ・トーキー製作所)監根岸東一郎園桐島雄吉園大森伊八園橘宗一園田村邦男、松浦築枝、大内照子、根岸東一郎、廣田昂、林誠太郎、岩見柳水、芥川龍造

A-9

5/31(土)1:00pm 6/18(水)7:00pm 7/3(木)3:00pm

松平外記 (30分・35mm・白黒・部分)

'36(マキノ・トーキー製作所)監松田定次園比佐芳武園大塚周一園佐藤富房園澤村國太郎、山縣直代、浅野進二郎、團徳磨、志村喬

加賀見山 (61分・35mm・白黒・不完全)

'36(マキノ・トーキー製作所)監根岸東一郎園立春大吉園玉江竜二園大森伊八、西本良生園原駒子、松浦築枝、マキノ智子、浅野進二郎、葉山純之輔、光岡龍三郎、團徳磨、マキノ博子、達美洋子、宮古世里江、大内照子、里見良子、一條桂子、川島園子、池澤笑子、吉田禮子

A-10

5/31(土)4:00pm 6/17(火)7:00pm 7/4(金)3:00pm

金鑽 (65分・35mm・白黒・不完全)

'36(第一映画社)監寺門静吉園額田六福園高柳春雄園竹野治夫園久光五郎、堀口庄太郎園夏川大二郎、高堂國典、歌川絹枝、大倉千代子、寺島貢、芝田新、浅香新八郎、原譲介、葛木香一、小泉嘉輔、松本和夫、安川悦子

A-11

6/1(日)1:00pm 6/17(火)3:00pm 7/3(木)7:00pm

雲助出世街道(47分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'38(大都映画) 監大伴隼三 脚木村実 脚下村晴夫 監松山宗三郎、大乘寺八郎、水川八重子、久松玉城、天野幸子、東條猛、大岡怪童、伊達正、大瀬恵二郎、横山文彦

海を渡る祭禮(24分・35mm・白黒・部分)

'41(日活京都) 監稲垣浩 脚三村伸太郎 監石本秀雄 脚西梧郎 監市川春代、月宮乙女、戸上城太郎、香川良介、志村喬、上田吉二郎

A-12

6/1(日)4:00pm 6/18(水)3:00pm 7/4(金)7:00pm

國民の誓 Das heilige Ziel (72分・35mm・白黒・不完全)

'38(国光映画) 監野村浩将 脚リヒャルト・アングスト 脚ヴォルフガング・バギエ、野田高梧 脚濱田辰雄 脚山田耕筰 脚ゼップ・リスト、佐野周二、高杉早苗、広瀬徹、横美佐子、上山草人、大山健二、山内光、吉川満子、磯野秋雄、青木富夫

A-13

6/3(火)3:00pm 6/20(金)7:00pm 7/6(日)1:00pm

冬の宿(87分・35mm・白黒)

'38(東京発声映画製作所) 監豊田四郎 脚阿部知二 脚八田尚之 脚小倉金彌 脚進藤誠吾 脚中川栄三、津川圭一 脚勝見庸太郎、水町庸子、原節子、北沢彪、林文夫、藤輪欣司、林文夫、島絵美子、堀川浪之助、押本映治、伊志井正也、田辺若男、伊田芳美、平陽光、青野瓢吉、南部邦彦、一本禮司、原田耕一郎

A-14

6/3(火)7:00pm 6/19(木)3:00pm 7/5(土)4:00pm

女学生記(76分・35mm・白黒)

'41(東京発声映画製作所) 監村田武雄 脚細川武子 脚鈴木紀子 脚吉田勝亮 脚津川圭一 脚園真 脚谷間小百合、戸川弓子、矢口陽子、櫻路陽子、永岡志津子、河野糸子、高峰秀子、御舟京子、山田五十鈴、御橋公、林千歳、川田昌子、戸部零子、生方賢一郎、正宗新九郎、伊藤薫、下田猛、長浜藤夫、英百合子、藤輪欣司、加藤照子

A-15

6/4(水)3:00pm 6/19(木)7:00pm 7/6(日)4:00pm

姿三四郎(91分・35mm・白黒・最長版)

'43(東宝) 監黒澤明 脚富田常雄 脚三村明 脚鈴木静一 脚戸塚正夫 脚藤田進、大河内傳次郎、轟夕起子、月形龍之介、志村喬、花井蘭子、青山杉作、菅井一郎、小杉義男、高堂國典、瀬川路三郎、河野秋武、清川莊司、三田國夫

A-16

6/4(水)7:00pm 6/20(金)3:00pm 7/5(土)1:00pm

暁の路(52分・24fps・35mm・白黒・無声)

'35(新興キネマ東京) 監清涼卓 脚簡易保 脚藤井清 脚伊藤嘉彦 脚浅田健二、歌川八重子、森山保、山縣直代

夢見る娘(34分・35mm・白黒・部分・不完全)

'40(新興キネマ東京) 監沼波功 脚小出英男 脚松尾芳楠 脚伊藤宣二 脚逢初夢子、浦辺糸子、山口勇、堀川浪之助、歌川八重子、新島康夫、大友莊之介、生方莊児

A-17

6/5(木)3:00pm 6/22(日)1:00pm 7/9(水)7:00pm

やちとめ

八處女の歌(60分・35mm・白黒・不完全)

'42(大映東京) 監小石栄一、古野栄作 脚長谷川幸延 脚笠原良三、芥藤江 脚高橋通夫 脚五所福之助 脚横田昌久 脚真山くみ子、加賀邦男、見明凡太郎、立松見、村瀬幸子

A-18

6/5(木)7:00pm 6/21(土)4:00pm 7/8(火)3:00pm

誓ひの港(66分・35mm・白黒)

'41(松竹大船) 監大庭秀雄 脚神崎武雄 脚森本薫 脚寺尾清 脚朝比奈昇 脚河村黎吉、東山千栄子、三浦光子、岡村文子、山田好一、徳大寺伸、斎藤達雄、日守新一

A-19

6/6(金)3:00pm 6/22(日)4:00pm 7/8(火)7:00pm

第五列の恐怖(70分・35mm・白黒・不完全)

'42(日活多摩川) 監山本弘之 脚北村勉 脚内納謙、糸田頼一 脚仲美喜雄 脚飯田景應 脚轟夕起子、中田弘二、永田靖、見明凡太郎、伊澤一郎、國分ミサヲ、村田宏壽、潮萬太郎、水島道太郎、北龍二、吉井莞象、斎藤紫香、渥美君子、若原初子、町田博子、文野朋子、江原良子

A-20

6/6(金)7:00pm 6/21(土)1:00pm 7/9(水)3:00pm

男の意気(70分・35mm・白黒)

'42(松竹大船) 監中村登 脚吉村公三郎、木下恵介 脚齋藤正夫 脚江坂實 脚古閑裕 脚上原謙、木暮実千代、坂本武、徳大寺伸、朝霧鏡子、川崎弘子、藤野秀夫、大山健二、河村黎吉、日守新一、小林十九二、藤野秀夫、近衛敏明、川名輝、大原英子、西村青児、河原侃二、久保田勝己、縣秀介、伊東光一、野上潤、島村俊雄、大坂志郎

A-21

6/7(土)1:00pm 6/25(水)7:00pm 7/10(木)3:00pm

新雪(74分・35mm・白黒・不完全)

'42(大映) 監五所平之助 脚藤澤桓夫 脚館岡謙之助 脚岡野薫 脚今井高一 脚久保田公平 脚水島道太郎、月丘夢路、高山徳右衛門、美鳩まり、武田サダ、白川博、久野あかね、井染四郎、國分みさを、山口勇、浦辺糸子、矢田稔、近松里子、小林直樹、見明凡太郎、吉井莞象、斎藤紫香、石黒達也、水原洋一、小杉光史、冬木映彦、若原初子

A-22

6/7(土)4:00pm 6/24(火)7:00pm 7/11(金)3:00pm

五重塔(64分・35mm・白黒)

'44(大映) 監五所平之助 脚幸田露伴 脚川口松太郎 脚相坂操一 脚仲美喜夫 脚斎藤一郎 脚花柳章太郎、森赫子、柳永二郎、逢初夢子、大矢市次郎、伊志井寛、村田正雄、山口正夫、松宮慶次郎、瀬戸英一、春木喜好、島章、花田皓夫

A-23

6/8(日)1:00pm 6/24(火)3:00pm 7/10(木)7:00pm

護る影 62分・35mm・白黒・不完全)

'43(大映京都)監西原孝園佐々木味津三監伊藤大輔、毛利喜久男園竹野治大園佐藤顕雄園上里義三園嵐寛寿郎、原健作、山口勇、寺島貢、香川良介、葛木香一、嵐徳三郎、高山廣子、大河三鈴、田中千代子、伊庭駿三郎、原聖四郎

愛の道標 妊娠調節を中心として 21分・35mm・白黒)

'50(大阪映画人集団)監竹島豊園西原孝園長尾政明園木村久次郎園岡軌介

A-24

6/8(日)4:00pm 6/25(水)3:00pm 7/11(金)7:00pm

朝日は輝く 25分・18fps・35mm・白黒・無声・部分)

'29(大阪朝日新聞社=日活京都)監溝口健二、伊奈精一園木村千疋男園横田達之園中野英治、村田宏寿

北鮮の羊は語る (15分・35mm・白黒・無声)

'34(朝鮮総督府)

日本の映画作り Movie Making in Japan (8分・24fps・35mm・白黒)

'34(アメリカ映画芸術科学アカデミー)園大河内傳次郎、鈴木澄子、志賀暁子

サンフランシスコ万国博のジャパン・デー Japan Day at San Francisco World's Fair (17分・35mm・カラー)

'39(ニッポン・アンド・アメリカ社)監伊藤道郎園ジェームズ・R・パーマー園大辻司郎

A-25

6/10(火)3:00pm 6/27(金)7:00pm 7/13(日)1:00pm

日本 (39分・24fps・35mm・白黒・無声)

'34頃(大阪毎日新聞社=東京日日新聞社)

鴨緑江大水力発電工事 (45分・35mm・白黒)

'40(山口シネマ)監熊野稔園影澤清

A-26

6/10(火)7:00pm 6/26(木)3:00pm 7/12(土)4:00pm

満州記録映画集 (計60分)**第二回建国記念大会運動会** [仮題] (14分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'33(松竹キネマ)監満洲國情報處

全國聯合協議會 (7分・24fps・35mm・白黒・無声)

'35(満洲国協和会)

拳國一心 (8分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'36(満洲帝国協和会)

協和映画時報 九・一五 九・一八記念特輯號 (13分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'36(満洲帝国協和会)

康德四年度全國聯合協議會 [仮題] (7分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'37(満洲帝国協和会)

康德五年度全國聯合協議會 (11分・24fps・35mm・白黒・無声・不完全)

'38(満洲映画協会)監園滿洲帝国協和會

A-27

6/11(水)3:00pm 6/26(木)7:00pm 7/13(日)4:00pm

ツエッペリン エル・ゼット127号 日本訪問 ~第二報~

(16分・18fps・35mm・白黒・無声)

'29(松竹キネマ蒲田)

『長門』の叔父さん (17分・24fps・35mm・白黒・無声)

'33(横浜シネマ商会)監青地忠三園飯田光治

李王垣殿下大阪偕行社小学校御訪問 [仮題] (4分・35mm・白黒・無声)

'40(大日本天然色映画)

陸軍豫科士官學校行幸御記録 (8分・35mm・白黒)

'43(日本映画社)

将校生徒の手記 陸軍豫科士官學校 (36分・35mm・白黒)

'44(理研科学映画)監東隆史園若山一夫園竹内光男、篠原菊治

A-28

6/11(水)7:00pm 6/27(金)3:00pm 7/12(土)1:00pm

白老 アイヌの生活 (38分・16fps・35mm・染色・無声・英語版)

'25(HORIUCHI CO.)園八田三郎

新潟縣魚沼川の悲惨事 四つの魂 (46分・20fps・35mm・染色・無声)

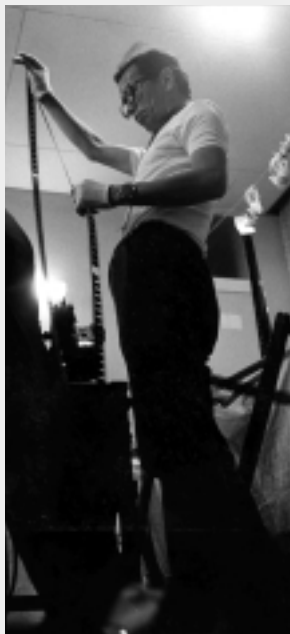
'25(東京映画月報社)監森要園長里清園岩藤隆之園染谷定之助、御園艶子、中沢照子、芦屋すみ子、坂井すみ子、白石まき子、中村嘉子

彌次喜多 米の安塚名所巡り (5分・16fps・35mm・白黒・無声)

'36園小倉猛夫

* 監 = 監督・演出 園 = 製作 原 = 原作 脚 = 脚本・脚色・潤色 撮 = 撮影 美 = 美術・設計・舞台設計 音 = 音楽・選曲 効果 編 = 編集 出 = 出演

会 期
平成15年7月22日(火)–10月5日(日) (66日間)
会 場
大ホール
上映回数
126回
入場者総数
27,977人(1回平均222人)
雑誌・新聞関連記事
スポーツ報知 平成15年7月4日 THE JAPAN TIMES 平成15年7月11日 朝日新聞 平成15年7月25日夕刊 読売新聞 平成15年8月6日夕刊 赤旗 平成15年8月8日 読売新聞 平成15年8月12日 スポーツ報知 平成15年8月13日 読売新聞 平成15年8月15日夕刊



212 映画監督 市川崑

アニメーション映画の作家から劇映画に転じ、『ビルマの豎琴』(1956年)、『炎上』(1958年)、『おとうと』(1960年)、『東京オリンピック』(1965年)などの話題作を常に送り続けてきた市川崑監督は、その大胆な実験精神とスタイリッシュな演出によって戦後の日本映画を鮮やかに刷新してきた巨匠である。スピーディで軽やかな画面処理、新しい題材への挑戦、その時代の最新技術を駆使した実験など、その映画術は日本映画史のなかでもオリジナルなものである。フィルムセンターは、87歳にしてなお新鮮な作品を発表しているこの多才な映画作家に対し、これまでの最大規模となる66作品の連続上映を行って敬意を表した。市川監督自らの選んだオープニング作品『股旅』(1973年)が上映された初日には、監督による舞台挨拶が行われ、本特集をさらに華やかなものとした。

上映作品の選定にあたっては、初期新東宝時代の作品、人形劇映画、記録映画など、従来上映機会のほとんどなかった貴重な作品にも光を当て、また人形劇映画『トッポ・ジーゴのボタン戦争』をはじめとするニュープリント作成のための良質な素材の探索・収集活動も積極的に行った。また、同監督の演出によるテレビ・コマーシャル作品の同時上映は、映画監督市川崑の“全体像”を紹介するというこの企画趣旨にふさわしいものであった。

Kon Ichikawa Retrospective

Kon Ichikawa is one of the great film directors in the post World War II era who started his filmmaking career with animation films before shifting his focus on feature films. Among many critically acclaimed titles, *Biruma no tategoto*(The Burmese Harp)(1956), *Enjō*(The Temple of the Golden Pavillion)(1958), *Otōto*(1960), and *Tokyo orinpikku*(Tokyo Olympiad)(1965) are especially famous. Known for his quick and light-hearted editing, challenges to new subject matters, and experimentations with brand new technologies, Ichikawa has continued to expand the frontiers of Japanese cinema. This retrospective was designed to pay respect to Ichikawa who remains to be an active and versatile director today at the age of 87, and by showing 66 titles, was the largest retrospective of Ichikawa's films. The opening film, *Matatabi*(The Wanderers)(1973) was selected by Ichikawa himself who came to the theater to greet the audience from the stage.

The program also included Ichikawa's early films made at Shintoho, puppet films, and documentary films which have rarely been shown in the past. In addition, NFC engaged in searching and collecting of high-quality materials to make new prints of films such as the puppet film *Toppo jijo no botan sensou*(War of Buttons). Also shown were television commercials directed by Ichikawa, making the retrospective a thorough one that showed the "entire oeuvre" of the director.

A-1

7/22(火)7:00pm 8/13(水)3:00pm

三百六十五夜【総集篇】(119分・35mm・白黒)

'49(新東宝)園小島政二郎園館岡謙之助園三村明園進藤誠吾園服部正園上原謙、山根壽子、高峰秀子、大日方傳、堀雄二、田中春男、鳥羽陽之助、清川莊司、河村黎吉、三村秀子、吉川満子、一の宮あつ子、葉村みき子、二葉あき子、江見渉、三原純

A-2

7/23(水)3:00pm 8/12(火)7:00pm

果てしなき情熱(91分・35mm・白黒)

'49(新世紀プロ)園和田夏十園小原謙治園小川一夫園服部良一園堀雄二、月丘千秋、齋藤達雄、江見渉、清川虹子、服部富子、山口淑子、淡谷のり子、笠置シヅ子、折原啓子、鮎川浩、伊藤雄之助、若月輝夫、山室耕、山田長正、山川朔太郎

A-3

7/23(水)7:00pm 8/14(木)3:00pm

銀座三四郎【再公開短縮版】(64分・16mm・白黒)

'50(新東宝)園青柳信雄(初公開時は富田常雄)園八田尚之園安本淳園小川一男園飯田信夫園藤田進、山根壽子、風見章子、志村喬、飯田蝶子、河村黎吉、伊藤雄之助、江見俊太郎、山室耕、岬洋二、清水元、木匠久美子、徳大寺君枝、加藤欣子、花岡菊子、一の宮あつ子

A-4

7/24(木)3:00pm 8/13(水)7:00pm

熱泥池【再公開短縮版】(62分・16mm・白黒)

'50(新東宝)園木村莊十園市川崑、板谷良一園横山実園下河原友雄園伊福部昭園藤田進、利根はる恵、堀雄二、東野英治郎、進藤英太郎、田中春男、山本礼三郎

A-5

7/24(木)7:00pm 8/12(火)3:00pm

盗まれた恋(88分・16mm・白黒)

'51(新東宝)青柳プロ園鏡二郎園和田夏十、市川崑園横山実園河野鷹思園伊福部昭園久慈あさみ、森雅之、川喜多小六、志村喬、加藤道子、伊藤雄之助、東野英治郎、清水将夫、北見礼子、木匠久美子、三原純、杉寛、山形勲、久保春二、鳥羽陽之助

A-6

7/25(金)3:00pm 8/14(木)7:00pm

ブンガワソコ(84分・16mm・白黒)

'51(新東宝)園金貝省三園和田夏十、市川崑園横山実園河野鷹思園飯田信夫園池部良、森繁久彌、伊藤雄之助、藤田進、田崎潤、阿龍三、山形勲、久慈あさみ、若山セツ子、小沢榮、高橋豊子、中原謙二、沢村昌之助、水城四郎、山川朔太郎

A-7

7/25(金)7:00pm 8/19(火)3:00pm

結婚行進曲(83分・35mm・白黒)

'51(東宝)園井手俊郎、和田夏十、市川崑園飯村正園河東安英園仁木他喜雄園上原謙、山根壽子、伊豆肇、杉葉子、高杉早苗、越路吹雪、木匠久美子、沢村貞子、浦辺粂子、南美江、長濱藤夫、村上冬樹、龍岡晋、伊藤雄之助

A-8

7/26(土)1:00pm 8/15(金)7:00pm

ラッキーさん(84分・35mm・白黒)

'52(東宝)園源氏鶏太園猪俣勝人園飯村正園安倍輝明園占閑裕園小林桂樹、小泉博、島崎雪子、杉葉子、河村黎吉、齋藤達雄、沢村貞子、三條利喜江、千石規子、伊藤雄之助、小川虎之助、石黒達也、井上大助、城正彦、片桐恒夫、堺左千夫、澁谷英男、今泉廉

A-9

7/26(土)4:00pm 8/19(火)7:00pm

足にさわった女(84分・35mm・白黒)

'52(東宝)園沢田撫松園和田夏十、市川崑園安本淳園河東安英園黛敏郎園池部良、越路吹雪、山村聡、藤原釜足、見明凡太郎、伊藤雄之助、岡田茉莉子、沢村貞子、加東大介、村上冬樹、高堂國典、長浜藤夫、柳谷寛、三好榮子、廣瀬嘉子、山本廉

A-10

7/27(日)4:00pm 8/15(金)3:00pm

あの手この手(93分・35mm・白黒)

'52(大映京都)園京都伸夫園和田夏十、市川崑園武田千吉園西岡善信園黛敏郎園森雅之、久我美子、堀雄二、水戸光子、伊藤雄之助、望月優子、津村悠子、平井岐代子、毛利菊枝、近衛敏明、荒木忍、南部彰三、原聖四郎、大伴千春、伊達三郎、三上哲

A-11

7/29(火)3:00pm 8/16(土)1:00pm

ブーサン(97分・35mm・白黒)

'53(東宝)園横山泰三園和田夏十、永来重明、市川崑園中井朝一園阿久根巖園黛敏郎園伊藤雄之助、小泉博、小林桂樹、越路吹雪、杉葉子、八千草薫、菅井一郎、加東大介、木村功、藤原釜足、メリー松原、三好栄子、村上冬樹、田島義文、トニー谷、横山隆一、横山泰三、黛敏郎

A-12

7/29(火)7:00pm 8/20(水)3:00pm

天晴れ一番手柄 青春銭形平次(93分・35mm・白黒)

'53(東宝)園野村胡堂園和田夏十、市川崑園遠藤精一園北猛夫園黛敏郎園大谷友右衛門、杉葉子、伊藤雄之助、伊豆肇、柳谷寛、石黒達也、小川虎之助、見明凡太郎、村上冬樹、市川小文治、恩田清二郎、山本廉、谷晃、山形勲、木匠マユリ、島秋子、和田道子、塩沢登代路

A-13

7/30(水)3:00pm 8/16(土)4:00pm

愛人(83分・35mm・白黒)

'53(東宝)園森本薫園和田夏十、井手俊郎園玉井正夫園村木忍園黛敏郎園越路吹雪、岡田茉莉子、有馬稲子、三国連太郎、尾樟一浩、菅井一郎、伊藤雄之助、塩澤登代路、石田美津子、澤村貞子、片桐常雄、佐田豊、鴨田清、岡豊、瀬良明

A-14

7/30(水)7:00pm 8/17(日)4:00pm

億万長者(83分・35mm・白黒)

'54(青年俳優クラブ)園安部公房、横山泰三、長谷部慶次、和田夏十園伊藤武夫園平川透徹園団伊玖磨園木村功、高原駿雄、春日俊二、岡田英次、久我美子、左幸子、山田五十鈴、伊藤雄之助、多々良純、加藤嘉、信欣三、北林谷栄、原泉、薄田つま子、関京子、高橋豊子

A-15

7/31(木)3:00pm 8/20(水)7:00pm

女性に関する十二章(87分・35mm・白黒)

'54(東宝)園伊藤整園和田夏十園三浦光雄園河東安英園黛敏郎園津島恵子、有馬稲子、久慈あさみ、上原謙、小泉博、太刀川洋一、中北千枝子、小泉澄子、三好栄子、伊豆肇、坪内美子、三戸部スエ、三條利喜江、山本和子、村上冬樹、徳川夢声、小牧正英、伊藤整

A-16

7/31(木)7:00pm 8/22(金)3:00pm

青春怪談(115分・35mm・白黒)

'55(日活)園獅子文六園和田夏十園峰重義園中村公彦園黛敏郎園山村聰、北原三枝、轟夕起子、三橋達也、山根寿子、嵯峨三智子、芦川いづみ、滝沢修、宇野重吉、北林谷栄、三戸部スエ、千田是也、高品格、山田禪二、三島謙、宮原徳平

A-17

8/1(金)3:00pm 8/21(木)7:00pm

こころ(121分・35mm・白黒)

'55(日活)園夏目漱石園猪俣勝人、長谷部慶治園伊藤武夫、藤岡泰信園小池一美園大木正夫園森雅之、新珠三千代、三橋達也、安井昌二、北林谷栄、田村秋子、鶴丸睦彦、下元勉、下條正巳、久松晃、奈良岡朋子、山田禪二、伊丹慶治、鴨田喜由、河上信夫、山本かほる

A-18

8/1(金)7:00pm 8/23(土)1:00pm

ビルマの豎琴(116分・35mm・白黒)

'56(日活)園竹山道雄園和田夏十園横山実園松山崇園伊福部昭園三国連太郎、安井昌二、浜村純、内藤武敏、西村晃、春日俊二、三橋達也、伊藤雄之助、中原啓七、伊藤寿章、土方弘、青木富夫、花村信輝、峯三平、千代京二、小柴隆、宮原徳平、加藤義朗

A-19

8/2(土)1:00pm 8/21(木)3:00pm

処刑の部屋(95分・35mm・白黒)

'56(大映東京)園石原慎太郎園和田夏十、長谷部慶治園中川芳久園下河原友雄園孝宅二園川口浩、川崎敬三、若尾文子、入江洋佑、梅若正義、月田昌也、宮口精二、岸輝子、中村伸郎、南弘二、中田勉、竹内哲郎、大塚弘、伊藤直保、黒須光彦

A-20

8/2(土)4:00pm 8/22(金)7:00pm

日本橋(111分・35mm・カラー)

'56(大映東京)園泉鏡花園和田夏十園渡辺公夫園柴田篤二園孝宅二園淡島千景、若尾文子、山本富士子、品川隆二、川口浩、柳永二郎、船越英二、浦辺糸子、沢村貞子、岸輝子、平井岐代子、潮万太郎、伊東光一、小原利之、高村栄一、伊達正、小杉光史、杉寛

A-21

8/3(日)4:00pm 8/26(火)3:00pm

満員電車(99分・35mm・白黒)

'57(大映東京)園和田夏十、市川崑園村井博園下河原友雄園孝宅二園川口浩、川崎敬三、船越英二、小野道子、笠智衆、杉村春子、見明凡太郎、潮万太郎、入江洋佑、花布辰男、葛木香一、山茶花究、清水元、伊東光一、春本富士夫、杉田康

A-22

8/5(火)3:00pm 8/27(水)7:00pm

穴(101分・35mm・白黒)

'57(大映東京)園久里子亭園小林節雄園下河原友雄園芥川也寸志園京マチ子、菅原謙二、船越英二、川上康子、山村聰、石原慎太郎、日高澄子、早田雄二、石井竜一、潮万太郎、見明凡太郎、浜口喜博、春本富士夫、北林谷栄、小山内淳、浜村純、伊東光一

A-23

8/5(火)7:00pm 8/23(土)4:00pm

炎上(99分・35mm・白黒)

'58(大映京都)園三島由紀夫園和田夏十、長谷部慶治園宮川一夫園西岡善信園黛敏郎園市川雷蔵、中村鴈治郎、仲代達矢、新珠三千代、北林谷栄、信欣三、浦洋洋子、中村玉緒、舟木洋一、香川良介、水原浩一、寺島雄作、上田寛、浜村純、志摩靖彦、伊達三郎

A-24

8/6(水)3:00pm 8/26(火)7:00pm

あなたと私の合言葉 さようなら、今日は(86分・35mm・カラー)

'59(大映東京)園久里子亭園舟橋和郎園小林節雄園下河原友雄園塚原哲夫園京マチ子、野添ひとみ、若尾文子、菅原謙二、川口浩、船越英二、佐分利信、石井竜一、柴田吾郎、見明凡太郎、渡辺糸子、倉田マユミ、三好栄子、潮万太郎、星ひかる、桂小文治

A-25

8/6(水)7:00pm 8/28(木)3:00pm

鍵(107分・35mm・カラー)

'59(大映東京)園谷崎潤一郎園和田夏十、長谷部慶治、市川崑園宮川一夫園下河原友雄園芥川也寸志園京マチ子、叶順子、仲代達矢、中村鷹治郎、北林谷栄、菅井一郎、潮万太郎、山茶花究、倉田マユミ、大山健二、南部彰三、伊東光一、星ひかる、花布辰男、原田侃二

A-26

8/7(木)3:00pm 8/24(日)4:00pm

野火(104分・35mm・白黒)

'59(大映東京)園大岡昇平園和田夏十園小林節雄園柴田篤二園芥川也寸志園船越英二、滝沢修、ミッキー・カーチス、星ひかる、潮万太郎、月田昌也、杉田康、浜口喜博、石黒達也、稲葉義男、浜村純、佐野浅夫、伊達信、伊東光一、飛田喜佐夫、大川修

A-27

8/7(木)7:00pm 8/30(土)1:00pm

ほんち(104分・35mm・カラー)

'60(大映京都)園山崎豊子園和田夏十、市川崑園宮川一夫園西岡善信園芥川也寸志園市川雷蔵、若尾文子、船越英二、京マチ子、越路吹雪、草笛光子、中村玉緒、山田五十鈴、林成年、中村鷹治郎、毛利菊枝、倉田マユミ、北林谷栄、潮万太郎、菅井一郎

A-28

8/8(金)3:00pm 8/30(土)4:00pm

おとと(98分・35mm・カラー)

'60(大映東京)園幸田文園水木洋子園宮川一夫園下河原友雄園芥川也寸志園岸恵子、川口浩、田中絹代、森雅之、土方孝哉、友田輝、岸田今日子、仲谷昇、江波杏子、穂高のり子、浜村純、夏木章、飛田喜佐夫、伊東光一、星ひかる

A-29

8/8(金)7:00pm 8/27(木)3:00pm

黒い十人の女(102分・35mm・白黒)

'61(大映東京)園和田夏十園小林節雄園下河原友雄園芥川也寸志園岸恵子、船越英二、山本富士子、宮城まり子、中村玉緒、岸田今日子、永井智雄、大辻伺郎、伊東光一、伊丹一三、倉田マユミ、宇野良子、有明マサミ、紺野ユカ、村井千恵子、森山加代子、ハナ肇とクレージー・キャッツ

A-30

8/9(土)1:00pm 8/28(木)7:00pm

破戒(118分・35mm・白黒)

'62(大映京都)園島崎藤村園和田夏十園宮川一夫園西岡善信園芥川也寸志園市川雷蔵、長門裕之、船越英二、藤村志保、三国連太郎、中村鷹治郎、岸田今日子、宮口精二、加藤嘉、杉村春子、見明凡太郎、潮万太郎、浜村純、嵐三右エ門、加茂良子

A-31

8/9(土)4:00pm 8/29(金)3:00pm

私は二歳(87分・35mm・カラー)

'62(大映東京)園松田道雄園和田夏十園小林節雄園千田隆園芥川也寸志園鈴木博雄、山本富士子、船越英二、浦辺条子、潮万太郎、岸田今日子、渡辺美佐子、京塚昌子、大辻伺郎、倉田マユミ、浜村純、緋櫻陽子、花井弘子

A-32

8/10(日)4:00pm 8/29(金)7:00pm

雪之丞変化(113分・35mm・カラー)

'63(大映京都)園三上於菟吉園伊藤大輔、衣笠貞之助、和田夏十園小林節雄園西岡善信園芥川也寸志、八木正生園長谷川一夫、山本富士子、若尾文子、市川雷蔵、勝新太郎、船越英二、林成年、柳永二郎、市川中車、中村鷹治郎、中村豊、真城千都世、千葉敏郎、水原浩一

A-33

7/22(火)3:00pm 8/31(日)4:00pm

股旅(96分・35mm・カラー)

'73(崑プロ=日本アート・シアター・ギルド)園谷川俊太郎、市川崑園小林節雄園西岡善信、加門良一園久里子亭、浅見幸雄園小倉一郎、尾藤イサオ、萩原健一、井上れい子、常田富士男、加藤嘉、大宮敏充、二見忠男、夏木章、坂本長利、野村昭子、黛廉太郎、加茂雅幹、吉田精一

A-1

9/2(火)3:00pm 9/20(土)1:00pm

花ひらく 真知子より(88分・35mm・白黒)

'48(新東宝)園野上彌生子園八住利雄園小原譲治園河野鷹思園早坂文雄園高峰秀子、上原謙、藤田進、吉川満子、三村秀子、田中春男、村田知英子、水原久美子、春山葉子、伊達里子、江見渉

A-2

9/2(火)7:00pm 9/21(日)4:00pm

人間模様(89分・35mm・白黒)

'49(新東宝)園羽文雄園山下与志一、和田夏十園小原譲治園河野鷹思園仁木多喜雄園上原謙、山口淑子、月丘千秋、青山五郎、江見渉、東山千栄子、斎藤達雄、伊藤雄之助、高木昇、大倉文雄、石井ふく子、泉麗子

A-3

9/3(水)3:00pm 9/20(土)4:00pm

暁の追跡(93分・35mm・白黒)

'50(田中プロ=新東宝)園中川淳園新藤兼人園横山実園中古智園飯田信夫園池部良、水島道太郎、伊藤雄之助、田崎潤、杉葉子、野上千鶴子、江見渉、三原純、菅井一郎、島田友三郎、岩宮忠三郎、藤原釜足、石黒達也、久保春二、高堂国典、横山運平、北林谷栄

A-4

9/3(水)7:00pm 9/21(日)1:00pm

いそらいしゅん

夜來香(86分・35mm・白黒)

'51(新東宝=昭映プロ)園松浦健郎、市川崑園横山実園加藤雅俊園服部良一、小川寛典園上原謙、久慈あさみ、利根はる恵、川喜多小六、河村黎吉、月丘千秋、菅井一郎、伊志井寛、本間文子、伊藤雄之助、三原純、生方功、清川玉枝

A-5

9/4(木)3:00pm 9/23(火・祝)4:00pm

恋人(70分・35mm・白黒)

'51(新東宝=昭映プロ)園梅田晴夫園和田夏十、市川崑園横山実園藤田博園服部正園池部良、久慈あさみ、千田是也、村瀬幸子、北林谷栄、横尾泥海男、森繁久彌、鈴木俊子、武村新、柳谷寛、伊藤雄之助、斉田愛子

A-6

9/4(木)7:00pm 9/27(土)1:00pm

若い人(117分・35mm・白黒)

'52(東宝)園石坂洋次郎園内村直也、和田夏十、市川崑園山田一夫園河東安英園芥川也寸志園池部良、久慈あさみ、島崎雪子、杉村春子、小沢栄、ジャンヌ・ブッシュ、斎藤達雄、伊藤雄之助、三好栄子、南美江、村上冬樹、見明凡太郎、堺左千夫、江島和子、沢村貞子

A-7

9/5(金)3:00pm 9/23(火・祝)1:00pm

青色革命(111分・35mm・白黒)

'53(東宝)園石川達三園猪俣勝人園玉井正夫園村木忍園黛敏郎園千田是也、沢村貞子、太刀川洋一、江原達怡、久慈あさみ、三国連太郎、伊藤雄之助、加東大介、木暮実千代、中村伸郎、青山杉作、田代百合子、山本廉、高堂国典、加藤春哉

A-8

9/5(金)7:00pm 9/28(日)1:00pm

わたしの凡てを(102分・35mm・白黒)

'54(東宝)園菊田一夫園梅田晴夫、浅野辰雄、市川崑園三浦光雄園阿久根巖園服部良一園池部良、有馬稲子、伊東絹子、上原謙、日高澄子、二本柳寛、加東大介、藤原釜足、塩沢登代路、沢村貞子、大川平太郎、山田巳之助、トニー谷、三條利喜江、出雲八枝子

A-9

9/6(土)1:00pm 9/19(金)7:00pm

新説カチカチ山(6分・35mm・白黒)

'36(J.O.トーキー)園(作画)園市川崑園西山明男

娘道成寺(19分・35mm・白黒)

'45(東宝)園長谷部慶次園岸次郎園西浦貢園青山通春園服部正

東北の神武たち(60分・35mm・白黒)

'57(東宝)園深沢七郎園久里子亭園山田一夫園中古智園伊玖磨園芥川比呂志、伊豆肇、小高尊、左卜全、溝井哲夫、恩田清二郎、堺左千夫、高畑文也、千葉一郎、岡部正、千葉太郎、佐藤允、千秋実、東郷晴子、藤原釜足、浪花千栄子、三好栄子、沢村いき雄、浜村純

A-10

9/6(土)4:00pm 9/24(水)3:00pm

女経(100分・35mm・カラー)

'60(大映東京)園吉村公三郎、市川崑、増村保造園村松梢風園八住利雄園宮川一夫、村井博、小林節雄園柴田篤二、山口照、渡辺竹三郎園芥川也寸志園[第2話出演分]山本富士子、船越英二、野添ひとみ、菅原謙二、潮万太郎、大辻伺郎

A-11

9/7(日)1:00pm 9/19(金)3:00pm

太平洋ひとりぼっち(97分・35mm・カラー)

'63(石原プロ)園堀江謙一園和田夏十園崎崎弘園松山崇園芥川也寸志、武満徹園石原裕次郎、浅丘ルリ子、森雅之、田中絹代、大坂忠郎、ハナ肇、芦屋雁之助、神山勝、草薙幸二郎

A-12

9/7(日)4:00pm 9/24(水)7:00pm

ど根性物語 銭の踊り(90分・35mm・カラー)

'64(大映東京)園久里子亭園宮川一夫園渡辺竹三郎園ハナ肇、宮川泰園勝新太郎、船越英二、江利チエミ、大辻伺郎、ロイ・ジェームス、伊藤素道、潮万太郎、浜村純、スマイリー・小原、夏木章、マイク・ダニン、星ひかる、松沢仁

A-13

9/9(火)3:00pm 9/28(日)4:00pm

東京オリンピック(169分・35mm・カラー)

'65(東京オリンピック映画協会)脚和田夏十、白坂依志夫、谷川俊太郎、市川崑 監 林田重男、宮川一夫、中村謙司、田中正ほか 録音 監 井上俊彦 音楽 監 黛敏郎 脚 三國一朗

A-14

9/9(火)7:00pm 9/27(土)4:00pm

トップ・ジーゴのボタン戦争 90分・35mm・カラー)

'67(マリア・ペレーゴ・プロ=キングスメン・エンタープライズ)脚市川崑、永六輔、アルベルト・オンガロ、フェデリコ・カルドローラ 監 長野重一 脚 マリオ・ミラーニ、青木浩 監 中村八大 監 出 中村メイコ、冬城五郎、根上忠、園八雲 脚 小林桂樹

A-15

9/10(水)3:00pm 9/25(木)7:00pm

京(38分・35mm・パートカラー)★

'68(オリベッティ)脚谷川俊太郎 監 墨谷尚之 監 市川崑 監 武満徹 脚 芥川比呂志

青春(96分・35mm・カラー)

'68(朝日新聞=朝日テレビニュース)脚井手雅人、白坂依志夫、谷川俊太郎ほか 監 植松永吉 監 山本直純 脚 芥川比呂志

A-16

9/10(水)7:00pm 10/4(土)1:00pm

愛ふたたび(95分・35mm・カラー)★

'71(東宝)脚谷川俊太郎 監 長谷川清 脚 村木忍 脚 馬飼野俊一 監 ルノー・バルレー、浅丘ルリ子、石立鉄男、グラシェラ・ロベツ・コロンブレス、宮口精二、桃井かおり、由起艶子

A-17

9/11(木)3:00pm 10/5(日)4:00pm

吾輩は猫である(115分・35mm・カラー)★

'75(芸苑社)脚夏目漱石 脚 八住利雄、市川崑 監 岡崎宏三 監 西岡善信 監 J・S・パツァ 脚 仲代達矢、島田陽子、三波伸介、岡田茉莉子、波乃久里子、篠ヒロコ、伊丹十三、前田武彦、岡本信人、篠田三郎、左とん平、岡田英次

A-18

9/11(木)7:00pm 9/26(金)3:00pm

妻と女の間(111分・35mm・カラー)

'76(東宝)監 豊田四郎 監 瀬戸内晴美 脚 八住利雄 監 岡崎宏三、長谷川清 監 村木忍 監 佐藤勝 監 三田佳子、大空真弓、梶芽衣子、酒井和歌子、仁科明子、田村高廣、丹波哲郎、曾我廻家明蝶、高杉早苗、篠田三郎、森本レオ

A-19

9/12(金)3:00pm 10/4(土)4:00pm

犬神家の一族(146分・35mm・カラー)

'76(角川春樹事務所)監 横溝正史 脚 長田紀生、日高真也、市川崑 監 長谷川清 監 阿久根巖 監 大野雄二 監 石坂浩二、島田陽子、あおい輝彦、高峰三枝子、小沢栄太郎、三国連太郎、三木のり平、岸田今日子、草笛光子、三条美紀、川口晶、坂口良子、大滝秀治、金田龍之介、加藤武

A-20

9/12(金)7:00pm 10/5(日)1:00pm

悪魔の手毬唄(143分・35mm・カラー)

'77(東宝映画)監 横溝正史 脚 久里子亭 監 長谷川清 脚 村木忍 脚 井邦彦 監 石坂浩二、岸恵子、仁科明子、若山富三郎、三木のり平、辰巳柳太郎、北公次、高橋洋子、草笛光子、山岡久乃、林美智子、渡辺美佐子、加藤武、大滝秀治、中村伸郎

A-21

9/13(土)1:00pm 9/25(木)3:00pm

獄門島(145分・35mm・カラー)

'78(東宝映画)監 横溝正史 脚 久里子亭 監 長谷川清 脚 村木忍 脚 田辺信一 監 石坂浩二、大原麗子、草笛光子、太地喜和子、司葉子、東野英治郎、ピーター、三木のり平、坂口良子、内藤武敏、浅野ゆう子、佐分利信、加藤武、大滝秀治、上條恒彦、萩野日慶子、稲葉義男、小林昭二

A-22

9/13(土)4:00pm 9/26(金)7:00pm

女王蜂(139分・35mm・カラー)

'78(東宝映画)監 横溝正史 脚 日高真也、桂千穂、市川崑 監 長谷川清 監 阿久根巖 監 田辺信一 監 石坂浩二、岸恵子、司葉子、高峰三枝子、仲代達矢、中井貴恵、沖雅也、三木のり平、伴淳三郎、草笛光子、坂口良子、萩尾みどり、白石加代子、加藤武、神山繁、小林昭二、大滝秀治

A-23

9/14(日)1:00pm 9/30(火)7:00pm

火の鳥(141分・35mm・カラー)★

'78(火の鳥プロ=東宝)監 手塚治虫 脚 谷川俊太郎 監 長谷川清 監 阿久根巖 監 深町純 監 若山富三郎、尾美トシノリ、高峰三枝子、仲代達矢、由美かおる、草刈正雄、江守徹、草笛光子、大原麗子、林隆三、加藤武、田中健、伴淳三郎、大滝秀治、風吹ジュン、沖雅也、木原美知子、ピーター

A-24

9/14(日)4:00pm 10/2(木)3:00pm

病院坂の首縊りの家(139分・35mm・カラー)

'79(東宝映画)監 横溝正史 脚 日高真也、久里子亭 監 長谷川清 監 阿久根巖 監 田辺信一 監 石坂浩二、佐久間良子、草刈正雄、桜田淳子、あおい輝彦、入江たか子、加藤武、草笛光子、白石加代子、三条美紀、萩尾みどり、ピーター、中井貴恵、小沢栄太郎、大滝秀治、岡本信人

A-25

9/16 (火)3:00pm 10/2 (木)7:00pm

古都(125分・35mm・カラー)

'80 (ホリ企画制作) 園 川端康成 園 日高真也、市川崑 園 長谷川清 園 坂口岳玄 園 田辺信一 園 山口百恵、三浦友和、沖雅也、岸恵子、實川延若、加藤武、宝生あや子、三条美紀、小林昭二、浜村純、常田富士男、泉じゅん、山本ゆかり

A-26

9/16 (火)7:00pm 10/1 (水)3:00pm

幸福(105分・35mm・カラー)★

'81 (フォーライフ=東宝映画) 園 エド・マクベイン 園 日高真也、大藪郁子、市川崑 園 長谷川清 園 村木忍 園 石川鷹彦、岡田徹 園 水谷豊、永島敏行、中原理恵、草笛光子、谷啓、市原悦子、永井英里、黒田留以、三條美紀、佐々木すみ江、新橋耐子、加藤武、常田富士男、小林昭二、浜村純、阿藤海

A-27

9/17 (水)3:00pm 10/3 (金)7:00pm

細雪(140分・35mm・カラー)

'83 (東宝映画) 園 谷崎潤一郎 園 市川崑、日高真也 園 長谷川清 園 村木忍 園 大川新之助、渡辺俊幸 園 佐久間良子、吉永小百合、岸恵子、石坂浩二、古手川祐子、伊丹十三、細川俊之、江本孟紀、岸部一徳、桂小米朝、横山道代、三條美紀、新橋耐子、白石加代子、三宅邦子、上原由佳理、根岸明美、小林昭二、常田富士男

A-28

9/17 (水)7:00pm 9/30 (火)3:00pm

おはん(112分・35mm・カラー)

'84 (東宝映画) 園 宇野千代 園 市川崑、日高真也 園 五十畑幸勇 園 村木忍 園 大川新之助、朝川朋之 園 吉永小百合、大原麗子、石坂浩二、ミヤコ蝶々、香川三千、上原由佳理、伊藤公子、浜村純、常田富士男、横山道代、長谷川歩、桂小米朝、音羽久米子、早田文次

A-29

9/18 (木)3:00pm 10/1 (水)7:00pm

ピルマの豎琴(132分・35mm・カラー)

'85 (フジテレビジョン=博報堂=キネマ東京) 園 竹山道雄 園 和田夏十 園 小林節雄 園 阿久根巖 園 山本直純 園 石坂浩二、中井貴一、菅原文太、北林谷栄、川谷拓三、渡辺篤史、小林稔侍、佐藤正文、井上博一、常田富士男、浜村純

A-30

9/18 (木)7:00pm 10/3 (金)3:00pm

鹿鳴館(125分・35mm・カラー)

'86 (MARUGENフィルム) 園 三島由紀夫 園 市川崑、日高真也 園 小林節雄 園 村木忍 園 山本純ノ介、谷川賢作 園 浅丘ルリ子、中井貴一、沢口靖子、三橋達也、岸田今日子、石坂浩二、菅原文太、井川比佐志、渡辺篤史、神山繁、常田富士男、浅利香津代、横山道代、高林由紀子、三條美紀、濱村純、井上博一、尾美としのり

*★印の番組には市川監督の演出によるテレビCM作品の上映が行われた(各60~90秒)。

*園=監督・演出・総監督 園=原作・原案・企案 園=脚本・脚本協力・脚色・シナリオ・潤色 園=撮影・撮影監督 園=美術 園=編集 園=音楽・音楽監督 園=出演 園=ナレーター

会 期
平成15年9月16日(火)–9月28日(日) (12日間)
会 場
小ホール
上映回数
36回
入場者総数
1,639人(1回平均46人)
共 催
社団法人映像文化製作者連盟
雑誌・新聞関連記事
東京新聞 平成15年9月3日 赤旗 平成15年9月12日 信濃毎日新聞 平成15年9月 新聞協会報 平成15年9月23日 赤旗 平成15年9月24日

213 社団法人映像文化製作者連盟創立50周年記念 短篇映像メディアに見る現代日本

産業PR映画、教育、科学技術などの分野で活躍する多くのプロダクションが加入する社団法人映像文化製作者連盟(映文連)は、2003年に創立50年を迎えた。劇場用映画の隆盛とならんで、日本はこうしたノンフィクションの分野でも数多くの秀作を生み出しているが、フィルムセンターと同連盟は共同で、戦時下から現代に至る、記録映像ならではのインパクトにあふれた66作品を上映した。戦争と復興、教育と学校、科学と生命、高度成長と環境破壊、美術と伝統芸能といった視点を通じて、日本社会の諸相を浮き彫りにする番組作りを企図したものである。

番組編成は原則として同連盟側が行い、同連盟が各プロダクションから調達した作品とフィルムセンターの所蔵作品とを有機的に組み合わせたラインアップとなったが、同連盟の長年にわたる活動の蓄積を鋭く反映した作品選択は、共催の意義を強く感じさせるものとなった。上映作品のうち、同連盟が加盟各社から手配した映画フィルムの中には、この企画のために新規にプリントされたものが含まれ、その大半がフィルムセンターに寄贈されるなど、フィルムの収集活動にも貢献した企画となっている。

Contemporary Japan as Seen by Documentary Films

Japan Association of Audiovisual Producers, Inc.(JAAP), an organization to which many production companies of non-fiction films (industrial promotion, education, and scientific technologies) belong, marked its 50th anniversary in 2003. To commemorate the anniversary, JAAP and NFC co-organized the screening program in which 66 strong titles since the war time were shown so as to bring into focus various aspects of Japanese society through topics such as war and postwar rehabilitation, education and school system, science and life, high growth of Japanese economy and environmental destruction, and arts and the traditional performing arts.

The program reflected the long history of JAAP, and consisted of films from the NFC collection and those procured from individual production companies. The latter included new prints that were made specifically for this program and many of them were donated to NFC after this screening program. Thus the program also contributed to NFC's collecting activities.



1

9/16(火)0:30pm 9/27(土)1:30pm

中国大陸からの報告—戦時下の文化・記録映画1

娘々廟会 (20分・35mm・白黒)

'39(満鉄映画製作所) 編 齋芥川光蔵 監 藤井静

支那事变後方記録 上海 (77分・16mm・白黒)

'38(東宝文化映画部) 監 米澤秋吉 編 亀井文夫 監 三木茂

2

9/16(火)3:30pm 9/28(日)10:30am

戦争に備える日本人—戦時下の文化・記録映画2

空の神兵 (55分・35mm・白黒)

'42(日本映画社) 監 渡辺義美 監 高木東六

勝利への生産 (35分・35mm・白黒)

'42(芸術映画社) 監 水木荘也 監 本田延三郎 監 橋本龍雄

或る保姆の記録 (35分・16mm・白黒)

'42(芸術映画社) 監 厚木たか 監 水木荘也

3

9/16(火)6:30pm 9/24(水)3:30pm

民主主義の新日本へ—復興期の作品から

こども議会 (18分・35mm・白黒)

'47(東宝教育映画) 監 米山強監 丸山章治

炭坑 (33分・35mm・白黒)

'47(日本映画社) 監 加納純一 監 伊東寿恵男、柳沢寿男

生きているパン (18分・35mm・白黒)

'48(日本映画社) 監 石本統吉 監 奥山大六郎 監 太田仁吉 監 小林米作

空気のなくなる日 (51分・35mm・白黒)

'49(日本映画社) 監 石本統吉 監 伊東寿恵男 監 花沢徳衛ほか

4

9/17(水)0:30pm 9/27(土)4:30pm

教育映画で学校を変える—社会科教材映画大系

流れ作業 (18分・35mm・白黒)

企画:社会科教材映画大系審議会

'50(東宝教育映画) 監 平松幸彦 監 西沢豪

青果市場 (18分・16mm・白黒)

企画:社会科教材映画大系審議会

'50(科学映画社) 監 岡岩堀喜久雄

新聞のはたらき (20分・16mm・白黒)

企画:社会科教材映画大系審議会

'50(理研映画) 監 岡野巖村 村山英治

私たちの新聞 (21分・16mm・白黒)

企画:社会科教材映画大系審議会

'51(日本映画社) 監 岡多胡隆 監 柳沢寿男 監 橋本正

はえのいない町 (12分・16mm・白黒)

企画:社会科教材映画大系審議会

'51(岩波映画製作所) 監 村治夫 監 吉野馨治 監 羽仁進ほか

5

9/17(水)3:30pm 9/28(日)1:30pm

名作教育・記録映画の人間像

教室の子どもたち 学習指導への道 (29分・35mm・白黒)

企画:文部省視聴覚課

'54(岩波映画製作所) 監 小口禎三 監 羽仁進 監 小村静夫

ひとりの母の記録 (39分・16mm・白黒)

'55(岩波映画製作所) 監 小口禎三 監 京極高英 監 岩佐氏寿

九十九里浜の子どもたち (32分・35mm・白黒)

'56(東映教育映画部) 監 豊田敬太郎 監 岩佐氏寿 監 浦島進

6

9/18(木)0:30pm 9/27(土)10:30am

顕微鏡からナノ・ワールドへ—科学映画の挑戦1

マリン・スノー—石油の起源 (25分・35mm・カラー)

企画:丸善石油

'60(東京シネマ) 監 岡田桑三 監 野田真吉、大沼鉄郎 監 吉見泰 監 小林米作

生命の流れ—血液を探る (26分・35mm・カラー)

企画:第一製薬

'68(電通映画社) 監 西尾豊、八幡省三 監 樋口源一郎 監 鈴木喜代治

地球と生命—フラスコの中のエコロジー (23分・16mm・カラー)

企画:日立製作所

'73(映像プロ) 監 橋逸夫 監 配島央二 監 杉山正美 監 関口敏雄

サイエンスグラフィティ 科学と映像の世界 (26分・16mm・カラー)

企画:富士写真フィルム

'84(岩波映画製作所) 監 小口禎三、藤瀬季彦 監 堀越慧 監 関晴雄

ナノワールドに挑む—電子顕微鏡が探る極微の世界 (26分・ビデオ・カラー)

企画:日立製作所

'88(イメージサイエンス) 監 大須賀武監 監 牧口光郎 監 坂田祐次

7

9/17(水)6:30pm 9/23(火・祝)10:30am

生命の謎・宇宙の極限を探る—科学映画の挑戦2

ニホンザルの自然社会 (21分・35mm・カラー)

企画:文部省

'54(三井芸術プロダクション) 監 三井高孟 監 太田仁吉 監 鈴木喜代治

特別天然記念物 ライチヨウ (32分・16mm・カラー)

企画:文化財保護委員会

'67(日本シネセル) 監 静永純一 監 下村兼史 監 榊島清一 監 伊藤三千雄、赤松威喜、村瀬昭夫

ヒトの染色体—生命の秘密を探る (25分・16mm・カラー)

企画:文部省

'66(東京シネマ) 監 岡田桑三 監 大島正明 監 吉見泰 監 豊岡定夫

X線天文学への道 (21分・16mm・カラー)

企画:文部省

'68(岩波映画製作所) 監 田中清広 監 矢部正男 監 吉原順平 監 中山正昭

9/19(金)0:30pm 9/28(日)4:30pm

産業社会の基盤を築く—成長期の産業技術映画1**新しい製鉄所**(43分・35mm・カラー)

企画：川崎製鉄

'59(岩波映画製作所)監吉野馨治監伊勢長之助監瀬川順一

ルポルタージュ 炎(40分・35mm・カラー)

企画：東京電力

'60(岩波映画製作所)監小口禎三監黒木和雄監小村静夫

超高層霞ヶ関ビル(44分・16mm・カラー)

企画：鹿島建設

'68(日本技術映画社)監監岩佐氏寿監大野洋

9/19(金)3:30pm 9/23(火・祝)4:30pm

ものづくり立国への道標—成長期の産業技術映画2**機械文明の騎士たち**(26分・16mm・カラー)

企画：津上製作所

'60(日経映画社)監古田保監岡宮則夫監八幡省三

潤滑油(25分・35mm・カラー)

企画：丸善石油

'60(東京シネマ)監岡田桑三監吉見泰監小林米作、長谷川博美、豊岡定夫

巨船ネスサブリン(42分・35mm・カラー)

企画：三菱造船

'61(岩波映画製作所)監小口禎三監楠木徳雄監牛山邦一監伊勢長之助

9/19(金)6:30pm 9/25(木)0:30pm

豊かな暮らしへの新技術—成長期の産業技術映画3**一粒の麦**(27分・16mm・カラー)

企画：朝日麦酒

'62(日本産業映画センター)監田代博茂監松川八洲雄監鈴木喜代治、佐藤昌道

日本のさけます(29分・35mm・カラー)

企画：日本鮭鱒資源保護協会

'64(日本シネセル)監静永純一監稲葉直監渥美輝男監樺島清一

コールドチェーン—低温で生鮮食品を運ぶ仕組み(27分・16mm・カラー)

企画：科学技術庁

'65(岩波映画製作所)監田中清広監西沢豪監吉原順平

スピード・トライアル(36分・16mm・カラー)

企画：トヨタ自動車販売

'66(岩波映画製作所)監高木龍太郎監土屋信篤監秋浜悟史

9/20(土)10:30am 9/23(火・祝)1:30pm

技術の進歩と労働の姿容—成長期の産業技術映画4**ある機関 助士**(37分・16mm・カラー)

企画：日本国有鉄道

'63(岩波映画製作所)監小口禎三監土本典昭監根岸栄

シッフヤードの青春(44分・16mm・カラー)

企画：日本造船工業会

'69(岩波映画製作所)監坊野貞男、高橋宏暢監神馬玄佐雄監清水邦夫監小倉朗

見えない鉄道員(20分・16mm・カラー)

企画：日本国有鉄道、鉄道サイバネティクス協議会

'70(岩波映画製作所)監田村勝志監堀越慧監吉原順平

9/20(土)1:30pm 9/24(水)0:30pm

公害・環境汚染と向きあう**農薬禍**(38分・16mm・カラー)

'67(グループ現代)監古川良範、西原春人監小泉修吉監平福貞文監若月俊一

黒い霧(27分・16mm・カラー)

企画：住友重機械工業

'65(学習研究社)監原正次、石川茂樹監定村武士監秋山智弘監佐竹荘一

生体と大気汚染(24分・35mm・カラー)

企画：東京都公害研究所

'72(シネサイエンス)監監武田純一郎監長谷川高久

9/20(土)4:30pm 9/25(木)6:30pm

ヒロシマ・ナガサキと沖縄の記録**永井博士の思い出**(12分・35mm・白黒)

企画：長崎市

'51(日本映画新社)

朝日ニュース363号 8月14日 特報原爆犠牲第一号**(ノーマアヒロシマの叫び)**(10分・16mm・白黒)

'52(日本映画新社)

監大塚淑生

ヒロシマ原爆の記録(30分・16mm・白黒)

企画：広島市

'70(日本映画新社)監堀場伸世、三輪孝一監小笠原基生、松川八洲雄監杉崎理嗣監宇野重吉

沖縄の母たち(30分・35mm・カラー)

企画：貯蓄増強中央委員会

'70(桜映画社)監村山英治監大島善助監加藤和三

戦場ぬ童(26分・16mm・カラー)

'85(「戦場の童」製作委員会)監上地完道、与儀睦栄監橋祐典監上地完道、知念稔、佐藤透、与那良則監海勢頭豊

9/21(日)10:30am 9/24(水)6:30pm

新鮮な企画を—スポンサーシップの試み**たすけあいの歴史—生命保険のはじまり**(25分・35mm・カラー)

企画:生命保険協会

'73(桜映画社) 脚村山英治 監杉井ギサブロー 脚村山正実 監岡宮芳生 脚岸田今日子

刈干切り唄(42分・35mm・白黒)

企画:貯蓄増強中央委員会

'59(記録映画社) 脚監上野耕三 脚金山富男

母たち(37分・35mm・カラー)

企画:プリマハム

'67(電通=藤プロダクション) 脚工藤充 監松本俊夫 脚鈴木達夫 監湯浅譲二(詩) 寺山修司

9/21(日)1:30pm 9/24(水)6:30pm

美術映画の傑作たち—文化遺産を伝える1**桂離宮**(22分・35mm・カラー)

企画:文化財保護委員会

'56(電通映画社) 脚小畑敏一、村治夫 監 脚栗林実 脚高木俊朗

鳥獣戯画(24分・35mm・カラー)

'66(映像社=七人の会) 脚監藤原智子、富沢幸男 脚堀田正巳 脚松川八洲雄 脚大沼鉄郎、杉山正美、杉原せつ

彫る 棟方志巧の世界(38分・35mm・カラー)

'75(毎日映画社、美術映画製作協会) 脚草壁久四郎 脚監 脚柳川武夫 脚杉山義法 脚田中正

山雲涛声—唐招提寺障壁画の記録(28分・35mm・カラー)

企画:日本経済新聞社

'76(日経映画社) 脚田島正蔵 脚小谷田巨 脚赤津光男

9/21(日)4:30pm 9/26(金)0:30pm

芸能行事を記録する—文化遺産を伝える2**文楽**(31分・16mm・カラー)

企画:国立劇場

'69(日映科学映画製作所) 脚高田清文 脚中村麟子 脚藤原智子 脚高山富雄

日本の稲作—そのころと伝統(42分・16mm・カラー)

企画:文化庁

'74(英映画社) 脚高橋銀三郎 脚青山通春 脚宮下英一

世阿弥の能(49分・35mm・カラー)

企画:ポーラ伝統文化振興財団

'91(桜映画社) 脚村山和雄、福岡順子 脚村山正実 脚西山東男

9/18(木)3:30pm 9/26(金)6:30pm

トップランナーたちの肖像—科学・技術分野の近作から**大は小を兼ねるといえども**(21分・ビデオ・カラー)

企画:科学技術振興事業団

'97(読売映像) 脚古田誠宏 脚中神賢史 脚牧衷

世界最大の光電子増倍管をつくる—スーパーカムイオンテ建設

記録(13分・ビデオ・カラー)

企画:浜松ホトニクス

'96(岩波映画製作所) 脚福島継一 脚渡辺雄志 脚岩崎哲 脚田島正晴

映像評伝 仁科芳雄—現代物理学の父(95分・16mm・カラー)

企画:岡山県浅口郡里庄町

'91(山陽映画) 脚疋田順平 脚山崎健輔 脚宇野竜治

9/18(木)6:30pm 9/26(金)3:30pm

日本文化の再発見—文化・記録分野の近作から**浮世絵摺師**(25分・ビデオ・カラー)

'93(東京映画社) 脚大滝勝 脚遠藤伸幸 脚小林幸男、小市秀明

おばんざい歳時記—庶民の味覚と四季(27分・16mm・カラー)

企画:キッコーマン

'96(岩波映画製作所) 脚菅澄子 脚山崎博紹 脚奥村祐治

都市はじめて物語—モダン昭和の東京(30分・16mm・カラー)

企画:大成建設

'96(桜映画社) 脚村山英世 脚原村政樹 脚北里宇一郎 脚西川浩史

神々のふるさと 出雲神楽(41分・35mm・カラー)

企画:ポーラ伝統文化振興財団

2002(英映画社) 脚宮下英一 脚松川八洲雄 脚菅野均 脚小林治、八幡洋一

* 脚=製作 脚=原案 脚=脚本 監=監督・演出 脚=撮影 脚=構成 脚=編集 脚=音楽 脚=出演 脚=語り

会 期
平成15年10月9日(木)–10月19日(日) (10日間)
会 場
大ホール
上映回数
20回
入場者総数
2,751人(1回平均138人)
共 催
駐日トルコ大使館
雑誌・新聞関連記事
公明新聞 平成15年9月26日
朝日新聞 平成15年10月2日
毎日新聞 平成15年10月4日
東京新聞 平成15年10月7日夕刊
赤旗 平成15年10月8日

214 日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在

「日本におけるトルコ年」としてさまざまな文化事業が実施された2003年、フィルムセンターはトルコ大使館との共同開催により、「トルコ映画の現在」と題して近年の話題作10作品をまとめた上映を行った。

トルコ映画は、人情味あふれるコメディ、アラベスク音楽から派生したメロドラマであるアラベスク映画、陰影をたたえたアクション映画など、イスタンブールを中心に多彩なジャンルの娯楽映画を生み出してきたが、近年は『告白』(2001年)の俊英ゼキ・デミルクブズ監督や『五月の雲』(2000年)のヌリ・ビルゲ・ジェイラン監督などのニューウェイヴ作家の出現により、ヨーロッパなどの映画祭でその芸術性を高く評価されるようになっている。また、オメル・カヴール、ゼキ・オクテンといったベテラン監督、そしてトルコ映像業界の寵児シナン・チエティンなども、トルコ人の日常生活を巧みに捉えながら、引き続きトルコ映画の豊穡さに貢献している。演技の面では、ケマル・スナルやメティン・アクプナルといったスター俳優たちの円熟ぶりも大きな見所となっている。

こうした新旧の監督・俳優たちの交わる現代トルコ映画を扱った本特集は、フィルムセンターにとって初めての中近東諸国からの上映企画でもあった。大半の作品の日本語字幕を国外(トルコ側)で作成するなどの新しい試みも採用されるとともに、「トルコ年記念バッジ」の配布(トルコ大使館提供)やポスターの飾り付けなど、観覧者に対して独自のサービスを行ったことも特筆すべき事柄である。

Turkish Cinema Now

A number of cultural events took place in 2003 which was the “Turkish Year in Japan.” NFC co-organized “Turkish Cinema Now” with the Turkish Embassy and screened 10 recent Turkish films. Turkish film industry traditionally produced a wide variety of entertainment films such as humanistic comedies, Arabesque films that are melodramas originating from arabesque music, and nuanced action films. In recent years, however, highly artistic films by the New Wave directors such as *The Confession*(2001) by Zeki Demirkubuz and *Clouds of May*(2000) by Nuri Bilge Ceylan have received international acclaim at film festivals in Europe and other areas. Also notable are veteran directors such as Ömer Kavur and Zeki Ökten, and the Turkish cinema’s current favorite Sinan Cetin who deftly depicts a slice of life of Turkish people. Star actors such as Kemal Sunal and Metin Akpınar have long contributed to the richness of Turkish cinema by their mature acting.

“Turkish Cinema Now” was the first screening program at NFC of the films from the Middle and Near East countries. Another first attempt was to produce Japanese subtitles for most of the films outside of Japan (on the Turkish side.) As special “treats” to the audience members, “Turkish Year pins” (supplied by the Turkish Embassy) were handed out, and posters were put up in the lobby.



T-1

10/9 (木)3:00pm 10/15 (水)7:00pm

オフサイド(120分)DAR ALANDA KISA PASLAŞMALAR / OFFSIDE

2000 (ウムット・サナット・フィルム) 監 脚 セルダル・アカル 脚 オンデル・チャカル 監 メフメット・アクスン 脚 ヤヴズ・ファズ 脚 ファヒル・アタコール 脚 ミュジデ・アル、サヴァシユ・ディンチュル、ラフェット・エル・ロマン、エルカン・ジャン、シャフナズ・チャクラル、ウール・ボラット、イスマイル・インチュカラ、セザイ・アイトウン、ケマル・コジャテュルク、デヴィン・オズギュル・チュナル

T-2

10/9 (木)7:00pm 10/17 (金)3:00pm

五月の雲 (120分)MAYIS SIKINTISI / CLOUDS OF MAY

2000 (NBC エージェント＝スリ・ビルゲ・ジェイラン) 監 脚 脚 スリ・ビルゲ・ジェイラン 脚 M・エミン・ジェイラン、ムザッフェル・オズデミル、ファトマ・ジェイラン、M・エミン・トブラック、ムハンメド・ズンバオール、サドック・インジェス

T-3

10/10 (金)3:00pm 10/18 (土)1:00pm

天使たちの家(102分)MELEKLER EVI / HOUSE OF ANGELS

2000 (アルファ・フィルム) 監 脚 オメル・カヴール 脚 フェリデ・チチエキオール、エロル・フザルチュ 脚 アリ・ウトク 脚 セルチュク・ギュルシュク 脚 ジャーヒット・ベルカイ 脚 タラット・ブルット、ハンデ・アタイズイ、アイタチ・アルマン、アルスラン・カジャル、ハルドウン・ボイサン、タールク・パプチュオール、シュエダ・チル、イェリズ・トザン、マージット・コベル、メティン・ベルギン

T-4

10/10 (金)7:00pm 10/19 (日)1:00pm

プロパガンダ(116分)PROPAGANDA

1998 (プラト・フィルム) 監 脚 シナン・チェティン 脚 ギュリン・トカット 脚 レベッカ・ハース 脚 セゼン・アクス 脚 メティン・アクブナル、ケマル・スナル、メルテム・ジュンブル、ラフェット・エル・ロマン、アリ・スナル、メラル・オルホンサイ、ナズミエ・エロル

T-5

10/11 (土)1:00pm 10/15 (水)3:00pm

警視シェークスピア(115分)KOMSER ŞEKSPİR / COMMISSAR SHAKESPEARE

2000 (プラト・フィルム) 監 シナン・チェティン 脚 メスット・ジェイラン 脚 キャーミル・チェティン 脚 オメル・オズギュル 脚 カディル・イナスル、ミュジデ・アル、オカン・バユルゲン、ペリン・ハトウ、オズカン・ウール、メスット・ジェイラン、セラハッティン・ドゥマン、ガザンフェル・オズジャン

T-6

10/11 (土)4:00pm 10/16 (木)3:00pm

不条理なゲーム(105分)OYUNBOZAN / UNFAIR GAME

2000 (エルレル・フィルム) 監 脚 ネスリ・チオルゲチェン 脚 サイト・アイテムル 脚 エルダル・カフラマン 脚 セルダ・ユルケンジレル 脚 ナディル・ギョクテュルク 脚 ゼキ・アラスヤ、オカン・バユルゲン、ニカラウス・セルギアナブロス、ティミラ・マツーカ、シャファク・セゼル、ソネル・アウン、ユステュン・アスタイ、マリア・スタヴラケツリ、ギュル・オナット、メルダ・アラット、テキン・テメル、メルト・アスタイ

T-7

10/12 (日)1:00pm 10/16 (木)7:00pm

みどりの光線(110分)YEŞİL IŞIK / GREEN RAY

2002 (UFP) 監 脚 フェールク・アクソイ 脚 ネジェフ・ウールル 脚 エルトウン・チ・シェンカイ 脚 スレイマン・アルヌテミズ 脚 ムスタファ・ジャ・ユルケンジレル 脚 ヒュリヤ・アヴシャル、ケナン・イスク、ハルドウン・ドルメン、デニス・アッカヤ、ギュジデ・ドゥラン、チオルパン・イルハン、エシユレフ・コルチャク、オルゲン・シムセック、ペフザット・ウイグル、イルケル・イナノール

T-8

10/12 (日)4:00pm 10/17 (金)7:00pm

さようなら(108分)GÜLE GÜLE / RAINDROP

1999 (UFP) 監 ゼキ・オクテン 脚 ネジェフ・ウールル 脚 ファーティヒ・アルトゥノズ 脚 フェレンツ・パップ 脚 オズレム・ユルトセヴェル 脚 エンギン・デュズヨル 脚 メティン・アクブナル、ゼキ・アラスヤ、シュクラン・ギュンギョル、ユルドゥス・ケンテル、エシユレフ・コルチャク

T-9

10/14 (火)3:00pm 10/18 (土)4:00pm

宿命(118分)YAZGI / FATE

2001 (マヴィ・フィルム) 監 脚 ゼキ・デミルクブズ 脚 アルベール・カミュ 脚 アリ・ウトク 脚 バハル・エヴギン 脚 セルダル・オルチン、ゼイネブ・トクシュ、エンギン・ギュナイドゥン、デミル・カラハン、ネジュミ・アイカル、テュルカン・インジェ、フェリドゥン・コチ、ジャン・アクギュル、ナザン・クルルムシュ、アボ・デミルクブズ、セルダル・アカル

T-10

10/14 (火)7:00pm 10/19 (日)4:00pm

告白(92分)İTIRAF / THE CONFESSION

2001 (マヴィ・フィルム) 監 脚 脚 ゼキ・デミルクブズ 脚 バハル・エヴギン 脚 タネル・ピルセル、バシヤク・キョクリユカヤ、ミラチ・エロナット、イスケンデル・アルトゥン、ギュルギュン・クトル、セルダル・ギュナイドゥン、シナン・アディヤマン、アボ・デミルクブズ、バル・エルテュルク

* 監 = 監督 脚 = 原作 脚 = 脚本 監 = 撮影 美 = 美術 音 = 音楽 出 = 出演

会 期
平成15年10月28日(火)–11月9日(日) (12日間)
会 場
大ホール
上映回数
24回
入場者総数
5,345人(1回平均223人)
共 催
財団法人国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)、朝日新聞社
雑誌・新聞関連記事
朝日新聞 平成15年9月24日 朝日新聞 平成15年10月7日夕刊 日本経済新聞 平成15年10月10日 赤旗 平成15年10月10日 赤旗 平成15年10月28日 日本経済新聞 平成15年12月18日夕刊



215 聖なる映画作家、カール・ドライヤー

カール・ドライヤー監督は、『裁かゝるジャンヌ』(1927年)、『奇跡』(1954年)といった傑作により、世界映画史に輝くデンマークの至宝である。ところが、これまで日本で紹介された作品は一部にとどまっており、その全貌が紹介されたことはなかった。そこでフィルムセンターは、この巨匠が生涯で遺したすべての長篇映画14作品、そして7本の主要な短篇作品を上映する本邦初の企画を、財団法人国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)、朝日新聞社との共催で行った。この特集は2つの会場で開催されたが、10月11日から13日までの有楽町朝日ホールでの上映に続き、フィルムセンターでは、その初期作品にあたる8本の無声映画が上映された。これらはいずれもデンマーク、スウェーデン、ノルウェーなどヨーロッパのFIAF加盟アーカイヴで保存されている最良の復元プリントであり、日本初公開の作品も含まれていた。フィルムセンターでの上映では、世界のシネマテークや映画祭で活躍し、ドライヤー作品を得意演目の一つに数える英国のピアニスト、ニール・ブランド氏の優れた演奏を得たことにより、観覧者からの大きな反響を得た。

これまでにも、新聞社との共催による上映会を実施してきたが、今回は非営利ベースの日本国内巡回に実績のある国際文化交流推進協会も加わったことにより、主要なドライヤー作品を東京以外の会場で上映することが可能となった。

The Art of Carl Th. Dreyer

Known for masterpieces such as *La Passion de Jeanne D'Arc*(1927) and *Ordet*(1954), Carl Th. Dreyer is the treasure of Danish cinema as well as the film history in general. However, only few films had been shown in Japan in the past. In order to hold a thorough retrospective of this important director, NFC co-organized with Ace Japan and Asahi Shimbun the screening event in which all of Dreyer's 14 films and 7 important short films were shown. The event took place at 2 venues. Following the screenings at the Yurakucho Asahi Hall between October 11th and 13th, Dreyer's early 8 silent films were shown at NFC. All of the films that were shown at NFC were the best restored prints borrowed from FIAF archives in European countries such as Denmark, Sweden, and Norway, including some titles that had never been shown in Japan in the past. Also notable about the screenings at NFC is that internationally acclaimed pianist Neil Brand accompanied the films and received enthusiastic reaction from the audience.

While co-organization with newspaper companies was nothing new for NFC, thanks to another co-organizer Ace Japan that is known for non-profit screening tour, we were able to show major Dreyer films around Japan.

D-1

10/28 (火)3:00pm 11/1 (土)1:00pm 11/7 (金)7:00pm

裁判長 Præsidenten (89分・白黒・16fps)

18 (ノーティスク・フィルムス) 原 カール・エーミール・フランツォス 脚 美 カール・ドライヤー 脚 美 ハンス・ウォーゲ 脚 美 ハルヴァーズ・ホフ、エリート・ピオ、カール・マイヤー、オルガ・ラファエル・リンデン、ベティー・キアケピュ、アレックス・リカース・クリステンセン、ペーター・ニールセン、アクセル・マッセン、ヤコブ・イェッセン、ハラランダール・ヘレマン、ファンニー・ペーターセン、ヨシ・イヴァーセン

D-2

10/28 (火)7:00pm 11/2 (日)4:00pm 11/6 (木)3:00pm

サタンの書の数ページ Blade af Satans Bog (148分・白黒・18fps)

19 (ノーティスク・フィルムス) 原 マリー・コレリ 脚 美 カール・ドライヤー 脚 美 エドガー・ホイヤー 脚 美 ゲオー・スネーフォート 脚 美 イェンス・G・リン、アクセル・ブルーネ 脚 美 ヘリエ・ニッセン、[第1話] ハルヴァーズ・ホフ、ヤーコプ・テクシエア、エアリング・ハンソン [第2話] ハランダール・ヘレマン、エボン・ストランディン、ヨハンネス・マイヤー、ナレ・ハルデン、フーゴ・ブルーネ [第3話] テンナ・フレゼリクセン、ヴィゴ・ヴィーエ、エンマ・ヴィーエ、ジャンス・トランクル、エリート・ピオ、エーミール・ヘルセン グレーン [第4話] カーロ・ヴィート、クララ・ポントピダン、カール・ヒレブラン、カリーナ・ベル、クリスチアン・ニールセン

D-3

10/29 (水)3:00pm 11/1 (土)4:00pm 11/6 (木)7:00pm

牧師の未亡人 Prästänkan (83分・白黒・18fps)

20 (スウェンスク・フィルムインドゥストリ) 原 クリストファー・ヤンソン 脚 美 カール・ドライヤー 脚 美 ゲオー・スネーフォート 脚 美 ヒルドゥア・カールベルイ、エイナー・レド、グレータ・アルムロート、ウーラフ・アウクルスト、クルト・ヴェーリン、エーミール・ヘルセン グレーン、マチルデ・ニールセン、ローレンツ・ティーボルト

D-4

10/29 (水)7:00pm 11/2 (日)1:00pm 11/7 (金)3:00pm

不運な人々 Die Gezeichneten (84分・白黒・20fps)

21 (プリムスフィルム) 原 オーエ・マーゼリング 脚 美 カール・ドライヤー 脚 美 フリードリヒ・ヴァインマン 脚 美 イェンス・G・リン 脚 美 ポリーナ・ピエコフスカ、ヴラジーミル・ガイダロフ、アデーレ・ロイター＝アイヒベルグ、トーライフ・ライス、リチャード・ボレスラウスキー、ドゥワン、ヨハンネス・マイヤー

D-5

10/30 (木)3:00pm 11/5 (水)7:00pm 11/9 (日)4:00pm

むかしむかし Der Var Engang (64分・白黒・不完全・20fps)

22 (ソフス・マッセン) 原 ホルガー・ドラックマン 脚 美 カール・ドライヤー、パレ・ローセンクランス 脚 美 ゲオー・スネーフォート 脚 美 イェンス・G・リン 脚 美 クララ・ポントピダン、スヴェン・メトリング、ペーター・イエアンドーフ、ハーゴン・アーンフェルツ＝レンネ

D-6

10/30 (木)7:00pm 11/4 (火)3:00pm 11/8 (土)4:00pm

ミカエル Mikael (89分・白黒・20fps)

24 (デクラ・ピオスコープ＝ウーファ) 原 ヘアマン・バング 脚 美 カール・ドライヤー 脚 美 カール・フロイント、ルドルフ・マテ 脚 美 フーゴ・ヘーリング 脚 美 ベンヤミン・クリステンセン、ヴァルター・シュレツァク、ノラ・グレゴール、グレーテ・モスハイム、アレクサンダー・ムルスキ、ロバート・ガリソン、マックス・アウツィンガー、ティディエ・アスラン、カール・フロイント、ヴィルヘルミーネ・ザントロック

D-7

10/31 (金)3:00pm 11/4 (火)7:00pm 11/9 (日)1:00pm

あるじ Du skal ære din Hustru (118分・白黒・18fps)

25 (パレージウム) 原 スヴェン・リンドム 脚 美 カール・ドライヤー 脚 美 ケオー・スネーフォート 脚 美 ヨハンネス・マイヤー、アストリズ・ホルム、カーリン・ネレモーセ、マチルデ・ニールセン、クララ・シェンフェル、ヨハンネス・ニールセン、ベトリーネ・ゾンネ

D-8

10/31 (金)7:00pm 11/5 (水)3:00pm 11/8 (土)1:00pm

グロムダールの花嫁 Glomdalsbruden (70分・白黒・不完全・18fps)

25 (ヴィクトリア・フィルム) 原 ヤーコブ・ブレダ・ブル 脚 美 カール・ドライヤー 脚 美 アイナー・オルセン 脚 美 トーヴェ・テルバックストップ・ヴィーベル、アイナー・シッセナー、ハラルド・ストーモーン、アルフィルド・ストーモーン、アイナー・トヴァイト、オスカー・ラーセン、ラスムス・ラスムッセン、ソフィー・ライマース

*原 = 原作 脚 = 脚本 脚 = 撮影 脚 = 美術 脚 = 出演

会 期
平成15年11月18日(火)ー 平成16年1月25日(日) (53日間)
会 場
大ホール
上映回数
157回
入場者総数
19,850人(1回平均126人)
共 催
松竹株式会社
雑誌・新聞関連記事

朝日新聞	平成15年9月24日夕刊
新潟新報	平成15年10月15日夕刊
日本経済新聞	平成15年10月20日
河北新報	平成15年10月20日
東京新聞	平成15年10月28日夕刊
朝日新聞	平成15年10月30日
公明新聞	平成15年10月31日
朝日新聞	平成15年11月11日
朝日新聞	平成15年11月15日
赤旗	平成15年11月16日
朝日新聞	平成15年11月18日
朝日新聞	平成15年11月21日夕刊
産経新聞	平成15年12月7日
東京新聞	平成15年12月9日夕刊
読売新聞	平成15年12月13日
朝日新聞	平成15年12月17日



216 小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術

その厳格なスタイルによって映画芸術の未踏地に到達した監督小津安二郎は、無声時代からトーキー、カラーの時代まで映画史の節目にそれぞれの傑作、名作を発表して、日本映画の黄金時代全体を代表する巨匠となった。没後その芸術的声価は高まり、世界映画史に屹立するシネアストとしての地位を確かなものにしていく。1903(明治36)年12月12日に生まれ、1963(昭和38)年の同日に世を去った小津監督は、2003年には生誕100周年と没後40周年を同時に迎えた。この記念すべき年には国内でさまざまなイベントが行われたが、その中で最大かつ決定的なものが、松竹株式会社との共同で、小津安二郎の現存するすべての監督作品37本と小津が原作や脚本を提供した別の監督による4本を上映したこの回顧上映である。

史上最長かつもつとも網羅的な企画となったこの特集では、松竹の小津作品についてはすべて新たにニュープリントを作成し、近年の発見である『和製喧嘩友達』(1929年)についてはデジタル復元版を作成した。また、無声映画については国内の7名のピアニストによる伴奏つき上映と、無音上映の2種類の鑑賞形式を用意した。展示企画「映画資料でみる蒲田時代の小津安二郎と清水宏」や12月11日～12日に行われた国際シンポジウム「OZU 2003」とともに、この映画芸術の巨星に新たな光を当てる絶好の機会となった。

Yasujiro Ozu: Japanese Film Master

Yasujiro Ozu reached the formerly unexplored realm of cinematic art by his rigid style. By creating important masterpieces throughout the silent era and sound era, Ozu became the master director who represented the Golden Age of Japanese cinema. Born on December 12th, 1903 and deceased on the same date in 1963, Ozu's artistic reputation has even increased since his death. Commemorating the centennial of his birth and the fortieth anniversary of his death, a number of events were held in Japan. "Yasujiro Ozu: Japanese Film Master" was the largest and the most definitive event among them. NFC co-organized this retrospective event with Shochiku and screened all of the 37 existing films by Ozu as well as 4 films by other directors to whom Ozu contributed original stories or scripts.

For this longest and most thorough retrospective of Ozu's films, new prints were made for all of the titles in Ozu's Shochiku years, and a digitally restored print was made for recently found *Wasei kenka tomodachi*(1929). As for silent films, two ways of viewing were provided; one with the piano accompaniment by 7 pianists and the other silent projection. Together with the exhibition "Days of Youth: Ozu and Shimizu at the Shochiku Kamata Studio" and the international symposium "OZU 2003," the retrospective provided a significant opportunity to highlight Ozu the master of cinema art from fresh perspectives.

12

12/12 (金)7:00pm ※ 12/17 (水)4:00pm ※ 12/23 (火・祝)10:30am
12/25 (木)1:00pm

浮草物語 (86分・35mm・白黒・無声)

'34 (松竹蒲田) 園 ジェームス・榎 池田忠雄 茂原英朗 濱田辰雄 坂本武、飯田蝶子、三井秀男、八雲理恵子(恵美子)、坪内美子、突貫小僧、谷麗光、西村青児、山田長正、青野清、油井宗信、平陽光、若宮満、縣秀介、青山万里子、池部光村

サウンド版 / トーキー映画

13

11/25 (火)4:00pm 11/30 (日)10:30am 1/15 (木)1:00pm
1/21 (水)7:00pm

東京の宿 (80分・35mm・白黒・無声サウンド版)

'35 (松竹蒲田) 園 ウィンザット・モネ 池田忠雄、荒田正男 茂原英朗 濱田辰雄 伊藤宜二 坂本武、突貫小僧、末松孝行、岡田嘉子、飯田蝶子、小嶋和子

14

11/25 (火)1:00pm 11/29 (土)4:30pm 1/14 (水)4:00pm
1/23 (金)7:00pm

鏡獅子 (24分・35mm・白黒・日本語版)

'36 (国際文化振興会 = 松竹大船) 園 茂原英雄 尾上菊五郎、尾上琴次郎、尾上しげる

淑女は何を忘れたか (71分・35mm・白黒)

'37 (松竹大船) 園 伏見晃、ゼームス・榎 茂原英雄、厚田雄治 濱田辰雄 園 伊藤宜二 栗島すみ子、齋藤達雄、桑野通子、佐野周二、坂本武、飯田蝶子、上原謙、吉川満子、葉山正雄、突貫小僧、鈴木歌子、出雲八重子、立花泰子、大山健二、大塚君代

15

11/23 (日)4:30pm 12/2 (火)7:00pm 1/14 (水)1:00pm
1/22 (木)4:00pm

一人息子 (83分・35mm・白黒)

'36 (松竹大船) 園 ゼームス・榎 池田忠雄、荒田正男 園 杉本正次郎 濱田辰雄 園 伊藤宜二 飯田蝶子、日守新一、葉山正雄、坪内美子、吉川満子、笠智衆、浪花友子、爆弾小僧、突貫小僧、高松栄子、加藤清一、小島和子、青野清

16

11/23 (日)1:30pm 12/3 (水)1:00pm 1/13 (火)4:00pm
1/16 (金)7:00pm

戸田家の兄妹 (105分・35mm・白黒)

'41 (松竹大船) 園 池田忠雄、小津安二郎 園 厚田雄治 園 濱田辰雄 園 伊藤宜二 園 藤野秀夫、葛城文子、吉川満子、齋藤達雄、三宅邦子、佐分利信、坪内美子、近衛敏明、高峰三枝子、桑野通子、河村黎吉、飯田蝶子、葉山正雄、高木真由子、岡村文子、笠智衆、坂本武

17

11/23 (日)10:30am 12/2 (火)4:00pm 1/9 (金)1:00pm
1/15 (水)7:00pm 1/21 (水)4:00pm

父ありき (94分・35mm・白黒)

'42 (松竹大船) 園 池田忠雄、柳井隆雄、小津安二郎 園 厚田雄治 園 濱田辰雄 園 彩木暁一 園 笠智衆、佐野周二、佐分利信、坂本武、水戸光子、津田晴彦、大塚正義、日守新一、西村青児、谷麗光、河原侃二、倉田勇助、宮島健一、文谷千代子、奈良真養、大山健二

18

11/22 (土)4:30pm 12/2 (火)1:00pm 1/14 (水)7:00pm
1/16 (金)4:00pm 1/22 (木)7:00pm

長屋紳士録 (72分・35mm・白黒)

'47 (松竹大船) 園 小津安二郎、池田忠雄 園 厚田雄春 園 濱田辰雄 園 斎藤一郎 園 飯田蝶子、青木放屁、小澤榮太郎、吉川満子、河村黎吉、三村秀子、笠智衆、坂本武、高松栄子、長船フジヨ、河野祐一、谷よしの、殿山泰司、西村青児

19

11/22 (土)1:30pm 11/27 (木)4:00pm 1/9 (金)7:00pm
1/20 (火)1:00pm 1/23 (金)4:00pm

風の中の牝雞 (72分・35mm・白黒)

'48 (松竹大船) 園 齋藤良輔、小津安二郎 園 厚田雄春 園 濱田辰雄 園 伊藤宜二 園 佐野周二、田中絹代、村田知英子、笠智衆、坂本武、高松栄子、水上令子、文谷千代子、長尾敏之助、中川健三、岡村文子、清水一郎、三井弘次、手代木國男、谷よしの、中川秀人

20

11/22 (土)10:30am 11/26 (水)4:00pm 1/8 (木)1:00pm
1/13 (火)7:00pm 1/18 (日)4:30pm

晩春 (108分・35mm・白黒)

'49 (松竹大船) 園 廣津和郎 園 野田高梧、小津安二郎 園 厚田雄春 園 濱田辰雄 園 伊藤宜二 園 笠智衆、原節子、月丘夢路、杉村春子、青木放屁、宇佐美淳、三宅邦子、三島雅夫、坪内美子、桂木洋子、清水一郎、谷崎純、高橋豊子、紅沢葉子

21

11/21 (金)7:00pm 11/26 (水)1:00pm 1/6 (火)4:00pm
1/11 (日)1:30pm 1/23 (金)1:00pm

宗方姉妹 (97分・35mm・白黒)

'50 (新東宝) 園 大佛次郎 園 野田高梧、小津安二郎 園 小原譲治 園 下河原友雄 園 齋藤一郎 園 田中絹代、高峰秀子、上原謙、高杉早苗、笠智衆、山村聰、堀雄二、河村黎吉、齋藤達雄、藤原釜足、坪内美子、一の宮あつ子、堀越節子、千石規子

22

11/21 (金)4:00pm 11/30 (日)4:30pm 1/8 (木)7:00pm
1/17 (土)4:30pm 1/21 (水)1:00pm

麦秋 (124分・35mm・白黒)

'51 (松竹大船) 園 野田高梧、小津安二郎 園 厚田雄春 園 濱田辰雄 園 伊藤宜二 園 原節子、笠智衆、淡島千景、三宅邦子、菅井一郎、東山千栄子、佐野周二、杉村春子、二本柳寛、井川邦子、高橋豊子、高堂國典、宮口精二、志賀真津子、村瀬禅、城澤勇夫

23

11/21 (金)1:00pm 11/29 (土)1:30pm 1/7 (水)7:00pm
1/20 (火)4:00pm 1/24 (土)10:30am

お茶漬の味 (115分・35mm・白黒)

'52 (松竹大船) 野田高梧、小津安二郎 厚田雄春 濱田辰雄 齋藤高順 佐分利信、木暮実千代、鶴田浩二、笠智衆、淡島千景、津島恵子、三宅邦子、柳永二郎、十朱久雄、望月優子、設楽幸嗣、小園蓉子、志賀真津子、石川欣一、上原葉子、北原三枝

24

11/20 (木)7:00pm 11/30 (日)1:30pm 1/7 (水)4:00pm
1/13 (火)1:00pm 1/25 (日)4:30pm

東京物語 (135分・35mm・白黒)

'53 (松竹大船) 野田高梧、小津安二郎 厚田雄春 濱田辰雄 齋藤高順 笠智衆、東山千栄子、原節子、杉村春子、山村聡、三宅邦子、香川京子、東野英治郎、中村伸郎、大坂志郎、十朱久雄、長岡輝子、櫻むつ子、高橋豊子、安部徹、三谷幸子、村瀬禅

25

11/20 (木)4:00pm 11/29 (土)10:30am 1/6 (火)7:00pm
1/16 (金)1:00pm 1/24 (土)1:30pm

早春 (144分・35mm・白黒)

'56 (松竹大船) 野田高梧、小津安二郎 厚田雄春 濱田辰雄 齋藤高順 淡島千景、池部良、高橋貞二、岸恵子、笠智衆、山村聡、藤乃高子、田浦正巳、杉村春子、浦辺条子、三宅邦子、東野英治郎、三井弘次、加東大介、須賀不二夫、田中春男、中北千枝子、中村伸郎、宮口精二

26

11/20 (木)1:00pm 11/28 (金)7:00pm 12/3 (水)4:00pm
1/10 (土)4:30pm 1/20 (火)7:00pm

東京暮色 (140分・35mm・白黒)

'57 (松竹大船) 野田高梧、小津安二郎 厚田雄春 濱田辰雄 齋藤高順 原節子、有馬稲子、笠智衆、山田五十鈴、高橋貞二、田浦正巳、杉村春子、山村聡、信欣三、藤原釜足、中村伸郎、宮口精二、須賀不二夫、浦辺条子、三好栄子、田中春男、山本和子

27

11/19 (水)7:00pm 11/28 (金)1:00pm 1/10 (土)10:30am
1/15 (木)4:00pm 1/18 (日)1:30pm

彼岸花 (118分・35mm・カラー)

'58 (松竹大船) 里見弴 野田高梧、小津安二郎 厚田雄春 濱田辰雄 齋藤高順 岩下志麻、笠智衆、佐田啓二、岡田茉莉子、吉田輝雄、牧紀子、三上真一郎、中村伸郎、東野英治郎、三宅邦子、岸田今日子、加東大介、杉村春子、菅原通濟

28

11/19 (水)4:00pm 11/27 (木)7:00pm 1/6 (火)1:00pm
1/11 (日)4:30pm 1/25 (日)10:30am

お早よう (94分・35mm・カラー)

'59 (松竹大船) 野田高梧、小津安二郎 厚田雄春 濱田辰雄 黛敏郎 佐田啓二、久我美子、笠智衆、三宅邦子、杉村春子、設楽幸嗣、島津雅彦、泉京子、高橋とよ、沢村貞子、東野英治郎、長岡輝子、三好栄子、田中春男、大泉滉、須賀富士夫、殿山泰司

29

11/19 (水)1:00pm 11/25 (火)7:00pm 1/9 (金)4:00pm
1/17 (土)1:30pm 1/22 (木)1:00pm

浮草 (120分・35mm・カラー)

'59 (大映京都) 野田高梧、小津安二郎 宮川一夫 下河原友雄 齋藤高順 中村鴈治郎、京マチ子、若尾文子、川口浩、杉村春子、野添ひとみ、笠智衆、三井弘次、田中春男、入江洋佑、星ひかる、潮万太郎、浦辺条子、高橋とよ、桜むつ子

30

11/18 (火)7:00pm 11/28 (金)4:00pm 1/7 (水)1:00pm
1/11 (日)10:30am 1/24 (土)4:30pm

秋日和 (128分・35mm・カラー)

'60 (松竹大船) 里見弴 野田高梧、小津安二郎 厚田雄春 濱田辰雄 齋藤高順 原節子、司葉子、岡田茉莉子、佐田啓二、桑野みゆき、三上真一郎、佐分利信、笠智衆、中村伸郎、三宅邦子、沢村貞子、北竜二、渡辺文雄、千野赫子、高橋とよ

31

11/18 (火)4:00pm 11/27 (木)1:00pm 12/3 (水)7:00pm
1/10 (土)1:30pm 1/18 (日)10:30am

小早川家の秋 (103分・35mm・カラー)

'61 (宝塚映画) 野田高梧、小津安二郎 中井朝一 下河原友雄 黛敏郎 中村鴈治郎、原節子、司葉子、新珠三千代、小林桂樹、森繁久弥、宝田明、加東大介、団令子、白川由美、山茶花究、藤木悠、笠智衆、杉村春子、望月優子、浪花千栄子、島津雅彦

32

11/18 (火)1:00pm 11/26 (水)7:00pm 1/8 (木)4:00pm
1/17 (土)10:30am 1/25 (日)1:30pm

秋刀魚の味 (112分・35mm・カラー)

'62 (松竹大船) 野田高梧、小津安二郎 厚田雄春 濱田辰雄 齋藤高順 岩下志麻、笠智衆、佐田啓二、岡田茉莉子、吉田輝雄、牧紀子、三上真一郎、中村伸郎、東野英治郎、三宅邦子、岸田今日子、加東大介、杉村春子、菅原通濟

関連作品

33

12/4 (木)1:00pm 12/5 (金)7:00pm 12/6 (土)1:30pm

限りなき前進 (78分・35mm・白黒・改編版)

'37 (日活多摩川) 内田吐夢 小津安二郎 八木保太郎 堀川道夫 堀保治 山田栄一 小杉勇、江川宇礼雄、轟夕起子、滝花久子、片山明彦、飛田喜佐夫、紅沢葉子、上代勇吉、東勇路、西春彦

12/4 (木)4:00pm 12/6 (土)10:30am 12/7 (日)4:30pm

月は上りぬ(102分・35mm・白黒)

'55 (日活) 監 田中絹代 脚 齋藤良輔、小津安二郎 脚 峰重義 脚 木村威夫
 脚 齋藤高順 脚 笠智衆、佐野周二、山根壽子、杉葉子、北原三枝、三島
 耕、安井昌二、田中絹代、増田順二、小田切みき、汐見洋

12/4 (木)7:00pm 12/5 (金)4:00pm 12/7 (日)10:30am

大根と人参(105分・35mm・カラー)

'65 (松竹大船) 監 瀧谷実 脚 野田高梧、小津安二郎 脚 白坂依志 脚
 長岡博之 脚 芳野尹孝 脚 黛敏郎 脚 笠智衆、乙羽信子、加賀まりこ、桑野
 みゆき、岩下志麻、長門裕之、岡田茉莉子、有馬稲子、司葉子、池部
 良、加東大介、森光子、三上真一郎、山形勲、中村伸郎、宮口精二、
 信欣三、勝呂普、東山千栄子、菅井一郎、三宅邦子、高橋とよ

12/5 (金)1:00pm 12/6 (土)4:30pm 12/7 (日)1:30pm

暖春(93分・35mm・カラー)

'66 (松竹) 監 中村登 脚 里見淳、小津安二郎 脚 成島東一郎 脚 大角純
 一 脚 山本直純 脚 岩下志麻、森光子、山形勲、三宅邦子、有島一郎、乙
 羽信子、長門裕之、早川保、桑野みゆき、倍賞千恵子、川崎敬三、三
 ツ矢歌子、太田博之、宗方奈美、呉恵美子

* ※はピアノ伴奏付き上映。

* 監 = 監督・演出 脚 = 原作・原案 脚 = 脚本・脚色・潤色 脚 = 撮影
 脚 = 舞台設計・美術 脚 = 音楽 脚 = 出演

会 期
平成15年11月22日(土)–11月30日(日) (8日間)
会 場
小ホール
上映回数
24回
入場者総数
2,582人(1回平均108人)
共 催
特定非営利活動法人東京フィルメックス 実行委員会
雑誌・新聞関連記事
朝日新聞 平成15年10月17日夕刊 朝日新聞 平成15年11月12日 THE JAPAN TIMES 平成15年11 月14日 赤旗 平成16年1月9日

(注)日数、上映回数及び入場者総数については、有楽町・朝日ホールにおける上映分を除く。



217 第4回東京フィルメックス 特集上映 清水宏 生誕100年

戦前期の松竹を代表する監督として活躍し、戦後は独立プロダクションを興して生涯に160本以上の作品を残した清水宏もまた、小津安二郎と同じく2003年に生誕百年を迎えた名監督である。ロケーション撮影を多用し、子供たちの起用や即興演出への志向から生まれた大らかで闊達な清水の作品群は、現在もなお強い輝きを放っている。

この記念すべき年にフィルムセンターは、良質のプログラムでも評価の高い映画祭である東京フィルメックスとの共催により、清水宏監督の代表作を同映画祭の枠内で上映した。同映画祭の方針に沿って全作品に英語字幕を付したため、国内の映画ファンばかりでなく、映画祭関係者を始めとする来日映画人にも清水作品の魅力が伝わることとなった。そのことは上映作品『簪』(1941年)の観客賞受賞のほか、ベルナルド・エイゼンシュツ映画祭審査委員長からのスペシャル・メンション(“特別言及”)や、本特集後の2004年2月に行われたベルリン国際映画祭で同監督の特別プログラムが組まれるなどの国際的な波及発展もつながっている。また同時期に、清水監督の初期作品を回顧する展示「映画資料でみる蒲田時代の小津安二郎と清水宏」を開催したことは、この包容力あるシネアストの作品世界をより深く理解するための契機になった。

The 4th TOKYO FILMeX Special Program: The 100th Anniversary of Shimizu Hiroshi's Birth

Hiroshi Shimizu is another great director who was born in the same year as Ozu and thus 2003 marked the centennial for him as well. Shimizu was a representative director of the Shochiku studio in the pre-war era, and in the post-war era he established the independent production company. Shimizu's more than 160 films continue to shine today with his characteristic use of location shooting, employment of children and his orientation towards improvisational direction.

In this commemorative year, NFC co-organized with TOKYO FILMeX the screenings of Shimizu's representative films within the framework of the film festival in question. According to the policies of TOKYO FILMeX, English subtitles were provided for all of the Shimizu films screened in this program, and thus appealed to international film specialists who were visiting the film festival as well as to Japanese film fans. As a result, Shimizu's films branched out to international stages and won the audience award for *Kanzashi*(1941) and received Special Mention by the chair of the judges Bernard Eisenschitz, as well as realizing the special program of Shimizu's films at the Berlin International Film Festival in February 2004. Together with the exhibition "Days of Youth: Ozu and Shimizu at the Shochiku Kamata Studio," the retrospective provided an important opportunity to understand the rich world of Shimizu's filmmaking.

11/22 (土)11:00am 11/25 (火)6:00pm 11/30 (日)2:00pm

恋も忘れて(73分・35mm・白黒)

'37 (松竹大船) 脚 斎藤良輔 脚 青木勇 脚 江坂実ほか 脚 伊藤宣二ほか 脚 桑野通子、佐野周二、爆弾小僧、突貫小僧、岡村文子

11/22 (土)2:00pm 11/27 (木)6:00pm 11/28 (金)0:00pm

風の中の子供(88分・35mm・白黒)

'37 (松竹大船) 脚 坪田譲治 脚 斎藤良輔 脚 斎藤正夫 脚 江坂実ほか 脚 伊藤宣二 脚 河村黎吉、吉川満子、葉山正雄、爆弾小僧、坂本武

11/22 (土)5:00pm 11/26 (水)3:00pm 11/30 (日)11:00am

歌女おほえ書(98分・35mm・白黒)

'41 (松竹大船) 脚 長瀬喜伴、八木沢武孝 脚 猪飼助太郎 脚 江坂実 脚 伊藤宣二 脚 水谷八重子、上原謙、藤野秀夫、朝霧鏡子、河村黎吉

11/23 (日)11:00am 11/26 (水)6:00pm 11/28 (金)3:00pm

簪(70分・35mm・白黒)

'41 (松竹大船) 脚 井伏鱒二 脚 清水宏 脚 猪飼助太郎 脚 本木勇 脚 浅井拳 脚 田中絹代、川崎弘子、斎藤達雄

11/23 (日)2:00pm 11/27 (木)0:00pm 11/30 (日)2:00pm

蜂の巣の子供たち(86分・35mm・白黒)

'48 (蜂の巣映画部) 脚 清水宏 脚 古山三郎 脚 伊藤宣二 脚 島村俊作、夏木雅子、御庄正一、久保田晋一郎、岩本豊

11/23 (日)5:00pm 11/27 (木)3:00pm 11/29 (土)11:00am

小原庄助さん(91分・16mm・白黒)

'49 (新東宝) 脚 清水宏、岸松雄 脚 鈴木博 脚 下河原友雄 脚 古関裕而 脚 大河内伝次郎、風見章子、宮川玲子、清川虹子、飯田蝶子

11/25 (火)0:00pm 11/28 (金)6:00pm 11/29 (土)2:00pm

母情(86分・16mm・白黒)

'50 (新東宝) 脚 清水宏、岸松雄 脚 横山実 脚 伊藤寿一 脚 古関裕而 脚 清川虹子、徳川夢声、黒川弥太郎、坪内美子、浦辺奈子

11/25 (火)3:00pm 11/26 (水)0:00pm 11/29 (土)5:00pm

しいのみ学園(100分・16mm・白黒)

'55 (新東宝) 脚 山本三郎 脚 清水宏 脚 鈴木博 脚 鳥居塚誠一 脚 斎藤一郎 脚 宇野重吉、花井蘭子、香川京子、河原崎健三、島崎雪子

* 脚 = 原作・原案 脚 = 脚本 脚 = 撮影 脚 = 美術・装置 脚 = 音楽 脚 = 出演

会 期
平成16年2月3日(火)–3月28日(日) (48日間)
会 場
大ホール
上映回数
92回
入場者総数
14,450人(1回平均157人)
雑誌・新聞関連記事
産経新聞 平成16年1月8日 赤旗 平成16年1月30日 日本経済新聞 平成16年2月3日

218 シリーズ・日本の撮影監督(1)

映画作りに貢献する数多くのスタッフの中でも、カメラとフィルムを用いて世界をさまざまな“フレーム”に造形し、映画作品というもう一つの“世界”に向けて素材を生み出す撮影監督の仕事は極めて本質的なものである。その撮影者の業績を顕彰すべくスタートしたのが、日本映画撮影監督協会の協力を得たこの上映シリーズ「日本の撮影監督」である。今回はその第1期として、1920年代の前半にデビューし、日本映画の発展期を形作った撮影監督14名の作品を取り上げた。松竹、日活、P.C.L.など戦前の指導的な映画会社に集い、トーキー化の波にも寄り添いながら技術と美を競った“光の魔術師”たちの仕事を追うことで、日本映画への新たな視点か模索された。

本シリーズは“撮影”という視点から斬新な切り口を提供することを目指しているが、特にこの第1回では、忘れられつつある名カメラマンの仕事の再評価を通して、フィルムセンターの映画コレクションの中でもとりわけ上映機会の少ない作品に新たな光を当てることができた。

また企画の期間中、これら歴史的な撮影監督たちを直接知る今日の名カメラマンをお招きしてトークを実施したこと(計3回)、そして往年の撮影機をロビーで展示したことは、ともすると作品上映だけでは分かりにくい往時の撮影システムを知るための良い機会となり、本企画をより豊かなものにした。

Master Cinematographers of Japan Part 1

Film is a collaborative art form that is made possible with a number of staff member's contribution. Among them, cinematographers' role is extremely fundamental in that they form various “frames” with cameras and films and thus give birth to the materials to another “world” that is realized within each work of film. With the cooperation by the Japanese Society of Cinematographers, NFC started the series “Master Cinematographers of Japan” in order to pay respect to the cinematographers' achievements. In the Part 1 of the series, we showed films by 14 cinematographers who debuted in the 1920s and were instrumental in the development of Japanese cinema. These cinematographers worked at the leading studios of the pre-war period such as Shochiku, Nikkatsu and P.C.L. from the silent era through the sound era. By highlighting the works by these “magicians of light”, this program provided an opportunity to examine Japanese cinema through cinematography.

In addition, we were able to screen titles that have rarely been shown among the collection.

Also notable were 3 talk sessions by the important contemporary cameramen who personally knew the cinematographers represented in the program, and exhibiting shooting equipments of the era which helped the viewers to learn about the filmmaking system of the era.



長井信一

1

2/3(火)3:00pm 3/3(水)7:00pm

金色夜叉(76分・16mm・白黒・無声)

'32(松竹蒲田)長井信一野村芳亭尾崎紅葉川村花菱、松崎博臣脇田世根長林長二郎、田中絹代、八雲恵美子、岩田祐吉、川田芳子、新井淳、鈴木歌子、兵藤静枝、吉川満子、武田春郎、藤野秀夫、斎藤達雄、高尾光子、小林十九二、若水絹子、河村黎吉、高松栄子、花岡菊子、宮島健一、鹿島俊策、江川宇礼雄、水上幸史

2

2/3(火)7:00pm 2/29(日)1:00pm

乳姉妹(136分・35mm・白黒・無声)

'32(松竹蒲田)長井信一野村芳亭菊池幽芳川村花菱、久米芳太郎脇田世根岩田祐吉、川崎弘子、岡田嘉子、山内光、岡譲治(譲二)、武田春郎、鹿島俊作、吉川満子、葛城文子、若水絹子、河村黎吉、谷麗光、長尾寛、谷崎竜子、富士竜子、兵藤静江、酒井啓之輔

3

2/4(水)3:00pm 3/2(火)7:00pm

天龍下れば(70分・35mm・白黒・不完全版・サウンド版)

'33(松竹蒲田)長井信一野村芳亭松崎博臣川崎弘子、八雲理恵子(恵美子)、竹内良一、江川宇礼雄、大山健二、奈良真義、水久保澄子、若水絹子、武田春郎、葛城文子、河村黎吉、新井淳

青嶋順一郎

4

2/4(水)7:00pm 2/29(日)4:00pm

霧笛(94分・35mm・白黒・無声)

'34(新興キネマ)青嶋順一郎村田實大佛次郎國廣周祿水谷浩司中野英治、菅井一郎、志賀暁子、村田宏壽、小坂信夫、ジョー・オハラ、大泉浩二、原譲介、對島邦江、並木錦子、一條桂子、唐松澤子

5

2/5(木)3:00pm 3/5(金)7:00pm

大尉の娘(76分・35mm・白黒)

'36(松竹興行現代劇部=藝術座=新興キネマ東京)青嶋順一郎野淵昶中内蝶二落合浪雄、森田信義水谷浩深井史郎井上正夫、水谷八重子、山田巳之助、吉田豊作、鈴木光枝、歌川八重子、田中筆子、浦辺象子、宮島啓夫、高橋潤、此花咲子、清水將夫、三樹豊

水谷文二郎(至宏)

6

2/5(木)7:00pm 3/2(火)3:00pm

進軍(119分・35mm・白黒・無声)

'30(松竹蒲田)水谷文二郎牛原彦彦ジェームズ・ボイド野田高梧脇田世根鈴木傳明、藤野秀夫、鈴木歌子、田中絹代、小林十九二、武田春郎、高田稔、押本映治、横尾泥海男、青山万里子、吉川英蘭、小藤田正一、吉谷久雄、阪本武、渡辺篤

7

2/6(金)3:00pm 3/6(土)1:00pm

マダムと女房(66分・35mm・白黒)

'31(松竹蒲田)水谷至宏五所平之助北村小松脇田世根高階哲夫、島田晴誉渡辺篤、田中絹代、市村美津子、伊達里子、横尾泥海男、吉谷久雄、月田一郎、日守新一、小林十九二、関時男、坂本武、井上雪子

8

2/6(金)7:00pm 3/7(日)4:00pm

上陸第一歩(88分・35mm・白黒)

'32(松竹蒲田)水谷至宏島津保次郎北村小松高階哲夫水谷八重子、岡譲二、奈良真義、江川宇礼雄、河村黎吉、飯田蝶子、吉川満子、沢蘭子、滝口新太郎、岡田宗太郎

友成達雄

9

2/7(土)1:00pm 3/3(水)3:00pm

熱砂の誓ひ[前後篇](123分・35mm・白黒)

'40(華北電影=東宝東京)友成達雄渡邊邦男木村千依男園戸塚正夫古賀政男長谷川一夫、江川宇禮雄、李香蘭、汪洋、丸山定夫、華風、萬堂國典、鳥羽陽之助、進藤英太郎、藤田進、坂内永三郎、鏡一郎、江藤勇、小島洋々、冬木京二、今成平九郎、松井良輔、谷三平、原浩二、生方賢一郎、水町庸子、里見藍子、伊東薫

10

2/7(土)4:00pm 3/4(木)3:00pm

音楽大進軍(76分・35mm・白黒)

'43(東宝映画)友成達雄渡邊邦男如月敏、山崎謙太郎北猛夫服部良一古川緑波、岡譲二、岸井明、渡辺篤、里見藍子、若原春江、英百合子、中村メイコ、杉寛、伊藤智子、進藤英太郎、長谷川一夫、山田五十鈴、嵯峨善兵、小島洋々、田中春男

11

2/8(日)1:00pm 3/4(木)7:00pm

三尺左吾平(74分・35mm・白黒)

'44(東宝)友成達雄石田民三三村伸太郎島康平栗原重一榎本健一、高峰秀子、黒川彌太郎、伊藤智子、横山運平、志村喬、清川莊司、尾上榮三郎

唐澤弘光

12

2/8(日)4:00pm 3/5(金)3:00pm

忠次旅日記(96分・35mm・白黒・無声)

'27(日活大將軍)渡会六蔵、唐澤弘光伊藤大輔大河内傳次郎、中村英雄、伏見直江、中村吉次、沢蘭子、嵐璃左衛門、中村吉次、朝比奈勇二郎、阪本清之助、磯川元春、村上英二、秋月信子、尾上華丈、中村紅葉、市川百之助、浅見勝太郎、岡崎晴夫、石井貫治

13

2/10(火)3:00pm 3/6(土)4:00pm

坊っちゃん (80分・35mm・白黒)

'35 (P.C.L. 映画製作所) 監唐澤弘光 脚本本嘉次郎 園夏目漱石 脚本小林勝彦 北猛夫 脚本紙恭輔 脚本宇留木浩、夏目初子、丸山定夫、徳川夢聲、竹久千恵子、藤原釜足、東屋三郎、森野鍛治哉、生方賢一郎、英百合子、伊藤智子

14

2/10(火)7:00pm 3/10(水)3:00pm

エノケンの近藤勇 (80分・35mm・白黒)

'35 (P.C.L. 映画製作所) 監唐澤弘光 脚本山本嘉次郎 園P.B.・P.C.L. 文藝部 脚本北猛夫 脚本栗原重一 脚本榎本健一、二村定一、中村是好、高尾光子、夏目初子、丸山定夫、柳田定一、如月寛多、田島辰夫、伊東薫、花島喜世子、宏川光子

15

2/11(水・祝)1:00pm 3/9(火)3:00pm

戦国群盗傳【総集篇】 (101分・35mm・白黒)

'37 (P.C.L. 映画製作所＝前進座) 監唐澤弘光 脚本瀧澤英輔 脚本三好十郎 脚本梶原金八 脚本北猛夫 脚本山田耕筰 脚本河原崎長十郎、中村翫右衛門、河原崎國太郎、山岸しづ江、千葉早智子、坂東調右衛門、橘小三郎、伊達里子、山縣直代

碧川道夫

16

2/11(水・祝)4:00pm 3/11(木)7:00pm

情の光 (62分・35mm・白黒・無声)

'26 (特作映画社＝文部省) 監碧川道夫 脚本ヘンリー小谷 脚本西山才一郎 脚本近藤經一 脚本岩崎孝治、静香八千代、内田吐夢、米津信子、関根達發

17

2/12(木)3:00pm 3/9(火)7:00pm

路傍の石 (130分・16mm・白黒)

'38 (日活多摩川) 監碧川道夫、伊佐山三郎、永塚一榮 脚本具隆 脚本山本有三 脚本荒牧芳郎、高重屋四郎 脚本松山崇 脚本中川榮三 脚本片山明彦、山本禮三郎、瀧花久子、小杉勇、江川宇禮雄

18

2/12(木)7:00pm 3/7(日)1:00pm

土 (93分・35mm・白黒・不完全版)

'39 (日活多摩川) 監碧川道夫 脚本内田吐夢 脚本長塚節 脚本木隆一郎、北村勉 脚本保治 脚本乘松明 脚本小杉勇、風見章子、どんぐり坊や、山本嘉一、見明凡太郎、山本礼三郎、鈴木三右衛門、藤村昌子、村田知栄子

白井茂

19

2/13(金)3:00pm 3/10(水)7:00pm

社会教育劇 街の子 (51分・35mm・白黒・無声)

'24 (東京シネマ商会) 監白井茂 脚本中野実 脚本サアストン 脚本野村愛正 脚本夏川静江、小島勉、小杉義夫、高橋豊子、夏川大吾、一色久子、奥村博史、伊澤蘭奢

黒部峡谷探検 (24分・35mm・白黒・無声)

'27 (文部省) 監白井茂

20

2/13(金)7:00pm 3/13(土)1:00pm

南京 (56分・35mm・白黒)

'38 (東宝文化映画部) 監白井茂 脚本秋元憲 脚本江文也 脚本徳川夢声

信濃風土記より 小林一茶 (27分・35mm・白黒)

'41 (東宝文化映画部) 監白井茂 脚本亀井文夫 脚本大木正夫 脚本徳川夢声

野村昊

21

2/14(土)1:00pm 3/11(木)3:00pm

東京の英雄 (64分・35mm・白黒・サウンド版)

'35 (松竹蒲田) 監野村昊 脚本清水宏 脚本源尊彦 (清水宏) 脚本荒田正男 脚本脇田世根一 脚本早乙女光 脚本藤井貢、岩田祐吉、吉川満子、桑野通子、三井秀男、突貫小僧、市村美津子、横山準、近衛敏明、出雲八重子、高松栄子、水谷能子、御影公子、高杉早苗、京町みち代、石山龍兒、河原侃二

22

2/14(土)4:00pm 3/12(金)3:00pm

純情二重奏【総集篇】 (72分・35mm・白黒)

'39 (松竹大船) 監野村昊、寺尾浩 脚本佐々木康 脚本齋藤良輔、長瀬喜伴 脚本万城目正、仁木他喜男 脚本高峰三枝子、吉川満子、横山準、齋藤達雄、岡村文子、木暮実千代、細川俊夫、松原操、伊藤久男、志村道夫、毛塚守彦、淡谷のり子、中野忠晴、大山健二、松平晃、山内光、鈴木芳枝、坂本武、双葉あき子、霧島昇、森川まさみ、近衛敏明

23

2/15(日)1:00pm 3/12(金)7:00pm

征戦愛馬譜 暁に祈る (105分・35mm・白黒)

'40 (松竹大船) 監野村昊 脚本佐々木康 脚本齋藤良輔、八木澤武孝 脚本五所福之助 脚本万城目正 脚本徳大字伸、田中絹代、河村黎吉、夏川大二郎、佐分利信、伊藤久男、葛城文子、汀陽子、坂本武、飯田蝶子、横山準、笠智衆、磯野秋雄、寺岡修、三村秀子、阿部正三郎、三井秀男、中川健三

桑原昂

24

2/15(日)4:00pm 3/16(火)3:00pm

隣りの八重ちゃん(77分・35mm・白黒)

'34(松竹蒲田) 桑原昂 島津保次郎 脇田世根一 早乙女光 逢初夢子、大日方傳、岡田嘉子、高杉早苗、岩田祐吉、飯田蝶子、岡田嘉子、水島亮太郎、葛城文子、磯野秋雄、阿部正三郎

25

2/17(火)3:00pm 3/17(水)7:00pm

私の兄さん(69分・35mm・白黒)

'34(松竹蒲田) 桑原昂 島津保次郎 脇田世根一 早乙女光 林長二郎、河村黎吉、鈴木歌子、田中絹代、坪内美子、坂本武、大山健二、石山竜兒、赤地重雄、野寺正一、奈良真養、河原侃二、山口勇、小林十九二、南里コンパル、松井潤子

26

2/17(火)7:00pm 3/13(土)4:00pm

家族會議(71分・35mm・白黒)

'36(松竹大船) 桑原昂、水谷至宏 島津保次郎 横光利一 池田忠雄 脇田世根一 早乙女光 佐分利信、高田浩吉、及川道子、高杉早苗、桑野通子、立花泰子、鈴木歌子、飯田蝶子、志賀靖郎、藤野秀夫、水島亮太郎、河村黎吉、阪本武、齋藤達雄、小林十九二、山内光

横田達之

27

2/18(水)3:00pm 3/14(日)1:00pm

藤原義江のふるさと(86分・35mm・白黒・改訂新版)

'30(日活太秦) 横田達之 溝口健二 森岩雄、如月敏、畑本秋一 藤原義江、夏川静江、小杉勇、土井平太郎、リティア・シャピロ、村田宏壽、田村邦男、浜口富士子、佐久間妙子、高津愛子

28

2/18(水)7:00pm 3/18(木)3:00pm

召集令(73分・35mm・白黒・パートトーキー)

'35(日活多摩川) 横田達之 渡邊邦男 東家樂 巖堀保治 中田弘二、中野かほる、廣瀬恒美、大原雅子、澤村貞子、星ひかる、高木永二、村田宏壽、若太刀芳之助、佐藤園治、黒田記代、北原夏江、藤田章喜、堀貞行、大國一郎、東勇路、三井泰三、大川修一、對島和夫

杉山公平

29

2/19(木)3:00pm 3/14(日)4:00pm

十字路(87分・35mm・白黒・無声・英語版)

'28(衣笠映画連盟=松竹京都) 杉山公平 笠原貞之助 友成用三 千早晶子、阪東寿之助、小川雪子、相馬一平、中川芳江、関操、二條照子、小澤若一郎

30

2/19(木)7:00pm 3/20(土)4:00pm

雪之丞変化[再公開版・総集篇](97分・35mm・白黒)

'35(松竹京都) 杉山公平 笠原貞之助 三上於菟吉 伊藤大輔 松平信博、柗屋正一郎 林長二郎、嵐徳三郎、萬堂國典、千早晶子、伏見直江、山路義人、志賀靖郎、高松錦之助、南光明、日下部龍馬、原健作

31

2/20(金)3:00pm 3/16(火)7:00pm

源氏物語(123分・35mm・白黒)

'51(大映京都) 杉山公平 吉村公三郎 新藤兼人 水谷浩造 伊福部昭 長谷川一夫、大河内傳次郎、木暮實千代、水戸光子、京マチ子、乙羽信子、堀雄二、本間謙太郎、菅井一郎、進藤英太郎、小澤榮、長谷川裕見子、相馬千恵子、英百合子、瀧花久子、東山千榮子、加東大介、近衛敏明、小柴幹治、殿山泰司、天野一郎、上山草人

32

2/20(金)7:00pm 3/17(水)3:00pm

地獄門(88分・35mm・カラー)

'53(大映京都) 杉山公平 笠原貞之助 菊池寛 伊藤嘉潮 芥川也寸志 長谷川一夫、京マチ子、山形勲、黒川彌太郎、坂東好太郎、田崎潤、千田是也、清水将夫、石黒達也、植村謙二郎、清水元、荒木道子、南美江、毛利菊枝、香川良介、荒木忍、沢村国太郎、殿山泰司

33

2/21(土)1:00pm 3/18(木)7:00pm

鳴門秘帖(101分・35mm・カラー)

'57(大映京都) 杉山公平 笠原貞之助 吉川英治 犬塚稔 西岡善信 斎藤一郎 長谷川一夫、市川雷蔵、山本富士子、淡島千景、林成年、南左斗子、千葉登四男、滝沢修、中村伸郎、清水将夫、石黒達也、松本克平、香川良介、杉山昌三九、沢村宗之助、信欣三、荒木忍

三浦光雄

34

2/21(土)4:00pm 3/19(金)3:00pm

雁来紅(96分・35mm・白黒)

'34(入江 ぶろだくしょん) 三浦光雄 鈴木重吉 久米正雄 木村千依男 小池一美 コロムビア・ジャズ・バンド 入江たか子、渡辺篤、伊達里子、菅井一郎、見明凡太郎、汐見洋、田中筆子、ヘレン本田、相川マユミ

35

2/22(日)1:00pm 3/19(金)7:00pm

藤十郎の戀[総集篇・短縮版](95分・35mm・白黒)

'38(東宝東京) 三浦光雄 山本嘉次郎 菊池寛 三村伸太郎 小村雪岱、島康平 菅原明朗 長谷川一夫、入江たか子、藤原釜足、汐見洋、瀧澤修、御橋公、小杉義男、市川朝太郎、中村健峰、片岡右衛門、市川福之助、中村蝶太郎、巽寿美子、片岡燕之丞、中村蝶吉

36

2/22 (日)4:00pm 3/23 (火)3:00pm

今ひとたびの(118分・35mm・白黒)

'47 (東宝) 監 三浦光雄 五所平之助 高見順 植草圭之助 松山崇 服部良一 高峰三枝子、龍崎一郎、田中春男、北澤彪、河村弘二、清水将夫、谷間小百合、一の宮敦子、中北千枝子、出雲八重子

37

2/24 (火)3:00pm 3/24 (水)7:00pm

煙突の見える場所(108分・35mm・白黒)

'53 (新東宝 = スタジオ・エイト・プロ) 監 三浦光雄 五所平之助 椎名麟三 小國英雄 美下河原友雄 斎藤芥川也寸志 田中絹代、上原謙、高峰秀子、芥川比呂志、関千恵子、花井蘭子、坂本武、田中春男、三好榮子、浦邊粂子、星ひかる、中村是好、小倉繁、大原榮子、本間文子、高松政雄

38

2/24 (火)7:00pm 3/21 (日)4:00pm

夫婦善哉(120分・35mm・白黒)

'55 (東宝) 監 三浦光雄 豊田四郎 織田作之助 八住利雄 伊藤嘉朔 團伊玖磨 森繁久彌、淡島千景、司葉子、浪花千栄子、山茶花究、小堀誠、田中春男、田村樂太、森川佳子、志賀廻家弁慶、萬代峰子、三好榮子、上田吉二郎、澤村宗之助、谷晃、若宮忠三郎、三條利喜江

伊佐山三郎

39

2/25 (水)3:00pm 3/27 (土)4:00pm

五人の斥候兵(72分・35mm・白黒)

'38 (日活多摩川) 監 伊佐山三郎 田坂具隆 高重屋四郎 (田坂具隆) 荒牧芳郎 松山崇 小杉勇、見明凡太郎、伊沢一郎、井染四郎、長尾敏之助、星ひかる、井上敏正、渡部清、潮万太郎、西春彦、佐藤圓治、菊池良一、北竜二

40

2/25 (水)7:00pm 3/26 (金)3:00pm

海軍(85分・35mm・白黒)

'43 (松竹京都) 監 伊佐山三郎 田坂具隆 岩田豊雄 澤村勉 六郷俊置 内田元 山内明、志村久、滝花久子、小杉勇、水戸光子、青山和子、風見章子、長尾敏之助、小沢栄太郎、東野英治郎、笠智衆、加藤精一、原保美、土紀終一、荒木忍、佐田豊、紅沢葉子

41

2/26 (木)3:00pm 3/28 (日)4:00pm

長崎の歌は忘れじ(118分・35mm・白黒)

'52 (大映東京) 監 伊佐山三郎 田坂具隆 沢村勉 柴田篤二 早坂文雄 京マチ子、アーリントン・ローマン、久我美子、根上淳、滝沢修、山内明、フランシス・デーニ、東山千栄子、杉丘穂子、滝花久子、長谷部健、星光、隅田一夫、渥美進、町田博子、新宮信子、目黒幸子、若尾文子

42

2/26 (木)7:00pm 3/24 (水)3:00pm

乳母車(109分・35mm・白黒)

'56 (日活) 監 伊佐山三郎 田坂具隆 石坂洋次郎 澤村勉 木村威夫 齋藤一郎 石原裕次郎、芦川いづみ、新珠三千代、山根壽子、宇野重吉、青山恭二、杉幸彦、須藤孝、中原早苗、織田政雄、土方弘、森教子、畑中夢坡、小泉郁之助、雪岡純、二本草之助、阪井一朗、福田トヨ

鈴木博

43

2/27 (金)3:00pm 3/23 (火)7:00pm

音楽喜劇 ほろよひ人生(77分・35mm・白黒)

'33 (写真科学研究所) 監 鈴木博 木村莊十二 松崎啓次 山崎醇之輔 兼常清佐、紙恭輔、奥田良三 徳川夢声、大川平八郎、藤原釜足、千葉早智子、神田千鶴子、堤真佐子、古川緑波、大辻司郎、横尾泥海男、吉谷久雄、関時男、中根竜太郎、丸山定夫、間英子、双葉芳子

44

2/27 (金)7:00pm 3/25 (木)3:00pm

はたらく一家(65分・35mm・白黒)

'39 (東宝東京) 監 鈴木博 成瀬巳喜男 徳永直 松山崇 太田忠 大日方傳、椿澄枝、徳川夢声、本間教子、生方明、伊東薫、南青吉、平田武、阪東精一郎、若葉喜世子、眞木順、藤輪欣司

45

2/28 (土)1:00pm 3/25 (木)7:00pm

上海陸戦隊(89分・35mm・白黒)

'38 (東宝東京) 監 鈴木博 熊谷久虎 澤村勉 北猛 夫 大日方傳、原節子、丸山定夫、英百合子、清川莊司、北澤彪、光一、澤田光男、鉄一郎、柳谷寛、中村英雄、関口八郎、佐山亮、佐伯秀男、小杉義男、月田一郎、眞木順、江藤勇、三木利夫、鬼頭善一郎、榎田敬治、椿澄江

46

2/28 (土)4:00pm 3/26 (金)7:00pm

海賊船(114分・35mm・白黒)

'51 (東宝) 監 鈴木博 稲垣浩 小國英雄 安倍輝明 深井史郎 三船敏郎、淺茅しのぶ、大谷友右衛門、田崎潤、森繁久彌、上田吉二郎、大泉滉、富田伸次郎、谷晃、福原秀丈、高原駿雄、大久保正信、松尾文人、英百合子

* 監 = 撮影 監 = 監督・演出 原 = 原作 脚 = 脚本・脚色・潤色・新
 積・劇化・台本 美術 = 美術・装置 音楽 = 音楽監督・音楽顧問
 編 = 編集 出 = 出演 解 = 解説

1-3 展示 Exhibitions

1-3-1 展示企画一覧(新ビル開館より平成14年度まで) Exhibitions from the Opening of NFC's New Building in 1995 until 2002

平成7年度 [1995]	1	映画生誕百周年記念 ポスターでみる日本映画史 — みそのコレクションより — Japanese Film History in Posters – From the Collection of Kyohei Misono –
平成8年度 [1996]	2	写真で見る「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」 —UCLA ジャン・ルノワール・コレクションより— Le Grand Théâtre de Jean Renoir A Photo Exhibition from UCLA Arts Library Special Collections Jean Renoir Papers
平成9年度 [1997]	3	ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」 Soviet Film Posters in the Late Silent Era
平成10年度 [1998]	4	ポスターでみる日本映画史PARTII — みそのコレクションより — Japanese Film History in Posters, Part II – From the Collection of Kyohei Misono –
平成11年度 [1999]	5	フリッツ・ラング:映像とそのイメージの原型 Fritz Lang: Filmbilder Vorbilder
平成12年度 [2000]	6	ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」PART II Soviet Film Posters in the Late Silent Era, Part 2
平成13年度 [2001]	7	「イタリア映画大回顧」ポスター展 Cartelloni del Cinema Italiano in Giappone
	8	資料でみる日本映画史 — みそのコレクションより — Japanese Film History in Documents – From the Collection of Kyohei Misono –
平成14年度 [2002]	9	展覧会 映画遺産 —東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより— The Japanese Film Heritage – From the Non-Film Collection of the National Film Center –

会 期

①平成14年11月27日(水)–12月25日(水)、平成15年1月7日(火)–1月19日(日)、1月28日(火)–3月28日(金)、4月8日(火)–5月18日(日)、5月27日(火)–7月13日(日)、7月22日(火)–10月5日(日)、10月9日(木)–10月19日(日) 245日間[うち平成15年度分 154日間]
②11月18日からは常設的展示として開催

会 場

展示室

入 場 者

- ①総数8,461人(1日平均35人)
[うち平成15年度分 5,305人
(1日平均34人)]
- ②総数5,494人(1日平均54人)

雑誌・新聞関連記事

映像学 70号

1-3-2 平成15年度展示記録 Records of Exhibitions, 2003

展覧会 映画遺産

—東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより—

本展は、フィルムセンターが開設から50年の間に収集してきたコレクションの中から特に珍しい映画人の遺品や初期の映画機械などを集めて展示する一方、過去に行われた映画の発見・復元の成果を紹介しながら日本の映画保存運動の軌跡を振り返るもので、平成14年11月の映画展示室オープン以来245日の会期で延べ8,461人の入場者を得た。なお、同展は11月18日以降は規模を半分に縮小した常設的展示として再オープンし現在に至っている。

The Japanese Film Heritage - From the non-film Collection of the National Film Center -

NFC has collected a mass of items since the opening. From the collection, NFC selected especially rare items such as personal articles left by the late filmmakers and early film equipments to show in this exhibition. Another feature of the exhibition was the survey of the history of film restoration movement in Japan. Since the exhibition opened in November 2002, it drew 8,461 viewers during 245 days. On November 18th of 2003, this exhibition re-opened as a permanent exhibition in a reduced space of approximately half of the original temporary exhibition.



会 期
平成15年11月18日(火)—12月27日(土)、 平成16年1月6日(火)—1月25日(日)、 2月3日(火)—3月28日(日) (101日間)
会 場
展示室
入 場 者
5,494人(1日平均54人)
雑誌・新聞関連記事
サンケイスポーツ日曜特別版 平成15 年10月26日 赤旗 平成15年12月2日 神戸新聞 平成16年1月5日

映画資料でみる 蒲田時代の小津安二郎と清水宏

オープンから2年目を迎えた映画専用の展示室では、「展覧会 映画遺産」の展示面積を半分に縮小し、代表的な所藏品や基礎的な映画資料(とりわけ撮影機や映写機のような大型のコレクション)に身近に接することのできる常設スペースとして再オープンする一方、これにより確保された新たなスペースを活用して様々な企画展示を開催していくこととなった。その最初の企画展となった「映画資料でみる 蒲田時代の小津安二郎と清水宏」は、上映企画「小津安二郎の藝術」と「清水宏 生誕100年」に合わせて開催されたもので、ともに生誕100周年を迎えた二人の偉大なシネアストの作品を所蔵の関連資料によって回顧するものである。《現存する》作品(フィルム)を集めた上映企画とは対照的に、ここでは大部分が《失われている》蒲田時代の作品に目を向け、小津作品に関する96点の資料(スチル写真78点、プログラム18点)と清水の77作品に関する267点(スチル写真236点、プログラム29点、ポスター2点)を集め展示した。

Day of Youth: Ozu and Shimizu at the Shochiku Kamata Studio

In the 2nd year as the space devoted to film related shows, NFC held the permanent exhibition and the theme-based temporary exhibition at the same time. “The Japanese Film Heritage” which formerly occupied the whole space was reduced to half and re-opened as the permanent exhibition while the title remained the same. In editing down the exhibition, priority was put on showing big-sized objects such as cameras and projectors. The first temporary exhibition in the half of the space was “Days of Youth: Ozu and Shimizu at the Shochiku Kamata Studio,” which was held in conjunction with the screening programs “Yasujiro Ozu: Japanese Film Master,” and “The 100th Anniversary of Shimizu Hiroshi’s Birth,” commemorating the centenary of 2 great cineastes by showing the materials about them from NFC’s collection. In contrast to the screening program that projected existing films, the exhibition mostly showed materials about the lost titles that were made during 2 director’s Kamata days. The materials shown included 78 still photographs and 18 programs regarding Ozu’s films, 236 still photographs, 29 programs, and 2 posters regarding Shimizu’s 77 film titles, that is, 96 items about Ozu and 267 items about Shimizu.



文化庁とフィルムセンターが、各地の公立文化施設(文化会館、公民館など)と協力して日本映画の名作を全国各地で上映している「優秀映画鑑賞推進事業」は、平成元年の開始以来15年目を迎えた。テーマごとに4作品ずつをパッケージにした、AからTまで20のプログラムの構成は前年度と同様であるが、一部作品を入れ替えた。

本年度も実施会場数はさらに増加し、全国44都道府県の176会場でフィルムセンターの巡回上映プリントが上映された。期間中の入場者は延べ81,348人になっている。詳しい統計とプログラムの詳細は以下のとおりである。

Our Circulation “Program Promotion of the Viewing of Superior Japanese Films” marked the 15th year since its inception in 1989. NFC and Agency for Cultural Affairs, in cooperation with municipal cultural institutions, showed select Japanese films at venues around Japan. As in the previous year, 20 programs (program A to T) with 4 titles each including some titles that were newly added to the programs were offered for circulation.

The number of participating venues increased again this year with 176 venues in 44 prefectures showing these programs, drawing 81,348 viewers. Detailed statistics and the listings of films for each program appear on the following pages.

プログラム別作品一覧

Aプログラム

西鶴一代女 (1952年・溝口健二・新東宝・137分)
 近松物語 (1954年・溝口健二・大映・102分)
 東京物語 (1953年・小津安二郎・松竹・136分)
 秋刀魚の味 (1962年・小津安二郎・松竹・113分)

Bプログラム

おかあさん (1952年・成瀬巳喜男・新東宝・98分)
 浮雲 (1955年・成瀬巳喜男・東宝・123分)
 血槍富士 (1955年・内田吐夢・東映・94分)
 飢餓海峡 (1964年・内田吐夢・東映・183分)

Cプログラム

酔いどれ天使 (1948年・黒澤明・東宝・98分)
 羅生門 (1950年・黒澤明・大映・90分)
 日本の悲劇 (1953年・木下恵介・松竹・116分)
 喜びも悲しみも幾歳月 (1957年・木下恵介・松竹・160分)

Dプログラム

生きる (1952年・黒澤明・東宝・143分)
 天国と地獄 (1963年・黒澤明・東宝・143分)
 女の園 (1954年・木下恵介・松竹・137分)
 野菊の如き君なりき (1955年・木下恵介・松竹・92分)

Eプログラム

青い山脈 (1949年・今井正・東宝・172分)
 また逢う日まで (1950年・今井正・東宝・111分)
 野火 (1959年・市川崑・大映・105分)
 ぼんち (1960年・市川崑・大映・104分)

Fプログラム

くちづけ (1957年・増村保造・大映・73分)
 青春残酷物語 (1960年・大島渚・松竹・96分)
 につぼん昆虫記 (1963年・今村昌平・日活・123分)
 心中天網島 (1969年・篠田正浩・表現社他・105分)

Gプログラム

夫婦善哉 (1955年・豊田四郎・東宝・120分)
 夜の河 (1956年・吉村公三郎・大映・104分)
 五番町夕霧楼 (1963年・田坂具隆・東映・137分)
 夢千代日記 (1985年・浦山桐郎・東映・129分)

Hプログラム

晩春 (1949年・小津安二郎・松竹・108分)
 稲妻 (1952年・成瀬巳喜男・大映・93分)
 華岡青洲の妻 (1967年・増村保造・大映・100分)
 サンダカン八番娼館 望郷 (1974年・熊井啓・俳優座他・121分)

Iプログラム

隠し砦の三悪人 (1958年・黒澤明・東宝・139分)
 反逆児 (1961年・伊藤大輔・東映・110分)
 次郎長三国志 (1963年・マキノ雅弘・東映・102分)
 風林火山 (1969年・稲垣浩・東宝・166分)

Jプログラム

嵐を呼ぶ男 (1957年・井上梅次・日活・101分)
 悪名 (1961年・田中徳三・大映・94分)
 沓掛時次郎 遊侠一匹 (1966年・加藤泰・東映・90分)
 人生劇場 飛車角と吉良常 (1968年・内田吐夢・東映・109分)

Kプログラム

二十四の瞳 (1954年・木下恵介・松竹・156分)
 西遊記 (1960年・薮下泰司・東映動画・88分)
 伊豆の踊子 (1974年・西河克己・東宝他・82分)
 火垂るの墓 (1988年・高畑勲・新潮社・90分)

Lプログラム

長靴をはいた猫 (1969年・矢吹公郎・東映動画・80分)
 野菊の墓 (1981年・澤井信一郎・東映・91分)
 次郎物語 (1987年・森川時久・キネマ東京他・110分)
 ぼくらの七日間戦争 (1988年・菅原比呂志・角川春樹事務所・94分)

Mプログラム

裸の島 (1960年・新藤兼人・近代映画協会・95分)
風の又三郎 ガラスのmant (1989年・伊藤俊也・日本ヘラルド他・107分)
大誘拐 (1991年・岡本喜八・喜八プロ他・120分)
毎日が夏休み (1994年・金子修介・パイオニアLDC・94分)

Nプログラム

転校生 (1982年・大林宣彦・ATG他・113分)
ロックよ、静かに流れよ (1988年・長崎俊一・プレミエンターナショナル他・100分)
櫻の園 (1990年・中原俊・NCP他・100分)
お引越し (1993年・相米慎二・読売テレビ放送・124分)

Oプログラム

大江戸五人男 (1951年・伊藤大輔・松竹・132分)
銭形平次捕物控 人肌蜘蛛 (1956年・森一生・大映・82分)
旗本退屈男 (1958年・松田定次・東映・108分)
赤穂浪士 (1961年・松田定次・東映・150分)

Pプログラム

幕末太陽伝 (1957年・川島雄三・日活・110分)
駅前旅館 (1958年・豊田四郎・東宝・109分)
ニッポン無責任時代 (1962年・古沢憲吾・東宝・86分)
喜劇・女は男のふるさとヨ (1971年・森崎東・松竹・90分)

Qプログラム

おかしな奴 (1963年・沢島忠・東映・110分)
喜劇・大安旅行 (1968年・瀬川昌治・松竹・94分)
吹けば飛ぶよな男だが (1968年・山田洋次・松竹・91分)
あゝ軍歌 (1970年・前田陽一・松竹・88分)

Rプログラム

キューポラのある街 (1962年・浦山桐郎・日活・99分)
伊豆の踊子 (1963年・西河克己・日活・87分)
けんかえれじい (1966年・鈴木清順・日活・86分)
遠雷 (1981年・根岸吉太郎・ATG他・135分)

Sプログラム

おとと (1960年・市川崑・大映・98分)
肉弾 (1968年・岡本喜八・喜八プロ他・116分)
旅の重さ (1972年・斎藤耕一・松竹・90分)
時をかける少女 (1983年・大林宣彦・角川春樹事務所・104分)

Tプログラム

エノケンの頑張り戦術 (1939年・中川信夫・東宝・74分)
ジャンケン娘 (1955年・杉江敏男・東宝・92分)
大学の若大将 (1961年・杉江敏男・東宝・82分)
君も出世ができる (1964年・須川栄三・東宝・100分)

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映本数	入場者数	映画館数	人口規模
北海道							
1 新冠町聴体験文化交流館	平成16年 1月23日(金)～平成16年 1月24日(土)	R	2	4	1501	0	6,390
2 千歳市民文化センター	平成15年 8月16日(土)～平成15年 8月17日(日)	N	2	6	415	0	90,178
3 厚岸情報館	平成15年10月16日(木)～平成15年10月19日(日)	S	4	6	26	0	12,400
4 帯広市民文化ホール	平成15年 9月13日(土)	M	1	5	151	7	174,000
5 北見芸術文化ホール	平成15年10月 4日(土)～平成15年10月 5日(日)	B	2	7	694	7	110,000
6 札幌市生涯学習総合センター	平成15年10月29日(水)～平成15年10月31日(金)	D	3	12	1103	43	1,848,000
青森県							
7 浪岡町中世の館	平成15年 8月29日(金)～平成15年 8月31日(日)	F	3	6	453	0	21,400
岩手県							
8 久慈市文化会館★	平成15年10月25日(土)～平成15年10月26日(日)	K	2	6	360	0	39,000
9 藤沢町文化交流センター	平成15年10月 4日(土)～平成15年10月 5日(日)	L	2	8	114	0	10,396
10 釜石市民文化会館	平成15年11月 2日(日)～平成15年11月 3日(月)	K	2	4	183	0	46,000
宮城県							
11 気仙沼市民会館★	平成15年 8月10日(日)	B	1	4	501	0	61,000
12 中新田町文化会館	平成15年11月 1日(土)	Q	1	4	398	0	13,990
秋田県							
13 横手市ふれあいセンターかまぐら館	平成15年10月 5日(日)	K	1	4	217	0	40,000
14 小坂町康楽館	平成16年 2月21日(土)～平成16年 2月22日(日)	P	2	6	440	0	7,200
15 大館市民文化会館★	平成16年 2月28日(土)～平成16年 2月29日(日)	R	2	8	1147	3	60,000
16 雄勝町総合文化会館★	平成15年 9月 7日(日)	I	1	4	84	0	9,500
山形県							
17 米沢市市民文化会館	平成15年 9月20日(土)～平成15年 9月21日(日)	B	1	4	890	7	95,000
福島県							
18 会津若松市文化福祉センター	平成15年11月28日(金)	F	1	2	419	4	118,000
茨城県							
19 東海文化センター	平成16年 2月 7日(土)～平成16年 2月 8日(日)	D	2	8	1175	0	34,000
20 土浦市民会館	平成15年10月19日(日)	R	1	3	988	8	135,589
21 玉里村総合文化センター	平成15年 8月23日(土)	H	1	3	293	0	8,606
22 水戸芸術館	平成16年 2月14日(土)～平成16年 2月15日(日)	D	2	4	730	10	248,000
群馬県							
23 新田町文化会館★	平成15年 9月 4日(木)～平成15年 9月 5日(金)	H	2	4	1024	0	30,500
24 前橋パブリックシアター	平成15年10月25日(土)～平成15年10月26日(日)	P	2	4	384	6	284,384
千葉県							
25 茂原市東部台文化会館★	平成16年 2月21日(土)～平成16年 2月22日(日)	B	2	4	521	6	95,332
26 睦沢ゆうあい館	平成15年11月22日(土)～平成15年11月23日(日)	J	2	5	377	0	8,300
東京都							
27 小平市民文化会館	平成16年 2月21日(土)～平成16年 2月22日(日)	D	2	4	3449	0	175,599
28 多摩市立関戸公民館	平成15年11月26日(水)～平成15年11月27日(木)	P	2	6	416	3	143,000
神奈川県							
29 相模原南市民ホール	平成15年11月 8日(土)～平成15年11月 9日(日)	D	2	4	627	4	616,000
30 座間市立市民文化会館	平成15年 9月20日(土)～平成15年 9月21日(日)	F	2	8	97	0	130,000
新潟県							
31 中之口村農村環境改善センター★	平成15年11月 8日(土)～平成15年11月 9日(日)	L	2	4	203	0	6,649
32 十日町市民会館	平成15年10月11日(土)～平成15年10月12日(日)	P	2	10	320	1	43,539
33 中条町産業文化会館	平成15年10月 3日(金)～平成15年10月 5日(日)	E	3	10	726	0	28,000
34 糸魚川市民会館	平成15年 8月31日(日)	L	1	4	156	0	32,000
35 小出郷文化会館	平成16年 2月 7日(土)～平成16年 2月 8日(日)	P	3	8	158	1	14,000

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映本数	入場者数	映画館数	人口規模
富山県							
36 北日本新聞ホール★	平成16年 2月21日(土)～平成16年 2月22日(日)	C	2	7	487	8	322,173
37 庄川町生涯学習センター	平成15年 8月11日(月)～平成15年 8月14日(木)	C	4	4	402	0	7,251
38 上平村立上平小学校★	平成15年 8月28日(木)	M	1	2	44	0	850
39 滑川市西地区コミュニティホール	平成15年 8月29日(金)～平成15年 8月30日(土)	C	2	4	274	0	34,000
40 クロスランドおやべ	平成16年 1月17日(土)～平成16年 1月18日(日)	P	2	4	829	0	35,000
41 あさひコミュニティホール	平成15年11月 8日(土)	F	1	3	278	0	16,000
石川県							
42 田鶴浜町サンビーム日和ヶ丘	平成15年 9月25日(木)～平成15年 9月28日(日)	L	4	4	51	0	6,000
福井県							
43 高浜町文化会館	平成15年 9月27日(土)～平成15年 9月28日(日)	Q	2	4	18	0	13,000
山梨県							
44 身延町総合文化会館★	平成16年 2月29日(日)	J	1	1	120	0	8,000
45 塩山市民文化会館	平成15年 9月27日(土)	G	1	1	168	1	27,000
46 増穂町文化会館	平成16年 1月10日(土)～平成16年 1月11日(日)	B	2	4	304	0	13,342
47 ふるさと会館	平成15年 8月23日(土)	E	1	2	486	0	4,300
48 甲府市総合市民会館	平成15年 9月27日(土)～平成15年 9月28日(日)	P	2	4	591	21	200,000
長野県							
49 須坂市文化会館★	平成16年 1月24日(土)～平成16年 1月25日(日)	E	2	6	823	0	54,350
50 上山田文化会館	平成15年 8月14日(木)～平成15年 8月15日(金)	M	2	8	405	0	6,656
51 駒ヶ根市文化会館	平成15年 8月30日(土)～平成15年 8月31日(日)	D	2	6	356	0	34,315
52 上田市文化会館★	平成15年11月 6日(木)～平成15年11月 9日(日)	S	2	3	661	4	123,000
53 鼎文化センター	平成15年10月25日(土)	B	1	2	495	5	106,000
岐阜県							
54 たかす村民センター★	平成15年 7月18日(金)	C	1	1	116	0	3,666
55 関ヶ原ふれあいセンター	平成15年10月21日(火)～平成15年10月24日(金)	F	2	6	159	0	9,100
56 明智町かえでホール★	平成15年 9月12日(金)	G	1	4	185	0	7,800
57 洞戸村民俗資料館★	平成15年 7月20日(日)	E	1	4	517	0	2,400
58 久々野町中央公民館	平成15年10月21日(火)～平成15年10月25日(土)	I	5	8	389	0	4,157
59 笠原町中央公民館	平成15年 7月26日(土)	D	1	4	192	0	11,816
60 可児市文化創造センター	平成15年 9月20日(土)～平成15年 9月23日(火)	C	4	12	280	0	96,422
61 瑞浪市中央公民館	平成15年 8月 9日(土)	O	1	4	416	0	42,000
62 美濃市文化会館	平成15年 9月 6日(土)～平成15年 9月 7日(日)	R	2	6	796	0	24,870
63 飛騨・世界生活文化センター	平成15年 7月25日(金)～平成15年 7月27日(日)	M	3	8	87	4	66,000
64 県民文化ホール未来会館	平成15年11月 2日(日)	E	1	4	205	9	403,635
静岡県							
65 天竜市民ホール★	平成15年10月11日(土)	I	1	2	92	0	23,346
66 焼津市民文化センター★	平成15年 8月23日(土)～平成15年 8月24日(日)	P	2	4	338	0	120,000
67 韭山町文化センター★	平成15年 8月14日(木)～平成15年 8月15日(金)	L	2	4	191	0	20,000
68 静岡市民文化会館★	平成15年10月 9日(木)～平成15年10月10日(金)	A	2	8	389	13	720,000
69 藤枝市民会館	平成15年 8月30日(土)	E	1	4	561	0	130,000
70 大井川町文化会館	平成15年 9月27日(土)～平成15年 9月28日(日)	A	2	6	342	0	30,000
71 大東町文化会館	平成16年 1月17日(土)～平成16年 1月18日(日)	E	2	6	940	0	20,000
愛知県							
72 鳳来東小学校体育館★	平成15年 9月13日(土)	R	1	1	77	0	14,000
73 東郷町民会館	平成15年10月 4日(土)～平成15年10月 5日(日)	G	2	4	250	0	38,226
74 碧南市芸術文化ホール	平成15年 9月13日(土)～平成15年 9月14日(日)	O	2	4	477	0	69,787
75 山吉田小学校体育館★	平成15年 9月 6日(土)	M	1	2	130	0	14,000
三重県							
76 大門交流プラザ★	平成15年 9月20日(土)～平成15年 9月24日(水)	I	4	12	247	7	164,862
77 伊勢市生涯学習センター	平成15年 8月 2日(土)～平成15年 8月 3日(日)	C	2	4	1700	1	100,000
78 名張市青少年センター	平成15年 8月31日(日)	R	1	4	1166	0	85,000
79 海山町立中央公民館★	平成15年 8月10日(日)	K	1	4	289	0	10,057

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映本数	入場者数	映画館数	人口規模
滋賀県							
80 米原町中央公民館★	平成16年 2月 7日(土)～平成16年 2月 8日(日)	R	2	4	50	0	12,541
81 甲西文化ホール★	平成15年 9月13日(土)～平成15年 9月14日(日)	K	2	4	250	0	43,000
82 水口町立碧水ホール	平成16年 1月24日(土)～平成16年 1月25日(日)	B	2	4	387	5	38,000
83 あいの土山文化ホール	平成15年 8月23日(土)～平成15年 8月24日(日)	L	2	7	134	0	9,500
84 山東町立町民交流プラザ	平成15年11月 5日(水)～平成15年11月 9日(日)	P	1	4	220	0	13,721
85 滋賀県立文化産業交流会館 ぶんさん	平成15年 9月 6日(土)～平成15年 9月 7日(日)	J	2	6	231	0	12,500
86 日野町町民会館わたむきホール虹	平成15年 8月31日(日)	T	1	4	263	0	23,000
京都府							
87 文化パルク城陽	平成16年 2月14日(土)～平成16年 2月15日(日)	P	2	8	558	1	83,389
大阪府							
88 箕面市立市民会館★	平成15年 7月12日(土)～平成15年 7月13日(日)	I	2	4	247	0	123,975
89 豊中市立市民会館★	平成15年 8月23日(土)	C	2	4	359	1	390,000
90 摂津市民文化ホール	平成16年 2月 8日(日)	C	1	2	124	0	86,000
91 すばるホール	平成15年10月28日(火)～平成15年10月31日(金)	J	4	8	439	1	126,000
92 旭区民センター	平成15年 7月25日(金)～平成15年 7月27日(日)	L	3	9	68	0	100,000
93 岸和田市立文化会館	平成15年12月13日(土)～平成15年12月14日(日)	J	2	4	532	19	204,612
兵庫県							
94 あさご・ささゆりホール★	平成15年 8月30日(土)	N	1	2	72	0	7,333
95 加西市民会館★	平成15年 8月23日(土)	K	1	4	778	0	51,700
96 明石市立市民会館	平成15年 7月11日(金)～平成15年 7月12日(土)	D	2	4	715	9	290,000
97 伊丹市立文化会館	平成16年 1月17日(土)～平成16年 1月18日(日)	C	2	4	403	8	190,632
98 川西市みつなかホール	平成16年 1月24日(土)～平成16年 1月25日(日)	O	2	4	663	0	156,486
99 姫路市文化センター	平成15年12月23日(火)	F	1	3	1395	11	480,000
100 加古川総合文化センター	平成15年11月15日(土)～平成15年11月16日(日)	K	2	4	133	8	267,000
101 西宮市 なるお文化ホール	平成16年 2月 7日(土)～平成16年 2月 8日(日)	L	2	4	473	0	452,211
102 兵庫県立美術館	平成15年 8月29日(金)～平成15年 8月30日(土)	G	2	6	1085	25	1,000,000
奈良県							
103 斑鳩町文化センター	平成15年11月22日(土)～平成15年11月23日(日)	D	2	4	500	0	29,114
和歌山県							
104 和歌山県民文化会館	平成15年 9月 8日(月)	D	1	4	619	11	380,000
105 紀南文化会館	平成15年10月25日(土)～平成15年10月26日(日)	E	2	9	903	3	71,000
106 橋本市教育文化会館	平成15年11月 9日(日)	K	1	2	171	0	55,486
107 かつらぎ総合文化会館	平成15年 9月15日(月)	H	1	2	912	0	20,610
108 清水町郷土文化保存伝習館	平成15年 8月16日(土)～平成15年 8月17日(日)	K	2	4	193	0	5,096
109 新宮市市民会館★	平成15年 9月20日(土)～平成15年 9月21日(日)	P	4	4	138	2	33,000
110 和歌山県 立きのくに志学館★	平成15年 9月13日(土)～平成15年 9月14日(日)	L	2	4	440	11	1,070,000
鳥取県							
111 米子市公会堂	平成15年 7月12日(土)～平成15年 7月13日(日)	C	2	4	801	3	140,567
112 倉吉未来中心 小ホール	平成16年 1月29日(木)～平成16年 1月30日(金)	P	2	8	295	3	49,818
島根県							
113 石見文化ホール	平成16年 1月30日(金)～平成16年 1月31日(土)	D	2	2	195	1	48,000
114 美保関町海の学苑ふるさと創生館	平成15年10月25日(土)	C	1	2	98	0	6,861
115 悠邑ふるさと会館	平成15年 7月12日(土)～平成15年 7月13日(日)	K	2	6	204	0	4,700
116 大田市民会館	平成15年11月16日(日)	P	1	2	112	0	34,200
117 安来市民会館	平成15年10月18日(土)	C	1	3	271	0	30,776
118 財産法人松江勤労福祉振興協会	平成15年 9月27日(土)～平成15年 9月28日(日)	H	2	6	436	5	150,000
119 石西県民文化会館	平成15年10月25日(土)～平成15年10月26日(日)	A	2	4	189	2	51,000
120 島根県民会館	平成15年10月11日(土)	F	1	4	174	5	150,000
121 美都町農村環境改善センター	平成15年10月18日(土)～平成15年10月19日(日)	L	2	4	120	0	2,800
岡山県							
122 まなび広場にいみ★	平成16年 3月13日(土)	P	1	3	495	0	24,200
123 ヘルフォーレ津山	平成16年 1月18日(日)	B	1	5	426	2	90,000

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映本数	入場者数	映画館数	人口規模
124 勝山町民センター	平成15年 9月 5日(金)～平成15年 9月 6日(土)	N	2	4	54	0	9,500
125 日生町中央公民館	平成15年12月13日(土)～平成15年12月14日(日)	L	2	4	162	0	8,839
126 建部町文化センター	平成16年 2月14日(土)～平成16年 2月15日(日)	R	2	4	218	0	7,051
127 倉敷市玉島文化センター★	平成15年10月18日(土)～平成15年10月19日(日)	H	2	4	866	10	439,000
128 やかげ文化センター	平成15年12月20日(土)～平成15年12月21日(日)	J	2	4	210	0	16,574
129 玉野街づの株式会社キリンシネマ	平成15年 9月27日(土)～平成15年 9月28日(日)	O	2	14	317	2	70,000
130 高梁総合文化会館	平成16年 2月21日(土)～平成16年 2月22日(日)	L	2	4	492	0	23,183
広島県							
131 せらにشتاونセンター	平成15年 7月13日(日)	L	1	4	84	0	4,151
山口県							
132 ルネッサなかと	平成15年 8月 9日(土)～平成15年 8月10日(日)	T	2	8	665	0	25,000
133 宇部市文化会館	平成15年 9月23日(火)	K	1	2	1500	7	174,673
徳島県							
134 勝浦町農村環境改善センター	平成15年 8月16日(土)～平成15年 8月17日(日)	D	2	4	226	0	6,810
香川県							
135 宇多津町保健センター	平成15年 9月14日(日)	D	1	4	286	7	18,000
136 丸亀市生涯学習センター	平成15年 8月31日(日)	B	1	3	890	0	81,000
137 善通寺市民会館	平成16年 2月14日(土)～平成16年 2月15日(日)	C	2	8	2730	0	36,000
愛媛県							
138 吉海町町民会館★	平成15年10月19日(日)	O	1	4	212	0	4,828
139 保内町文化会館	平成15年10月26日(日)	L	1	4	276	0	11,122
140 御荘町文化センター	平成16年 2月 7日(土)～平成16年 2月 8日(日)	B	2	8	311	0	9,724
141 内子自治センター	平成15年11月30日(日)	L	1	4	280	0	11,900
142 宇和町文化会館	平成15年 9月20日(土)	J	1	4	340	0	18,100
143 宇和島市生涯学習センター	平成15年 8月17日(日)	P	1	4	272	3	62,000
高知県							
144 本山町 プラチナセンター	平成15年 7月13日(日)	P	1	4	202	0	4,501
145 土佐清水市立市民文化会館	平成15年10月 4日(土)～平成15年10月 6日(月)	Q	3	4	146	0	18,888
146 夜須町公民館 マリンホール	平成16年 2月28日(土)～平成16年 2月29日(日)	O	2	8	485	0	4,482
福岡県							
147 朝倉町民センター★	平成15年 7月19日(土)～平成15年 7月20日(日)	K	2	4	96	0	10,000
148 杷木町社会教育総合センター	平成15年 8月23日(土)	D	1	4	218	0	8,800
149 そびあしんぐう	平成16年 1月25日(日)	C	1	4	838	0	23,000
150 ユメニティのおかた	平成15年 9月27日(土)～平成15年 9月28日(日)	R	2	8	599	0	60,000
151 小郡市文化会館	平成16年 1月16日(金)～平成16年 1月17日(土)	J	2	5	510	0	56,754
152 田川青少年文化ホール	平成15年 8月 9日(土)～平成15年 8月10日(日)	D	2	8	980	0	54,351
153 宗像市中央公民館	平成15年11月15日(土)～平成15年11月16日(日)	S	2	4	185	0	83,021
154 大牟田文化会館	平成15年 8月16日(土)～平成15年 8月17日(日)	G	2	8	1152	4	139,329
155 大野城まどかびあ	平成16年 2月 7日(土)～平成16年 2月 8日(日)	O	2	8	441	8	91,000
佐賀県							
156 有明町スカイパークふれあい郷	平成15年 9月 6日(土)～平成15年 9月 7日(日)	K	2	6	453	0	9,000
157 東与賀町文化ホール	平成15年11月 2日(日)～平成15年11月 3日(月)	J	2	8	705	0	7,700
158 肥前町文化会館	平成15年 8月30日(土)～平成15年 8月31日(日)	O	2	4	196	0	9,505
159 武雄市文化会館 小ホール	平成15年 9月13日(土)～平成15年 9月14日(日)	P	2	8	336	0	34,939
160 北方町中央公民館	平成15年 8月23日(土)～平成15年 8月24日(日)	I	2	4	126	0	8,803
161 大村市体育センター★	平成15年10月 3日(金)～平成15年10月 5日(日)	C	3	10	906	0	87,000
熊本県							
162 宇土市民会館	平成15年 8月 9日(土)～平成15年 8月10日(日)	E	2	4	519	0	38,000
163 荒尾総合文化センター	平成15年 9月20日(土)～平成15年 9月21日(日)	E	2	8	425	0	58,000
164 小川町総合文化センター	平成15年11月13日(木)～平成15年11月15日(土)	Q	3	8	582	8	13,939
165 砥用町文化交流センター★	平成15年 8月 9日(土)	Q	1	4	336	0	8,000
166 益城町文化会館	平成15年 7月26日(土)～平成15年 7月27日(日)	K	2	8	687	0	32,634
167 矢部町保健福祉センター	平成15年 7月25日(金)	T	1	2	83	0	12,781

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映本数	入場者数	映画館数	人口規模
大分県							
168 上津江村活性化センター★	平成15年11月22日(土)	K	1	4	10	0	1,300
169 国見町生涯学習センター★	平成15年 7月20日(日)	I	1	4	357	0	5,800
170 くにさき総合文化センター	平成15年12月 6日(土)	O	1	4	905	0	13,470
171 日田市中央公民館	平成15年 8月 2日(土)～平成15年 8月 3日(日)	I	2	6	519	1	62,713
172 コアやまくに	平成15年10月31日(金)～平成15年11月 3日(月)	O	4	16	104	0	3,351
宮崎県							
173 門川町総合文化会館	平成15年 9月13日(土)～平成15年 9月14日(日)	C	2	8	858	0	9,058
沖縄県							
174 パレット市民劇場	平成16年 1月16日(金)～平成16年 1月18日(日)	O	3	12	1695	15	308,143
175 浦添市民会館	平成15年 9月20日(土)～平成15年 9月21日(日)	T	2	8	621	0	105,485
176 宮古広域文化ホール	平成15年 8月 2日(土)～平成15年 8月 3日(日)	D	2	6	348	1	35,000
				321	895	81,348	

★印：初めて実施した会場

国内外の主要映画祭や国際フィルム・アーカイヴ連盟 (FIAF) 加盟機関などを対象に、映画保存活動の啓発を目的として行なわれる所蔵フィルムの貸出は29件、その貸出フィルム数は63本に上った。なかでも国外については、シドニー国際映画祭、ポローニャ復元映画祭、ロカルノ国際映画祭、シッチェス・カタルーニャ国際映画祭、ウィーン国際映画祭など世界各国からの求めに応じて多くの貸出を行なった。東京フィルメックスとの共催により、フィルムセンター小ホールで行った清水宏特集の反響を受けて、ベルリン国際映画祭および香港国際映画祭でも同監督の特集が組まれ、英語字幕付プリントを貸し出したことは特筆に値する。日本映画に対する関心が日増しに高まりつつある韓国に対しては、富川国際ファンタスティック映画祭、光州映画祭、ソウル女性映画祭にそれぞれ日本映画の貸出を行なった。

貸出状況は以下の表のとおりである。また、テレビ番組の制作会社や著作権を持つ映画会社などに所蔵フィルムを提供して複製を認める複製利用は、件数として38件、フィルム本数としては69本であった。映画やテレビの制作会社、日本映像職能連合の加盟団体、出版社、大学などの組織を対象に行なわれている特別映写は、90件が実施され、231本が上映されたが、この実績は前年度に比べさらなる伸びを示している。

映画関係資料については貸与、出版物等への図版提供を下記のとおり行った。

展示施設等を対象とする貸与では、東京都江戸東京博物館で開催された「エノケンとレビューの時代」や京都府京都文化博物館の「KYOTO映像フェスタ」、国立歴史民俗博物館の「民衆文化とつくられたヒーローたち」、ドイツ映画博物館(フランクフルト)の黒澤明展など、計8件の展覧会に対し映画関係資料116点の貸与を行った。

出版や放送などに対しては、計29件の申請に対し93点の図版提供や撮影の許可を行った(上記フィルム貸与に伴う写真図版の提供を除く)。これらには雑誌復刻への原本提供や、映画会社による自社保存用スチル写真素材の作成、小道具製作のための素材提供なども含まれている。

[Films]

We received 29 requests and loaned 63 prints to both domestic and international film festivals as well as FIAF member archives. This was done in order to promote the significance of film preservation and restoration to the public.

NFC loaned a number of Japanese films that were requested by film festivals around the world such as the Sydney International Film Festival, Il Cinema Ritrovato(Bologna), the International Film Festival of Locarno, the Sitges International Film Festival of Catalonia, and the Vienna International Film Festival. It is also notable that based on the reaction of the screening program of Hiroshi Shimizu's films at Cinema 2 of NFC which was co-organized by the TOKYO FILMeX, a program of Shimizu's films were held at the Berlin International Film Festival and the Hong Kong International Film Festival to which NFC loaned the prints with English subtitles. To Korea where the interests in Japanese cinema has been increasing in recent years, NFC loaned Japanese films to the Puchon International Fantastic Film Festival, the Kwangju Film Festival, and the Women's Film Festival in Seoul.

NFC allowed TV production companies and copyright holding studios to duplicate

films of our collection. We received 38 requests for 69 films.

Our Special Screening Programs that are targeted at TV production companies, member associations of Nippon Eizo Shokuno Rengo, publishers, and universities were organized 90 times showing 231 films this year, marking the significant increase from the previous year.

[Non-Film Materials]

We loaned 116 items of non-film film-related materials to 8 outside museums including the Edo-Tokyo Museum (for “*Enoken to rebyū no jidai*” exhibition,) the Museum of Kyoto (for “*Kyoto eizō fesuta*” exhibition,) the National Museum of Japanese History (for the “*Popular Culture and Invented Heroes*” exhibition,) and the Deutsches Filmmuseum (for “Akira Kurosawa” exhibition).

As for loans to the broadcasting and printing media, NFC received 29 requests and loaned or gave permission to take photographs (or shoot moving images) of the items that totaled 93 pieces. (This figure does not include the loan of still photographs of the films that were loaned.) They include the loan of the original copies of the magazines to publishers who wished to make reprint versions and those of the still photographs to film studios who wished to duplicate them in order to fill in the gap of their own collection of still photographs, and visual materials such as posters to film studios which wished to use them as references to make stage properties of the era.

[国内貸出]

第32回映画大学

上映会場：文京シビックホール／主催：映画鑑賞団体全国連絡会議
「忠次旅日記」(伊藤大輔監督、1927年) 上映日：2003年8月9日

上映会「Leni 101 Anniversary！」

上映会場：シネセゾン渋谷／主催：東京テアトル株式会社
「民族の祭典 総集篇」(レニ・リーフェンシュタール監督、1938年)
上映日：2003年8月22日

上映会「関西で甦ったフィルム」

上映会場：海遊館ホール／主催：文化庁
「瀧の白糸」(溝口健二監督、1933年) 上映日：2003年9月6日

第4回宝塚映画祭

上映会場：シネ・ピピア2／主催：宝塚映画祭実行委員会
「豪傑児雷也」(牧野省三監督、1921年) 上映日：2003年10月31日、11月1日、2日、3日

没後10年 安部公房展

上映会場：世田谷文学館／主催：世田谷文学館
「壁あつき部屋」(小林正樹監督、1956年) 上映日：2003年10月25日

文化庁芸術祭日本映画名作鑑賞会「関西の風土が生んだ監督たち」

上映会場：東京国立近代美術館フィルムセンター、京都文化博物館／主催：社団法人日本映画製作者連盟

「若き日の次郎長 東海道のつむじ風」(マキノ雅弘監督、1951年)

上映日：2003年10月3日、7日

「不良番長」(野田幸男監督、1968年) 上映日：2003年10月7日、11月11日

「悪名」(田中徳三監督、1961年) 上映日：2003年10月8日

「蜚川」(須川栄三監督、1987年) 上映日：2003年10月9日、11月12日

「少年」(大島渚監督、1969年) 上映日：2003年10月9日、11月11日

第12回中世の里なみおか映画祭

上映会場：浪岡町中世の館／主催：中世の里なみおか映画祭実行委員会

「博奕打ちいのち札」(山下耕作監督、1971年) 上映日：2003年11月23日

山形国際ドキュメンタリー映画祭2003

上映会場：ソラリス、アテネ・フランセ文化センター／主催：山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会

「沖繩」(近藤伊興吉編集、1936年) 上映日：2003年10月11日、17日

「南の島・琉球」(製作年不明) 上映日：2003年10月11日、17日

「海の民・沖繩島物語」(村田達二演出、1942年) 上映日：2003年10月11日、17日

「白い壁画」(千葉泰樹監督、1942年) 上映日：2003年10月15日

第10回大阪ヨーロッパ映画祭

上映会場：シネ・リーブル梅田、梅田 ガーデンシネマ／主催：大阪ヨーロッパ映画祭実行委員会

「ハンター」(チェル・スンドヴァル監督、1996年) 上映日：2003年11月19日

「ザ・ジェネラル」(ジョン・ブアマン監督、1997年) 上映日：2003年11月20日

KYOTO映像フェスタ

上映会場：京都府京都文化博物館／主催：京都府京都文化博物館

「忠次旅日記」(伊藤大輔監督、1927年) 上映日：2003年10月31日

「斬人斬馬剣」(伊藤大輔監督、1929年) 上映日：2003年10月31日

第16回東京国際映画祭

上映会場：シネフロント、東京ウイメンズプラザ、ユーロスペース／主催：東京国際映画祭実行委員会

「我が家は楽し」(中村登監督、1951年) 上映日：2003年11月4日

「銀座化粧」(成瀬巳喜男監督、1951年) 上映日：2003年11月4日

「恋文」(田中絹代監督、1953年) 上映日：2003年11月4日

「愛情」(堀池清監督、1956年) 上映日：2003年11月5日

「女ばかりの夜」(田中絹代監督、1961年) 上映日：2003年11月5日

「狙われた男」(中平康監督、1956年) 上映日：2003年11月3日、4日

「夏の嵐」(中平康監督、1956年) 上映日：2003年11月3日、4日

「誘惑」(中平康監督、1957年) 上映日：2003年11月7日、8日、11日、12日

「街燈」(中平康監督、1957年) 上映日：2003年11月5日、6日、9日、10日

「殺したのは誰だ」(中平康監督、1957年) 上映日：2003年11月7日、8日

「美徳のよろめき」(中平康監督、1957年) 上映日：2003年11月9日、10日

「四季の愛欲」(中平康監督、1958年) 上映日：2003年11月9日、10日

「不知火検校」(森一生監督、1960年) 上映日：2003年11月3日

シネマ座パル 講演と映画の会

上映会場：笠懸野文化ホール「パル」／主催：笠懸野文化ホール
「夢」(黒澤明監督、1990年) 上映日：2004年1月25日

第2回MINDAN FESTIVAL 映画祭「映画に描かれた在日II」

上映会場：韓国中央会館MINDANホール／主催：MINDAN FILM FESTIVAL
「あれが港の灯だ」(今井正監督、1961年) 上映日：2004年2月8日

中平康レトロスペクティブPart2

上映会場：シネ・スーヴォ／主催：財団法人大阪都市協会
「狙われた男」(中平康監督、1956年) 上映日：2004年2月21日、23日
「夏の嵐」(中平康監督、1956年) 上映日：2004年2月22日、24日
「街燈」(中平康監督、1957年) 上映日：2004年2月25日、28日
「殺したのは誰だ」(中平康監督、1957年) 上映日：2004年2月26日、29日
「誘惑」(中平康監督、1957年) 上映日：2004年3月2日、6日
「美德のよるめき」(中平康監督、1957年) 上映日：2004年3月1日、3日
「四季の愛欲」(中平康監督、1958年) 上映日：2004年3月4日、7日

上映会「エミール・ゾラをめぐる一日」

上映会場：東京日仏学院／主催：東京日仏学院
「女優ナナ」(ジャン・ルノワール監督、1926年) 上映日：2004年3月13日

映画上映専門養成講座：シネママネジментワークショップ

上映会場：せんだいメディアテーク／主催：せんだいメディアテーク
「有りかたうさん」(清水宏監督、1936年) 上映日：2004年3月26日

[海外貸出]

全州(チョンジュ)国際映画祭2003 羽仁進監督特集

上映会場：チョンブク国立大学文化センター(全州)／主催：全州国際映画祭
「初恋・地獄篇」(羽仁進監督、1967年) 上映日：2003年4月25日～5月4日に1回

第50回シドニー映画祭

上映会場：ステイト劇場(シドニー)／主催：シドニー映画祭
「地獄門」(衣笠貞之助監督、1953年) 上映日：2003年6月7日

第17回チネマ・リトロヴァート復元映画祭

上映会場：ルミエール劇場(ボローニャ)／主催：チネテカ・デル・コミュニネ・ディ・ボローニャ
「サタン[断片]」(フリードリヒ・W・ムルナウ監督、1919年) 上映日：2003年7月1日

第7回富川(プチョン)国際ファンタスティック映画祭 深作欣二監督特集

上映会場：サラ区役所内ソヒャン館(富川)／主催：富川国際ファンタスティック映画祭
「宇宙からのメッセージ」(深作欣二監督、1978年) 上映日：2003年7月12日、14日

第56回ロカルノ国際映画祭「映画とジャズ」回顧展

上映会場：仮設映画館ラ・サーラ(ロカルノ)／主催：ロカルノ国際映画祭
「マダムと女房」(五所平之助監督、1931年)

2003光州(クァンジュ)国際映画祭

上映会場: シネ・アート(光州) / 主催: 光州国際映画祭組織委員会
「北鮮の羊は語る」(1934年) 上映日: 2003年8月23日、28日
「鴨緑江大水力発電工事」(熊野稔編集、1940年) 上映日: 2003年8月23日、28日
「李王根殿下大阪偕行社小学校御訪問」(1940年) 上映日: 2003年8月23日、28日

カール・マイヤー回顧展

上映会場: メトロ・キノ(ウィーン) / 主催: オーストリア・フィルム・アーカイブ
「除夜の悲劇」(ルプ・ピック監督、1923年) 上映日: 2003年11月7日、19日

ウィーン国際映画祭 日本アート・シアター・ギルド特集

上映会場: オーストリア映画博物館 / 主催: オーストリア映画博物館
「東京戦争戦後秘話」(大島渚監督、1970年) 上映日: 2003年10月13日、20日
「無常」(笑相寺昭雄監督、1970年) 上映日: 2003年10月14日、22日

カタルーニャ・シツチェス国際映画祭

上映会場: プラド劇場(シツチェス) / 主催: カタルーニャ国際映画祭
「バレット・バレエ」(塚本晋也監督、1998年) 上映日: 2003年11月29日～12月4日に1回

テサロニキ国際映画祭

上映会場: バヴロス・ザナス劇場、ジョン・カサヴェテス劇場(テサロニキ) / 主催: テサロニキ国際映画祭
「バレット・バレエ」(塚本晋也監督、1998年) 上映日: 2003年11月22日、27日

清水宏監督回顧展

上映会場: キノ・アルゼナール(ベルリン) / 主催: ドイツ・キネマテーク財団
「港の日本娘」(清水宏監督、1933年) 上映日: 2004年2月7日、3月13日、22日
「有りかたうさん」(清水宏監督、1936年) 上映日: 2004年3月15日、25日
「花形選手」(清水宏監督、1937年) 上映日: 2004年3月21日、27日
「歌女おぼえ書」(清水宏監督、1941年) 上映日: 2004年2月8日、3月23日、28日
「簪」(清水宏監督、1941年) 上映日: 2004年2月13日、3月13日、30日

バーミンガム映画祭2003および上映会「現代日本映画特集」

上映会場: ミッドランド・アーツ・センター(バーミンガム)、シェフィールド市ショールーム / 主催: ショールーム・アンド・ワークステーション
「Helpless」(青山真治監督、1996年) 上映日: 2004年3月11日、3月15日

第6回ソウル女性映画祭

上映会場: アート・レオン1(ソウル) / 主催: ソウル女性映画祭
「瀧の白糸」(溝口健二監督、1933年) 上映日: 2004年4月6日

◆入江良郎

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説37「新雪」『NFCニューズレター』第49号(2003年6-7月号)

《若き日》の小津と清水—資料でみる空想のシネマテーク『NFCニューズレター』第52号(2003年12月-2004年1月号)

京都文化博物館で「映像フェスタ」開催『NFCニューズレター』第53号(2004年2-3月号)

◆大場正敏

第59回国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)年次会議への出席(2003年6月1日-7日)

◆岡島尚志

第59回国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)年次会議への出席(2003年6月1日-7日)

FIAFストックホルム/ヘルシンキ会議報告 フィルムをフィルムとして残すことの意義『NFCニューズレター』第50号(2003年8-9月号)

スウェーデンの映画保存(上)『NFCニューズレター』第53号(2004年2-3月号)

◆岡田秀則

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説38「愛の道標」『NFCニューズレター』第49号(2003年6-7月号)

韓国で行われた「日本映画黄金期:1950年代の巨匠15人展」報告『NFCニューズレター』第49号(2003年6-7月号)

市川崑監督に聞く「あの頃、映画にならない題材はないと考えていました」(聞き手/構成)『NFCニューズレター』第50号(2003年8-9月号)

ようやく泳ぎ着いた《未知の映画大国》『NFCニューズレター』第51号(2003年10-11月号)

◆常石史子

第59回国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)年次会議への出席(2003年6月1日-7日)

「発掘」の諸相—切られ、つなかれ『NFCニューズレター』第49号(2003年6-7月号)

「斬人斬馬剣」—そのデジタル復元『NFCニューズレター』第49号(2003年6-7月号)

『和製喧嘩友達』のデジタル復元『NFCニューズレター』第52号(2003年12月-2004年1月号)

◆榎本章

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説39 満映前夜の満州国映画『NFCニューズレター』第49号(2003年6-7月号)

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説40「宿命」「告白」『NFCニューズレター』第51号(2003年10-11月号)

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Library

NFC図書室の公開図書数は平成16年3月末日現在で22,377冊を数えた(和書18,891冊/洋書3,486冊。複本を含むアイテム数。開架閲覧の図書や逐次刊行物を除く)。前年からの増加は995冊である。このような新刊図書の収集、整理、公開に加え、本年度は創刊以来31年分におよぶ雑誌「ぴあ」のバックナンバーを対象に合冊製本を行い閲覧図書の一層の充実に努めた。また図書検索システム(OPAC)は旧年度中にWeb上での公開を実現したが、本年度は閲覧室内の端末を2台に増やした。

平成15年度の開室日数は174日間で、利用者は3,174人(1日平均18人)を数えた。また、II-3で述べた資料の提供には、ゆまに書房による「映画旬報」の復刻(「資料・戦時下のメディア 第1期 統制下の映画雑誌」)のための4冊が含まれている。

【年間利用者数】

- 開室日数 174日間
- 入場者総数 3,174人 一般81% 学生19%
- 1日平均18人

The NFC library made accessible to the public 22,377 books in total (18,891 in Japanese and 3,486 in foreign languages, but except for duplicates and open-stack periodicals) as of March 31, 2003. 995 books were added to the holding of the previous year. This year we bounded back issues of magazine *Pia* that have been published for the past 31 years so as to make it easier for the patrons to read them. As for OPAC (Online Public Access Catalog) that was made public in the previous year, NFC added one terminal in the library so the total of 2 computer terminals became available for the patrons.

The library was open for 174 days during the fiscal year 2003, and received 3,174 patrons in total, that is, 18 patrons per day on average. Also, the loan of non-film materials described under article II-3 includes 4 books to Yumani shobō for its project of reprinting *Eiga junpō*, in the section, “Shiryō, senjika no media: daiikki touseika no eigasshi (Referce, Media (During the War): the 1st Period, Film Magazines under National Regulation of the Press).”

1-2 児童生徒を対象とした事業 Projects for Children and Young Students

将来の映画観客となる小中学生を主たる観客に想定して、子どもたちに映画の面白さ、とりわけ日本映画の素晴らしさを知ってもらい、同時に映像に対する理解力を高め、情操教育にも資するよう企画する上映会「こども映画館」を夏休みと春休みの時期に開催した。こどもたちの興味にあわせて、名作文学の映画化作品、痛快な時代劇、アニメーション、怪談、特撮もの、動物映画などを選んで番組を編成した。民間企業(映画現像所)の協力を得て、米館者へのプレゼント贈呈も行った。(回数:19回、参加者数:1,293人)

また、フィルムセンター分館のある相模原市内の小中学校生徒を対象にした学校上映は、本年度内に2回実施した。(参加者数:214人)

NFC held special screening series “Kids★Cinema” for elementary and junior high school students during school holidays in spring and summer. This series is designed to educate the future generation of filmgoers by giving them the opportunities to enhance film literacy through aesthetic experiences of viewing high quality films.

NFC also organized 2 screenings for the elementary and junior high school students in Sagami-hara city where the annex of NFC is located.

会 期
平成15年10月12日(日)
会 場
有楽町・朝日ホール
出席者
ダン・ニッセン(デンマーク映画協会 アーカイヴ館長)、塩田明彦(映画監督)
入場者
延べ227人

1-3 講演会・シンポジウム等 Lecture / Symposium

「聖なる映画作家、カール・ドライヤー」座談会

上映企画「聖なる映画作家、カール・ドライヤー」の開催にあわせて、その第1会場である有楽町・朝日ホールにおいて行われたこの座談会は、その前半がデンマーク映画協会アーカイヴ&シネマテーク館長のダン・ニッセン氏による講演、後半がニッセン氏と映画監督塩田明彦氏との対談という構成で実施された。まず、これまで『裁かるるジャンヌ』や『奇跡』といった少数の傑作でのみ日本で知られていたドライヤー監督の作品世界とその“超越的なスタイル”を、その活躍していた当時のデンマークおよび北欧諸国の映画界の状況を踏まえて解説したニッセン氏の講演は、その多様な作品傾向の分析とともに新鮮な知見を日本の映画愛好者に与えてくれた。さらに映画監督塩田明彦氏との対談では、ドライヤー作品を通じて映画演出についての原理的な議論がなされ、世界映画史の古典としてのドライヤー映画の高い価値と、変わることのないテキストとしての豊かさを印象づけた。

The Art of Carl Th. Dreyer: Lecture and Talk

In conjunction with the screening program, “The Art of Carl Th. Dreyer,” the talk show was held at Yurakucho Asahi Hall, one of the venues of the screening. The event consisted of two parts. In the first part, Dan Nissen, Director of the Danish Film Institute Archive & Cinematheque, gave a lecture, and in the second part, Nissen and film director Akihiko Shiota had a discussion. Nissen’s lecture put Dreyer’s works and his “transcendental style” in the context of the film industry in Denmark and Scandinavia, thus giving a perspective to this great director who was formerly known by a few masterpieces and not by the entire oeuvre to Japanese audience. The discussion with Shiota addressed the principles of filmmaking through Dreyer’s films, thus highlighting the value and richness of Dreyer’s films as classical texts of film history.



会 期

平成15年12月11日(金)～12月12日(土)

会 場

有楽町・朝日ホール

出席者

井上雪子、岡田茉莉子、淡島千景、香川京子(以上俳優)、吉田喜重、ペドロ・コスタ、侯孝賢、アッバス・キアロスタミ、マノエル・デ・オリヴェイラ、澤井信一郎、崔洋一、是枝裕和、黒沢清、青山真治(以上映画監督)、蓮實重彦、山根貞男、ジャン＝ミシェル・フロドン、クリス・フジワラ、イム・ジェ Chol、ノエル・シムソロ、シャルル・テッソン(以上映画批評家)

入 場 者

延べ1,538人

小津安二郎生誕100年記念国際シンポジウム OZU 2003

小津安二郎監督の生誕100年にあたる2003年12月12日を祝して、前日11日からの2日間、有楽町・朝日ホールにおいて、小津作品の出演女優や内外の映画監督、批評家らをパネリストに迎えた国際シンポジウムを開催した。

「OZU 2003」と名づけられたこのイベントは、朝日新聞社が中心となって企画し、松竹、フィルムセンター、国際交流基金との共同開催によって、小津監督の人と芸術を多様な視点から語り尽くそうとするものであった。伝説の女優から世界の第一線をいく監督にまで至る豪華なゲスト陣が一同に会する様はまさに壮観であり、2日ともに満員の観客を集めた。2日目の終了後は、続いて台湾の侯孝賢監督が小津監督に捧げたという新作『珈琲時光』のワールド・プレミア上映も行われた。

International Symposium OZU 2003

Celebrating the centenary of Yasujiro Ozu's birthday, an international symposium was held on the centenary date and the previous day, that is, December 11 and 12, 2003 at Yurakucho Asahi Hall. Organized by Asahi shinbun with the cooperation by Shochiku, Japan Foundation and NFC, the symposium intended to address Ozu's personality and art from diverse perspectives. The panelists included legendary actresses who performed in Ozu's films, contemporary directors as well as critics from Japan and abroad who spoke to a full house. At the end of the symposium, the world premier screening of *Coffee Time*, the film Hou Hsiao-Hsien directed in dedication to Ozu, was given.

会 期
平成16年2月20日(金)
会 場
小ホール
講 師
ヨハン・プライス(映画復元コンサルタント)
入 場 者
延べ151人

ヨハン・プライス講演会 ナイトレート・フィルム復元の理論と実際

この講演会は、立命館大学21COEアート・エンタテインメント創生研究の一環として、鳥取県三朝町で発見されたマキノ映画『三朝小唄』(1929年)の可燃性フィルムの復元にあたり、復元方法とその技術研究を目的として行われた。講師のヨハン・プライス氏は、オランダの復元専門現像所ハーゲフィルムで長年にわたってフィルムの復元に従事し、世界最高峰の"映画復元師"として各国のフィルム・アーカイブの信頼を得てきた人物である。急遽実施が決定したにもかかわらず、文化財関係者、映像・写真に関する各学会員、デジタル技術者など、映画関係者にとどまらぬ多方面の関係者への参加呼びかけが行われ、映画技術者を含む多くの来場者を得た。内容的にも、映画保存の実務的側面を丁寧に解説したものとなり、とりわけ日本でこれから発展が期待される映画復元技術の関係者に好評であった。

Principles and Practices of Nitrate Film Restoration: Lecture by Johan Prijs

Organized as part of Kyoto Art and Entertainment Innovation Research, 21st Century COE Program, this lecture was planned in conjunction with the restoration of nitrate film of Makino film *Misasa kouta*(1929) which was found in Misasa machi, Tottori prefecture, and was meant to enhance research of restoration methods and techniques. Lecturer Johan Prijs is known, from his earlier days at Hagefilm, Holland, as one of the best restorer of films whom archives around the world have long trusted and depended on. Though the lecture was planned in a short notice, it was extremely well attended by people working with cultural assets, members of academic organizations of motion pictures and photographs, digital technicians, as well as those in film industry. Prijs' thorough explanation of processes of film restoration was especially well received by Japanese film restoration specialists.



【講座日程と受講状況】

コーディネーター：宮澤誠一氏

第1講

平成16年3月10日

講師：近森真史(撮影監督)、朝原雄三(監督)

受講者数：76人

第2講

平成16年3月11日

講師：栢野直樹氏(撮影監督)

受講者数：72人

第3講

平成16年3月12日

講師：藤石修氏(撮影監督)

受講者数：74人

第4講

平成16年3月13日

講師：奥原一男氏(撮影監督)

受講者数：70人

1-4 映画製作専門家養成講座 Educational Program for Young Filmmakers

日本映画の優れた伝統を継承するとともに将来の映画人を育成することを目的として平成9年度より開講された映画製作専門家養成講座は、平成16年3月10日から13日にかけて、小ホールを会場にその第7回目を開催した。今回は、日本大学芸術学部の教授として教鞭をとりつつ、現役の映画編集者としても活躍中の宮澤誠一氏をコーディネーターとして迎え、各日のゲスト講師として招かれた撮影監督とともに「撮影技術-伝承のかたち」というテーマで講義を実施した。今回の講座で招かれた講師は、現在最前線で活躍しているカメラマンばかりであるが、それぞれの映画界入り以来のキャリアの積み方には、伝統ある撮影所に所属する、低予算映画のフリー助手となるなど多様な形があり、現代の日本映画における人材作りのあり方が的確に示された。

脱スタジオ化や撮影のデジタル化が進む日本映画の傾向を踏まえながら、撮影技術の伝承の多様なかたちを探るこの講座は、第一線の映画人ならではの自負と技術的経験に支えられた語り口とともに、これから映画製作を目指す受講者に少なからぬインパクトを与え、現代の映像作りが伝統的な映画製作とどのように接し、どのように今後の映画製作に活かせるかが浮き彫りにされた。とりわけ今回は20歳代の若年層による受講が多かったことも特筆される。

講座の日程ならびに部門別の受講状況は左記のとおりである。

“Educational Program for Young Filmmakers” was launched in 1997 in order to help young filmmakers learn important skills and tradition of Japanese cinema. This year, the 7th program met for four days from March 10th till 13th at Cinema 2 of NFC. Coordinated by Seiichi Miyazawa who is both film editor and professor at Nihon University (College of Art), 4 directors of photography and one director spoke as guest lecturers. The subject of all the lectures was “techniques of motion picture photography: oral tradition.” In film industry today, there are many different ways to start one’s career such as belonging to studios or working as freelance assistant of low-budget films, and four directors of photography each represented such ways.

The lectures highlighted how contemporary motion picture making relates to traditional filmmaking in the age of digitization and the move away from the studio system. The lecturers are all active in the forefront of filmmaking, and their lectures which reflected their pride and experiences gave a strong impact on the participants. It should be noted that this year’s Program was attended by many in their 20s.



平成15年度は8大学より12名の実習生を受け入れ、フィルムセンターの歴史と運営、フィルム・アーカイヴの理念、各部門の仕事、相模原分館におけるフィルム保存の実際、フィルムの取り扱いなどを講義するとともに、アーカイヴ資料の整理の実習としてスチル写真の整理作業に当たらせた。網羅的な映画の収集・保存・復元を行うフィルム・アーカイヴ活動の重要性も伝えるため、前半は講義を中心とし、その理念への理解を踏まえて実習に移行するようカリキュラムを作成し、またフィルム・アーカイヴの仕事に直結する用語を調べさせる課題も与えた。これにより、実習生に対してフィルム・アーカイヴという理念を周知し、日ごろ 観客としてしか接することのできない「映画」観とは異なった新鮮な刺激を与えることができた。

また映画保存・修復をテーマとした「ヨハン・プライス講演会」に関して、立命館大学と共同で立案・運営を行った点も新たな取り組みであった。

Working with Universities

In 2003 NFC admitted 15 curatorial trainees from 8 universities. The training included lectures on topics such as the history and management of NFC, principles of film archives, roles of different division of NFC, film preservation practices at Sagamihara annex, and how to handle films. In addition to the lectures, the trainees worked with still photographs and sorted them out as a way of practical training. In order to inform the trainees of the importance of the comprehensive work of film archives that deal with collection, preservation, and restoration of films, the training curriculum was put together so as to let the trainees focus on lectures in the beginning and then proceed to the practical training based on the knowledge gained through the lectures. Trainees were also given an assignment to look up terms that directly relate to film archives. The curriculum was successful in that it was able to expose the trainees to perspectives of films that differ from those already familiar to them as viewers of films.

In addition, NFC co-planned and organized the lecture by Johan Prijs with Ritsumeikan University for the first time in its history.

2 刊行物

2-1 NFCカレンダー等

NFCカレンダー

29.7×21cm

大ホール上映作品解説／上映スケジュール



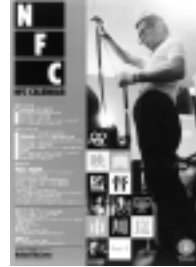
□2003年4-5月号
逝ける映画人を偲んで1998-2001 (2)
4p



□2003年6-7月号
発掘された映画たち2003
4p



□2003年8月号
映画監督 市川崑 (1)
4p



□2003年9月号
映画監督 市川崑 (2)
4p



□2003年10月号
トルコ映画の現在
4p



□2003年11月号
聖なる映画作家、カール・ドレイヤー
4p



□2003年12月-2004年1月号
小津安二郎の藝術
6p



□2004年2-3月号
シリーズ・日本の撮影監督 (1)
6p

展示チラシ

講演会チラシ

こども映画館



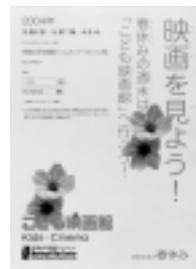
映画資料でみる 蒲田時代の小津安二郎と清水宏
2p



ヨハン・プライス講演会
2p



□2003年の夏休み
4p



□2004年の春休み
4p

29.7×21cm/16p

制作：印象社



□第48号 (2003年4-5月号)

特集：逝ける映画人を偲んで1998-2001 (2)

企画の見所

京都を駆けた二つの光芒 山下耕作と工藤栄一■中島貞夫

吉村公三郎監督の周辺■登川直樹

日本映画を変えたカメラマン群像■山口猛

トピック

インド国立フィルム・アーカイヴのナイトレート火災事故■HO

シネマテーク・フランセーズなどの改革案■H2O

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第46回

罪びとの群れ—アメリカの無声映画が消え去った理由(2) ■デイヴィッド・ピアス 罪びとの

群れ—アメリカの無声映画が消え去った理由(2) ■デイヴィッド・ピアス



□第49号 (2003年6-7月号)

特集：発掘された映画たち2003

企画の見所

「発掘」の諸相一切られ、つながれ■常石史子

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説32「斬人斬馬剣」■板倉史明

「斬人斬馬剣」—そのデジタル復元■常石史子

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説33「親」■大澤浄

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説34「マキノトウキョウの映画」■紙屋牧子

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説35「海を渡る祭禮」■富田美香

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説36「姿三四郎」■佐伯知紀

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説37「新雪」■入江良郎

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説38「愛の道標」■岡田秀則

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説39「満映前夜の満州国映画」■とちぎあきら

平成14年度フィルムセンター入場者数

トピック

韓国で行われた「日本映画黄金期：1950年代の巨匠15人展」報告■岡田秀則

平成14年度映画製作専門家養成講座(第6回)の成果■H2O



□第50号 (2003年8-9月号)

特集：映画監督 市川崑

企画の見所

市川崑監督に聞く「あの頃、映画にならない題材はないと考えていました」■(聞き手：岡田秀則)

スナップ写真でみる市川崑作品

特別寄稿 市川崑の編集室より■長田千鶴子

「いちどきに、丸ごと」の意義■森遊机

Editorial

ニューズレター創刊50号を迎えて

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第47回

FIAFストックホルム/ヘルシンキ会議報告 フィルムをフィルムとして残すことの意義■岡島尚志



□第1号(2003年10-11月号)

特集1:トルコ映画の現在 特集2:聖なる映画作家、カール・ドライヤー
企画の見所

ようやく泳ぎ着いた《未知の映画 大国》■岡田秀則
CURATOR'S CHOICE/上映作品解説40「宿命」「告白」■とちぎあきら
異端者 魔女 聖者 罪人(上)■ユッテ・イェンセン
《伝える》こと意識■渡部実

トピック

月丘夢路さん『新雪』の上映で舞台挨拶
「映画監督 市川崑」開幕
平成14年優秀映画鑑賞推進事業スタート■AT

連載:フィルム・アーカイヴの諸問題 第48回

罪びとの群れ—アメリカの無声映画が消え去った理由(3) ■デヴィッド・ピアス



□第2号(2003年12月-2004年1月号)

特集:小津安二郎と清水宏

Editorial

二つの「生誕百年」—小津安二郎と清水宏

企画の見所

「あいつはあれでいいんだ、儲かるシャンは俺が作る」小津安二郎と清水宏の蒲田時代

■田中真澄

『和製喧嘩友達』のデジタル復元■常石史子

《若き日》の小津と清水—資料でみる空想のシネマテーク■入江良郎

異端者 魔女 聖者 罪人(下) ■ユッテ・イェンセン

トピック

好評の「トルコ映画の現在」■H2O

有楽町・朝日ホールでの「聖なる映画作家、カール・ドライヤー」■H2O

中国電影資料館グループ、NFCの相模原分館を訪問■H2O

「関東大震災と記録映画」シンポジウムに協力■AT

来館者メモ



□第3号(2004年2-3月号)

特集:日本の撮影監督—伝説の名手たち

Editorial

新シリーズ「日本の撮影監督」について■HO、H2O

企画の見所

特別寄稿 日本映画の創生を飾る先輩カメラマンたち■高村倉太郎

特別寄稿 先輩撮影監督の思い出 友成達雄・鈴木博・伊佐山三郎■萩原泉

映画史文献発掘③ 輝く技能の高さ 青島順一郎氏の資質と撮影技術を回顧して■三浦光雄

映画史文献発掘④ 『五人の斥候兵』の撮影技術を語る■伊佐山三郎、島崎清彦

トピック

「聖なる映画作家、カール・ドライヤー」、無声映画特集も好評■H2O

清水宏監督『簪』、東京フィルメックスで観客賞を受賞■H2O

小津安二郎シンポジウムの盛況■HO

京都文化博物館で「映像フェスタ」開催■入江良郎

連載:フィルム・アーカイヴの諸問題 第49回

スウェーデンの映画保存(上)■岡島尚志



□カタログ「展覧会 映画遺産」
30×22.5cm／136p

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター
制作：印象社



□平成15年度優秀映画鑑賞推進事業 鑑賞の手引
29.7×21cm／6p

A-T各プログラム(20種、各4作品)の作品解説
会場一覧
プログラム作品リスト

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター
制作：美術出版デザインセンター



□映画資料でみる 蒲田時代の小津安二郎と清水宏 出品リスト
22.5×10cm／6p

制作：印象社

3 広報

3-1 広報 Public Relations

企画の広報活動としては、上映企画ごとの「NFCカレンダー」を中心に「蒲田時代の小津安二郎と清水宏」「こども映画館」「ヨハン・プライス講演会」のチラシを作成し、それらの情報をフィルムセンターのウェブサイトでも公開した。平成15年度は、旧来企画の運営と未分化であった広報活動を強化し、企画の内容に応じた情報掲載の依頼先（新聞・雑誌・ラジオ・テレビなど）の分析、外部メディアを通じた招待券の提供など、企画の効果的な紹介に努めた。またフィルムセンターの活動紹介媒体としては、隔月刊の「NFCニューズレター」がある。企画関連の記事から映画保存の最新情報までの幅広いテーマを扱い、映画関係者、研究者などに広く配布されている。

フィルムセンター自体の存在を周知する活動としては、修学旅行で東京を訪れる小中学校の児童・生徒などの訪問者を積極的に受け入れ、研究員がフィルムセンターの役割と事業を解説している。

In order to publicize the events, NFC used various methods. As for publications, we published NFC Calendar for each screening series, and flyers for events such as “Days of Youth: Ozu and Shimizu at the Shochiku Kamata Studio,” “Kids★Cinema,” and “Principles and Practices of Nitrate Film Restoration: Lecture by Johan Priejs” and showed them on the website as well as distributing them. Starting this year, in order to conduct publicity activities more effectively, we strategically contacted appropriate media(newspaper, magazines, radio and television) for each event by analyzing the target audiences of each. We also started to give out free tickets through mass media as a means of promotion. We also published a bi-monthly publication, *NFC Newsletter*, which addressed a wide range of issues including essays related to the current events and the latest topics of film preservation and widely distributed them to film specialists and scholars.

In order to publicize the role and function of NFC, our curators actively gave tours of the facility to the students of elementary school and junior high school who visited Tokyo on school trips.

3-2 美術館情報システムによる普及・広報 Diffusion and Public Relations through the Museum Informational System

ウェブサイトについては、平成13年度にフィルムセンターの事業を総合的に紹介する構成に大幅拡充したのち、平成14年度は図書室の図書検索システムOPACを公開するなどコンテンツの充実に努めてきたが、平成15年度は、フィルムセンターの上映・展示企画や刊行物などの最新情報を電子メールで提供する「NFCメールマガジン」を創刊した。

7月に第1号を発行した「NFCメールマガジン」は号を追うごとに着実に購読者を増やしており、観覧の促進を通じて、従来のフィルムセンター・ファンをつなぎとめるとともに新しい観客層の掘り起こしを見込んでいる。

The NFC website was expanded in 2001 so as to comprehensively represent various aspects of NFC. In 2002, we made OPAC, the search system of the library, accessible on the web. In July 2003, NFC launched the "NFC mail magazine" which provides the latest information of NFC's screening series, exhibitions, and publications through email. The "NFC mail magazine" has been increasingly gaining readership, supposedly catering to both old-time NFC patrons and new ones.

1 国際交流 International Exchange

1-1 平成15年度招聘者一覧

氏名

目的
滞在期間

ダン・ニッセン Dan Nissen
(デンマーク王国/デンマーク映画協会アーカイブシネマテーク)

「聖なる映画作家、カール・ドライヤー」の開催にかかる講演会の講師のため
平成15年10月9日ー平成15年10月16日

大岩オスカル・幸男 (米国/出品作家)

「旅」展展示指導・ギャラリートークのため
平成15年10月21日ー平成15年10月29日

デビット・ウイリアム・ブラッドショウ David William Bradshaw
(米国/ロサンジェルス現代美術館)

「旅」展展示指導等のため
平成15年10月19日ー平成15年10月28日

カスパー・マーティンス Casper Martens (オランダ王国/フローニンゲン美術館)

「旅」展展示指導のため
平成15年10月21日ー平成15年10月28日

エリック・ファン・リースハウト Erik van Lieshout (オランダ王国/出品作家)

「旅」展展示指導・ギャラリートークのため
平成15年10月21日ー平成15年11月2日

ディルク・ファン・リースハウト Dirk van Lieshout (オランダ王国/出品作家助手)

「旅」展展示指導・ギャラリートークのため
平成15年10月21日ー平成15年10月28日

ニール・ブランド Neil Brand (英国/無声映画伴奏ピアニスト)

「聖なる映画作家 カール・ドライヤー」開催にかかるピアノ伴奏のため
平成15年10月28日ー平成15年11月9日

ロラン・フレクスナー Roland Flexner (米国/出品作家)

購入候補作品の搬出作業のため
平成16年2月3日ー平成16年2月5日

講演会のために来訪したダン・ニッセン氏、ヨハン・プライス氏のほかに、平成15年度中に海外からフィルムセンターを訪問したゲストは以下の通りである。いずれの場合も、映画保存、フィルム・アーカイブ事業などについてさまざまな情報・意見の交換を行った。

2003年4月2日	ダリル・アコーネ (南アフリカ/映画・芸術ジャーナリスト)
2003年6月24日	ト煥模 (韓国/湖南大学校多媒体映像学科副教授)
2003年7月23日	ローラント・ドメーニグ (オーストリア/ウィーン国際映画祭 プログラマー)
2003年7月24日	舒淇 (香港映画監督) および香港演芸学院学生グループ
2003年9月24日	ルイス・ミランダ (スペイン/映画史家、ラス・パルマス国際 映画祭プログラム・コーディネーター)
2003年10月23日	ルシアーノ・モンテアグード (アルゼンチン/映画評論家、ブ エノスアイレス市立サン・マルティン劇場上映ディレクター)
2003年10月31日	マクダレーナ・アコスタ (メキシコ/国立シネテカ事務局長)
2003年11月25日	ドワ・クルジュオール (トルコ/映画監督)
2003年11月26日	リチャード・ペーニャ
2003年12月5日	セルジュ・トゥビアナ (フランス/シネマテーク・フランセー ズ館長)
2003年12月9日	オスカー・ストラスノイ (アルゼンチン/映画伴奏音楽作曲家)
2004年3月4日	ヘーゲ・ヤール、アン＝ソフィー・ビルケネス (ノルウェー/ ノルウェー映画協会)
2004年3月9日	朴贊錫 (韓国/韓国文化観光省) ほか映画関連施設視察
2004年3月12日	ペドロ・コスタ (ポルトガル/映画監督)
2004年3月13日	ナウム・クレイマン (ロシア/モスクワ中央映画博物館館長)

In addition to Dan Nissen and Johan Prijs whom we NFC invited for respective lectures, the following individuals visited NFC from overseas. These visitors all discussed with NFC staff members topics such as preservation of film culture and film archiving projects.

Darryl Accone (Art Journalist, South Africa)

Bok Hwan-mo (Professor, Honam University, Korea)

Roland Domenig (Vienna International Film Festival, Austria)

Shu Kei (Film Director, Hong Kong) and the Hong Kong Academy for Performing Arts group

Luis Miranda (Film Historian, Film Coordinator, Las Palmas International Film Festival, Spain)

Luciano Monteagudo (Director of Film Programming, Buenos Aires Theatrical Complex, Argentina)

Magdalena Acosta (Director General, Cineteca Nacional, Mexico)

Doğa Kılıçoğlu (Film Director, Turkey)

Richard Peña (Program Director, New York Film Festival)

Serge Toubiana (Director, Cinémathèque Française, France)

Oscar Strasnoy (Silent Film Accompanist, Argentina)

Hege Jaer, Ann-Sophie Birkenes (Norwegian Film Institute, Norway)

Park, Chan-suck (Ministry of Culture and Tourism, Korea) and

Pedro Costa (Film Director, Portugal)

Naum Kleiman (Director, Moscow Film Museum, Russia)

- 平成15年4月9日
森山法務大臣「青木繁と近代日本のロマンティズム」展視察。
- 平成15年4月10日
遠山文部科学大臣「青木繁と近代日本のロマンティズム」展視察。
森山法務大臣「今日の人形芸術-想念の造形」展視察。
- 平成15年5月6~9日
美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。
- 平成15年5月12日
皇后陛下「今日の人形芸術-想念の造形」展行啓。
- 平成15年5月16日
美術作品評価委員会開催。
- 平成15年5月28日
評議員会(映画部会)開催。
- 平成15年5月30日
工芸館企画展「オーストラリア現代工芸3人展:未知のかたちを求めて」懇談会を開催した。
- 平成15年6月2日
特別展「地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画」、特集展示「牛腸茂雄」展の開会式及びレセプションを挙行政した。
- 平成15年7月7日
工芸館企画展「三代藍堂 宮田宏平展-金属造形の先駆け」の開会式及びレセプションを挙行政した。
- 平成15年7月16日
ハワード豪首相夫人「地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画」視察。
- 平成15年7月22日
フィルムセンター「映画監督 市川崑」の開会式及びレセプションを挙行政した。
- 平成15年8月11日
日本経済新聞社との共催展「野見山暁治」展の開会式及びレセプションを挙行政した。
- 平成15年8月21日
森山法務大臣「野見山暁治」展視察。
- 平成15年9月19日
工芸館特別展「現代の木工家具」展の開会式及びレセプションを挙行政した。
- 平成15年10月27日
特別展「旅—『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」展の開会式及びレセプションを挙行政した。
- 平成15年10月29日
美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。
- 平成16年2月4日
美術作品購入等選考委員会(工芸部門)開催。
- 平成16年2月18日
評議員会(美術・工芸部会)開催。
- 平成16年2月23日
美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。
- 平成16年3月5日
美術作品購入等選考委員会(写真部門)開催。
- 平成16年3月22日
NHK、NHKプロモーションとの共催展「国吉康雄」展の開会式及びレセプションを挙行政した。

3 予算 Expenditure**平成15年度歳出予算一覧(当初予算)**

事項	予算額(単位:千円)
1. 一般管理費	352,434
2. 収集・保管事業費	506,669
陳列品購入経費	338,119
資料収集整備費	168,550
3. 展示事業費	374,640
特別展経費	122,113
企画展経費	22,867
常設展経費	229,660
4. 調査研究事業費	86,519
5. 教育普及事業費	212,581
合計	1,532,843

4 名簿 Nominal List

東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)

(平成16年3月31日現在)

現職	氏名
栃木県立美術館副主幹・学芸課長	青木 宏
東京国立博物館企画部事業課長	金子啓明
東京大学大学院人文社会系研究科助教授	木下直之
東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科助教授	熊倉純子
群馬大学非常勤講師	黒田亮子
朝日新聞社事業本部文化事業部専任部長兼企画委員	小林淑郎
ブリティッシュ・カウンシルアーツ専門官	櫻井 武
明星大学日本文学化学部教授	宝木範義
東京文化財研究所美術部黒田記念近代・現代美術研究室長	田中 淳
(財)セゾン現代美術館常務理事館長	難波英夫
福山大学長	面崎清久
青森県環境生活部青少年・男女共同参画課長	橋本 都
写真家	松本徳彦
神奈川県立近代美術館副館長・学芸課長	山梨俊夫
経済団体連合会事務総長	和田龍幸

東京国立近代美術館評議員(映画部会)

(平成16年3月31日現在)

現職	氏名
早稲田大学文学部教授	岩本憲児
映像文化製作者連盟事務局長	大久保 正
川喜多記念映画文化財団理事長	岡田正代
東京大学大学院総合文化研究科教授	刈間文俊
映画評論家	河原畑寧
映画監督	崔 洋一
日本映画製作者協会代表理事	新藤次郎
日本大学芸術学部教授	田島良一
映画字幕翻訳家	戸田奈津子
(株)ダグレオ出版代表取締役社長・イメージ・フォーラム代表	富山加津江
日本映画製作者連盟常務理事・事務局長	福田慶治
(有)ユーロスペース代表取締役・映画美学校代表理事	堀越謙三
映画評論家	村山匡一郎
びあ株式会社代表取締役社長	矢内 廣
映画評論家・東海大学文学部教授	山根貞男

東京国立近代美術館職員

(平成16年3月31日現在)

現職		氏名	現職		氏名
館長		辻村哲夫			
副館長		尾崎正明			
庶務課			工芸課		
庶務課長		高岡道久	工芸課長	デザイン係長(併)	金子賢治
課長補佐		諸田 清	主任研究官	展示係長(併)	諸山正則
課長補佐		岩下健吾	主任研究官	教育・資料係長(併)	唐澤昌宏
庶務係長		小山寛俊			木田拓也
		狩野浩司	主任研究官	工芸係長(併)	今井陽子
		田島秋桜	デザイン係		北村仁美
		宮崎陽子			
人事係長		白石英司	フィルムセンター		
		畑中賢治	主幹		大場正敏
展覧会運営係長		小谷松誠司	主幹補佐		生島達久
		吉田智美	業務係長		春日義孝
経理係長		小田嶋輝明	相模原分館管理係長	管理係長(併)	島 裕子
		諏訪部吉洋	主任研究官	企画・普及係長(併)	古澤 誠
用度係長		佐々木毅	主任研究官	映画係長(併)	岡島尚志
		岡 克憲	主任研究官	映画係長(併)	岡田秀則
		小川雄一郎	映写技術士		榎木 章
汽かん士		宮腰幸昭	主任研究官	情報・資料係長(併)	常石史子
専門職員		小山和子			高屋吉丘
					入江良郎
企画課					
企画課長		松本 透			
主任研究官	企画・渉外係長(併)	藏屋美香			
		鈴木勝雄			
		保坂健二期			
主任研究官	教育・普及係長(併)	一條彰子			
主任研究官	情報・資料係長(併)	水谷長志			
美術課					
美術課長	展示係長(併)	中林和雄			
主任研究官	絵画・彫刻係長(併)	古田 亮			
		三輪健仁			
		中村麗子			
主任研究官	版画係長(併)	都築千重子			
主任研究官	写真係長(併)	増田 玲			
展示係		大谷省吾			

平成15年
独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館年報

発行者： 辻村哲夫
発行： 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
東京都千代田区北の丸公園3-1
電話03(3214)2561(代表)
制作： 美術出版デザインセンター
発行日： 平成16年8月31日

■非売品

2003 Annual Report
Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo

Publisher: Tetsuo Tsujimura
Edited & Published by:
Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo ©2003
3-1, Kitanomaru-koen, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan
phone: 03(3214)2561
Printed by: Bijutsu Shuppan Design Center Co., Ltd.

Printed in Japan

■Not for Sale